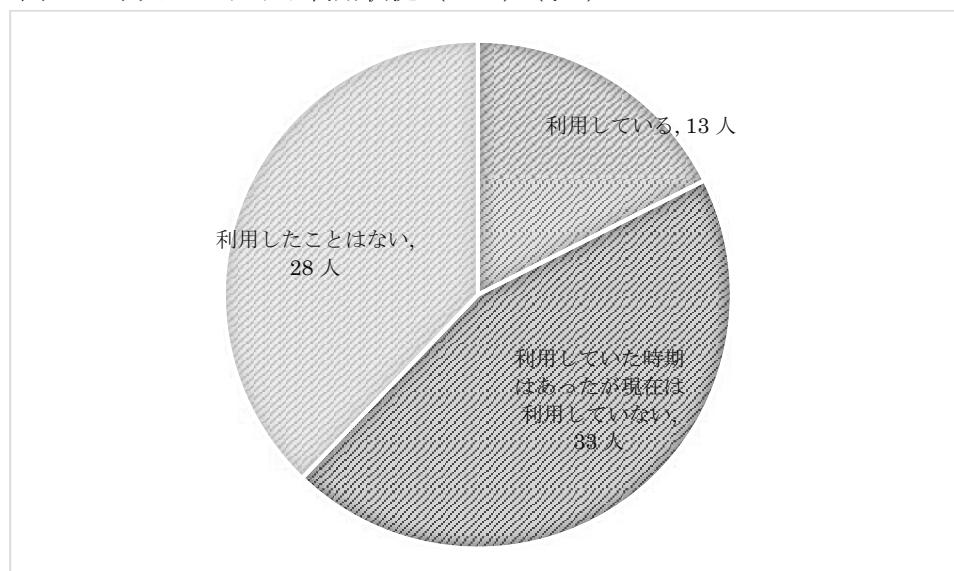


#### (8) リカレント教育課程修了後の経験について

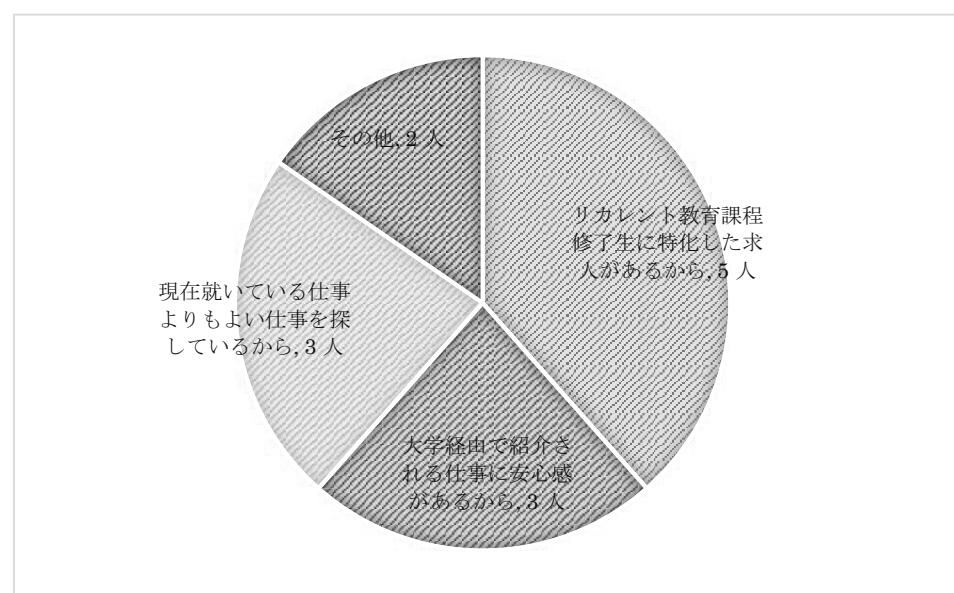
リカレント教育課程を修了した後、日本女子大学の求人 web サイトを利用しているか否かなど、終了後の就職活動や考え方の変化等について尋ねた。

図 71 求人 Web サイト利用状況 (N=74) (Q77)



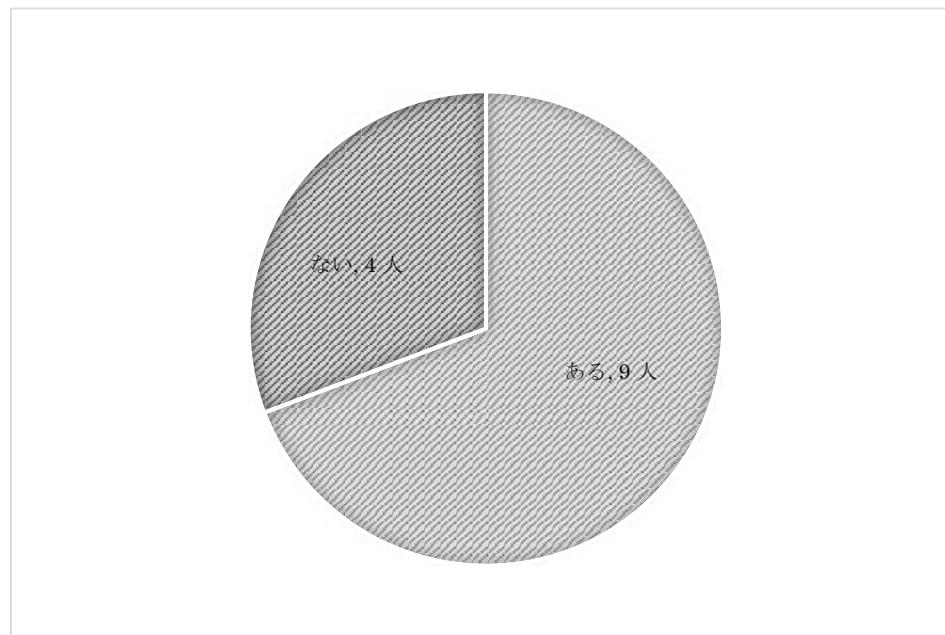
求人 Web サイトについて、「利用していた時期はあったが現在は利用していない」が 33 人、「利用したことない」が 28 人と 8 割以上が現在利用していないと答えた。

図 72 求人 Web サイト利用理由 (n=13) (Q78)



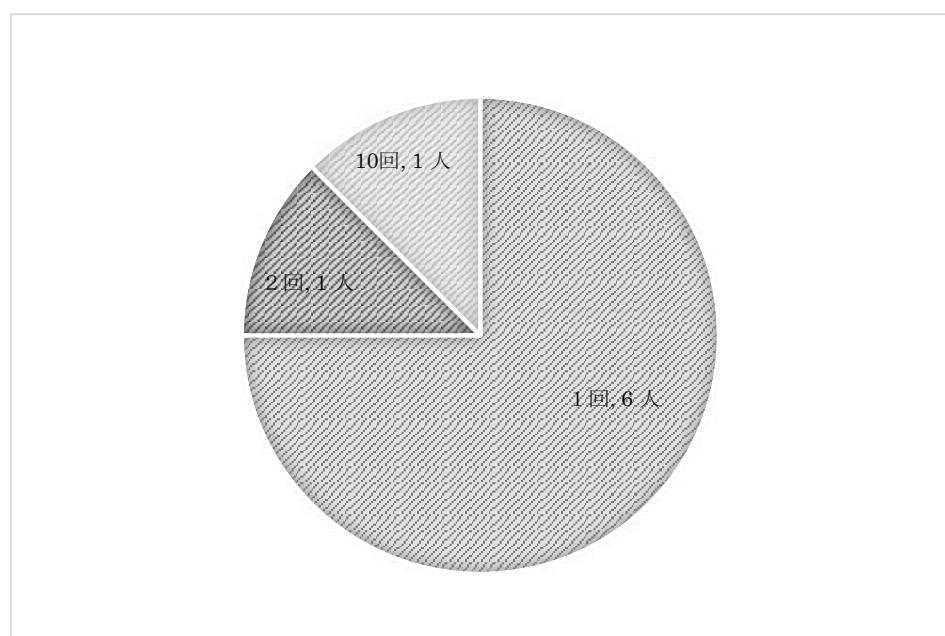
求人 Web サイトを利用した 13 人の利用理由は、「リカレント教育課程修了生に特化した求人があるから」が 5 人ともっと多かった。

図 73 求人 Web サイト応募経験 (n=13) (Q79-1)



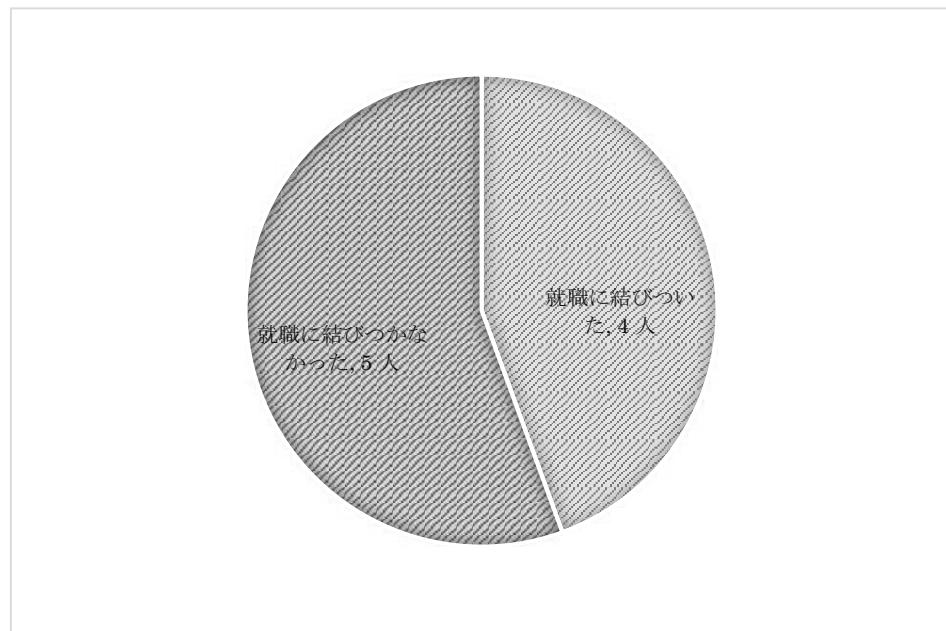
求人 Web サイトを利用している 13 人のうち、応募経験があると答えたのは 9 人であった。

図 74 求人 Web サイト応募回数 (n=8) (無回答 1 人を除く) (Q79-2)



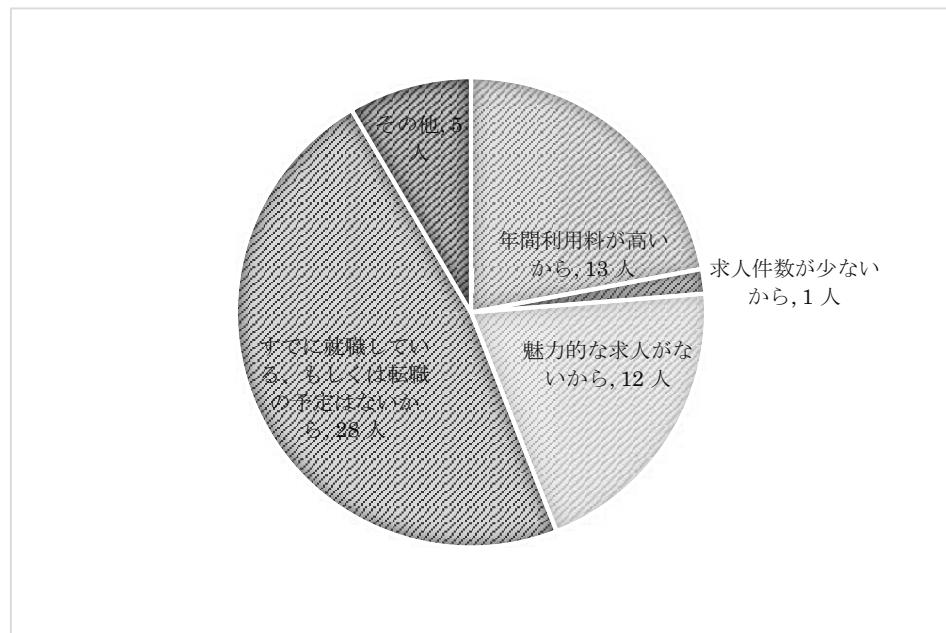
求人 Web サイトを利用していて、応募経験があると答えた 9 人中には一人で 10 回応募した人もいた。

図 75 求人情報応募結果 (n=9) (Q80)



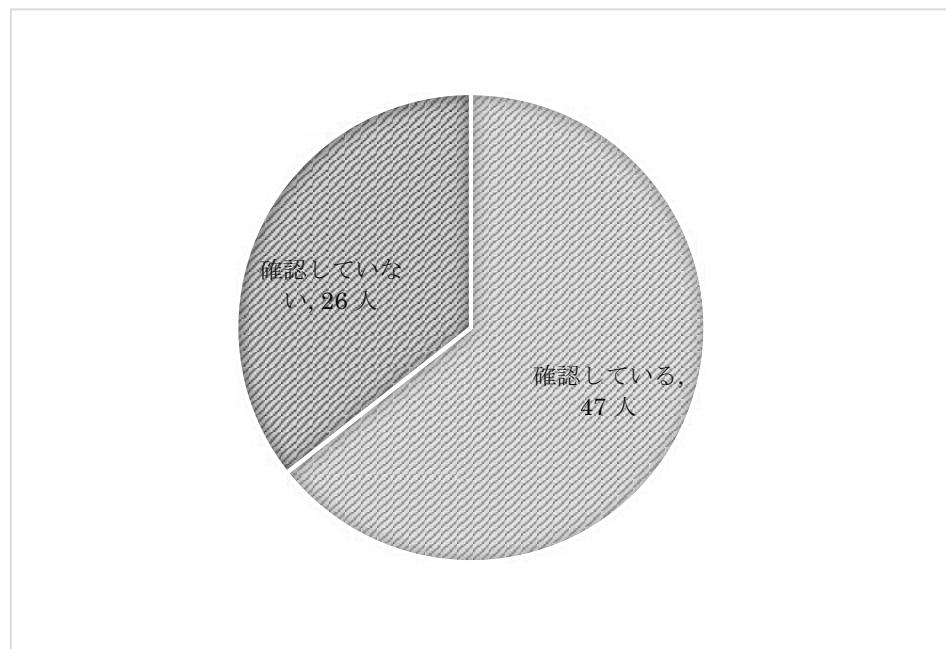
求人情報の応募結果、就職に結びついたのは 4 人であった。

図 76 求人 Web サイトを利用しない理由 (n=59) (無回答 2 人を除く) (Q81)



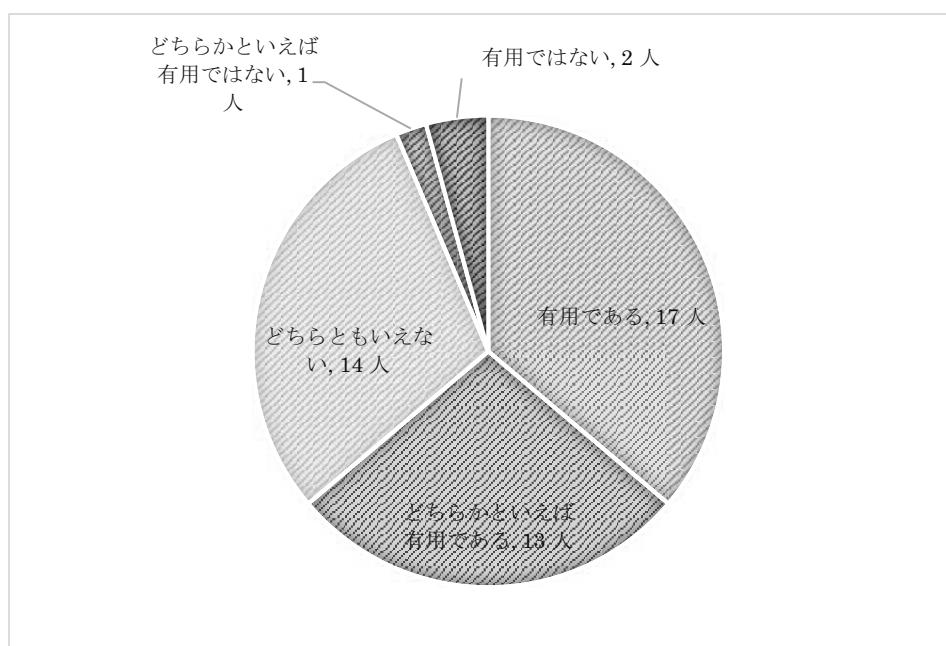
求人 Web サイトを利用しない人の理由は、「すでに就職している、もしくは転職の予定はないから」が 28 人、「年間利用料が高いから」が 13 人、「魅力的な求人がないから」が 12 人と続いた。

図 77 事務室からの就職情報確認の有無 (n=73) (無回答 1 人を除く) (Q82-1)



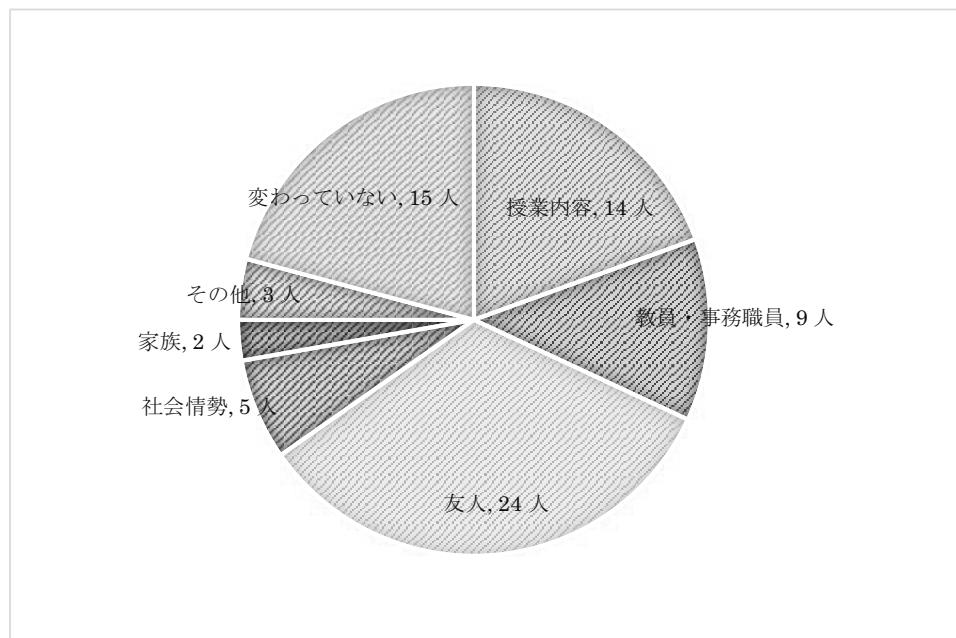
リカレント教育課程事務室からの就職情報に関しては、「確認している」と答えた人は47人であった。

図 78 事務室からの就職情報有用度 (n=47) (Q82-2)



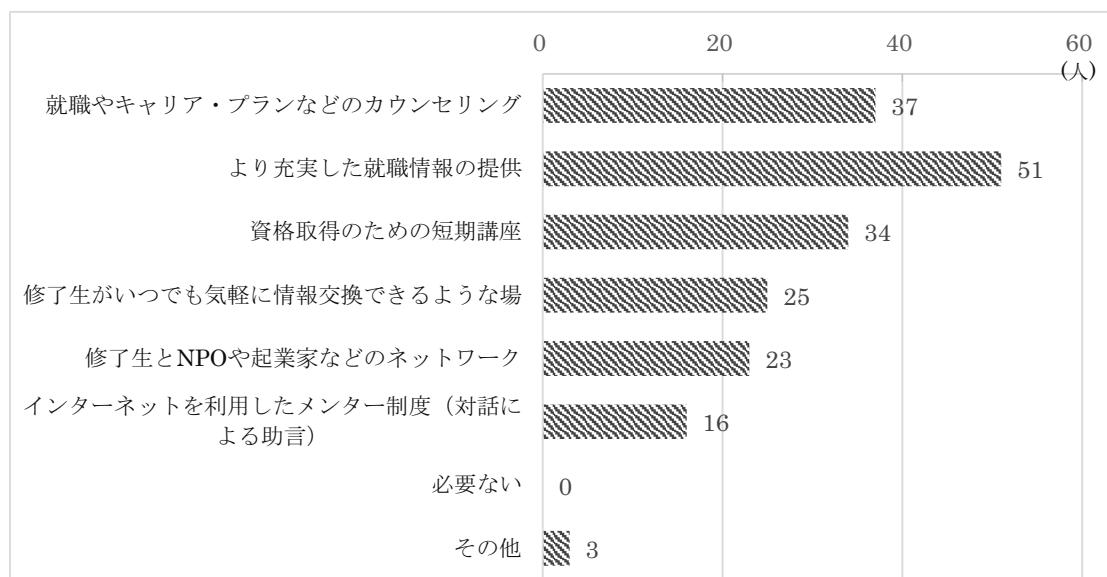
事務室からの就職情報有用度を聞いたところ、「有用である」と「どちらかといえば有用である」を合わせると、30人であった。

図 79 考え方の変化に影響を与えた要因 (n=72) (無回答 2 人を除く) (Q83)



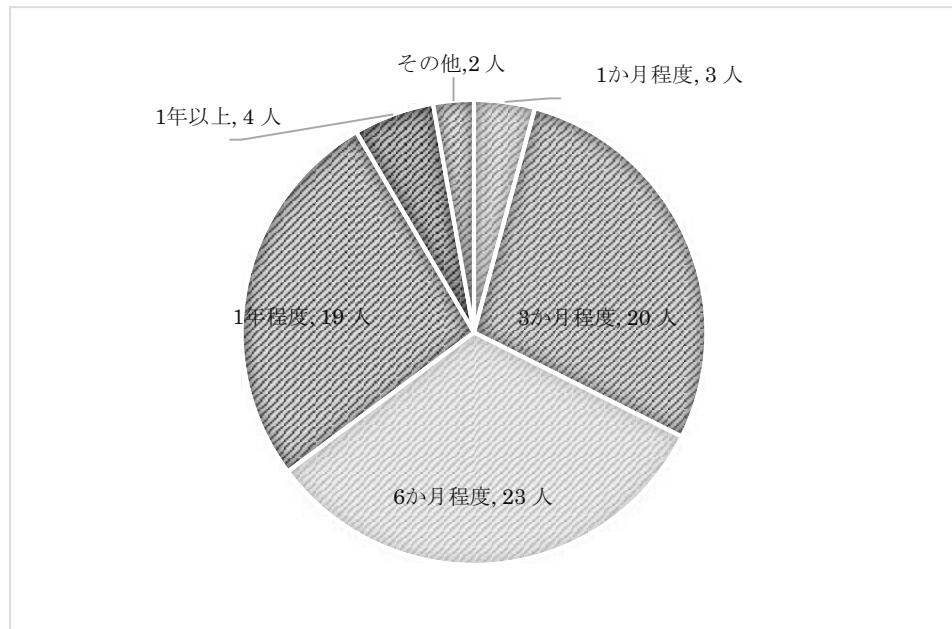
リカレント教育課程を修了したことで、自分の考え方へ変化があった場合、それに最も影響を与えたと思われるものは、「友人」24人が最も多く、次いで「授業内容」が14人、「教員・事務職員」が9人であった。

図 80 修了生に対する支援要望 (N=74) (複数回答) (Q84)

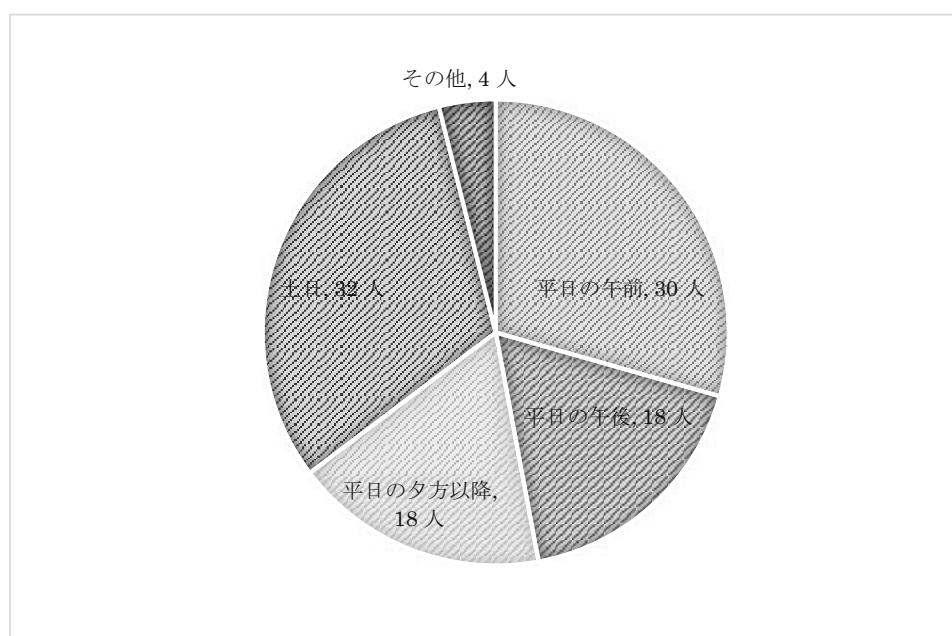


修了生が希望する支援は、「より充実した就職情報の提供」が51人ともっとも多く、「就職やキャリア・プランなどのカウンセリング」が37人、「資格取得のための短期講座」が34人と続いた。

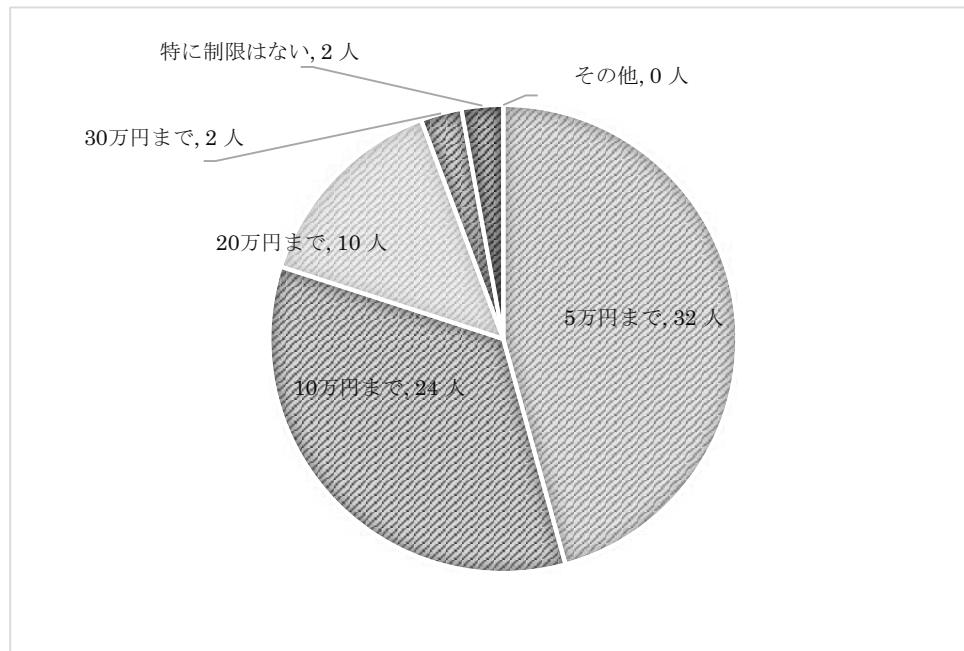
図 81 要望する再就職支援プログラムの利用条件(Q85)  
期間 (n=71) (無回答 3 人を除く)



時間帯 (n=71) (無回答 3 人を除く) (複数回答)

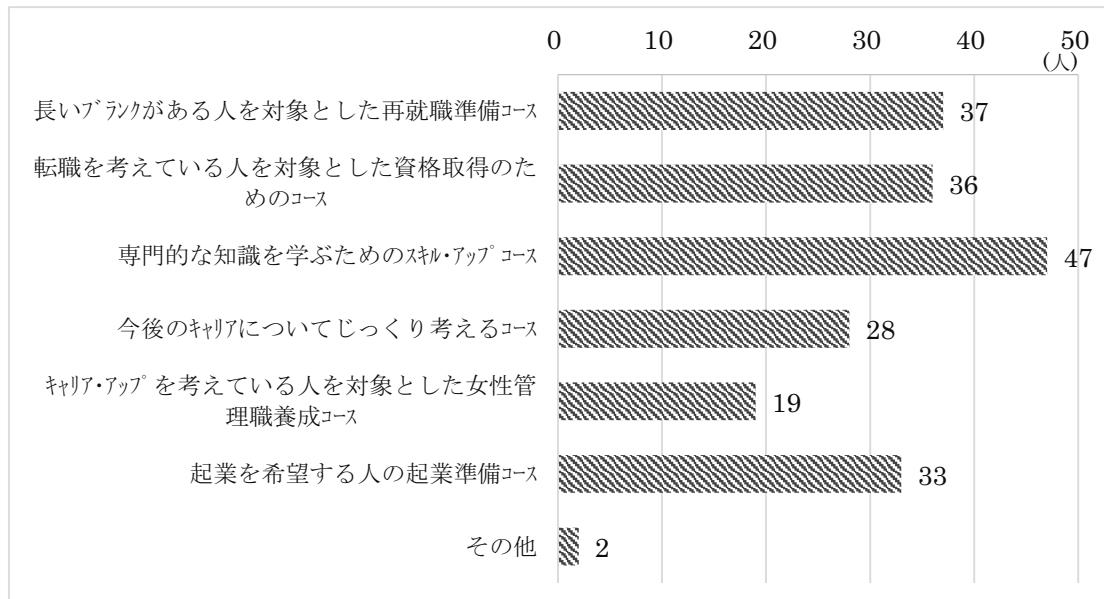


修了までにかかる費用 (n=70) (無回答 4 人を除く)



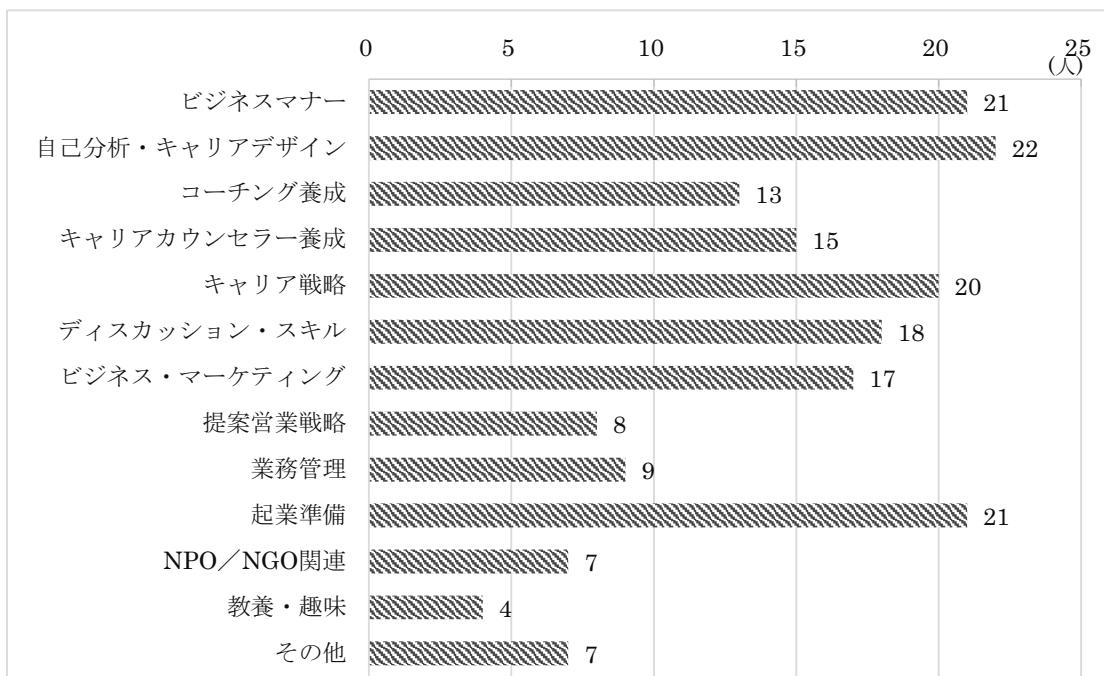
再就職支援プログラムを利用する場合の条件として、多かったのは「6か月程度」が 23 人、「平日の午前」が 30 人、「5万円まで」32人が最も多かった。

図 82 転職・再就職支援プログラム・コースの要望 (n=73) (無回答 1 人を除く)  
(複数回答)



転職・再就職支援プログラム・コースの要望としては、「専門的な知識を学ぶためのスキル・アップコース」が 47 人、「長いブランクがある人を対象とした再就職準備コース」が 37 人、「転職を考えている人を対象とした資格取得のためのコース」36 人であった。

図83 転職・再就職のための講座要望 (n=70) (無回答4人を除く) (複数回答)

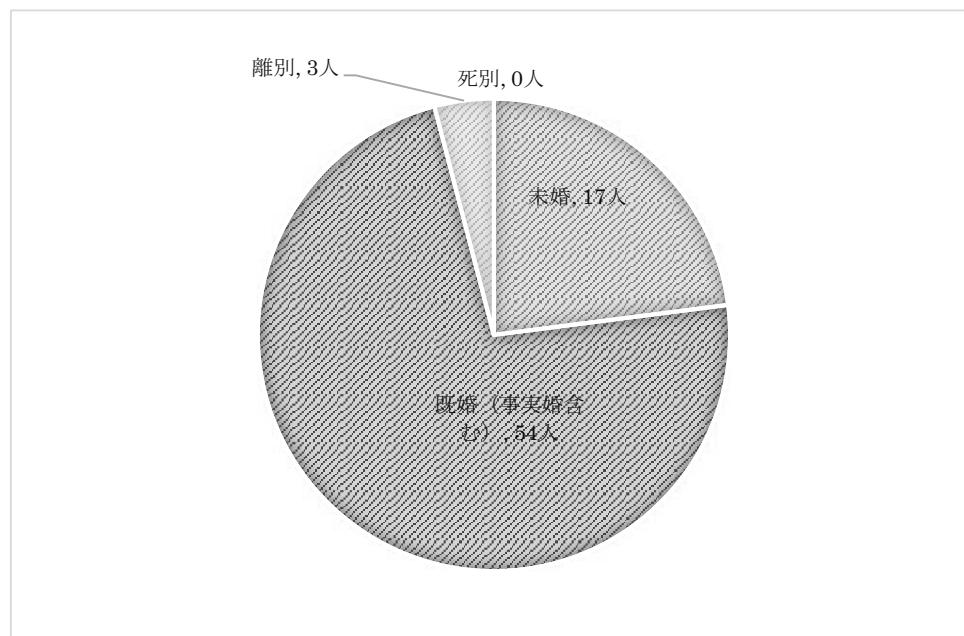


同じく、転職・再就職のための講座の要望としては、「自己分析・キャリアデザイン」が22人、「ビジネスマナー」、「起業準備」がそれぞれ21人、「キャリア戦略」が20人であった。

## (9) 調査対象者のプロフィール

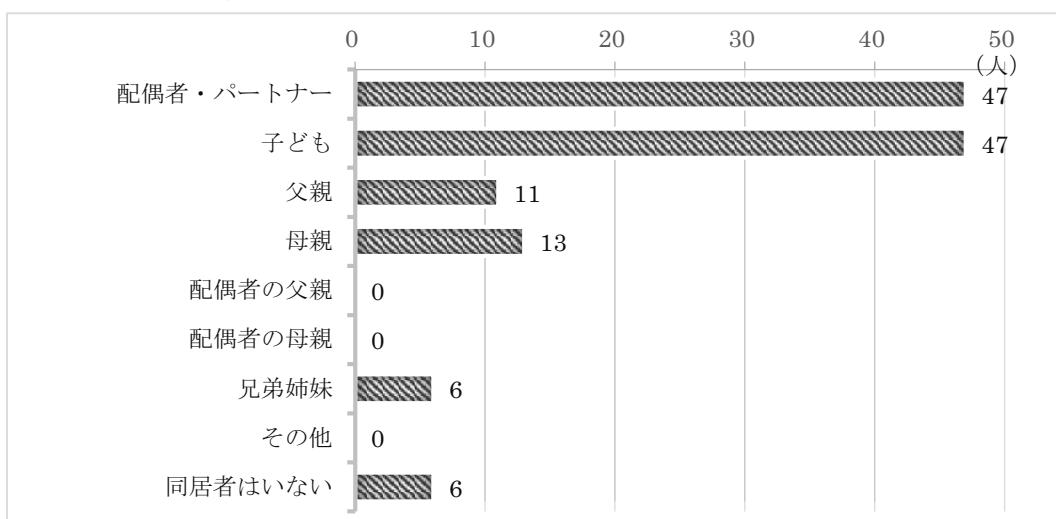
### 1) 婚姻状況

図 84 婚姻状況(N=74) (F1)



対象者の婚姻状況をみると、「既婚」が 54 人、「未婚」が 17 人、「離婚」が 3 人であった。

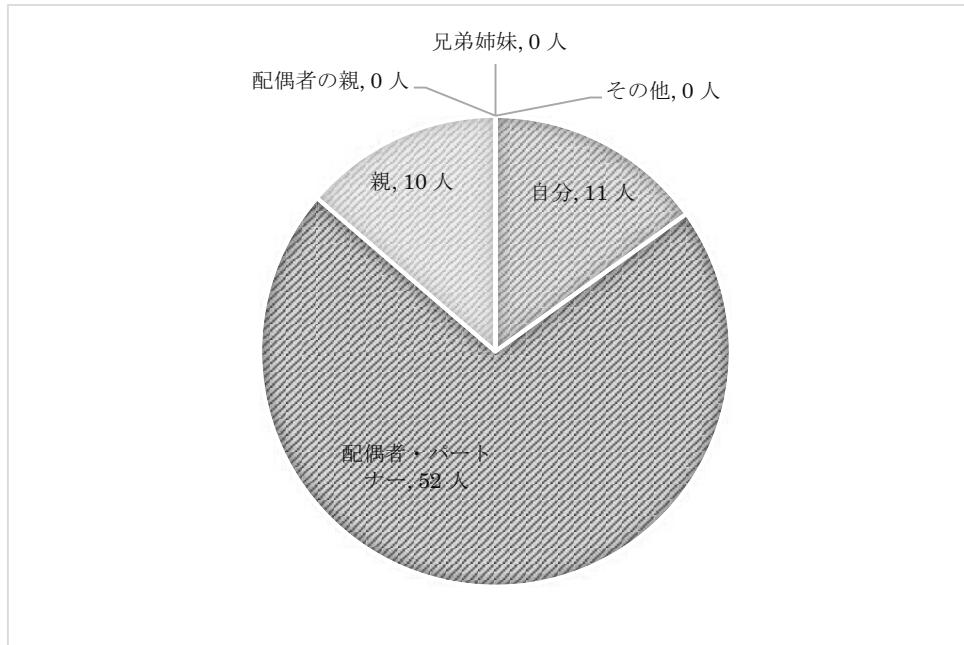
図 85 同居家族 (n=73) (無回答 1 人を除く) (複数回答) (F2)



同居家族に関しては、「配偶者・パートナー」、「子ども」が各々47人でもっとも多かった。

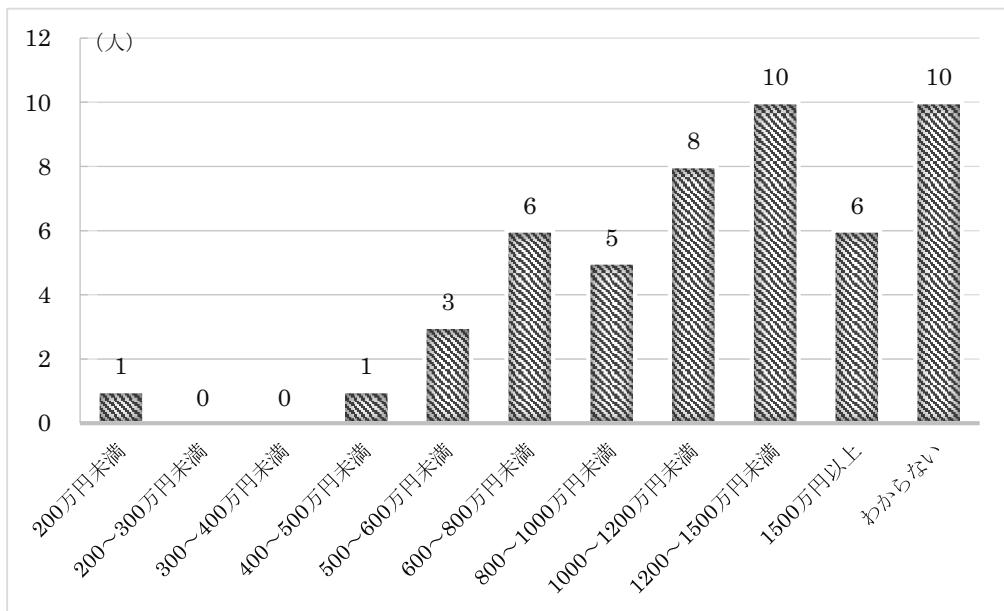
## 2) 家計状況

図 86 家計の主たる担い手(n=73)(無回答 1 人を除く)(F3)



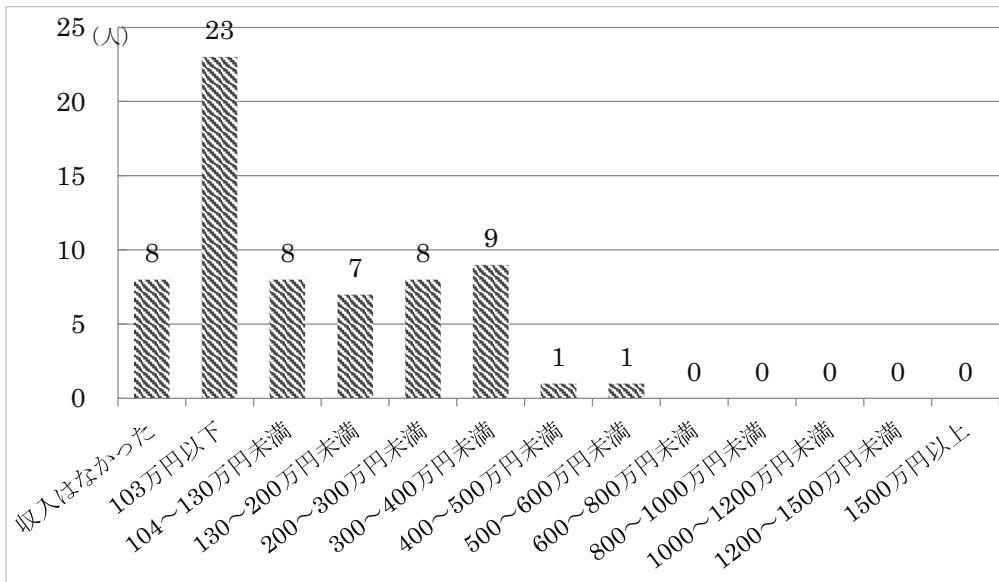
家計の主たる担い手は、「配偶者・パートナー」52人がもっとも多く、続いて「自分」が11人、「親」が10人であった。

図 87 家計の主たる担い手の年収(n=50)(無回答 12 人を除く)(F4)



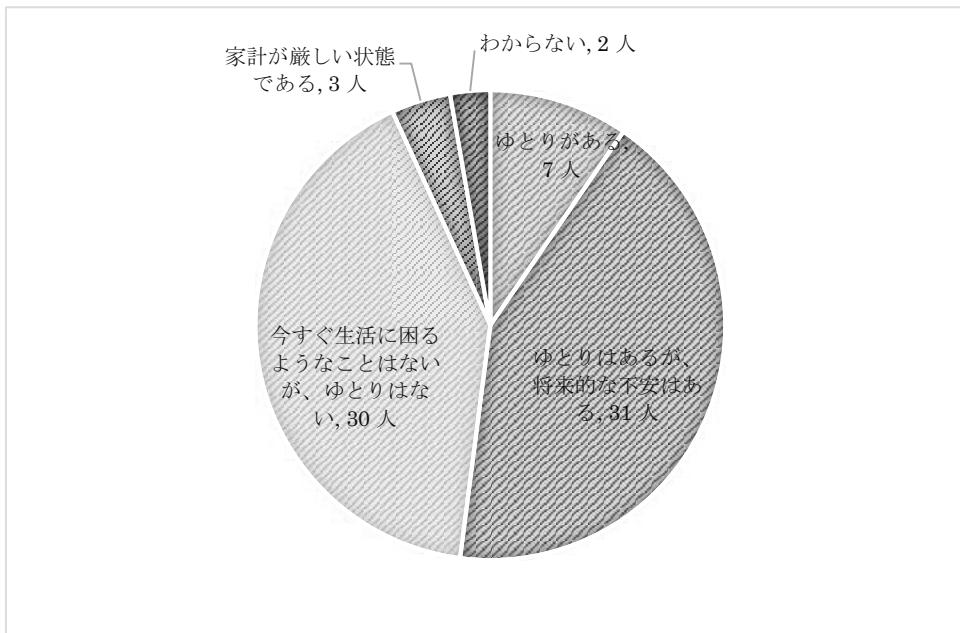
家計の主たる担い手の年収は、「1200~1500万円未満」10人が最多く、「1000~1200万円未満」が8人、「600~800万円未満」、「1500万円以上」が6人と続いた。

図 88 個人年収(n=65)(無回答9人を除く)(F5)



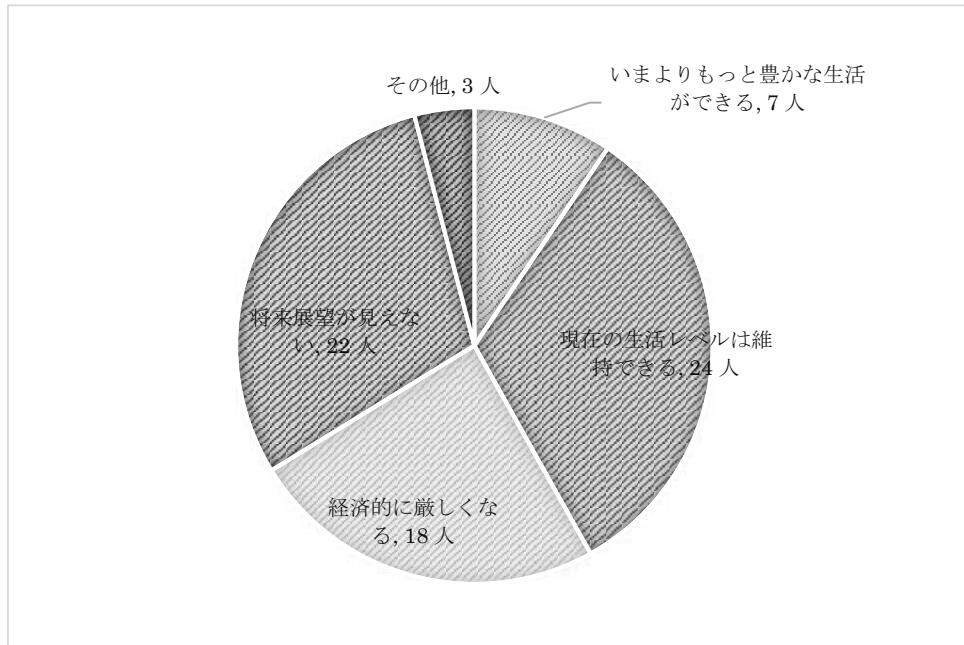
本人年収は、「103万円以下」23人が最も多く、「収入はなかった」が8人、「104～130万円未満」、「130～200万円未満」、「200～300万円未満」、「300～400万円未満」がそれぞれ7～9人であった。

図 89 現在の家計の状態について(n=73)(無回答1人を除く)(F6)



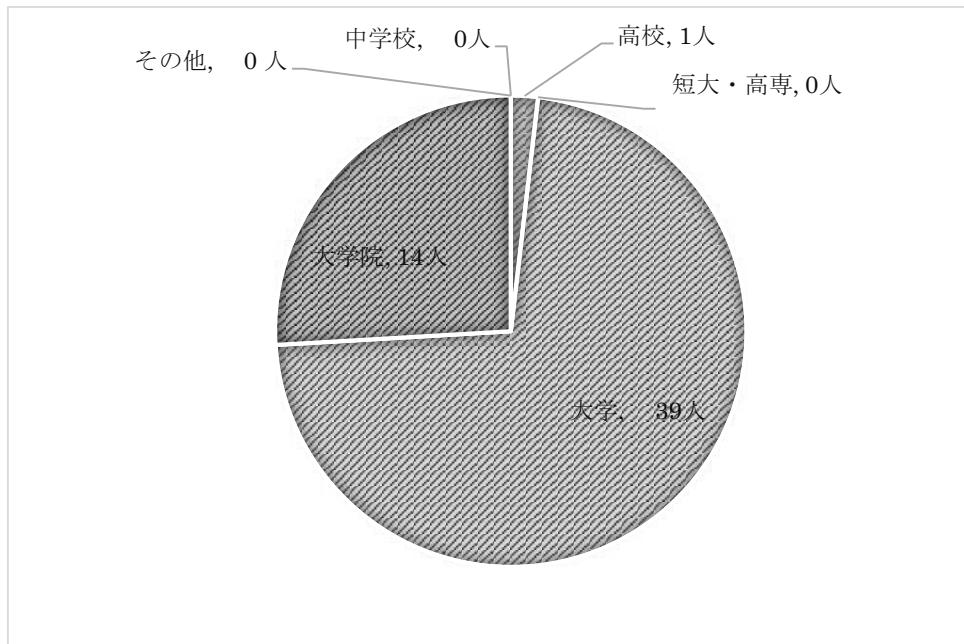
現在の家計状況について、「ゆとりはあるが、将来的な不安はある」が31人、「今すぐ生活に困るようなことはないが、ゆとりはない」が30人、一方、「家計が厳しい状況である」が3人であった。

図90 自分の経済状況の将来展望(N=74) (F7)



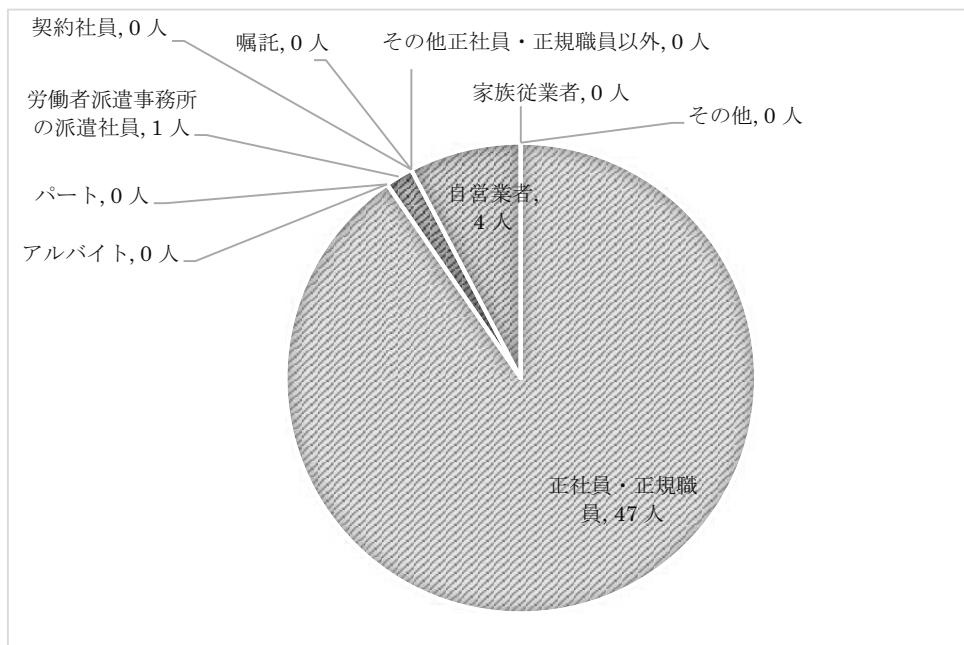
将来的な家計状況について、「現在の生活レベルは維持できる」が 24 人ともっとも多く、「将来展望が見えない」が 22 人、「経済的に厳しくなる」が 18 人と続いた。

図91 配偶者・パートナーの最終学歴(n=54) (F9)



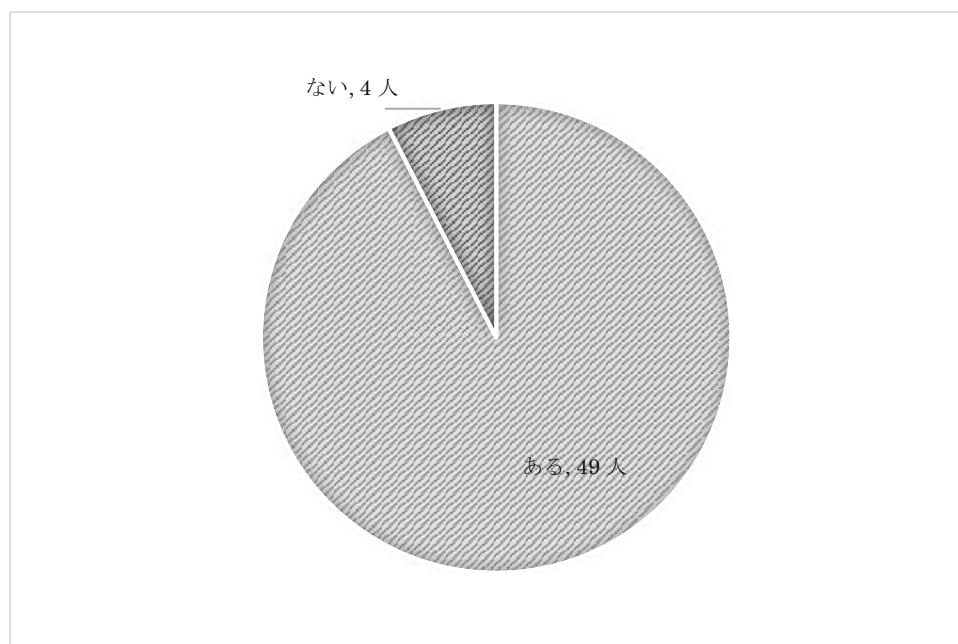
配偶者・パートナーのいる 54 人についてみると、配偶者・パートナーの最終学歴は、「大学」が 39 人、「大学院」が 14 人、「高校」が 1 人であった。

図92 配偶者・パートナーの現在の就業形態(n=52) (無回答2人を除く)(F10)



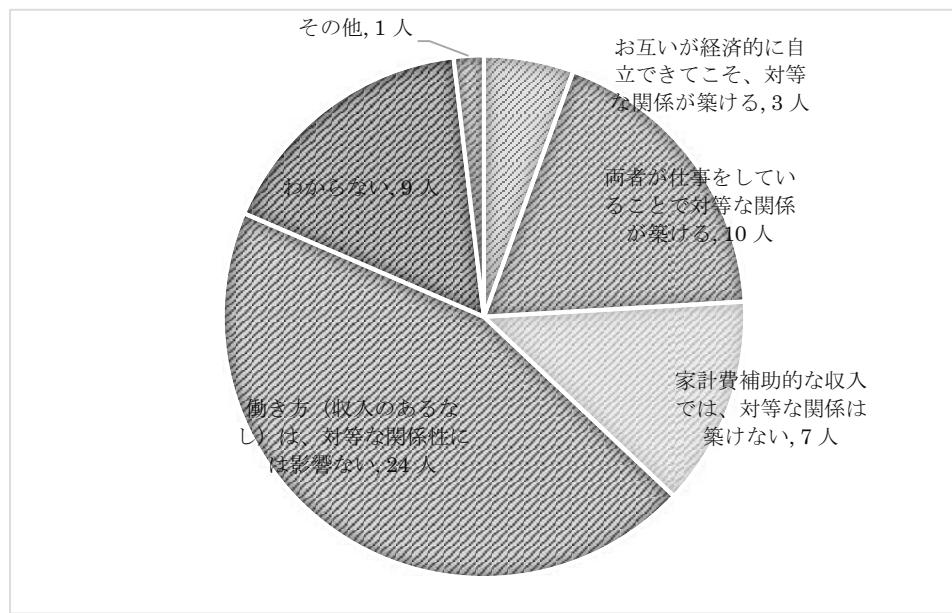
現在の就業形態は、「正社員・正規職員」が47人、「自営業者」が4人、「派遣社員」が1人であった。

図93 共働き経験(n=53) (無回答1人を除く)(F11)



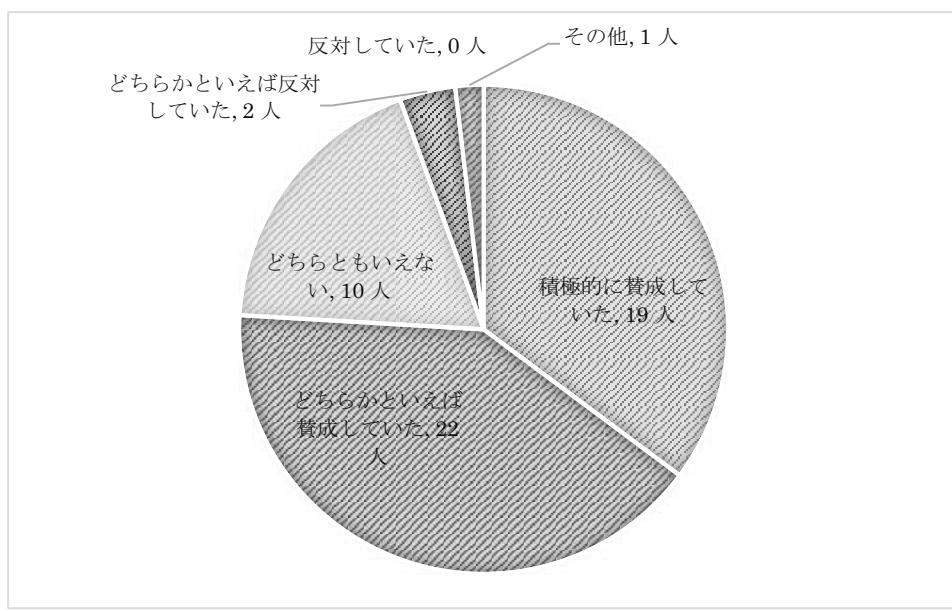
共働き経験は「ある」が49人、「ない」が4人であった。

図 94 「仕事をもつ」ことの配偶者・パートナーへの影響 (n=54) (F12)



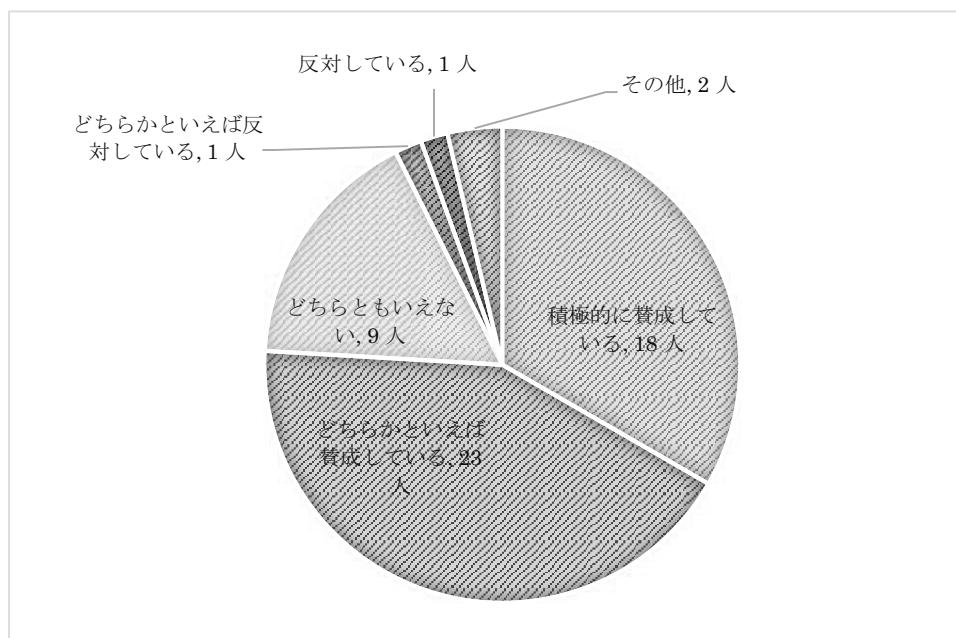
仕事をもつことと夫婦の関係について尋ねたところ、多い順に「働き方(収入のあるなし)は、対等な関係性に影響ない」が24人、「両者が仕事をしていることで対等な関係が築ける」が10人、「わからない」が9人であった。

図 95 リカレント教育課程に対する配偶者・パートナーの態度(n=54) (F13)



リカレント教育課程で勉強することに対する配偶者・パートナーの態度は、「どちらかといえば賛成していた」が22人、「積極的に賛成していた」が19人と、賛成が多かったが「どちらともいえない」が10人、「どちらかといえば反対していた」が2人と反対もみられた。

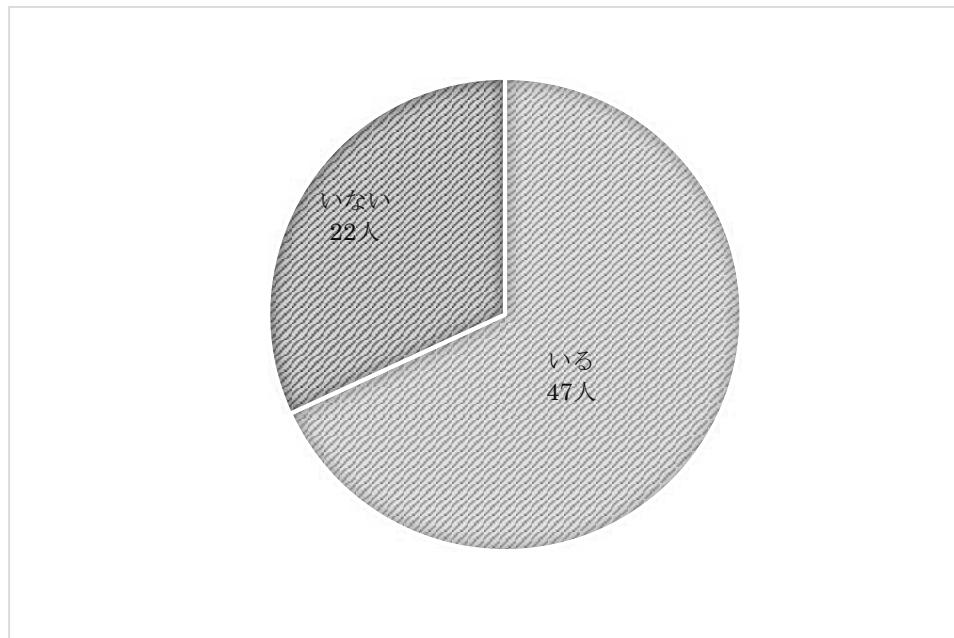
図 96 就業に対する配偶者・パートナーの態度(n=54) (F14)



妻の就業に対する態度は、「どちらかといえば賛成している」が 23 人、「積極的に賛成している」が 18 人と賛成が多くみられたが、「どちらともいえない」が 9 人、「どちらかといえば反対」が 1 人、「反対している」1 人もみられた。

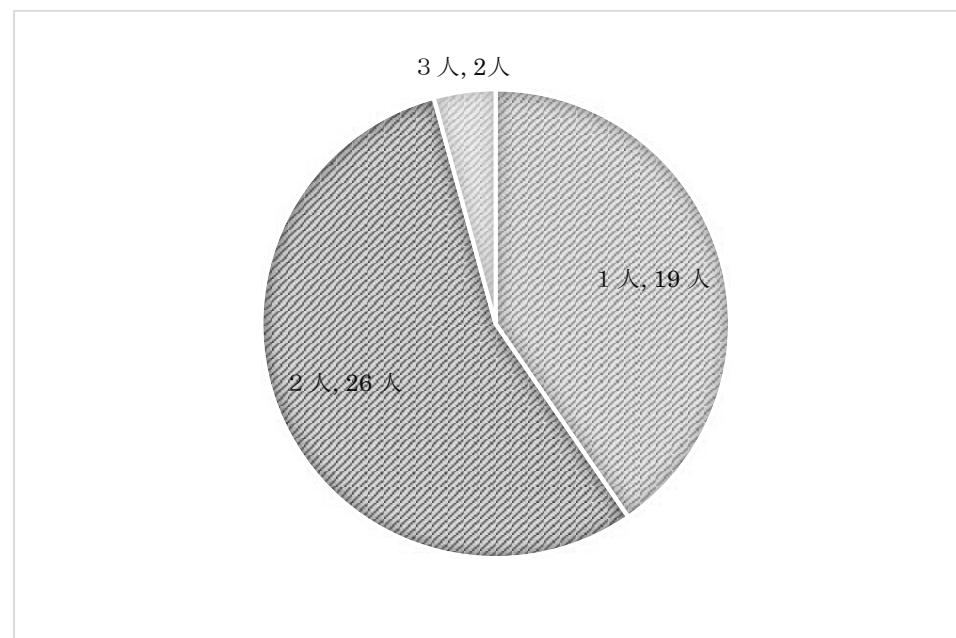
4) 子どもについて

図 97 子どもの有無 (n=69) (無回答 5 人を除く) (F15-1)



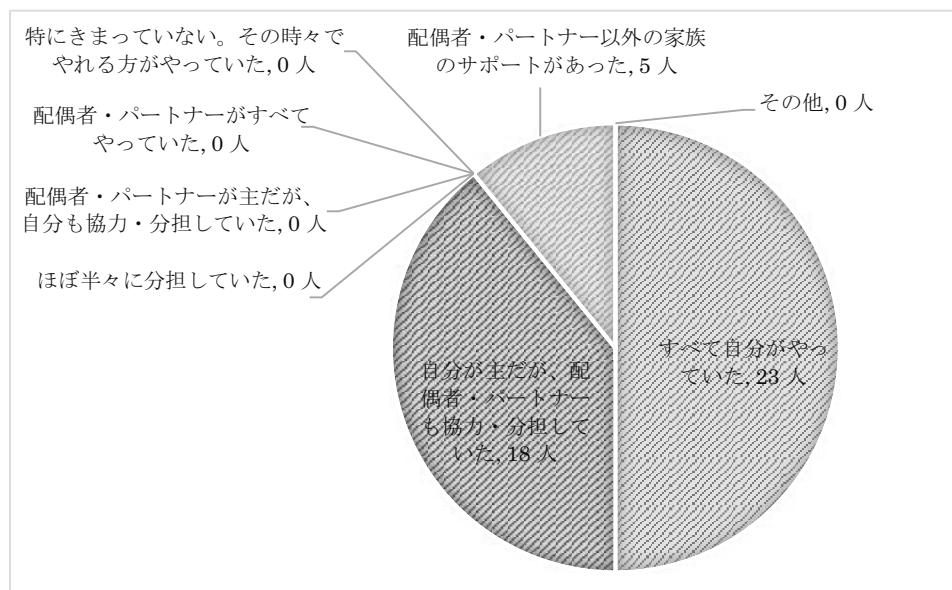
子どもの「いる」人は 47 人、「いない」人は 22 人であった。

図 98 子どもの人数(n=47) (F15-2)



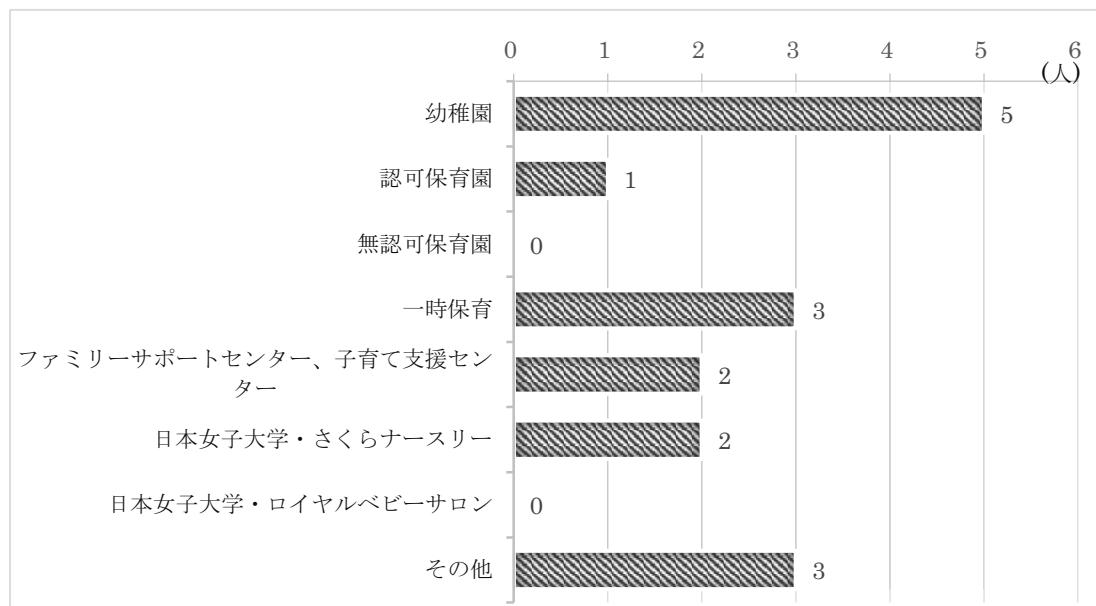
子どものいる人の子ど�数は、「1 人」が 19 人、「2 人」が 26 人、「3 人」が 2 人であった。

図 99 在籍中の家事・育児の分担(n=46)(無回答1人を除く)(F17)



在籍中の家事・育児分担は、多い順に「すべて自分がやっていた」が23人、「自分が主だが、配偶者・パートナーも協力・分担していた」が18人、「配偶者・パートナー以外の家族のサポートがあった」が5人であった。

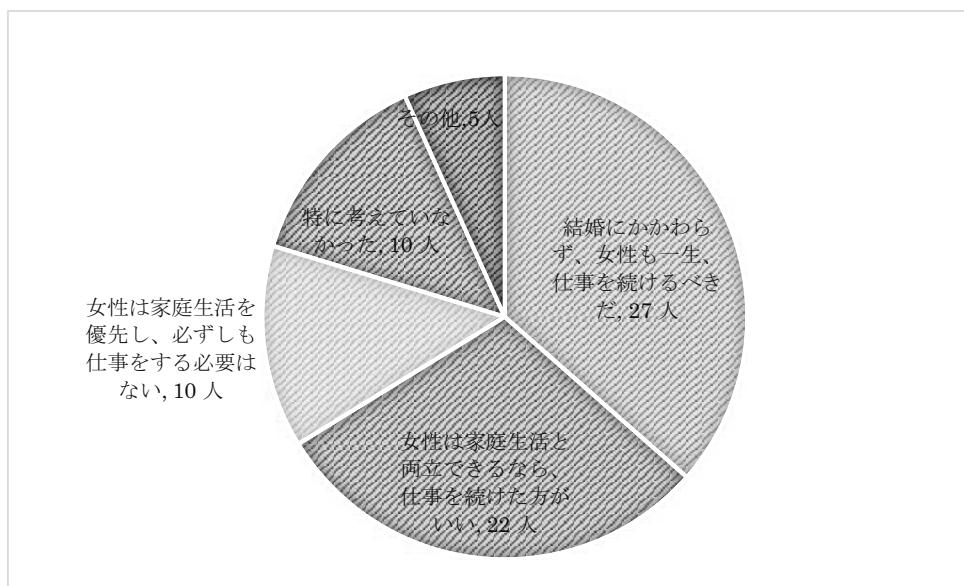
図 100 在籍中に利用した子育て支援機関・サービス(n=9)(複数回答)  
(特にない/無回答38人を除く)(F18)



在籍中に利用した子育て支援機関・サービスは、もっとも多かったのは「幼稚園」が5人、続いて「一時保育」が3人、「ファミリーサポートセンター・子育て支援センター」、「日本女子大学さくらナースリー」が各2人であった。

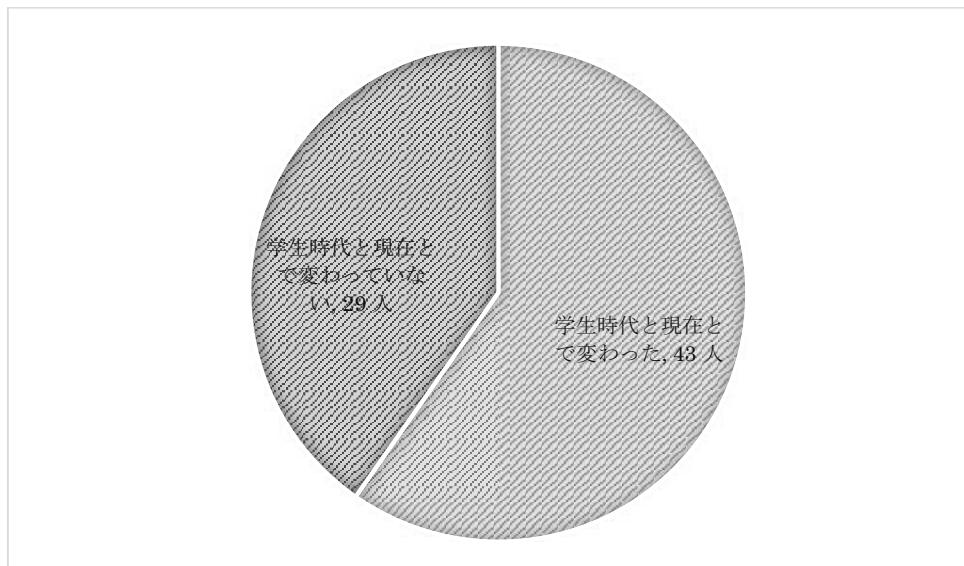
## 5) 「働くこと」の意識について

図 101 「女性が働くこと」について\_学生時代の考え方(N=74) (F19)



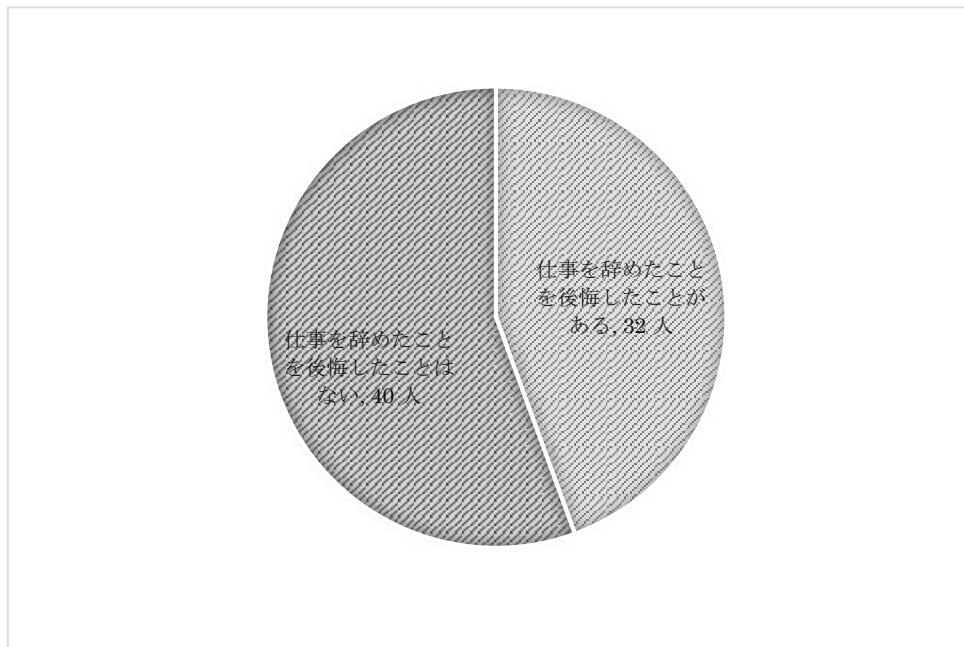
学生時代の考えについて、「結婚にかかわらず、女性も一生、仕事を続けるべきだ」27人がもっとも多く、「女性は家庭生活と両立できるなら、仕事を続けた方がいい」が22人、「女性は家庭生活を優先し、必ずしも仕事をする必要はない」が10人と続いた。

図 102 「女性が働くこと」について\_考え方の変化(n=72) (無回答 2 人を除く)  
(F20)



学生時代のこうした考えは現在どうなっただろうか。「学生時代と現在とで変わった」が43人、「学生時代と現在で変わっていない」が29人であった。

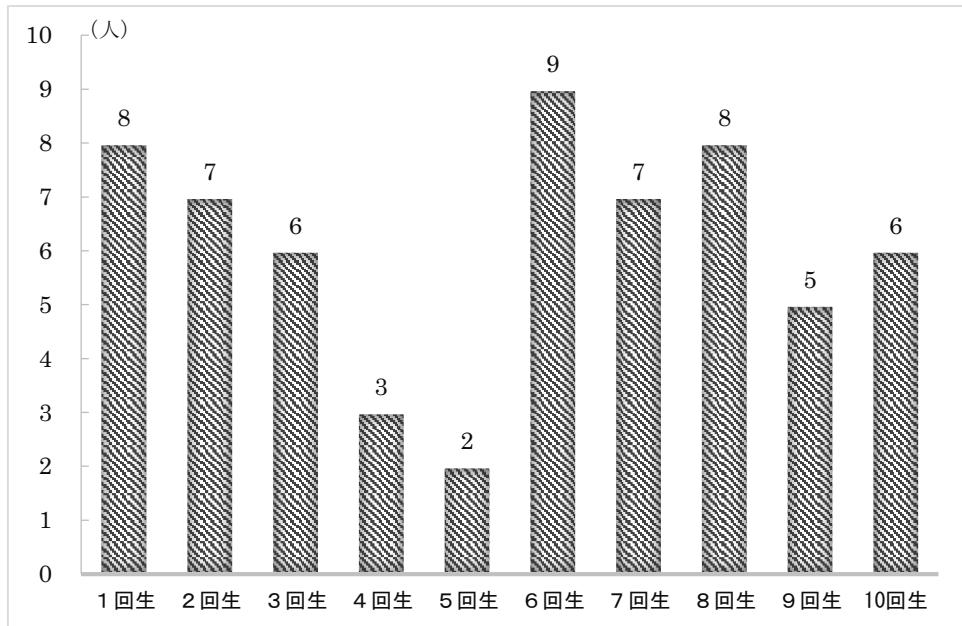
図 103 退職の後悔有無(n=72) (無回答 2 人を除く) (F21-1)



仕事を辞めたことへの後悔について、「後悔したことがある」が 32 人、「後悔したことない」が 40 人であった。

## 6) 回答者の回生

図 104 リカレント教育課程回生 (n=61) (無回答 13 人を除く) (F21-2)



回答者のうち、最も多かったのは「6回生」が9人、次いで「1回生」、「8回生」が各8人であった。「5回生」は2名と最も少なかった。

## 5. 自由記述欄の回答

(1) リカレント教育課程について		
Q66 もっと役に立った科目とその理由	Q67 役に立たなかった科目・その理由	Q76 理由 リカレントは有益だったか、その理由
ビジネス関係_企業会計入門で習った源泉徴収の仕組みや確定申告の方法等、現職に役立っているから		無記入
キャリアマネジメント_社会で働く上で役に立つ知識を学べたため	特にない	多くの人との交流や、高度な科目などを学ぶことができたため
ITリテラシー_自分がいかに非効率で、見づらい書類や資料を作成していたのか、またそれからいかに見やすく分かりやすい形にするかのポイントを学べたから	特にない	様々な年令、バックグラウンドの方々と知り合えたから
ITリテラシー_資格取得でき、履歴書に記入できるから	特にない	資格取得でき、様々な世代の方と交流できた
キャリアマネジメント_履歴書、職歴書の書き方	ビジネス関係(内部監査)、今後の希望するキャリアと無関係。授業のやり方が役に立たなかった	無記入
ビジネス関係_今まで自分にない考え方だった。新しい	役に立たなかったのは「英語(ビジネス)」「英語(時事)」「英語(TOEIC対策)」。英語を使わないでの	友人ができた
ITリテラシー_無記入	資格準備講座_無記入	無記入
ビジネス関係_企業会計入門や税法入門を学んだが、現在、経理の仕事をしてて、学んだことが役立っている	特にない	久しぶりに「勉強する」という経験ができたことと、良い友人と出会いこれが大変有益だった
キャリアマネジメント_考え方が変化して、今の自分があるから	英語(ビジネス)_英語に関わる職にはつかなかつたから	働くことにに関する考え方方が大きく変わり、やりたかったことに挑戦するチャンスをもらつた。そして実際にできた
英語(TOEIC対策)_英語を勉強するきっかけができる		無記入
ITリテラシー_無記入	キャリアマネジメント_思っていた程、新たに得たものが少なかつた	すばらしき方々と出会い、1年間、みんなと自分のこの先について向かう貴重な経験ができた
ITリテラシー_今でもエクセルの授業でやったことが役立っている	特にない	いろいろ知識が身についた
資格準備講座_無記入	英語(時事)_無記入	無記入
ITリテラシー_毎日エクセルを使って仕事をしているから。知らなかつた数式や機能を多く知り、修得することができたから	特にない自分の興味のあるものを選択して受講したし、なにより無駄なものはひとつもなかつた	年代や背景の異なる友人ができた。生涯の友になると思う。大人になつてから学生生活を送れて楽しかつた。充実した時を過ごせた。初めて自分で自分の道を決められた。勉強することが楽しいと思えるようになった
ITリテラシー_無記入		無記入
ITリテラシー_勤務初日から役立ち、社内の他の方より詳しい分野があつた。Excel、Word、PPT、イラストレーター、フォトショップ	資格準備講座_業務と関係が薄いため	5年のブランク後の再就職にあたり、カリキュラムというよりは通学するということにおいて、家庭との両立を子どもに徐々に慣らしていくのが、また、素敵な仲間との出会いも有益でした
キャリアマネジメント_無記入	資格準備講座_資格には興味がなかつたから	無記入
ITリテラシー_MOSの資格を取得。実務でExcelやPowerPointは使っていたが、習ったことはなく、スキル向上につながつた	英語(ビジネス)、せめて電話の取り次ぎや簡単な来客対応くらいは満足にできるようになりたかつたが、そういうことは学ばなかつた	無記入
英語(TOEIC対策)_就職に有利な資格だから	特にない、自身にとって役に立つ科目を選択したため	仕事に必要なスキルを学べた。多くの出会いがあった
キャリアマネジメント_自分の仕事のキャリアを長いくいんで考える視点をもつことができ、これまで経験が自分に豊かなスキルと人間関係をも与えてくれることに気づき、仕事ということを積極的に考えられるようになった。資格準備講座から実際は社労士受験に挑戦したこともあり、資格に直接結びつく科目も重要だと思うが、自分のキャリアを過去へ現在へ未来へ渡って見渡せるようなキャリア開発論などの科目も大切だと感じた	ITリテラシー_ITリテラシー_関連は身につけたい科目として期待していたが、科目によって自分には初步的すぎたり、反対に高度すぎたりした	・自分のキャリアを振り返る機会を得て、あらためて働くことが人生に与える豊かさに気づき、働くことに意欲をもたらされた ・就職といふ永遠の興味を持つ友人をもたらされた ・社会保険労務士受験の勉強と受験する機会につながつた。合格はしていませんが、以上のことが支えとなって、リカレント教育課程修了後、5年目、2度目の転職によって正規職員の仕事を得た
ITリテラシー_仕事ですぐに役立ったから	特にない、仕事に役立っているかはわからないけれど、全く無駄だつたとは思はない	就職するため勉強するだけでも家庭との両立は難しく、就職前に社会の厳しさを実感してきた。また、ここで自分のキャリアを見つめ、自分のしたい仕事を見つけることができたことはとても有益であったし、卒業したら終わらないところもありがたいたい
キャリアマネジメント_自分を見つめ直す機会となつたから	特にない、直接仕事に関係なくとも、役立たない学びはないと思うから	自分を見つめ直す機会となつた。また、視野が広がつた
英語(ビジネス)_先生が素晴らしかつた。やる気や能力の高い仲間と励まし合い、自分を高めることができたので	キャリアマネジメント_無記入	もう一度自分に何ができるか見つめ直すことができたし、素晴らしい仲間と励まされ、今でも交流が続いているから
ITリテラシー_離職中のブランクが長く、WordやExcelに触れることが怖くなつたから	特にない、今の仕事や今後のことに関係ないものも多いが、学んで損はないと思ったから	年命にこらわらず、学ぶこと、向上心を持つことができました。こうして気持ちが前向きになつたのは、リカレントで出会えた友人たちの支えもあり、一生お付き合いをしていきたいと思える学友になれたことが大きかったです
英語(ビジネス)_仕事の選択肢が広がつた	特にない	多岐にわたる科目を勉強出来たから。良い仲間と出会えたから
ITリテラシー_無記入	英語(時事)_無記入	人脈が増えた。ブランク後の仕事に対しての心構えができる
ITリテラシー_無記入	ビジネス関係(内部監査)_無記入	無記入
ITリテラシー_事務職のみならず、日常生活においてより質の高い時間が過ごせるようになつた	資格準備講座_資格取得を目的としていなかつたため	初職での経験のみしかなかつたので見聞を広げることができた
ITリテラシー_入学前よりITの知識、技術が身についたため	特にない、どれも少なからず役に立つ感じた	無記入
ITリテラシー_無記入	ビジネス関係_無記入	無記入
ビジネス関係_関連する仕事に就けたので	特にない	求職する中で、ひと息つくことができ、仕事に対して自分のやりたいことを考えるよい機会になつた
ITリテラシー_仕事に役立つた	特にない、どの科目もいろいろな気づき、知識を得ることができた	ブランクを埋めるのに、スキル、情報とも適切に得ることができた
キャリアマネジメント_自分と仕事を見つめ直すことができた	特にない、すべて勉強になつたと感じている	無記入
ITリテラシー_無記入	ビジネス関係_就職に結びつきそう、そうでない	無記入
キャリアマネジメント_今後、取得するべき資格などを相談できた	英語(時事)_日本企業で英語をあまり必要としない	今までとは別の仕事に就職できた
英語(TOEIC対策)_無記入	ビジネス関係_無記入	無記入
ビジネス関係_授業で学んだことを発展させて、自分で資格取得したから	特にない	無記入
キャリアマネジメント_就職市場の実情を開けたり、面接のロールプレイングが役に立つたから	英語(時事)_教師の講義を一方的に聞くばかりだったから	無記入
英語(ビジネス)_英語のリハビリになりました	特にない	就職先を見つけることができた
ITリテラシー_長い離職期間があつたため、常識的に必要なスキルレベルがわかれり、仕事を探すに当たり自信が持てたため	特にない	無記入
キャリアマネジメント_リカレント教育課程でしか学ぶことができない。また、履歴書の書き方など、この講座を受講していないければ書類審査に受かることはなかつたであろう	英語(時事)_実用的ではない(授業は楽しかつたです)	長いブランクの後、また仕事を得ることができたのはリカレントでの経験なくてはあり得ないから。先生方、事務の方のサポートのお陰で、自分の進路(働きたい業種など)を決めることができたため
ITリテラシー_現在の仕事をするうえで役立つてるので	ビジネス関係_資格を取ることもできないし、内容がわかりにくいので	再就職を目指す自分と同じような考え方を持つ友人を持てたことや、再就職ができたことは有益でしたが、リカレント教育課程のプログラムがもう少し充実したものであればよかったです
ITリテラシー_無記入	英語(時事)_最近のニュースなどのトピックを取り上げるものだと期待していましたが、教材が古く、全てを日本語に訳していく翻訳中心の内容だつたため	・当初よりレベルの高い就職を目指すという気持ちになった ・自分の意志で入学を選んだことで、積極的に自発的な自分に気づけた

(1)リカレント教育課程について			(2/2)
Q66 もっとも役に立った科目とその理由	Q67 役に立たなかった科目・その理由	Q76 理由 リカレントは有益だったか、その理由	
ITリテラシー_プランクが長く、PC関連のスキルに自信が持てませんでしたが、ITリテラシーで学び、資格をとり、自信をつけることができました	英語(時事) 内容的に学部生が学ぶようなもので、直接役には立たないと思いました	同じ目標や悩みを持つ友人にめぐり会え、自分の生き方について考える機会が持てたことがとても良かったと思います	
キャリアマネジメント ・自分が何をしたいのかを十分に考える機会を与えてもらったり ・自分のどこが売りなのか ・人生をどう設計していくのか	英語(TOEIC対策) 教師が英検信奉でTOEICをバカにしていました。900点突破を目指していたのに、全く英語を勉強していない人の全体の学習で、全く無意味であった	無記入	
ITリテラシー_無記入	特にない 役に立たない科目はなかったと思います	自信が少し持てたので	
ITリテラシー_最新版のOSでPCを操作しながら学べたこと	英語(ビジネス) ビジネスに限定された内容の授業とはいえないかった。特に新しい知識を得られず、一般的ないわゆる英語の授業に近く、期待がはずれた	ITの知識を新たに得て、英語の学び直しもでき、キャリア教育の中で自分自身の気づきがあり、友人を得られたこと	
学部の科目_無記入	特にない	学部の授業を受け、さらに教授とお話をし、心理学科に学士入学し、今春大学院に進む予定であり、2年後には臨床心理士の資格取得という道を選ぶことができたので	
2010年度地球環境とエネルギー産業講座 学校教育の中でのこれほどまとまったエネルギー環境リテラシーを上げる講座はないと思った。持続可能な社会の追求を支える知識やものの見方に触れることができた	特にない 自分くらいの年代で再就職する社は大きく2つあると思う。1つは生活力(収入)、2つ目は関心のあるものを深める、である。私の場合、資格準備講座の内容になかなか関心は持てなかつたが、学ぶという点では有意義であった	年令もバックグラウンドも異なる同級生との交流ができる、それぞれ思惑は違っても、共に学んだこと、働くことや働き方について話し合ったり、人生について語り合ったりできる友人に恵まれたことは大変有益でした。また、先生方との距離が学生時代より近かったように思います。社会人を経験してから大学に戻るというきっかけをいたしました	
ビジネス関係_財務報告書を読んで会社を判断したり、社会の見方が変わって日々のニュースが面白くなつた	特にない	無記入	
ITリテラシー_どの職種に就いても必要だから	特にない どの科目も知識として知っておくに越したことはないので、不要とは思わない	無記入	
ITリテラシー_実践で役立つことをたくさん教えてもらい、今の職場でもITで学んだことを生かして仕事できていることが多いから	英語(時事) 先生のあまり役に立たない雑談が多く、もっと実践に役立つ時事をやってもらいたかったです	無記入	
ITリテラシー_ITの知識が今の仕事にとても役立っている 英語(時事)職に直結した科目だったから	特にない 資格準備講座 資格には結びつかない内容だった	同じ志を持つ仲間と知り合えたこと 仕事に復帰できた	
ITリテラシー_ITについてほとんど知らなかったが、現状では必須のものであるから	特にない	無記入	
ITリテラシー_面接の時にパソコンを使えるか聞かれた。授業を受けたので「リカレンツでITの単位をとった」と答えられた。そして採用された。仕事で毎日パソコンを使っている	英語(TOEIC対策) 今の仕事では英語は必要ないから	自分の現状では安いパートの仕事しかいことがわかつた	
ITリテラシー_PCA操作の習得	特にない	無記入	
ITリテラシー_ITは苦手だったが、プレゼンやプロジェクトを通して、自分でもやれば少しづつでもできるようになっていくと感じられたので	特にない	熱心に教えてくださる先生方やバックグラウンドの異なる方々との出会い、自ら目標に向かって学んだことを通じて「自分自身の可能性」を感じることができたことが最も大きかったと思う。また、リカレントでの経験が美を綴んだとは言えないが、種をまき、育てて行く過程にはあると思う	
どれが突出して役立ったとは言い難い。やったことは、それなりに何らかの種にはなっていると考えたい	特にない、学んだことはそれなりに何かしらの種にはなっているかとは思うので	終了後も励みになる人たちに出会えたこと	
キャリアマネジメント_具体的な就職活動のイメージを持つことができたこと	特にない 英語(TOEIC対策) 結局、就職への心構えが甘く、長続きはしなかったが、就職といふ目的を達成することはできたため	就職への心構えが甘く、長続きはしなかったが、就職といふ目的を達成することはできたため	
英語(ビジネス)_日常使用する業務の一部を担当させてもらえるから	資格準備講座 レベルが低く、講師が教えるべきこと、自分の私的な話の区別ができていなかったから	求人情報へのWEBサイトで、仕事の相場や要求される能力を今知ることができるから	
ITリテラシー_表計算とグラフを日常生活に取り入れられるようになりました。また、MOSの資格は就職の役に立ちます	キャリアマネジメント_キャリアマネジメントが必要ですが、履歴書は実際の現実には厳しいものでした。もっと今の第三者の企業側になつての現状に適したアドバイスが必要です	積極的前向きになりました	
ITリテラシー_実務に直結しているため	英語(ビジネス) 英語を使用する機会がないため	無記入	
ITリテラシー_知らなかったエクセル、ワード機能がたくさんあり、実践に役立つと思いました	英語(時事) 時事英語は実践で使う機会は少ないのでは?	長年我流で覚え込んでいたビジネス知識を正すよい機会を得ました	
ITリテラシー_無記入	英語(TOEIC対策)_無記入	新たなことを学ぶことができたことは有益だが、就職には結びつかなかった	
ITリテラシー_無記入	資格準備講座_無記入	無記入	
ITリテラシー_実践に大変役立った	資格準備講座_社会勉強程度	時間をかけて考えることができたこと	
ビジネス関係_理屈がわかり、資格取得の力になった	ITリテラシー_細かすぎる内容。就職先で使うことはないです!	親身な就職相談。様々な層の生徒と話したこと	
ひとつは選べない。どれも役立っている	特にない	出会った人たちとの情報交換や交流がとても豊かだった	
ITリテラシー_ほとんどOからのスタートだったので	特にない IT以外は、関心ある、面白い科目もあったが、即戦的にはならない	無記入	
英語(時事)牧野先生の授業が有意義だったから	ビジネス関係_内容が表面的	無記入	
英語(TOEIC対策) 無記入	特にない	無記入	
ITリテラシー_無記入	キャリアマネジメント_講師が自分のぐちばかりを授業で話されたこと	無記入	
ITリテラシー_無記入	特にない	無記入	

(2) 女性が再就職をするにあたり必要なもの		(1/2)
Q88 女性が再就職(転職)するにあたり必要だと思うもの(資格・技術・スキル)	Q89 女性の転職・再就職支援として必要だと思うこと	
対人能力。コミュニケーション能力		
挑戦し続ける意志。やりたい事業があるならば、資格を取得していくべきである	キャリアカウンセリングは是非利用るべきである	
自分に対する「自信」。自分がどれほど輝く、素晴らしい存在であるかを認識し、前向きに挑戦しようとする姿勢。資格云々は、その後からついてくるものと思う	時に不安に陥れたり、精神的に辛い時に、素直に話を聞いてくれる人。ポイントは「話を聞いてくれる」人であり、自分の話に「否定や反論」をする人ではない、ということ	
一般常識		
愛される(大事にされる、したいと思われる)スキル	励ましてくれる友人たち	
IT、PC、パワーポイントなど	リカレントに頼るのではなく、活かして自己自身で再就職するために行動すること	
一目置かれる資格。社労士、内務監査人等、簡単にはとれないもの	これからどう働くのか、キャリアプランのイメージ	
資格		
意欲と体力	情報	
技術、スキル、子どもなし	再就職支援体制(国や自治体)、バックアップ	
勇気・チャレンジ精神のめげない心、自分が会社側からどのように見られているかを分析する目、ガッツ	社会の中での自分の立ち位置を認識するためのキャリアデザインの考え方を知ること、キャリアカウンセリング、自己分析のツール	
わからない	わからない	
即戦力となるPCスキル。ビジネスレベルの英語	子どもの預け先、育児サポートなどの活用方法の共有(修了生からのアドバイス)。ブランクのある女性でも(もしくは、だからこそ)、ビジネス上有益だということを、経営者にPRすること	
直前職では、人事部で採用の仕事もしていたが、正直なところ40才以降の女性の事務職としての採用には決定打はなかなかなかったように思う。会社側として見ているのは、それまでの歴史やブランクの期間の長さは気にするところであった。ただ、私の周囲を見ていると、理学療法士や作業療法士等は比較的転職しやすく、転職後も収入が高いように思う。できるところなら、専門職に直結するような資格や技術を身につけることが再就職しやすく、安定した仕事と収入を得やすいと思う	何しろ就職先の提供。通常の転職手段ではスキルうんぬんよりも年令で書類審査の段階で落とされる。日本女子大という看板を使って、もう少し職場の開拓に力を入れて欲しい	
自分の興味のある分野、就きたい職に必要なスキル	求人の多い職よりも、自身の興味、関心のある分野で就職できるようなバックアップ体制	
私それを知りたいです。必要な資格、スキル、技術はやりたい職種によりますしね。子育て経験のある友人は、ベビーマッサージの資格をとって活躍しています	①今までの経験の整理(自分が既にどんな力を持っているかわかり、何があつたら良いかがわかるような) ②①について助けてくれる専門家。さらにそれを、今社会、企業、団体が必要としている具体的な職につなげる情報を持っているアドバイザー	
PCスキル(ワード、エクセル、PPT)がかなりできる、会計ソフト等)。経理知識(経理はどこかの会社でもある。おばさんでもOK)。働きたいという気持ち	社会(会社)は自分に合わせてくれない、自分からの歩み寄りも必要だということ、働くことはそんなに甘くないということを理解した上で、就活に入れるような支援(講座、インターネット)。現実には働いてみないと実感しないかもしれないけれど、働き続けること、高い賃金をもらうためにには、それ相応の苦労が伴うこと。自信を失っていったり、一步が踏み出せない人もいるので、背中を押してあげられるような支援	
志望する職種によって異なるので、回答できません	自分にとっての優先順位、就職する目的等、しっかり自己分析してから就職する	
パソコンスキル、コミュニケーションスキル	先輩の体験談を聞けること、ブレイクが長いと社会情勢が変化しているので、社会の変化に対応していくけるような御指導があればよいと思います(カウンセリング、ワークショップなど)	
IT、英語、実用性のある資格	年令や離職歴を気にしまして、結局何もできないでいる気持ち捨て、仕事を得るために資格やスキルを身につける努力は必要だと思います	
スキル、経験、年令が若いこと	リカレントの存在を企業にできるだけ多く伝えること	
資格、コミュニケーション能力	個人の事情に合わせて適宜求人をパーソナルに紹介するシステム(地域などに合わせる)	
ワード、エクセル、パワーポイント必須		
経験、スキル、家庭との両立	配偶者、パートナー等の家族のサポート、子ども(子育てのサポート含む)の協力	
ITスキル、会計スキル、英語力	具体的な就職求人情報が必要です。特に40才以降の受講者が多いので、年令のハードルのある求人は必要ありません。より具体的で可能性のある求人開拓をする必要があります	
資格、スキルもある程度はあった方がハードルを下げると思います。何より、チャレンジする心が大切だと思います	リカレント教育課程を充実、維持させていくには、企業自身的講師陣の人脈等も活用し、求人案内を多岐にわたり収集し、受講生に与える体制を構築していくべきだと感じました	
自分自身の高いモチベーション。色々な人とコミュニケーションやネットワーク	やる気	
資格、企画力	今までのキャリアを認めてください、次のステップを踏めるような考え方の支援	
IT、ビジネスマナー	最新の仕事情報	
何らかの国家資格があれば有利だと思う。例えば、社会保険労務士、中小企業診断士、通訳士	家族のサポート、履歴書経験書、履歴書などの応募書類の書き方。面接の練習	
ITといえば、ソフトの使い方ではなく、1台のパソコンを複数で利用するための知識、セキュリティ対策、バックアップに関する知識など、より実践的なもの	修了生に対するケアをより周密充実させることができます。求人を出す方も応募者がいないと次は求人を出なくなくなります。修了生に対して、課金することなく求人情報を閲覧できれば、win-winの関係になると思うのですが、どうでしょうか?	
基本的なPCスキル、コミュニケーション能力、柔軟な考え方		
パソコンスキルは必須だと思います	社会で必要とされているニーズをくみ上げ提供すること	
ビジネスマナー、IT、就職する職種に関する特別な知識・技術	最低限のスキル(ITなど)と、具体的なアプローチ法。仕事から離れていた自分は、とにかく自信がなかったため、より具体的なアプローチ方法を知りたかった	
・ITのスキルはどの職場においても必要不可欠。日々進歩しているものなので、常にスキル向上する努力も必要 ・コミュニケーション能力	家庭と両立できる勤務時間(残業など)、休みの取りやすさなど、理解のある企業を探して欲しいと思います	
女性の場合、結婚、出産といったもので仕事を中断してしまう可能性が多いので、資格のようなもの(例えば、教師、看護師などといったもの)は、再就職しやすいので、そういうものの身についておくのがよいと思う	一度仕事を辞めてしまい、またその期間が1年以内ならいいが、長いブランクがあると再就職はとても大変です。ブランクがあり、就職したいと思った時に相談できる窓口や再就職への細かいアドバイスや求人情報が必要だと思う。必要であれば、資格やスキルを学ぶ講座があればいいと思う。女性の場合、家庭の事情もあり、働き方もさまざまな形があるので、多様なニーズに応えてくれる場所が必要だと思います	
自信とそれを裏付けるための訓練や資格取得などの実績	企業と求職者の橋渡しをしてくれる機関	

(2) 女性が再就職をするにあたり必要なもの		(2/2)
Q88 女性が再就職(転職)するにあたり必要だと思うもの(資格・技術・スキル)	Q89 女性の転職・再就職支援として必要だと思うこと	
PCが使いこなせると証明できるマイクロソフトのスペシャリスト等の資格は必ず必要だと思います	企業側に働きかけていただき、有能でやる気のある女性がたくさんいるということを知っていただくことがあります。個人ではできないので、大学や政府にやっていただけだとありがたいです	
ある程度のスキルは必要かもしないが、それに頼りすぎず(専門があれば別だが)、柔軟に新たなものを吸収していく意欲。コミュニケーション能力。状況を把握する力	結局は、自分の強い意志が一番大事だと本人に気づかせること。周囲を巻き込みながらやしていく覚悟。焦らない、あきらめない、家族の理解を得る。新しい職場での人間関係の構築、生活サイクルの確立、勉強等々	
基礎的なIT能力。コミュニケーション能力。柔軟性	能力をもててあましにいる女性を活用しようという社会への働きかけが、もっと必要だと思います	
スキル。対人関係をうまくやっていく能力。考え方の柔軟性(多角的に物事を見る柔軟性)	キャリア教育	
きちんととした自己分析を行い、自分の特性にあった資格やスキルなどを取得するべきだと思います。資格には大変時間やお金のかかるものがあり、それを安価で提供していただければ私も通ったと思います	大切なことは、やはり個々の事情で違うと思います。家族の理解、自分自身のモチベーションの持ち方も皆違います。現状を変えたいという思いは全員が持っていたと思うので、そのような思いを同期間士で共有できたことは、今でも宝物だと思います。同期でコミュニケーションをとれるフリーな時間を作っていただけたら、もっと早く理解出来て良かったかなと思います	
職が変わったり、切れている人は、人脈も切れていることがあるが、それが再就職の壁を高くしていることもあります。本人は能力もあり人柄もよくても、ブランクや年令、学齢期の子どもがいるといった採用側を不安にさせる要因をクリアさせるのは、人物を知る人のバックアップが助けになると思います。	第一に履歴書から年齢や経験を隠すことなくMovementを考えてほしいと思います。 第二にMarital Statusや子どもの有無、働き方の条件については、本人に記入の選択ができること、また、面接では職務、職能に必要な内容と、主に仕事と人材のマッチングをするという基本を、市場に広めて欲しいと思います。現況の状況はわかりますが、やる気のある人の希望が奏えるのは残念です。なかなかの求人枠に対して、若い人でもなかなか就職は難しいのか、キャリアブレイクした人は、学歴もかかってのキャリアも白紙にするぐらいの覚悟を決められることも求めません。	
資格、スキル、技術などは、もちろんあるにこしたことはありませんが…。ある程度レベルが高く、有能でも就職につながらない場合がありますね	また、リクルートを履修した人たちをめぐらせる市場開拓と、モーテリング(自己を重ねられる)になる例(ともに英語が堪能とか、上級スキルを持つなどといった)あの人には特別すごい人」という例ではなく増やすと心強いです。 さらに「この会社との人材」という目で見るケースがあつたら、定期的にTEL Follow up様子をLearningするのも良いと思います。久しぶりの職場で、独りで悩んで辞めてしまう人もいるのではないかでしょうか?	
IT、ビジネスマナー。家事の省力化、短時間化など、タイムマネジメントを実際にフルで働いている人たちから聞きたい	一年間、大学で学ぶ余裕がある人たちが集うリカレントには、切羽詰まっている人は少ないのではないかと思います。そのことはつまり、再就職に対する「どうしても、なんとかしたい」という強さや、多少の困難も乗り越える強さについて、「弱い」ということもあるかもしれません。話を聞いてくれるだけでも「明日も頑張ろう」と思えるものですから。そのようなフォローを重ねて、1人また1人ひとりリカレント生の就職が定着することを願っています	
資格はあった方がいい。本人のやる気	数多い求人案内	
PCスキル(最低限)	ワーク・ライフ・バランスと就業形態の多様性が可能となること	
ITスキル。コミュニケーション力	実際に仕事が流れていく代表的な例を教えてほしい	
パソコン操作ができること		
パソコン、ビジネスマナー、Eメール文(英語／日本語)の書き方、チャレンジ精神等	年代別(20代、30代、40代、50代)に分けての求人情報の提供や相談イベントがあれば参加したい	
・北欧のように、いつからでも自分自身が学びたいと思えばーからじっくり学ぶことができるといいと思う ・社会的・公的な場において、自分自身や自分の考え方や意見を的確に伝えることできるコミュニケーション能力	女性が女性らしく、家族や自分自身を大切にしながら仕事をしていくことが理想だと思う。自分を社会に合わせるのではなく、「自分に合った働き方」をする。自分で仕事をコントロールできるようになるには、やはり起業がいいのかなと思う。起業のための実践的なアドバイス、また経験者のお話など、聞くことができる講座があれば参加したいと思う	
ブランクが長い場合はITスキル。Excel、Word、PowerPointのみでなく、Outlook、メール、書類のスキャン、スケジュール管理。あらゆる実地訓練的なスキル	なぜ働くのか、どのような働き方をしたいのか、モチベーションと覚悟の再確認を促すキャリアカウンセリング。実際に就職した先輩方の生の声を聞く機会。今までの修了生の現在の就職状況の把握、支援	
国家資格を取つたら、すぐ採用された	家族に依存しない、家族に依存されない生き方。 シアワセ・キーピングというのか、ひとつの仕事を3人位で1日の時間を分担して受け持てるような仕事のやり方。 4~9 海外からの送金受 9~12 会議等、戦略についての指示受 12~15 企画・内部への連絡 15~20 対外への連絡 今はこんな感じで、8人で1業務を分けています。全員が全部の内容を知っています	
TOEIC750点以上、簿記2級、USCPA、MOS	面接の練習と自己ピアールの練習だけでなく、現状に適切したアドバイスが必要です	
本人のイメージ。私生活も含めてどう働きたいと思うかを描けること	現在の社会と、個人の意識の差を埋めるアドバイス	
実務経験がともなわない資格は無意味と言われることもあるが、やはり資格は就職の際必要だと思います。 同じような年令、経歴の応募者と競う場合、有資格者の方が断然有利です	Q88に記載した通り、資格は重要なと思います	
①運(卒業時の雇用状況 & 求職時の雇用状況。新卒時の仕事、就職先で、その後の人生が決まってしまうと思います) ②若さ	資格を取得していく中で経験がなければ採用されないので現状だと思います。いかにも今までの経験を再就職にあたってアピールできるのかなどのアドバイスをしていただけたら、今後につながると思います	
即戦力となる資格やスキル	具体的に、求職者本人の理解、企業側の受け入れ体制	
英語よりなによりITスキル。パソコンができないれば、仕事にならないので。テキスト通り一遍のものでなく、もっと現実に即した内容を時間を多くとて習熟しないと戦力にならない	心理的サポート	

(3) 自分のキャリアに対する思い		
F20-1 女性が働くことについて①学生時代→変わった？ ②どのように？ ③その理由		
①結婚にかかわらず女性も一生、仕事を続けるべき → 変わっていない		
①結婚にかかわらず女性も一生、仕事を続けるべき → 変わっていない		
①結婚にかかわらず女性も一生、仕事を続けるべき → 変わっていない		
①女性は家庭生活と両立できるなら、仕事を続けた方がいい → 変わっていない		
①女性は家庭を優先し、必ずしも仕事をする必要はない → 変わった ②女性もできる範囲で働くべき、収入を得るべき ③家庭の中で収入を得る人間がひとりでは、経済的に厳しい世の中になってしまった		
①結婚にかかわらず女性も一生、仕事を続けるべき → 変わっていない		
①特に考えていないかった		
①女性は家庭生活と両立できるなら、仕事を続けた方がいい → 変わっていない		
①結婚にかかわらず女性も一生、仕事を続けるべき → 変わった ②女性には多様な働き方がある ③自分が実際に働きながら出産・育児を経験して、リカレントでキャリアアドバイスについて学んで		
①女性は家庭生活と両立できるなら、仕事を続けた方がいい → 変わっていない		
①その他、性別にかかわらず、生きて行く限り、お金のために働くのが当たり前と思っていた → 変わった ②働きながらも裕福に暮らしている人もいるし、裕福であってもさらに働く人もいるから ③仕事を生活のためだけではなく、生きがいや自己実現のためにあるし、また、それは仕事で叶えなくても良いということ		
①結婚にかかわらず女性も一生、仕事を続けるべき → 変わっていない		
①女性は家庭生活を優先し、必ずしも仕事をする必要はない → 変わっていない		
①結婚にかかわらず女性も一生、仕事を続けるべき → 変わった ②女性も必ず一生仕事を続けるべきだと思っていたが、子育てなどでいったん仕事を離れるようなことがあってもよいと考えるようになった。働いていない人にも寛容な考えを持てるようにになった ③自分が専業主婦経験をしたため		
①女性は家庭生活と両立できるなら、仕事を続けた方がいい → 変わっていない		
①結婚にかかわらず女性も一生、仕事を続けるべき → 変わった ②家庭をマネジメントし、子どもの世話をし、家族の幸せを最優先して考えることは、仕事と両立は難しいが、主婦ならではの特別な仕事でスキルである ③子どもが産まれた		
①結婚にかかわらず女性も一生、仕事を続けるべき → 変わっていない		
①特に考えていないかった → 変わった ②実際仕事につくと、仕事は楽しく感じられ、自分にもできることがわかり、自信につながった。さらにしたいことも仕事の中に見つけることが嬉しい、収入が得られることも自分の生活を豊かにできる。仕事は私になくてはならないものと思えるようになった ③学生時代は今のようにキャリア教育もなく、「働くこと」に興味も意義も感じなかっただし、自分がきちんと会社の中で働けるのか自信もなかった		
①女性は家庭を優先し、必ずしも仕事をする必要はない → 変わった ②女性も必ずしも結婚して家庭に入るわけではなく、食べていくために仕事は必要であるし、人生を豊かにしてくれるもので、大切なものだと考えるようになった ③自身の結婚の可能性が低くなってきた。予想外にずっと働き続けている		
①その他「自分」がどんな仕事をしたいかについては考えたが、一般的な意味で「女性が働くこと」については特に考えていないかった → 変わった ②学生時代、つまり本格的に働いたことがなかった頃は、やりがいのある仕事を希望するといつても漠然としていたし、主に生活の必要上働くものと思っていたが、実際に働いてみたら、「仕事」がお金だけでなく、豊かな技術、経験、人間関係を与えてくれた事実に気づき、長く働き続けたいと思うようになった ③学生時代は短期のアルバイトしかしたことがないかったので、働くことの深い意味は知りようもなかった		
①特に考えていないかった → 変わった ②同じ教育を受けたのだから、同じような仕事をしたいと思ったし、結婚したら辞めるのが当然という社会の風潮に慣れも感じた。男女関係なく働きたいなら働き続け、同じ仕事が与えられるべきだと思った ③大学までは男女の違いを感じなかっただが、入社後明らかに男女間での仕事の与えられ方に違いを感じたため		
①その他、自分自身は「3」だが、仕事をしたい人は受けられる世の中が望ましいと思っていた → 変わった ②女性も自分で自分の人生の選択ができるよう、「力」をつけておくべき。ずっと仕事を継続しなくともよいか、必要に応じて就職できるように勉強するなり、「力」をつけて準備する方がよい。夫もストラトや病気など、いつ離職するかも分からない世の中 ③世の中の変化		
①女性は家庭生活と両立できるなら、仕事を続けた方がいい → 変わった ②女性も長く働くようになり、居場所ができた。また、専業主婦で一人家にいるのはとてもむずしい。社会との接点を持ち、人の役に立ちたいと思うようになった ③私の学生時代は女性はある程度の年齢になると職場にいづらしく、ほとんどの女性が結婚で辞めるのが当然だった		
①特に考えていないかった → 変わった ②無記入 ③働くことは辛いだけと思っていたけれど、自分を高め、前向きになれる場所と思えるようになった		
①特に考えていないかった → 変わった ②社会人として働くのが当然と思うようになった(形態、勤務時間、収入にかかわらず) ③自分が実際に働いてみて、自然なことに感じたから。また、子どもを育てるに当たり、親が社会性を持っていることが必要だと思うから		
①結婚にかかわらず女性も一生、仕事を続けるべき → 変わった ②家庭にも仕事にも責任を持つこと ③家庭を持ったため		

(3) 自分のキャリアに対する思い		
F20-1 女性が働くことについて①学生時代→変わった? ②どのように? ③その理由		
①女性は家庭を優先し、必ずしも仕事をする必要はない → 変わった ②配偶者の協力、子どもの健康状態により家庭生活と両立できれば働いた方がよいが、それが不可能なら必ずしも仕事をする必要はない ③時代が変わった		
①結婚にかかわらず女性も一生、仕事を続けるべき → 変わった ②配偶者の協力、子どもの健康状態により家庭生活と両立できれば働いた方がよいが、それが不可能なら必ずしも仕事をする必要はない ③子どもの健康状態が悪くなり、仕事に専念できなくなつため		
①女性は家庭を優先し、必ずしも仕事をする必要はない → 変わった ②もう一度、しっかり働きたいと思った ③子育てが一段落したから		
①女性は家庭生活と両立できるなら、仕事を続けた方がいい → 変わった ②経済的に安定するから ③女性も働くべき		
①女性は家庭生活と両立できるなら、仕事を続けた方がいい → 変わった ②自らが働きなればならない状況にある ③漠然とした考えしかなかったが、自分が病気をして、また現在も未婚でいるので		
①結婚にかかわらず女性も一生、仕事を続けるべき → 変わっていない		
①結婚にかかわらず女性も一生、仕事を続けるべき → 変わっていない		
①女性は家庭生活と両立できるなら、仕事を続けた方がいい → 変わっていない		
①女性は家庭生活と両立できるなら、仕事を続けた方がいい → 変わっていない		
①女性は家庭生活と両立できるなら、仕事を続けた方がいい → 変わった ②女性が働くこと。共働きが増えた ③社会の状況の変化		
①結婚にかかわらず女性も一生、仕事を続けるべき → 変わっていない		
①結婚にかかわらず女性も一生、仕事を続けるべき → 変わっていない		
①女性は家庭生活と両立できるなら、仕事を続けた方がいい → 変わっていない		
①女性は家庭生活と両立できるなら、仕事を続けた方がいい → 変わっていない		
①結婚にかかわらず女性も一生、仕事を続けるべき → 変わっていない		
①女性は家庭生活と両立できるなら、仕事を続けた方がいい → 変わっていない		
①女性は家庭生活と両立できるなら、仕事を続けた方がいい → 変わっていない		
①女性は家庭生活と両立できるなら、仕事を続けた方がいい → 変わった ②男でも女でも人が生きていく上で働いて行くことが当たり前のことと思えるようになるべきと思う ③結婚したとしても離婚することもあるし、また勤めている会社がいつ倒産してしまうかもしれないから		
①特に考えていなかった → 変わった ②女性も自分の仕事を持つべきだ ③社会的な情勢が変化したから		
①女性は家庭生活と両立できるなら、仕事を続けた方がいい → 変わった ②以前は両立しても育児をする女性は出世が難しく、働くことへのモチベーションがあまり持てませんでした。今は、そういった女性も男性同様のチャンスを与えられているので、働くこと、仕事に生きがいを感じると思います ③今は女性が働き続けるようなシステムを企業が導入しているので		
①結婚にかかわらず女性も一生、仕事を続けるべき → 変わった ②バランスを取りながら働くことも、気力、体力を保つために必要。ただ、フルタイムで働かないことをあきらめる(それでも自分を認める)ために、40才すぎまでかかった ③両立は想像以上に大変。仕事はめいっぱいやりたくとも、自分の体力もそこまで追いつかなくなつてくる。夫は「君は仕事をした方がいい」と言いつつ、自分には影響はないでしょ、というのが前提としてある		
①女性は家庭生活と両立できるなら、仕事を続けた方がいい → 変わっていない		
①その他_配偶者や家庭環境が許す限り、女性も仕事を持つべき → 変わっていない		
①女性は家庭を優先し、必ずしも仕事をする必要はない → 変わった ②仕事の楽しさ、達成感、沢山の人との出逢いは、自分を豊かにするので、女性が働くことは良いことだと変わりました ③社会に出て仕事をしたことによって		
①女性は家庭を優先し、必ずしも仕事をする必要はない → 変わった ②働き続けてみて、自分自身が社会に還元することが嬉しい、意外と性に合っていると気づいた。今は生涯現役でいたいと思う。こう思えるようになったのは、ここ2~3年のことである。 リカレントの影響は大いにあると考えている ③(略)、リカレントへ来るまで(略)は、仕事はいつ辞めてもいいと思っていた		
①女性は家庭生活と両立できるなら、仕事を続けた方がいい → 変わった ②家事だけやっていても人生はつまらない。職業は人生を豊かにしてくれるし、収入ももらってくれるので持つべきだ ③男性の収入が減った。女性が働くことで生活が改善されることがわかつた。都市には女性が働きやすい環境がある		
①特に考えていなかった → 変わった ②自立すると自由を得られると思った ③結婚して専業主婦になるものと思っていたのに、なぜか人並みのコースを歩むことができなかつたから		
①女性は家庭生活と両立できるなら、仕事を続けた方がいい → 変わった ②その時の環境で、自分が働ける形態(派遣やパートなど)を選ぶことに抵抗がなくなった ③結婚、子育てなどの環境が変わる中で、自分が働くということを考えざるを得なかつたから		

(3) 自分のキャリアに対する思い		
F20-1 女性が働くことについて①学生時代→変わった？ ②どのように？ ③その理由		
<p>①結婚にかかわらず女性も一生、仕事を続けるべき → 変わった          ②絶対仕事を一生続けるべきとは言えない。働き方は人それぞれだと思う          ③家族との関係もあるので</p> <p>①女性は家庭生活と両立できるなら、仕事を続けた方がいい → 変わった          ②職は一生のもの          ③女性／男性にかかわりなく、仕事（職業）を持つ方が人生が楽しいと思うので</p> <p>①特に考えていなかった → 変わった          ②学生時代はやりたいことがある人がそれを仕事にして働いていたと思っていた。今は働くことで自分を成長させることができると、社会にも貢献できるのではないかと思う          ③家事や子育てに力を注ぐことが自分の役割だと思っていたが、（仕事をして）社会とつながりを持つことで、人としてもいろいろなことがわかり、結果的に家族ともうまくやっていけるように思うから</p> <p>①結婚にかかわらず女性も一生、仕事を続けるべき → 変わった          ②パートで働く主婦を軽蔑しなくなった          ③雇われる場合、現状では正社員とパート等の非正規社員の2つの雇用形態しかないことを知った。非正規から正社員へ転職できないことも知った</p> <p>①女性は家庭を優先し、必ずしも仕事をする必要はない → 変わった          ②女性も仕事を続けるべき          ③家事、育児も男女で分担し、配偶者とより平等な関係を保っていくことが望ましい</p> <p>①結婚にかかわらず女性も一生、仕事を続けるべき → 変わった          ②女性が働くことは、やっぱり難しいことだと思う          ③現実的に、多くの企業や社会の仕組みが、女性や家庭、子どもを育てるといったことに対する配慮のないものだと実感したので</p> <p>①結婚にかかわらず女性も一生、仕事を続けるべき → 変わった          ②思い通りにいかないと割り切って、やる気が充ちてきたらガンバリ          ③初職を手放す重大さに後で気づいた。子育てしながら仕事での自己実現は、自分が考えていた以上に努力が必要だった（体力、家庭の状況等）</p> <p>①女性は家庭生活と両立できるなら、仕事を続けた方がいい → 変わった          ②家庭との両立は大切だが、何らかの形で収入を得る手段を持ち続けた方が良い          ③再就職して、自分自身の収入があることの大変さに気づいたから</p> <p>①その他、家庭を持つ気ではなく、専門職を続けていく → 変わっていない</p> <p>①結婚にかかわらず女性も一生、仕事を続けるべき → 変わっていない</p> <p>①女性は家庭生活と両立できるなら、仕事を続けた方がいい → 変わっていない</p> <p>①結婚にかかわらず女性も一生、仕事を続けるべき → 変わった          ②配偶者に（経済的に）頼れるものなら、頼ってもよいのでは？          ③女性が仕事を一生続けることはかなり大変なことを実感したので</p> <p>①結婚にかかわらず女性も一生、仕事を続けるべき → 変わっていない</p> <p>①特に考えていなかった</p> <p>①結婚にかかわらず女性も一生、仕事を続けるべき → 変わっていない</p> <p>①結婚にかかわらず女性も一生、仕事を続けるべき → 変わった          ②働き続けるノ家庭に入るのは、人それぞれ          ③②両方の立場の人を見たから</p> <p>①女性は家庭生活と両立できるなら、仕事を続けた方がいい → 変わった          ②昔より働く環境や周囲の考え方もよい方向へ変わってきている          ③雇用システムが昔と違っているから</p> <p>①結婚にかかわらず女性も一生、仕事を続けるべき → 変わっていない</p> <p>①女性は家庭生活と両立できるなら、仕事を続けた方がいい → 変わった          ②あまりにも負担が重すぎて、不可能であるとわかった          ③現実に仕事と家庭のこと両方を負担してみて</p> <p>①女性は家庭生活と両立できるなら、仕事を続けた方がいい → 変わっていない</p> <p>①特に考えていなかった → 変わった          ②無記入          ③無記入</p> <p>①女性は家庭を優先し、必ずしも仕事をする必要はない → 変わった          ②女性も職業を持ち、社会人としての責任を果たし、自分の人生を生きるべき          ③子育てが一段落し、自分を再度見つめるようになつたため</p>		

(3) 自分のキャリアに対する思い		(1/3)
F21.退職を後悔した理由	F22 自分の職業経験に関する満足点、不満足点	
	今は不況であり、就職できたことに満足している。仕事の中でスキルアップを目指し、やりがいを見つけていきたいと考えている	
	新卒で入った企業では、普段ならば絶対に会うことのない方々の下で働くことができたことについては、良かったとは思う。精神的に非常にきつい中で働いたが、その時に学んだ資料作成のコツや気を遣うことは、現職で活かされていると感じる。その時は辛くても、いま振り返れば自分を鍛える修業のようなものだったのだなあ…と思う。いまの会社は、当時の会社で辛かったことも全て受け入れてくれ、本当にこの会社に入社してよかったとしみじみ思。この会社では、今後もずっと、一日も長く働きたい	
一時の感情で辞めてしまった。もう少し頑張れたかもしないと少し後悔した。正社員になれる可能性もあっただけに残念。派遣で働いている今になり、正社員との待遇の差を実感した	良いことも悪いこともあったが、すべてが自分の成長になっていると感じている	
転職した後で、初職では仕事内容が恵まれていたことを実感	特になにも	
	新卒で留学して、帰国後に就職の仕方が分からなかった。在学中に休学して(または交換留学して)、新卒で大手企業へ就職すればよかったです	
	初職で6ヶ月でやめているが、会社はマイナチでも仕事をもう少し続けていくことで楽しくなっていったと思う。自分が幼すぎたと思う	
	正規だったり、パートだったりと働いているが、今やつづりでやりたいことにつながってきた。いろいろ曲がりくねった道で、きっとこれからもいろいろあるだろうが、楽しんで頑張っていきたいと思う	
大きな企業でとてもきちんとしていて待遇もよく、社員の方々の質もよく、とても楽しかったから	自分が長く続けられる職業に出会っていない	
再就職先がない	自由に色々な経験をしてきており、それが現在生きているので満足です	
	スキル不足	
自分名義の収入がない時、お金に困ったわけではないが、自由に買い物にいくかった。自分名義の収入がないだけで、気持ちは小さくなる気がした	最長1年程の会社が多く、転職の際、印象が悪いこと。また、一貫性のない職歴なので、これといった強みがないことに不満でした。しかし、リカレントで自分の持つ資格(教員免許、司書)の重要性に気づかれ、終了後すぐに資格を生かした職に就けたことは満足しています。現在は家庭の事情で仕事をできませんが、また仕事をする際は資格を生かした仕事をすると思います。資格を生かした仕事をすることに自信のなかった私の背中を押してくれたりカレントに感謝しています	
	信頼しない点:特に技能があるわけではなく、専門分野がないこと。よって、給与が低く抑えられてしまうこと。労働を安く買ったかれてしまうこと 良かった点:最初の会社を辞めて、専業主婦の経験をしたり、小さな団体に再就職したこと。最初の会社にずっと勤めていたら分からなかつたであろう社会の姿を見ることができたし、知り合えなかつたであろう人たちとも知り合うことができた。似たような学歴や背景の人しか知らないことが多かったが、全く違った背景の人と知り合うことができた。初職を辞めて以降に知り合った友人は財産だと思っている	
	なし	
プランク後の再就職に伴う給与の激減	専門職であったことで、プランク後も就職先を見つけることができたのでよかったです。家庭との両立に困難な職種であるため、いずれにしても家事、育児をしたい女性が仕事を100%しようすることは難しい	
	学生時代、仕事についてなんて全く考えたこともなくて、なんとなく就職して今になんてかいる状況。これまでの職歴の中では、自分が好きな仕事、やりがいを感じられる仕事、得意なこと苦手なことはっきりとわかってきて、今後の方向性としてははっきりとしたものを持っている。でも、それを実現する場所がやはりない。難しくて悲しい現実に向き合っている。“最も働ける職場”が私が就職すべき会社だったのだと後悔している。この年令の就職となると、自分の希望するものと求められるものにギャップがありますと思う	
	・初職は公務員で、専門の研究を行える仕事であったが、女性用化粧室がない、上司とチークダンスを踊らないとぶたれる。セクハラ、パパ活などがひどく、過労から脳出血で倒れた ・直前職は給与面を重視して就職したが、1日の行動を計測される、パパ活など夜遅くまでのPC業務で下肢筋麻痺で倒れた ・現在は派遣で安定していないが、仕事内容に興味があり、環境もまあまあであり、残業があつても21時頃まで ・続いているらあつたけれども、各職場で各スキルを身につけることができ、新卒の頃からは比較にならないほどさまざまな仕事を効率的に行えるようになっていると思う	
	満足している点はF20に書いた通り。仕事し続けてきたことが、豊かな経験、人間関係、技術を与えてくれたことです。この点では、転職が多かったことプラスでした。 不満に思っている点は、若い頃から仕事に対する長期的な視点やプランを持っていなかったことです。異業種の転職が多かったこともあり、技術の積み重ねや、経済力の向上にはつながっていません。引退後の生活費の目途もまだ立っていませんし、長い人生設計の中でキャリアを積み上げる若い頃からの教育と、継続教育が必要でした。	
夫の異動で働き続けることを諦めてしまったが(仕事内容に期待できなかったこともあるが)、別居結婚で続けてみればよかったです。会社の、別居なんて…という雰囲気に負けないで続けることを諦めなければよかつたかなと思うから	初職を続けていればよかったです。その反面、辞めたことで社会に対する自分ではどうしようもできないものと戦いながら(ちょっと大きさかな)現在があるので、後悔はしていないです	
あまり考えず、当然のように寿退社してしまった後、バブルがはじけ、世の中が変わった	初職をより考えず辞めてしまったことは、もったいなかつたと思うが、子育て期間中、専業主婦でじっくり子どもと向き合えた時間も貴重なので、大きな悔いはないが、学生時代に戻れるなら、女性の働きやすい企業(育休が長いなど)や自由度の高い専門職(資格取得)などを考えて就職したい	
これから先、正社員として雇ってもらえることはないと思うので、大卒後に入った会社を続けていればよかったです。子育て中は大変だが、福利厚生や収入面で魅力的であった	この不況にもかかわらず、家庭の負担にならない程度で(時間的に)自分のスキルを活かす職をご紹介頂き、リカレントの先生方、職員の皆様に大変感謝しております。これからも、パソコンスキルや英語力アップの短期講習などがあれば通いたいです。企画をよろしくお願いします	
	満足している点:色々な仕事を経験し、多分野の勉強をしたことで、自分の適性にあった仕事、働き方が見つけられた点 不満に思っている点:20代の頃に上記ができたよかったです。忙しそぎ、立ち止まって考えることができなかつたから	
夫と姑の反対によりやむなく退職。当時は若くて弱気になつたり、言ひなりになつたことを後悔している	最初が官公庁だったため、その後民間で採用されにくく	

(3) 自分のキャリアに対する思い		(2/3)
F21 退職を後悔した理由	F22 自分の職業経験に関する満足点、不満足点	
	その時々でベストな道を選んできたので後悔はない	
初職を子育て優先のために離職したが、人の手を借りても続ければ良かったと感じる時がある	初職で身についた経験、スキルを生かした再就職は自分の能力が生かせ、やりがいを感じられるが、年令を重ねると新しいことにチャレンジする気持ちはあるって仕事の習得に時間がかかり、満足できない部分が多い	
	第2子が幼稚園を卒園するまで、子育てに専念できたことは何よりも良かったと感じている。当時37才だった私自身は再就職を考えた時に急がなければと考え、家庭と両立できる範囲で働き始めた。結局、再就職後の3年強のキャリアがあったから、今回の再就職につながったと思うので、この経緯に私自身は満足している	
	大学で学んだことを生かしていない	
ひとつとこりに勤めていれば、給与面でも今とは大きく違っていたらうと思うから	ある程度は仕方なかったと思っている。経験やキャリアアップのことを考えると、もう少しとるべき道があったかもしれないが、そこまで考えるゆとりさえなかつたので	
正社員での就職は、年令とともに厳しくなるため、初職在職中にキャリアプランを立てておべきだったと感じている。初職退職時は、社内結婚はどうらか一方が退職という慣例に従つての退職だったため、その後のキャリアビジョンが十分でなかつたと感じる	その時点で線があった職についてきたが、若年のうちにスキルを磨く、資格をとるなどの視点が欠けていたように思っている。リカレントのキャリア開発論を学んで、仕事をする上では、職業人としての自己成長が何よりも大切なのだと痛感した	
	転職が多かった。ひとつのことをずっとやってこれれば、その方がいいと思う	
	リストラを経験しているので、仕事があるだけで充実した生活を送れる	
収入が減ったため	一度仕事を辞めることにより、自分を見つめ直すことができた。収入は少なくなったが、新しい仕事はやりがいもあり、将来長く続けることができそうである	
	自分の体力の限界を知らずに走り続けて働いていた頃はバカだったと思う	
同期の友人が活躍している様子を見聞きすると、焦る気持ちがあつた		
	仕事を離れていた時期は必ずしも無意味ではなかつた	
子育て、家事だけでは生きがいを見いだせないし、高等教育を受けた意味もないように感じたため	子育て中、家事育児に専念したため、子育てに関して後悔することはない。子どもがある程度の年令になり、仕事にほぼ専念できる環境になり、働き始め、今のところ家事、仕事とバランスよく取り組めていると感じる。子どもを育てながらキャリアを積みたいと思ってきたが、リカレントに入学し、先生方の話を聞く等し、その状況に応じた働き方をするのも良いのではと思えるようになつた	
離職期間が長いと、もう一度就職することがとても大変だから、継続して働くことが大切だと思ったから	再就職を考えた時に、人に負けないほどの技術や資格がないことが不満で、結局、それがないとなかなか再就職ができないし、自分が理想とする仕事もできないので、キャリアを積むということは年月だけでなく、いかにスキルアップをしていくかということだと思うので	
	就職活動をする時点できちんと自己分析をしてキャリアプランを考えるべきであったと思う	
色々大切な仕事をまかされはじめた頃に退職したので心残りです。やり残したことが多くあるので	私の年代の方は、上場企業など、名前の知れた会社で働いたことがある人が多いのですが、就職活動をしてみると、そのことが不利になることが多い、驚きました。収入やオフィスが違うますが働けますか？ そのような会社で働いた方は使いにいい、他の社員が嫌がるなどと言われることも多く、自分の経験をとても不満に思うようになりました	
やりがい、給与などを考えると、30代半ばくらいまで、しっかりキャリアの基盤を築き、方向性を考えておべきであったと、つくづく思う。若い頃は、自分が「仕事を続け、そこで得られる満足感が自己肯定につながる」タイプだとは思っていなかった	満足：周囲の人々（職場、住環境とも）に、いつも恵まれていた。やりがいのある仕事ができた。タイミングよく保育園に入れたり、やろうと思うと仕事を得られた 不満：もっと長期的展望を持つべきであった。もっと勉強したり、さらなる経験を積んでおけばよかった	
初職の職場は、結婚・出産後も女性が働きつづけるのに理解のある環境にあり、自分の能力に見合った収入が得られていたので、再就職の活動中に不採用通知を受け取った際は、仕事を続ける選択肢もあつたのでは…と少し後悔した。また子どもが一人っ子なので、多くの同年代の子どもたちと過ごす時間の長い保育園生活は、子どもにメリットがあったのではないかと、子育てに悩んだ時にも同じ考えがよぎった	初職の職場、10年のブランクの後の2職場、現職のリカレント終了後に就職した4つの職場とも、一般的に見れば恵まれた環境で仕事をしていると思う。また、結婚後・子育て中の再就職にあたっては、夫の理解が不可欠であると思うが、夫は非常に理解があり、結婚当初から家事参加も積極的だったので、その点も恵まれり難いことと感謝したい	
再就職を考え始めた頃、辞めなければキャリアが積めていたのに、その時に自分は子育てだけで何もないと後悔しました	今でも出会った人たちとは連絡を取っているので、人脈は拡がったと思っていますし、自身も成長してきたと思っています。私は教育関係が長く、そのため現在の心理学を学ぶことへつながっているので、自分自身で満足しています。いろいろ家庭の事情で働くこと、学ぶことを辞めようとしたことがあります、家族の励ましや、これからに生かしていかないといけないという気持ちで乗り越えられて良かったと思っています。家族の賛成は大切ですが、自分も必死で努力しましたので、不満な点はありません	
	これまで自分が休職をしたときに、仕事に就けないことは一度もなかった。それは、私に力があるのではなく、その時々の生活条件（子どもの迎え時間、通勤時間、場所、給与など）に合うところを折衷して選んでいたからである。その際、どのような業種でどのような職種か云々…ということはほとんど優先順位としては下位であった。幸いにも行く先々でやりがいのある仕事ができたが、いずれもこどん深めかい、勉強したいと思うような気持ちはなれなかった。それは、そもそも自分の仕事に対する考え方が全くなかつたからである。なぜなら、私は「女性が働く」というモデリングがなかつたからだと考えている。もしも、私が育ちの中で、日々として働く女性に出会っていたら、もっと早くに「仕事」に目覚めることができたのではないかと思う。そこで今4月から大学院へ単身で行くことにした	
	会社に入ることは、自分の時間をすべて捧げることだと以前は考えていて、いま思うと真面目すぎたと思う。真面目に考えすぎて、かえってよい就職ができなかつた	
	いつかは結婚するのだろうという気持ちが長らくあり、自分のキャリアということを考えていなかつたことが不満である	

(3) 自分のキャリアに対する思い		(3/3)
F21.退職を後悔した理由	F22.自分の職業経験に関する満足点、不満足点	
10年働いて、ある程度の役職についていたので、辞めた時は充分働いたという満足感があった。けれども、子どもに手がかかるになると、辞めずに働いていた方がよかったですと思うこともあった	仕事を辞めて子育てに専念したこと後に悔はない。辞めて20年してから再就職したいと思ったが、もっと早い時期に就職を考えればよかったと感じている。また、子育ての時に、自分の将来を見据えてスキルアップに励めばよかったと思う	
初職を辞職する前に、休職など何らかの方途を考え、継続するべきだったと思うから		
	子育て等で時間がとりにくい時も、短時間でもキャリアを積んでいけるような仕事をすればよかったと思う。その当時は考えが及ばなかった	
	(現在の状況について) 満足している点・好きなことが活かせている。子育ての経験が活かせている。多くの人たちとつながりが持てた 不満に思っている点・少しの収入は得ているが出費も増えるので、仕事というよりは趣味としての活動となっている	
	・振り返ってみると、自分自身のキャリア形成みたいな視点をまったく持っていないかったので、いつもなんとなく回りに流されてきてしまったと思う ・共学の4大卒で、70年代初頭、教授も講師もほとんど男性だった！！リカレントに来て、初めて目の前に女性の教授や学長を見て、女性でもこうなれるのだと驚いた ・たぶん自分自身ののんびりした性格もあり、こうなってしまっているのだが、でも「自分の仕事」を今からでも見つけたいと思う	
仕事にやりがいを感じていたので、後悔なしとはやっぱりあり得ないと思います	やろう、頑張ろうと思ったら、やるしか、続けるしかありません。経験云々より、先を見ています	
収入を得るための仕事はどんなものであれ大変だが、社会との接点を持つているという実感、また仕事を通じて学ぶことはたくさんあると思うから。家庭以外での自分の居場所を確保することは、精神的にも非常に重要であると考える	リカレント終了後、毎日仕事をするということがどういうことなのか、きちんと考えないまま再就職して、結局長続きしなかったことで自己嫌悪に陥っているが、もう一度仕事をするチャンスを与えられたことに感謝している。大学時代、もう少し長期的なビジョンを持つて仕事を考えれば、今は違う職業経験を持てたと思う。娘には私の経験を伝え、後悔のない仕事人生を送ってほしいと願っている	
	自分の能力内でできることを、相手の望むものにどう提出できるのかのバランスを少しずつとれるようになってきた。 仕事を辞めたことがなければ、相手の望む最低限のものをまず提出し、自分に余力をキープしておく働き方をできず、過労死していたと思う	
	自分の職業経験について、もっと勉強していろいろな資格や知識を身につけていき、再就職につながればいいなと思っています	
年令が進むにつれ、離職前と同条件の職を得るのは限りなく不可能に近いので	給与面ではある程度の貯蓄ができたので満足している。不満な点は、どの職種も中途半端で、キャリアを確立できなかったこと	
	過去が見えない	
	今まで自分の生きて来た流れは、その時その時で迷いながらも、その結果に責任を持ち、前に向かってきたので、歩みの遅くなっている時も後退している時があつても、今から前へという気持ちちは変わらずに持って生きようとする	
正規雇用の重要性、職場の配置転換の可能性など、初職においてはほとんど考えなかつたし、知識もなかつた。それらについて、離職後に気づいた	職を続けるには、やはり目標が必要。具体的、抽象的には問わず、「こうなろう」という自分のイメージを持つことによって、努力の方法も考えられる。自分の場合、それが欠けていた気がする	
自分の収入があれば、選択の自由が増すから		
子育てのブランクの後、初職と同等の職を見つけることは本当に難しい。保育園に子どもを預けても続けるべきであったと思う	再就職で得た契約社員の職は、やりがいがあり、居心地のよい職場である。反面、正社員と同等の仕事をしているのに、待遇面では大きな隔たりがあり、残念な面もある。40才以上の女性が正社員として再就職するのは本当に難しい	

※1. IDは、調査票回収時の受付順に付した。

2. 自由記述は、原則回答者の表記・表現に従っています。  
ただし、個人が特定されるような箇所についてのみ、省略しています。

## 6. まとめ

### 1) 多様な背景をもつ受講生

まず、リカレント教育課程受講生の入学時の年齢をみると、40代がおよそ半数を占め、次いで30代、20代となるが、50代も含まれているという点で、年齢的な幅の広さを特徴として挙げることができる。

本調査に回答したリカレント受講生（74人）の初職についてみると、大半が正社員・正規職員として301人以上の大企業に就職していたことがわかった。業種は様々であるが、仕事内容としては「事務的な仕事」、「専門・技術的な仕事」に約8割が従事していた。初職においては多くが、正社員・正規職員として大企業に勤め、事務、専門・技術的仕事に従事した共通点をもつ。

家族状況をみると、未婚者が2割強、既婚者が7割強、子どものいる人が6割強である。

初職を辞めた人がほとんどであるが、そのうち、退職時に役職についていなかった人が9割を超えていた。離職理由は「結婚のため」が最も多かったが、次いで「仕事に希望がもてなかつたから」「配偶者・パートナーの転勤のため」「妊娠・出産・育児のため」と続いた。

初職を辞めた後、リカレント教育課程に入学するまでに5回以上の転職をした人から、16～20年の離職期間をもつ人もおり、初職退職後の軌跡も多様であった。

リカレント教育課程への入学動機に注目すると、「自分を見つめ直す機会がほしい」、「自分が何をしたいのか、じっくり考えてみたかったから」という就職に臨むための準備段階としての位置づけのものと、「就職するための実践的な知識や技術を身につけたかったから」のように、就職の意思は明確で、その実践段階としてこの課程を位置付けていると考えられるものに、大きく分けられる。

このように、リカレント教育課程入学者の背景をみると、「再就職を目指す主婦」も存在する一方で、「キャリアアップを目指す現職」や「心身の不調からやむを得ず離職し、再スタートに向けて力をつけたい若年層」も同時に存在することが明らかになった。

### 2) リカレント教育課程修了後の就職

リカレント教育課程入学から修了約1年後までに8割弱が就職したが、大半は正社員・正規職員ではなく、パート・アルバイト、契約社員等であった。就職先の企業は、初職時と異なり、300人以上の企業への就職は4割弱となっていた。職種は事務・専門的技術的な仕事が8割を超えた。これら就業者の約半数は希望通りの就職であったと述べているが、半数弱は、その後転職し現在に至っている。

### 3) リカレント教育課程での経験について

リカレント教育課程での経験を有益であったとする人が大半を占め、友人の存在や授業内容が影響力をもっていたことがわかった。修了生に対する支援として、より充実した就職情報の提供、就職やキャリア・プランなどのカウンセリングの要望が多くあがった。

#### 4) 転職・再就職時にあるとよい支援プログラム・コース及び講座

転職・再就職支援プログラム・コースの要望としては、「専門的な知識を学ぶためのスキル・アップコース」を6割強が、「長いブランクがある人を対象とした再就職準備コース」「転職を考えている人を対象とした資格取得のためのコース」をそれぞれ5割が求めている。

また、講座に関しては、「自己分析・キャリアデザイン」「キャリア戦略」などキャリア・カウンセリングに位置づけられるもの、「ビジネスマナー」「ディスカッション・スキル」「ビジネス・マーケティング」「提案営業戦略」「業務管理」など具体的なビジネス・スキルと位置づけられるもの、あるいは「起業準備」の雇用以外の視点からの要望が多くみられた。

以上より、リカレント教育課程への入学者の背景が多様であることがわかった。したがって、この課程への期待やニーズが多様なものとなることは当然であり、4. で見たように、大学に求める転職・再就職支援内容がそれぞれ異なる結果として現れたといえる。このことをふまえるなら、異なる対象にあったそれぞれ異なるプログラムを提供するか、あるいは、いずれかの層にターゲットを絞り、入学前にこの教育課程の対象がどの層であるのかを明示していくことが必要となる。

また、リカレント教育課程への入学動機には、「求人情報等、就職に必要な情報が得られると思ったから」「パンフレットなどに示されていた高い就職率に惹かれたから」とした人もあった。さらに、自由記述欄には、課程修了後の就職に関して、リカレント教育課程の存在を大学が企業に周知することの重要性や、求人情報へのアクセス方法や情報量が十分でない点について改善を望む声がみられた。こうした期待に応えるためにも就職に直結する支援策をさらに整えることも重要である。

転職・再就職のための講座要望で最も多かったのは、自分の可能性・方向性を見極めるための「自己分析・キャリアデザイン」講座であった。まずは、転職・再就職にあたって、自分に何ができるのか、何がしたいのかを明らかにしたいという要望が高いのだろう。そして、「ビジネスマナー」「キャリア戦略」「ディスカッション・スキル」「ビジネス・マーケティング」「提案営業戦略」「業務管理」といった、組織の中で働く場合に重要なと考えられる講座と、「コーチング養成」「キャリアカウンセラー養成」「起業準備」と、より自律的に仕事をする場合の講座が求められている。これらは、実際に働く場合に必要とされるスキルである。

# 女性のキャリア支援と大学の役割に関する調査

本調査は、女性のキャリア形成とそこで果たすべき大学の役割について、明らかにすることを目的とした調査です。この調査から得られる結果は、集合データとして統計的に処理され、個人が特定されることはありません。また、これらの結果は、研究目的にのみ使用するものであり、それ以外に用いることはありません。お忙しいところ、大変恐縮ですが、調査の趣旨にご理解をいただきご協力いただきますよう、よろしくお願ひいたします。

日本女子大学現代女性キャリア研究所

## 【記入上の注意】

※以下の質問にお答えください。特に指示のない場合、あてはまる番号に○をつけてください。

※記述欄につきましては、( )内、あるいはスペース内に、直接お書きください。

※調査についてご質問等ありましたら、当研究所までお問い合わせください。

2013年2月

日本女子大学現代女性キャリア研究所  
〒112-8681 東京都文京区目白台2-8-1

Tel : 03-5981-3380

Email : [riwac@fc.jwu.ac.jp](mailto:riwac@fc.jwu.ac.jp)

**リカレント教育課程に入学するまでのあなたのキャリアプロセスについてお聞きします。**

**Q1. リカレント教育課程入学直前までのあなたの働き方についてあてはまるものをひとつ選んでください。**

- 1 学校卒業後、最初に就いた仕事をリカレント教育課程入学直前も継続していた
- 2 仕事に就いており、過去に転職経験があった（転職＝離職期間がすべて1年未満の場合）
- 3 仕事に就いており、過去に再就職経験があった（再就職＝離職期間が1年以上のものがある）
- 4 リカレント教育課程入学直前に仕事に就いていなかったが、かつては仕事に就いていた

**【まず、初職についてお聞きします。】（＊初職＝学校卒業後、最初に就いた仕事）**

**Q2. あなたの初職の就業形態についてあてはまるものをひとつ選んでください。**

正社員 ・正規 職員	正社員・正規職員以外						自営業者	家族 従業者	その他
	パート	アルバ イト	労働者派遣事務 所の派遣社員	契約社員	嘱託	その他			
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

**Q3. 初職のすべての事業所などを含む企業全体の従業員数について、あてはまるものをひとつ選んでください。**

- 1 30人以下
- 2 31～100人
- 3 101～300人
- 4 301～1000人
- 5 1001人以上
- 6 官公庁
- 7 わからない

**Q4. 初職の業種について、あてはまるものをひとつ選んでください。**

- 1 金融・保険業
- 2 商社・卸売
- 3 百貨店・小売店・飲食店
- 4 マスコミ・広告・調査
- 5 運輸・通信・電気・ガス
- 6 製造業・建設業
- 7 ソフトウェア・情報処理
- 8 教育関連業種
- 9 その他のサービス
- 10 公務
- 11 その他（ ）

**Q5. 初職の仕事内容について、あてはまるものをひとつ選んでください。**

- 1 専門的・技術的な仕事
- 2 管理的な仕事
- 3 事務的な仕事
- 4 販売の仕事
- 5 サービスの仕事
- 6 保安の仕事
- 7 運輸・通信の仕事
- 8 生産工程・労務の仕事
- 9 その他の仕事（ ）

**Q6. 初職に就いた西暦年を教えてください。**

西暦（ ）年

Q7. 初職の就職活動のさい、もっとも重視したのは何ですか。あてはまるものをひとつ選んでください。

- 1 業種                            2 職種（仕事の内容）                    3 給与など職場の待遇  
4 通勤のしやすさなど職場の条件    5 企業の知名度や企業イメージ    6 家庭との両立  
7 その他( )

Q8. あなたの就職活動とその結果は希望通りのものでしたか。あてはまるものをひとつ選んでください。

- 1 希望通りであった                    2 どちらかといえば希望通りであった  
3 どちらともいえない                    4 どちらかといえば希望通りではなかった  
5 希望通りではなかった

Q9. 初職について、それぞれあてはまるものをひとつ選び、該当する箇所に○をつけてください。

	満足	どちらかといえど満足	どちらともいえない	どちらかといえど不満	不満
1 やりがいなど仕事の内容					
2 雇用の安定性					
3 給与					
4 労働時間					
5 昇進・待遇					
6 評価システム					
7 研修などの教育訓練					
8 職場の人間関係・コミュニケーション					
9 自宅と職場の距離					
10 仕事と家庭の両立					

Q10. その仕事(初職)にはいつまで就いていましたか。退職した方は退職年月を教えてください。

- 1 リカレント教育課程入学後も続けていた  
2 リカレント教育課程入学以前に退職した → 退職年月 西暦( )年( )月

Q11. 初職退職時の職務上の地位を教えてください。継続していた方は、リカレント教育課程入学時の職務上の地位を教えてください。あてはまるものをひとつ選んでください。

- 1 役職は特になし    2 係長、主任、職長相当職    3 課長相当職    4 部長相当職  
5 その他( )

※以下は、Q10で2(初職を退職した)と答えた方にお聞きします。

Q10で1(リカレント教育課程入学後も初職を継続していた)と答えた方はQ40へお進みください。

Q12. あなたが初職を辞めた理由は何ですか。もっともあてはまるものから順に3つまで選び、( ) 内に番号を入れてください。ひとつ、あるいは2つでもかまいません。

第1位 ( ) 第2位 ( ) 第3位 ( )

- |                       |                    |
|-----------------------|--------------------|
| 1 他にやりたい仕事があったから      | 2 留学・進学などのため       |
| 3 病気・けがなどのため          | 4 ストレスなどによる心の不調のため |
| 5 仕事に希望がもてなかつたから      | 6 仕事がきつかったから       |
| 7 倒産・解雇など会社側の理由       | 8 雇用契約満了のため        |
| 9 労働時間に不満があつたから       | 10 収入が低かったから       |
| 11 人間関係がよくなかったから      | 12 結婚のため           |
| 13 妊娠・出産・育児のため        | 14 親の介護のため         |
| 15 配偶者・パートナーの転勤のため    | 16 配偶者・パートナーの反対のため |
| 17 家庭と両立していく自信がなかつたから | 18 その他( )          |

Q13. 初職を辞めるころの仕事の与えられ方とあなたの仕事のやり方は以下のどれにあてはまりますか。もっとも近いものをひとつ選んでください。

- |                                       |
|---------------------------------------|
| 1 きめられたやり方があり、自分の工夫の余地は少ない            |
| 2 上司から仕事のやり方の大筋は指示されるが、自分なりに工夫する余地もある |
| 3 仕事のやり方や新しい企画を上司などに提案できる             |
| 4 自分が中心となって遂行する                       |
| 5 部下をもち、自分が仕事を指示する                    |
| 6 その他( )                              |

Q14. あなたの初職退職直後の1年間の状況として、あてはまるものをひとつ選んでください。6を選んだ方はその理由を教えてください。

- |   |
|---|
| 1 希望通りの仕事に、転職した(離職期間1年未満)               |
| 2 希望通りではないが、転職した(離職期間1年未満)              |
| 3 結婚・出産など家庭の理由でしばらく仕事から離れた(離職期間1年以上)    |
| 4 病気や心の不調など健康上の理由でしばらく仕事から離れた(離職期間1年以上) |
| 5 留学・進学など自身の都合でしばらく仕事から離れた(離職期間1年以上)    |
| 6 その他の理由でしばらく仕事から離れた(離職期間1年以上)          |

理由 [ ]

**Q15.** 初職離職後からリカレント教育課程入学までの間に、転職・再就職経験はありますか。ある方は、その回数も教えてください。

- 1 ある 計( )回
- 2 初職離職後、リカレント教育課程入学まで仕事はしていない

※以下からは、**Q15**で1（転職・再就職経験あり）と答えた方にお聞きします。

**Q15**で2（転職・再就職経験なし）と答えた方は、**Q31**へお進みください。

**Q16.** リカレント教育課程入学以前における転職・再就職経験について（複数回ある方は、全体的にみて）どのように感じていますか。あてはまるものをひとつ選んでください。

- 1 転職・再就職をしてよかったです
- 2 転職・再就職をしてどちらかといえばよかったです
- 3 どちらともいえない
- 4 転職・再就職をしてどちらかといえばよくなかった
- 5 転職・再就職をしてよくなかった

**Q17.** リカレント教育課程に入学するまでの間の、もっとも長い離職期間を教えてください。

- 1 約( )年( )か月
- 2 離職期間はない(何らかの形で仕事を続けている)→**Q20**へお進みください。

**Q18.** もっとも長い離職期間についてお聞きします。離職期間の理由は何ですか。もっとも近いと思われるものから順に3つまで選び、( )内に番号を入れてください。ひとつ、あるいは2つでもかまいません。

第1位 ( ) 第2位 ( ) 第3位 ( )

- 1 よい就職先がみつからなかったから
- 2 病気・けがのため
- 3 心の不調のため
- 4 妊娠・出産・育児のため
- 5 介護のため
- 6 配偶者・パートナーの転勤・転居のため
- 7 留学のため
- 8 資格取得などの勉強のため
- 9 そもそも、仕事をしたいと思わなかった
- 10 その他( )

**Q19.** あなたは離職期間中、何か社会的な活動をしていましたか。あてはまるものをすべて選んでください。

- 1 子ども会・PTA・自治会などの地域での活動
- 2 ボランティア活動
- 3 NPOなど民間団体の活動
- 4 特に活動はしていない
- 5 その他( )

【ここからは、直前職についてお聞きします。】

(\*直前職 = 初職離職後リカレント教育課程入学までの間で、いちばん最後に就いていた仕事)

Q20. あなたの直前職の就業形態についてあてはまるものをひとつ選んでください。

正社員 ・正規 職員	正社員・正規職員以外						自営業者	家族 従業者	その他
	パート	アルバ イト	労働者派遣事務 所の派遣社員	契約社員	嘱託	その他			
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

Q21. 直前職のすべての事業所などを含む企業全体の従業員数について、あてはまるものをひとつ選んでください。

- 1 30人以下      2 31～100人      3 101～300人      4 301～1000人      5 1001人以上  
 6 官公庁      7 わからない

Q22. 直前職の業種について、あてはまるものをひとつ選んでください。

- 1 金融・保険業      2 商社・卸売      3 百貨店・小売店・飲食店  
 4 マスコミ・広告・調査      5 運輸・通信・電気・ガス      6 製造業・建設業  
 7 ソフトウェア・情報処理      8 教育関連業種      9 その他のサービス  
 10 公務      11 その他( )

Q23. 直前職の仕事の内容についてあてはまるものをひとつ選んでください。

- 1 専門的・技術的な仕事      2 管理的な仕事      3 事務的な仕事  
 4 販売の仕事      5 サービスの仕事      6 保安の仕事  
 7 運輸・通信の仕事      8 生産工程・労務の仕事      9 その他の仕事( )

Q24. 直前職に就いた時の西暦年を教えてください。

西暦( )年

Q25. 直前職の就職活動のさい、もっとも重視したのは何ですか。あてはまるものをひとつ選んでください。

- 1 業種      2 職種(仕事の内容)      3 給与など職場の待遇  
 4 通勤のしやすさなど職場の条件      5 企業の知名度や企業イメージ      6 家庭との両立  
 7 その他( )

Q26. 直前職は、初職と比べてどのように変化しましたか。それぞれあてはまるものをひとつ選び、該当する箇所に○をつけてください。

	よくなつた	どちらかといえどよくなつた	どちらともいえない	どちらかといえど悪くなつた	悪くなつた
1 やりがいなど仕事の内容					
2 雇用の安定性					
3 給与					
4 労働時間					
5 昇進・処遇					
6 評価システム					
7 研修などの教育訓練					
8 職場の人間関係・コミュニケーション					
9 自宅と職場の距離					
10 仕事と家庭の両立					

Q27. その仕事(直前職)にはいつまで就いていましたか。退職した方は年月を教えてください。

- 1 リカレント教育課程入学後も続けていた  
2 リカレント教育課程入学以前に退職した → 退職年月 西暦( )年( )月

Q28. 直前職退職時の職務上の地位を教えてください。継続していた方は、リカレント教育課程入学時の職務上の地位を教えてください。あてはまるものをひとつ選んでください。

- 1 役職は特になし 2 係長、主任、職長相当職 3 課長相当職 4 部長相当職  
5 その他( )

※以下は、Q27で2（直前職を退職した）と答えた方にお聞きします。

Q27で1（リカレント教育課程入学後も直前職を継続していた）と答えた方はQ40へお進みください。

Q29. あなたが直前職を辞めた理由は何ですか。もっともあてはまるものから順に3つまで選び、( )内に番号を入れてください。ひとつ、あるいは2つでもかまいません。

第1位 ( ) 第2位 ( ) 第3位 ( )

- |                       |                     |
|-----------------------|---------------------|
| 1 他にやりたい仕事があったから      | 2 リカレント教育課程入学のため    |
| 3 病気・けがなどのため          | 4 ストレスなどによる心身の不調のため |
| 5 仕事に希望がもてなかつたから      | 6 仕事がきつかったから        |
| 7 倒産・解雇など会社側の理由       | 8 雇用契約満了のため         |
| 9 労働時間に不満があつたから       | 10 収入が低かったから        |
| 11 人間関係がよくなかったから      | 12 結婚のため            |
| 13 妊娠・出産・育児のため        | 14 親の介護のため          |
| 15 配偶者・パートナーの転勤のため    | 16 配偶者・パートナーの反対のため  |
| 17 家庭と両立していく自信がなかつたから | 18 その他( )           |

Q30. 直前職を辞めるころの仕事の与えられ方とあなたの仕事のやり方は以下のどれにあてはまりますか。もっとも近いものをひとつ選んでください。

- |                                       |
|---------------------------------------|
| 1 きめられたやり方があり、自分の工夫の余地は少ない            |
| 2 上司から仕事のやり方の大筋は指示されるが、自分なりに工夫する余地もある |
| 3 仕事のやり方や新しい企画を上司などに提案できる             |
| 4 自分が中心となって遂行する                       |
| 5 部下をもち、自分が仕事を指示する                    |
| 6 その他( )                              |

**リカレント教育課程に入学された後のあなたのキャリアプロセスについてお聞きします。**

**【入学後職についてお聞きします。】** (\*入学後職 = リカレント教育課程入学後、最初に就いた仕事。  
修了後に就いた仕事も含む。)

**Q31.** リカレント教育課程入学後、最初に仕事に就いたのはいつですか。あてはまるものをひとつ選んでください。

- |                    |                    |
|--------------------|--------------------|
| 1 課程在学中            | 2 課程修了と同時に         |
| 3 課程修了後 3 ヶ月程度で    | 4 課程修了後 6 ヶ月程度で    |
| 5 課程修了後 1 年ほどたってから | 6 課程修了後 2 年ほどたってから |
| 7 課程修了後 3 年ほどたってから | 8 課程修了後 4 年ほどたってから |
| 9 まだ仕事に就いていない      |                    |

※Q31 で 9(まだ仕事に就いていない)と答えた方は Q55 へお進みください。

**Q32.** あなたはどのような経路でその仕事に就きましたか。あてはまるものをひとつ選んでください。

- |                           |                   |
|---------------------------|-------------------|
| 1 リカレント教育課程の求人(合同会社説明会含む) | 2 桜楓会の求人          |
| 3 ハローワークの求人               | 4 雑誌やインターネットなどの求人 |
| 5 人材紹介会社(派遣会社含む)などの求人     | 6 友人・知人・親戚の紹介     |
| 7 その他 ( )                 |                   |

**Q33.** 入学後職の就業形態について、あてはまるものをひとつ選んでください。

正社員 ・正規 職員	正社員・正規職員以外						自営業者	家族 従業者	その他
	パート	アルバ イト	労働者派遣事務 所の派遣社員	契約社員	嘱託	その他			
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

**Q34.** 入学後職のすべての事業所などを含む企業全体の従業員数について、あてはまるものをひとつ選んでください。

- |          |            |             |              |            |
|----------|------------|-------------|--------------|------------|
| 1 30 人以下 | 2 31~100 人 | 3 101~300 人 | 4 301~1000 人 | 5 1001 人以上 |
| 6 官公庁    | 7 わからない    |             |              |            |

**Q35.** 入学後職の業種について、あてはまるものをひとつ選んでください。

- |               |               |               |
|---------------|---------------|---------------|
| 1 金融・保険業      | 2 商社・卸売       | 3 百貨店・小売店・飲食店 |
| 4 マスコミ・広告・調査  | 5 運輸・通信・電気・ガス | 6 製造業・建設業     |
| 7 ソフトウェア・情報処理 | 8 教育関連業種      | 9 その他のサービス    |
| 10 公務         | 11 その他 ( )    |               |

Q36. 入学後職の仕事の内容について、あてはまるものをひとつ選んでください。

- |              |              |              |
|--------------|--------------|--------------|
| 1 専門的・技術的な仕事 | 2 管理的な仕事     | 3 事務的な仕事     |
| 4 販売の仕事      | 5 サービスの仕事    | 6 保安の仕事      |
| 7 運輸・通信の仕事   | 8 生産工程・労務の仕事 | 9 その他の仕事 ( ) |

Q37. 入学後職の就職活動のさい、もっとも重視したのは何ですか。あてはまるものをひとつ選んでください。

- |                  |                 |             |
|------------------|-----------------|-------------|
| 1 業種             | 2 職種（仕事の内容）     | 3 給与など職場の待遇 |
| 4 通勤のしやすさなど職場の条件 | 5 企業の知名度や企業イメージ | 6 家庭との両立    |
| 7 その他( )         |                 |             |

Q38. あなたのリカレント教育課程入学後の初めての就職活動とその結果は、希望通りのものでしたか。

あてはまるものをひとつ選んでください。

- |              |                      |
|--------------|----------------------|
| 1 希望通りであった   | 2 どちらかといえば希望通りであった   |
| 3 どちらともいえない  | 4 どちらかといえば希望通りではなかった |
| 5 希望通りではなかった |                      |

Q39. 入学後職は、直前職(初職のみの方は初職)と比べてどのように変化しましたか。それぞれにあてはまるものをひとつ選び、該当する箇所に○をつけてください。

	よくなった	どちらかといえどよくなった	どちらともいえない	どちらかといえど悪くなつた	悪くなつた
1 やりがいなど仕事の内容					
2 雇用の安定性					
3 給与					
4 労働時間					
5 昇進・待遇					
6 評価システム					
7 研修などの教育訓練					
8 職場の人間関係・コミュニケーション					
9 自宅と職場の距離					
10 仕事と家庭の両立					

Q40. 入学後職(入学以前から続けていた方はその仕事)はいまも続けていますか。あてはまるものをひとつ選んでください。退職した方は退職年月と現在の状況についても教えてください。

1 現在も続けている

2 現在も続けているが、他の仕事もしている

3 退職した → 退職年 西暦( )年( )月

→ ア 現在は別の仕事に就いている

イ 現在は仕事に就いていない

Q41. 入学後職の職務上の地位を教えてください。退職した方は退職時の、継続中の方は現在のことを教えてください。あてはまるものをひとつ選んでください。

1 役職は特になし

2 係長、主任、職長相当職

3 課長相当職

4 部長相当職

5 その他( )

※Q40で3(退職した)と答えた方にお聞きします。

Q40で1(現在も続けている)と答えた方は、Q60へお進みください。

Q40で2(現在も続けているが、他の仕事もしている)と答えた方はQ44-1へお進みください。

Q42. あなたが入学後職を辞めた理由は何ですか。もっともあてはまるものから順に3つまで選び、( )内に番号を入れてください。ひとつ、あるいは2つでもかまいません。

第1位 ( ) 第2位 ( ) 第3位 ( )

1 他にやりたい仕事があったから

2 留学・進学などのため

3 病気・けがなどのため

4 ストレスなどによる心の不調のため

5 仕事に希望がもてなかつたから

6 仕事がきつかったから

7 倒産・解雇など会社側の理由

8 雇用契約満了のため

9 労働時間に不満があったから

10 収入が低かったから

11 人間関係がよくなかったから

12 結婚のため

13 妊娠・出産・育児のため

14 親の介護のため

15 配偶者・パートナーの転勤のため

16 配偶者・パートナーの反対のため

17 家庭と両立していく自信がなかったから

18 その他( )

Q43. 入学後職を辞めるころの仕事の与えられ方とあなたの仕事のやり方は以下のどれにあてはまりますか。もっとも近いものをひとつ選んでください。

- 1 きめられたやり方があり、自分の工夫の余地は少ない
- 2 上司から仕事のやり方の大筋は指示されるが、自分なりに工夫する余地もある
- 3 仕事のやり方や新しい企画を上司などに提案できる
- 4 自分が中心となって遂行する
- 5 部下をもち、自分が仕事を指示する
- 6 その他( )

※Q40で2(現在も続いているが、他の仕事もしている)、もしくは、3-ア(現在は別の仕事に就いている)と答えた方にお聞きします。

Q40で3-イ(現在は仕事に就いていない)と答えた方はQ55へお進みください。

Q44-1. あなたはどのような経路でその仕事に就きましたか。あてはまるものをひとつ選んでください。

- |                           |                   |
|---------------------------|-------------------|
| 1 リカレント教育課程の求人(合同会社説明会含む) | 2 桜楓会の求人          |
| 3 ハローワークの求人               | 4 雑誌やインターネットなどの求人 |
| 5 人材紹介会社(派遣会社含む)などの求人     | 6 友人・知人・親戚の紹介     |
| 7 その他( )                  |                   |

Q44-2. そのお仕事は、リカレント教育課程に入学してから、いくつめのお仕事ですか。

( ) 個目

Q45. 現職の就業形態について、あてはまるものをひとつ選んでください。

正社員 ・正規 職員	正社員・正規職員以外						自営業者	家族 従業者	その他
	パート	アルバ イト	労働者派遣事務 所の派遣社員	契約社員	嘱託	その他			
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

Q46. 現職のすべての事業所などを含む企業全体の従業員数について、あてはまるものをひとつ選んでください。

- |         |           |            |             |           |
|---------|-----------|------------|-------------|-----------|
| 1 30人以下 | 2 31～100人 | 3 101～300人 | 4 301～1000人 | 5 1001人以上 |
| 6 官公庁   | 7 わからない   |            |             |           |

Q47. 現職の業種について、あてはまるものをひとつ選んでください。

- |               |               |               |
|---------------|---------------|---------------|
| 1 金融・保険業      | 2 商社・卸売       | 3 百貨店・小売店・飲食店 |
| 4 マスコミ・広告・調査  | 5 運輸・通信・電気・ガス | 6 製造業・建設業     |
| 7 ソフトウェア・情報処理 | 8 教育関連業種      | 9 その他のサービス    |
| 10 公務         | 11 その他( )     |               |

Q48. 現職の仕事の内容について、あてはまるものをひとつ選んでください。

- |              |              |             |
|--------------|--------------|-------------|
| 1 専門的・技術的な仕事 | 2 管理的な仕事     | 3 事務的な仕事    |
| 4 販売の仕事      | 5 サービスの仕事    | 6 保安の仕事     |
| 7 運輸・通信の仕事   | 8 生産工程・労務の仕事 | 9 その他の仕事( ) |

Q49. 現職の職務上の地位について、あてはまるものをひとつ選んでください。

- |           |               |         |         |
|-----------|---------------|---------|---------|
| 1 役職は特になし | 2 係長、主任、職長相当職 | 3 課長相当職 | 4 部長相当職 |
| 5 その他( )  |               |         |         |

Q50. あなたは現職の就職活動のさい、もっとも重視したのは何ですか。ひとつ選んでください。

- |                  |                 |             |
|------------------|-----------------|-------------|
| 1 業種             | 2 職種(仕事の内容)     | 3 給与など職場の待遇 |
| 4 通勤のしやすさなど職場の条件 | 5 企業の知名度や企業イメージ | 6 家庭との両立    |
| 7 その他( )         |                 |             |

Q51. 現職の仕事の与えられ方とあなたの仕事のやり方は以下のどれにあてはまりますか。もっとも近いものをひとつ選んでください。

- |                                       |  |
|---------------------------------------|--|
| 1 きめられたやり方があり、自分の工夫の余地は少ない            |  |
| 2 上司から仕事のやり方の大筋は指示されるが、自分なりに工夫する余地もある |  |
| 3 仕事のやり方や新しい企画を上司などに提案できる             |  |
| 4 自分が中心となって遂行する                       |  |
| 5 部下をもち、自分が仕事を指示する                    |  |
| 6 その他( )                              |  |

Q52. 現職は、リカレント教育課程入学後職と比べてどのように変化しましたか。それぞれにあてはまるものをひとつ選び、該当する箇所に○をつけてください。

	よくなった	どちらかといえればよくなつた	どちらともいえない	どちらかといえれば悪くなつた	悪くなつた
1 やりがいなど仕事の内容					
2 雇用の安定性					
3 給与					
4 労働時間					
5 昇進・処遇					
6 評価システム					
7 研修などの教育訓練					
8 職場の人間関係・コミュニケーション					
9 自宅と職場の距離					
10 仕事と家庭の両立					

Q53. リカレント教育課程入学以後における転職・再就職経験について（複数回ある方は、全体的にみて）

どのように感じていますか。あてはまるものをひとつ選んでください。

- |                   |                            |
|-------------------|----------------------------|
| 1 転職・再就職をしてよかつた   | 2 転職・再就職をしてどちらかといえればよかつた   |
| 3 どちらともいえない       | 4 転職・再就職をしてどちらかといえればよくなかった |
| 5 転職・再就職をしてよくなかった |                            |

Q54-1. 今後の働き方については、どのように考えていますか。あてはまるものをひとつ選んでください。

- |                  |                  |
|------------------|------------------|
| 1 いまの職場で働き続けたい   | 2 非正規だが、正規に転職したい |
| 3 正規だが、非正規に転職したい | 4 仕事を辞めたい        |
| 5 その他 ( )        |                  |

Q54-2. Q54-1と考えているのはなぜでしょうか。あてはまるものをひとつ選んでください。

- |                        |                       |
|------------------------|-----------------------|
| 1 待遇や条件のいい職場に転職したいから   | 2 長く安定して働ける職場に転職したいから |
| 3 自分の能力を生かせる仕事に就きたいから  | 4 仕事量を減らしたいから         |
| 5 勤務時間や勤務日数を減らして働きたいから | 6 もっと責任の軽い仕事に就きたいから   |
| 7 その他 ( )              |                       |

※この後は Q60 へお進みください。

※現在、仕事に就いていない方にお聞きします。

Q55. あなたは仕事に就きたいと思いますか。あてはまるものをひとつ選んでください。

- |                 |                      |
|-----------------|----------------------|
| 1 いますぐに仕事に就きたい  | 2 いますぐにではないが、仕事に就きたい |
| 3 仕事に就きたいとは思わない | 4 わからない              |

Q56. 現在仕事をしていない理由として、もっとも近いものをひとつ選んでください。

- |                 |                   |
|-----------------|-------------------|
| 1 希望する仕事が少ない    | 2 希望する労働条件の求人が少ない |
| 3 能力・適性がわからない   | 4 健康・体力に自信がない     |
| 5 能力に自信がない      | 6 人間関係に自信がない      |
| 7 経験に自信がない      | 8 探し方がわからない       |
| 9 子育てや家庭の両立が難しい | 10 その他 ( )        |

Q57. あなたは現在、求職活動をしていますか。あてはまるものをひとつ選んでください。

- |      |       |
|------|-------|
| 1 はい | 2 いいえ |
|------|-------|

※Q57で1(現在、求職活動をしている)と答えた方にお聞きします。

Q57で2(現在、求職活動をしていない)と答えた方は Q60へお進みください。

Q58. 具体的に、どのようなところから、情報を得ていますか。あてはまるものをすべて選んでください。

- |                           |                   |
|---------------------------|-------------------|
| 1 リカレント教育課程の求人(合同会社説明会含む) | 2 桜楓会の求人          |
| 3 ハローワークの求人               | 4 雑誌やインターネットなどの求人 |
| 5 人材紹介会社(派遣会社含む)などの求人     | 6 友人・知人・親戚の紹介     |
| 7 その他 ( )                 |                   |

Q59. あなたが求職活動のさい、もっとも重視していることは何ですか。あてはまるものをひとつ選んでください。

- |                  |                 |             |
|------------------|-----------------|-------------|
| 1 業種             | 2 職種(仕事の内容)     | 3 給与など職場の待遇 |
| 4 通勤のしやすさなど職場の条件 | 5 企業の知名度や企業イメージ | 6 家庭との両立    |
| 7 その他( )         |                 |             |

【ここからはすべての方にリカレント教育課程および、社会人の学びについてお聞きします。】

【リカレント教育課程入学時から在籍時のご経験についてお聞きします。】

Q60. 日本女子大学のリカレント教育課程に入学しようと思った動機は何ですか。もっとも近いものをひとつ選んでください。

- 1 資格を取得したいと思ったから
- 2 就職するための実践的な知識や技術を身につけたいと思ったから
- 3 求人情報等、就職に必要な情報が得られると思ったから
- 4 パンフレットなどに示されていた高い就職率に惹かれたから
- 5 就職に関して日本女子大学のブランドが有利になると思ったから
- 6 もう一度、大学で勉強したいと思ったから
- 7 いまの仕事、生活に行き詰まりを感じて自分を見つめ直す機会がほしいと思ったから
- 8 これから自分が何をしたいのか、じっくり考えてみたかったから
- 9 仲間や友人がほしかったから
- 10 その他 ( )

Q61. リカレント教育課程のことは、どのようにして知りましたか。あてはまるものをひとつ選んでください。

- 1 日本女子大学からの広報（ハガキ、ホームページ、桜楓会）
- 2 親族・友人・知人からの情報
- 3 新聞・雑誌・テレビ
- 4 その他 ( )

Q62. リカレント教育課程の学費についてお聞きします。学費は誰が負担しましたか。あてはまるものをひとつ選んでください。

- 1 自分
- 2 配偶者・パートナー
- 3 親
- 4 その他 ( )

Q63. 学費については、在籍時、どのように感じていましたか。あてはまるものをひとつ選んでください。

- 1 適性だと思った
- 2 高いと思った
- 3 安いと思った
- 4 その他 ( )

Q64. リカレント教育課程に入学するさい、就職については、どのように考えていましたか。もっとも近いものをひとつ選んでください。

- 1 課程在籍中でもいいから、とにかく早く就職したい
- 2 課程を修了すると同時に就職したい
- 3 課程修了後、1年以内には就職したい
- 4 課程を修了することが目標で、就職のことは具体的には考えていないかった
- 5 入学する前から仕事を継続していたので、よりよい転職をのぞんでいた
- 6 その他（ ）

Q65. リカレント教育課程の授業科目についてお聞きします。入学時、意欲的に学びたいと思った科目は何ですか。意欲の強かったものから順に3つまで選び、（ ）内に番号を入れてください。ひとつ、あるいは2つでもかまいません。

第1位（ ） 第2位（ ） 第3位（ ）

- 1 キャリアマネジメント（キャリア開発論）
- 2 英語（ビジネス）
- 3 英語（時事）
- 4 英語（TOEIC対策）
- 5 ITリテラシー
- 6 ビジネス関係（金融リテラシー、企業会計入門、税法入門、内部監査の実務、など）
- 7 資格準備講座（労働法と労働保険法、消費生活アドバイザー、記録情報管理者、など）
- 8 学部の科目（科目名： ）
- 9 その他（ ）

Q66. 実際に学んでみて、あなたにとって、もっとも役にたった科目は何ですか。ひとつを選び、その理由も教えてください。

- 1 キャリアマネジメント（キャリア開発論）
- 2 英語（ビジネス）
- 3 英語（時事）
- 4 英語（TOEIC対策）
- 5 ITリテラシー
- 6 ビジネス関係（金融リテラシー、企業会計入門、税法入門、内部監査の実務、など）
- 7 資格準備講座（労働法と労働保険法、消費生活アドバイザー、記録情報管理者、など）
- 8 学部の科目（科目名： ）
- 9 その他（ ）

理由

[ ]

Q67. 実際に学んでみて、あなたにとって、あまり役にたたなかつた科目があればひとつを選び、その理由も教えてください。

- 1 キャリアマネジメント（キャリア開発論）
  - 2 英語（ビジネス）
  - 3 英語（時事）
  - 4 英語（TOEIC対策）
  - 5 ITリテラシー
  - 6 ビジネス関係（金融リテラシー、企業会計入門、税法入門、内部監査の実務、など）
  - 7 資格準備講座（労働法と労働保険法、消費生活アドバイザー、記録情報管理者、など）
  - 8 学部の科目（科目名： ）
  - 9 その他（ ）
  - 10 特になし
- 理由  
[ ]

Q68. 授業の内容についてはどのように感じていましたか。以下の項目ごとに、あてはまる箇所ひとつに○をつけてください。

	満足	どちらかといえれば満足	どちらともいえない	どちらかといえれば不満	不満
1 キャリアマネジメント					
2 英語（ビジネス）					
3 英語（時事）					
4 英語（TOEIC 対策）					
5 IT関係					
6 ビジネス関係					
7 資格準備講座					

Q69. カリキュラムや科目選択について、どのように感じていましたか。もっとも近いものをひとつ選んでください。選択肢 2~5 を選択された方は、具体的に科目名も教えてください。

- 1 カリキュラムは適切であった
- 2 必修科目をもっと増やしてほしかった ( )
- 3 選択科目をもっと増やしてほしかった ( )
- 4 学部の科目ももっと自由に科目選択ができればよいと思った ( )
- 5 その他 ( )

Q70. 1年間二期制というシステムはいかがでしたか。あなたの考えにもっとも近いものをひとつ選んでください。

- 1 1年間、二期制は適切であった
- 2 長期休暇は必要ないと思った
- 3 期間も自由に選択できればよいと思った
- 4 その他 ( )

Q71. リカレント教育課程在籍中、就職支援についてどのように感じていましたか。以下の項目ごとに、あてはまる箇所ひとつに○をつけてください。

	満足	どちらかとい えば満足	どちらともい えない	どちらかとい えば不満	不満
1 合同会社説明会、ジョブフェア					
2 再就職に関するイベント(シンポジウム、講演会、修了生懇話会など)					
3 求人 Web サイト					
4 就職相談					

Q72. リカレント教育課程の求人情報について、在籍中、どのように感じていましたか。以下の項目ごとに、あなたの気持ちにもっとも近い箇所ひとつに○をつけてください。

	満足	どちらかといえども満足	どちらともいえない	どちらかといえども不満	不満
1 求人件数					
2 求人内容					
3 情報の更新頻度					
4 閲覧の開始時期					

Q73. あなたは就職について考えるさい、どのようなことを重視していましたか。リカレント教育課程入学時から修了時までのそれぞれの時点での、優先項目を教えてください。

(優先順位の高い項目を1とし、以下順に6まで、該当場所に番号を入れてください。)

	入学時	在籍時	修了時
a なるべく早い時期の就職			
b 自分の能力や適性にあって いる仕事			
c 正規雇用			
d 給与など職場の待遇・条件			
e 仕事と家庭の両立が可能な 職場			
f 職場の将来性と安定			

**Q74.** リカレント教育課程在籍中、就職活動はしましたか。就職活動をした方は、どの時期から始めましたか、主な情報源は何でしたか。あてはまるものをひとつ選んでください。

**【時期】**

- |                 |                    |
|-----------------|--------------------|
| 1 一期目の内に活動を始めた  | 2 長期休暇中            |
| 3 二期目に入つて活動を始めた | 4 課程修了近くになって活動を始めた |
| 5 就職活動はしなかつた    | 6 その他 ( )          |

**【主な情報源】**

- |                            |
|----------------------------|
| 1 リカレント教育課程の求人（合同会社説明会を含む） |
| 2 桜楓会の求人                   |
| 3 ハローワークの求人                |
| 4 雑誌やインターネットなどの求人          |
| 5 人材紹介会社（派遣含む）などの求人        |
| 6 友人・知人・親戚の紹介              |
| 7 その他 ( )                  |

**Q75.** リカレント教育課程入学時の目標は何でしたか。またそれは達成できましたか。それぞれひとつずつ選んでください。

**【目標】**

- |   |              |
|---|--------------|
| 1 就職すること（在籍中も入学前からの仕事を継続されていた方は、転職すること） |              |
| 2 資格を取得すること                             | 3 知識を習得すること  |
| 4 就職への心構え（準備）をすること                      | 5 友人・仲間を得ること |
| 6 自分のやりたいことを見つけること                      | 7 その他 ( )    |

**【達成できたか】**

- |             |                    |
|-------------|--------------------|
| 1 達成できた     | 2 どちらかといえば達成できた    |
| 3 どちらともいえない | 4 どちらかといえば達成できなかつた |
| 5 達成できなかつた  |                    |

**Q76.** リカレント教育課程での経験は、あなたの人生にとって有益であったと思いますか。あなたの考えにもっとも近いものをひとつ選び、その理由も教えてください。

- |             |                    |
|-------------|--------------------|
| 1 有益であった    | 2 どちらかといえば有益であった   |
| 3 どちらともいえない | 4 どちらかといえば有益ではなかつた |
| 5 有益ではなかつた  |                    |

理由

[

]

**【リカレント教育課程修了後のご経験についてお聞きします】**

**Q77.** リカレント教育課程を修了後の求人 Web サイト利用についてあてはまるものをひとつ選んでください。

- 1 利用している
- 2 利用していた時期はあったが現在は利用していない
- 3 利用したことない

※Q77 で 1(利用している)と答えた方にお聞きします。Q77 で 2 か 3(利用していた時期はあったが現在は利用していない、もしくは利用したことない)と答えた方は Q81 へお進みください。

**Q78.** 求人 Web サイトを利用する（した）理由について、あてはまるものをひとつ選んでください。

- 1 リカレント教育課程修了生に特化した求人があるから
- 2 大学経由で紹介される仕事に安心感があるから
- 3 現在就いている仕事よりもよい仕事を探しているから
- 4 その他（ ）

**Q79.** 求人 Web サイトの求人情報に応募したことはありますか。あてはまるものをひとつ選んでください。応募したことのある方は応募した回数も教えてください。

- 1 はい→（ 回）
- 2 いいえ

**Q80.** その求人情報への応募は、就職に結びついたことがありますか。あてはまるものをひとつ選んでください。

- 1 はい
- 2 いいえ

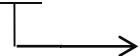
※この後は Q82 へお進みください。

**Q81.** 求人 Web サイトを利用しない理由（あるいは、利用を辞めた理由）について、あてはまるものをひとつ選んでください。

- 1 年間利用料が高いから
- 2 求人件数が少ないから
- 3 魅力的な求人がないから
- 4 すでに就職している、もしくは転職の予定はないから
- 5 その他（ ）

Q82. リカレント教育課程事務室からの就職情報を確認していますか。また、確認している方はその情報は有用であるかも教えてください。あてはまるものをひとつ選んでください。

1 はい                    2 いいえ



- ア 有用である
- イ どちらかといえば有用である
- ウ どちらともいえない
- エ どちらかといえば有用ではない
- オ 有用ではない

Q83. リカレント教育課程を修了したことにより、あなたの考え方は変わりましたか。変わったという方はその考え方の変化にもっとも影響を与えたと思われるものをひとつ選んでください。

1 授業内容                    2 教員・事務職員                    3 友人  
4 社会情勢                    5 家族                                 6 その他 ( )  
7 変わっていない

Q84. リカレント教育課程修了生に対してどのような支援があればいいと思いますか。あてはまるものをすべて選んでください。

- 1 就職やキャリア・プランなどのカウンセリング
- 2 より充実した就職情報の提供
- 3 資格取得のための短期講座
- 4 修了生がいつでも気軽に情報交換できるような場
- 5 修了生とNPOや起業家などのネットワーク
- 6 インターネットを利用したメンター制度（対話による助言）
- 7 必要ない
- 8 その他 ( )

**女性の再就職支援のあり方についてお聞きします。**

**Q85.** 大学が再就職支援プログラムを提供するとして、どのような条件なら利用したいと思いますか。各項目であてはまるものを選んでください。

【期間について】(ひとつ)

- |         |         |          |
|---------|---------|----------|
| 1 1か月程度 | 2 3か月程度 | 3 6か月程度  |
| 4 1年程度  | 5 1年以上  | 6 その他( ) |

【時間帯について】(いくつでも)

- |          |         |           |      |
|----------|---------|-----------|------|
| 1 平日の午前  | 2 平日の午後 | 3 平日の夕方以降 | 4 土日 |
| 5 その他( ) |         |           |      |

【修了までにかかる費用について】(ひとつ)

- |          |           |          |
|----------|-----------|----------|
| 1 5万円まで  | 2 10万円まで  | 3 20万円まで |
| 4 30万円まで | 5 特に制限はない | 6 その他( ) |

**Q86.** 転職や再就職を考える女性にとって、どのような支援プログラム・コースがあつたらよいと思いませんか。あてはまるものをすべて選んでください。

- 1 長いブランクがある人を対象とした再就職準備コース
- 2 転職を考えている人を対象とした資格取得のためのコース
- 3 専門的な知識を学ぶためのスキル・アップコース
- 4 今後のキャリアについてじっくり考えるコース
- 5 キャリア・アップを考えている人を対象とした女性管理職養成コース
- 6 起業を希望する人の起業準備コース
- 7 その他( )

**Q87.** 転職や再就職を考える女性にとって、どのような講座があつたらよいと思いますか。3つまで選んでください。

- |                |                 |
|----------------|-----------------|
| 1 ビジネスマナー      | 2 自己分析・キャリアデザイン |
| 3 コーチング養成      | 4 キャリアカウンセラー養成  |
| 5 キャリア戦略       | 6 ディスカッション・スキル  |
| 7 ビジネス・マーケティング | 8 提案営業戦略        |
| 9 業務管理         | 10 起業準備         |
| 11 NPO／NGO 関連  | 12 教養・趣味        |
| 13 その他( )      |                 |

Q88. 女性が再就職（転職含む）するにあたって、どのようなもの（資格、スキル、技術など）が必要だと思ひますか。思いつくものをご自由にお書きください。

[ ]

Q89. 女性の転職・再就職支援として、あなたが必要だと思うことは何だと思いますか。思いつくことをご自由にお書きください。

[ ]

**あなたご自身のことや、ご家族についてお聞きします。**

F1. あなたの婚姻状況についてお聞きします。あてはまるものをひとつ選んでください。

- 1 未婚      2 既婚（事実婚含む）      3 離別      4 死別

F2. あなたが現在、同居しているご家族を教えてください。あてはまるものをすべて選んでください。

- |             |             |           |
|-------------|-------------|-----------|
| 1 配偶者・パートナー | 2 子ども       | 3 父親      |
| 4 母親        | 5 配偶者の父親    | 6 配偶者の母親  |
| 7 兄弟姉妹      | 8 その他（<br>） | 9 同居者はいない |

F3. あなたの家計の主たる担い手は誰ですか。あてはまる方をひとり選んでください。

- |         |             |             |
|---------|-------------|-------------|
| 1 自分    | 2 配偶者・パートナー | 3 親         |
| 4 配偶者の親 | 5 兄弟姉妹      | 6 その他（<br>） |

※F3で1以外(家計の主たる担い手が自分以外)と答えた方にお聞きします。F3で1(家計の主たる担い手が自分)と答えた方は、F5へお進み下さい。

F4. おさしつかえなければ、家計の主たる担い手（自分以外）の昨年(2012年1月～12月)の年収を教えてください。あてはまるものをひとつ選んでください。

- |                 |                   |                   |
|-----------------|-------------------|-------------------|
| 1 200万円未満       | 2 200～300万円未満     | 3 300～400万円未満     |
| 4 400～500万円未満   | 5 500～600万円未満     | 6 600～800万円未満     |
| 7 800～1,000万円未満 | 8 1,000～1,200万円未満 | 9 1,200～1,500万円未満 |
| 10 1,500万円以上    | 11 わからない          |                   |

F5. おさしつかえなければ、あなたの昨年(2012年1月～12月)の年収を教えてください。あてはまるものをひとつ選んでください。

- |                  |                    |                    |
|------------------|--------------------|--------------------|
| 1 収入はなかった        | 2 103万円以下          | 3 104～130万円未満      |
| 4 130～200万円未満    | 5 200～300万円未満      | 6 300～400万円未満      |
| 7 400～500万円未満    | 8 500～600万円未満      | 9 600～800万円未満      |
| 10 800～1,000万円未満 | 11 1,000～1,200万円未満 | 12 1,200～1,500万円未満 |
| 13 1,500万円以上     | 14 わからない           |                    |

F6. 現在の家計の状態についてどのように感じていますか。あなたの実感にもっとも近いものをひとつ選んでください。

- |                            |                     |
|----------------------------|---------------------|
| 1 ゆとりがある                   | 2 ゆとりはあるが、将来的な不安はある |
| 3 今すぐ生活に困るようなことはないが、ゆとりはない | 4 家計が厳しい状態である       |
| 5 わからない                    |                     |

F7. あなたは自分の経済状況について、どのような将来展望をもっていますか。あなたの考えにもっとも近いものをひとつ選んでください。

- 1 いまよりもっと豊かな生活ができる  
2 現在の生活レベルは維持できる  
3 経済的に厳しくなる  
4 将来展望が見えない  
5 その他( )

※以下はF1で2(配偶者・パートナーがいる)と答えた方にお聞きします。

F1で2以外(配偶者・パートナーがいない)と答えた方はF15へお進みください。

F8. あなたの配偶者・パートナーの年齢を教えてください。

( )歳

F9. あなたの配偶者・パートナーの最終学歴についてあてはまるものをひとつ選んでください。

(大学、大学院卒業後に専門学校などに行った場合には「大学」「大学院」とお答えください。)

- 1 中学校                    2 高校                    3 短大・高専  
4 大学                    5 大学院                    6 その他( )

F10. あなたの配偶者・パートナーの現在の就業形態についてあてはまるものをひとつ選んでください。

正社員 ・正規 職員	正社員・正規職員以外						自営業者	家族 従業者	その他
	パート	アルバ イト	労働者派遣事務 所の派遣社員	契約社員	嘱託	その他			
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

F11. 現在、あるいはこれまでに共働きの経験がありますか。あてはまるものをひとつ選んでください。

- 1 ある                    2 ない

F12. 「仕事をもつ」ことは、配偶者・パートナーとの関係に影響があると思いますか。あてはまるものをひとつ選んでください。

- 1 お互いが経済的に自立できてこそ、対等な関係が築ける  
2 収入バランスに関わらず、両者が仕事をしていることで対等な関係が築ける  
3 働いていても、家計費補助的な収入では、対等な関係は築けない  
4 働き方(収入のあるなし)は、対等な関係性には影響ない  
5 わからない  
6 その他( )

F13. 配偶者・パートナーは、あなたがリカレント教育課程に通うことについて、どのような考えでしたか。もつとも近いものをひとつ選んでください。

- |              |                  |
|--------------|------------------|
| 1 積極的に賛成していた | 2 どちらかといえば賛成していた |
| 3 どちらともいえない  | 4 どちらかといえば反対していた |
| 5 反対していた     | 6 その他( )         |

F14. 配偶者・パートナーは、あなたが働くことや再就職について、どのような考え方をお持ちですか。もつとも近いものをひとつ選んでください。

- |              |                  |
|--------------|------------------|
| 1 積極的に賛成している | 2 どちらかといえば賛成している |
| 3 どちらともいえない  | 4 どちらかといえば反対している |
| 5 反対している     | 6 その他( )         |

F15. お子さんはいますか。また、いる場合は人数を教えてください。

- |          |       |
|----------|-------|
| 1 いる( )人 | 2 いない |
|----------|-------|

※以下は、F15で1（お子さんがいる）と答えた方にお聞きします。

F15で2（お子さんがいない）と答えた方は、F19へお進みください。

F16. リカレント教育課程入学時の、お子さんの年齢を教えてください。

- |         |                    |
|---------|--------------------|
| 第1子( )歳 | 第2子( )歳            |
| 第3子( )歳 | 第4子以上がいる場合は 末子( )歳 |

F17. あなたがリカレント教育課程に在籍中、家族と家事・育児をどのように分担していましたか。あてはまるものをひとつ選んでください。

- |                                     |  |
|-------------------------------------|--|
| 1 すべて自分がやっていた                       |  |
| 2 自分が主にやっていたが、配偶者・パートナーも協力・分担していた   |  |
| 3 ほぼ半々に分担していた                       |  |
| 4 配偶者・パートナーが主にやっていたが、自分も協力・分担していた   |  |
| 5 配偶者・パートナーがすべてやっていた                |  |
| 6 特にきまっていない。その時々でやれる方がやっていた         |  |
| 7 配偶者・パートナー以外の家族のサポートがあった → 具体的に( ) |  |
| 8 その他( )                            |  |

F18. リカレント教育課程在籍中に利用した子育て支援機関、あるいはサービスはありますか。あてはまるものをすべて選んでください。

- |                           |                   |          |        |
|---------------------------|-------------------|----------|--------|
| 1 幼稚園                     | 2 認可保育園           | 3 無認可保育園 | 4 一時保育 |
| 5 ファミリーサポートセンター、子育て支援センター | 6 日本女子大学・さくらナースリー |          |        |
| 7 日本女子大学・ロイヤルベビーサロン       | 8 その他( )          |          |        |

以下、全員の方にお聞きします。

F19. あなたは、学生時代、「女性が働くこと」についてどのような考え方をお持ちでしたか。もっとも近いものをひとつ選んでください。

- 1 結婚する・しないにかかわらず、女性も一生、仕事を続けるべきだ
- 2 女性は家庭生活と両立できるなら、仕事を続けた方がいい
- 3 女性は家庭生活を優先し、必ずしも仕事をする必要はない
- 4 特に考えていなかった
- 5 その他 ( )

F20. あなたは、学生時代と現在とで、「女性が働くこと」について考えは変わりましたか。変わったという方はなぜ変わったのか、どのように変わったのか、教えてください。

- 1 変わった →なぜ [ ]  
→どのように [ ]
- 2 変わっていない

F21. あなたは、これまで仕事を辞めたことを後悔したことがありますか。（初職でも転職・再就職後の仕事でもかまいません。）「ある」と答えた方は、その理由を教えてください。

- 1 ある  
理由 [ ]
- 2 ない

F22. あなたは、これまでの自分の職業経歴について、現時点でのどのように感じていますか。満足している点、あるいは不満に思っている点など、何でも自由にお書きください。

最後に、あなたの年齢を教えてください。 ( ) 歳  
何回生か教えてください。 ( ) 回生

現代女性キャリア研究所では、今後、再就職支援に関するインタビュー調査を行いたいと考えております。 こうした調査にご協力いただけますか。

- 1 インタビュー調査に協力する                    2 グループインタビューなら協力する  
3 インタビュー調査には協力しない

1、2（ご協力いただける）とお応え下さった方は、お名前とご連絡先を教えてください。  
なお、お教えいただいたお名前とご連絡先は、調査のお願い以外の目的で使用することはありません。

【ご連絡先】

お名前：

メールアドレス：

おさしつかえなければご住所：

おさしつかえなければお電話番号：

質問は以上です。ご協力に心から感謝いたします。ありがとうございました。

**2011 年度～2015 年度  
文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業  
事業番号 S1191007**

**女性のキャリア支援と大学の役割についての総合的研究  
「女性のキャリア支援と大学の役割に関する調査」結果報告書**

発行 2013 年 9 月  
編集 日本女子大学現代女性キャリア研究所  
住所 〒112-8681 東京都文京区目白台 2-8-1  
TEL 03-5981-3380  
FAX 03-5981-3381  
Email [riwac@fc.jwu.ac.jp](mailto:riwac@fc.jwu.ac.jp)



## 第4節 リカレント教育課程修了生へのインタビュー調査から

現代女性キャリア研究所 大沢真知子、御手洗由佳

### はじめに

文部科学省私立大学戦略的研究支援事業(2011～2015年度)の一貫として、リカレント教育課程へのプログラム(再就職支援プログラム)開発を行うことを目標としている。そこで、RIWACではリカレント教育課程修了生へのプレインタビュー実施を経て、2013年3月にリカレント教育課程修了生140名を対象に質問紙調査を行った。これはリカレント教育課程修了生の全体像及びリカレント教育課程への評価を明らかにするために行ったものである。この結果、修了生は職業キャリアや家族キャリアも多様な背景を持って入学したこと、教育課程の経験を有益であったと評価する人が大半を占め、特に友人や授業内容が影響力を持っていたことが示された。しかし、プログラムの開発に向けては、より具体的なキャリア・プロセスにおけるリカレント教育課程の意味づけ及びより詳細な課程への評価を把握することが必要である。そこで、質問紙調査にご協力いただいたリカレント教育課程修了生にインタビュー調査を行った。

### 1 調査の目的

リカレント教育課程修了生、自身のリカレント経験の振り返りや、キャリア・プロセスにおけるリカレント教育課程への意味づけなどについてインタビューを通して、リカレント教育課程へのニーズをより深く把握し、新規プログラム開発の一助とする。

### 2 調査対象者と期間、方法

調査対象者と期間、方法は、以下の通りである。

調査対象者 「女性のキャリア支援と大学の役割に関する調査」(質問紙調査)に回答頂いたリカレント教育課程修了生の中でインタビュー調査に同意を得た人。うち、調査期間中にインタビューが可能であった6名。

調査期間 2014年2月6日～2014年3月4日

調査方法 面談によるインタビュー

調査場所 日本女子大学現代女性キャリア研究所

調査時間 1時間半から2時間程度

### 3 調査対象者プロフィール

～初職から現在に至るまでのキャリアの軌跡

#### Aさん

大卒（英文学専攻）。40代前半。既婚。（高校で1年アメリカに留学・留年）大学卒業後、大手航空会社客室乗務員となる。国際線チーフパーサーを務めるなど、計22年間勤務したが、不妊治療で退職。リカレント教育課程へ入学。課程修了後、以前に勤めていた大手航空会社の総合研究所研究員へ（1年半地方の大学で教えていたことも。現在週1回大手航空会社の総合研究所、週1回か2回大学キャリアセンターへ派遣）。働きながら、大学院のビジネスデザイン研究科へ入学し、2年で修士を取得（2013年3月卒業）。

#### Bさん

大卒（社会福祉学専攻）。40代後半。未婚。大学卒業後、工業系業界紙の編集（新聞や雑誌でセミナーを企画する会社・1年1ヶ月）を経たのち、退職。神学校へ4年間通い、教会の職員へ（九州地方3年間、東京6年間計9年間）。その後、イスラエルに（聖書の言語の）語学留学（半年）。いろいろな非正規労働（工場労働、接客業（ウェイトレス）、英会話教室の事務、デパートの販売員、パンを焼く仕事、日雇い派遣）を経験（計12年間）。この5年目に並行しながら、リカレント教育課程へ入学。修了後派遣労働をしながら社労士を目指していた（1年）が断念。その後、パンを作るアルバイトを経て、教会の仕事へ（一人で教会を任せられている）。

#### Cさん

大卒（英文学専攻）。40代前半。既婚。大学卒業後、商社の関連会社のシステム開発会社でプログラマーとして10年（一般職として入社→7年目に会社合併し、上司の薦めで総合職へ転換）勤務。結婚退職後、育児を7年間。高校で英語の非常勤講師（1年）を勤めるが、父が入院、介護（半年くらい）。初職の商社（半年）へ派遣で任期満了を経て、リカレント教育課程へ入学。大学関係のアルバイトを経て、大学事務（週4日・9時～17時）（半年）へ。夫が単身赴任・母が体調を崩し介護のため、継続は断念。その後、大学の留学生課（週1）に勤務。現在、大学の留学生課（週1）と英文科研究室の仕事（週2）を掛け持ち。

#### Dさん

大卒（被服学専攻）。30代前半。既婚。大学卒業後1年10ヶ月アメリカのカリフォルニアのサンディエゴ大学の語学レッスンを受講。帰国後、1年間四国地方の実家へ（公文の先生などアルバイト）。その後、東京へ。英会話学校の営業職に就いたが、退職。イタリアンレストラン（ウェイトレス・アルバイト）へ。勤務しながらリカレント教育課程へ入学。その後、リカレント教育課程求人の経由で外国人向けの求人サイト（正社員・1年くらい）に勤務したが、リーマンショック後に退職。その後、前の会社の上司の紹介で、雑誌を出す会社で広告営業（現在ディレクター・5年目）（去年7月まで契約社員、7月～正社員）。

### Eさん

大卒(被服学専攻)。40代前半。未婚。大学卒業後、地元の県出先の研究所(繊維)に勤務(正規・研究員、3年)したが、体調を崩し退職。その後、家庭教師や福祉関係施設のアルバイトを経て身体障害者の再就職支援(嘱託)を行う。事業所廃止のため退職。一般企業(上場企業の会社のIR情報を作成、派遣社員、約7年間)で勤務するが、ヘルニアのため退職。リカレント教育課程へ入学。リカレント教育課程在籍中に派遣会社(テンプスタッフ)へ登録、3月～製薬メーカーへ派遣、2か月後長期派遣へ切替(2年7か月、2013年10月まで)、退職。2013年11月～製薬受託機関へ(契約社員・直接雇用)。

### Fさん

大卒(史学専攻)。30代後半。既婚。大卒後、お菓子の卸会社に就職(半年・営業企画・正社員総合職・越谷勤務)、退職。桜楓会の人材バンクへ登録し、病院の秘書と大学の秘書のアルバイト。駅員募集(掲示)を見て応募、鉄道関連会社の事務(1年後結婚、育休1年、4年目ぐらい第二子を妊娠。6月に出産、9月リカレント教育課程へ入学、復職できない旨を伝えたところ在宅勤務をすすめられ、再開。正規からパートへ。現在はNPO法人のテープおこしの仕事(一時は不動産鑑定の仕事も)とタウン誌のライターの仕事と3つ掛け持ちしている。

## 4 調査結果

### ●リカレント教育課程入学動機

#### ①体調を崩したことを機に入学した人の場合

リカレント教育課程へ入学することによって、キャリアを見つめ直す機会と捉えられている。

### Aさん

不妊治療してたんですけど、流産してしまって、もうちょっと、いいかっていうふうになっていたときに、何もやることがないですし、お料理教室行ったり、スポーツクラブ行ったりとかして、暇ですよね。あまりにも生産性ないな、私って。使うばかりでと思ったら、区報に載ってたんで、普通の英会話行くよりかって。

### Bさん

(リカレントに入る) 前の年に子宮筋腫になりました、手術をしました。そのときはちょうど立ち仕事をしていたので、仕事を一時辞めていた期間がありました。そのときにちょうど葉書がきて。「42歳で非正規労働の独身と。このままでは立ちゆかないというので、何かそこに行ったらもう少し安定した仕事を見つけることができるかなっていう気持ち。」

### Eさん

(直前職) ちょっと長い目で見ると続けるのは大変かなっていうのと、かなり体、ダメージ

来ていたので、ちょっと一度、すごいいろんな経験になっちゃって、ぐちゃぐちゃな自分のキャリアだったんで、一度ちょっと考えたいと思ったら、母校の方で、リカレントの方で、一年間勉強して、じゃあ、その間にいろいろ考えようと思って。

## ②キャリアの再構築を考えている人の場合

以下の3名は、自身の職業キャリアの再構築を目的としている。

Cさん

7年も家に、子育てと家事だけをして、久しぶりに就職しましたが、いろんな面で勉強不足というか、ついていけないなというのがありますし、パソコンのスキルにしても、勉強をもう1回してから自分がやりたいことをやれたらなと思って。

Dさん

就職をしても、まともな会社に入れなくて、アルバイトをしていたんですね。親も心配もしていて自分もこの仕事を一生やっていくわけにはいかないというのは分かっていて、それでリカレントに。

Fさん

母親の方が「もう一回勉強したら」「とりあえず応募したら」って言われて。

ちょうど育休に入った、2人目のときで、辞めようって気持ちがあつてというか、転職しようかなと思ったんです。

### ●リカレントを振り返っての評価

「役に立った」や「キャリアの見直しができた」、「幅広いバックグラウンドを持った仲間と一緒に学べて視野が広がった」、「ワークライフバランスについて学べた」など今回の対象者全員が好意的な意見を持っていた。

授業の評価に関しては、キャリア、IT、英語の授業で評価が高い。

具体的には、キャリアの授業でキャリアの年表作成（職種とそこで何を得たかを書く。スキル、人脈、その他。）を通して、「仕事っていうものが、今まで生活費を稼ぐために、とにかく必要だからやっているっていうものが、とても強かったのが、仕事がくれるものってものすごく多いんだなって気付いたんです。」（Dさん）と授業により自分のキャリアへの気づきを得ている。

また、ITの授業では、（面接時に）「リカレントの授業により、パソコン(html)もできますと言えた。」（Aさん）、「ITがエクセルの先生が、その当時本当に良くて、今でもそのときの勉強が役に立って、あんまりできないんですよね。会社のみんな。」といった面接や、実際の仕事に役立っているといった意見が聞かれた。

### ●リカレント後の就職

CさんとDさんはリカレント教育課程の求人により就職している（Dさんは転職）。

リカレント教育課程の直接の求人ではないが、「前職の会社のOG組織の公募へ応募する

際、リカレントの先生に背中を押された。」(Aさん)、「リカレントで会社での在宅勤務を薦められて、実際に行った。」(Fさん)として就職(もしくは就業継続)の後押しをしている。

BさんとEさんはリカレント教育課程中にキャリアの見直しが出来たとの評価をしており、自分でやりたいことを見つけ、働いている。

### ●リカレントの改善点

リカレントの課題としては、「就職への斡旋」が少ないとや、「習熟度別授業」や授業の選択肢を増やすして欲しい、「外部の認知が少ない」といった声が聞かれた。

改善点として、あると良いと思うものに、「プレゼン」、「面接の受け方」、「大学ならではの良さを出す」「マスコミなどへのアピール」、「インターンをリカレントの間にする」が挙げられている。

## 5 考察・まとめ

リカレント教育課程修了生は、様々なバックグラウンドを持っていた。このインタビューでは、職業キャリア(初職での思わぬ離職や、非正規雇用の連続となってしまったキャリア等)や、家族キャリア(子育てによるブランクや親の介護による思わぬ離職など)、さらに自身の健康に関する問題等が複合的に関連していた。リカレント教育課程は、再就職だけでなく、その前に一旦、自身のキャリアを客観的に見つめ直す機会としての役割も果たしていた。

「リカレントを通して様々なバックグラウンドを持つ仲間と出会い、勉強することは学生の時よりもなった」という語りも聞かれたが、このような様々な背景を持つ仲間だからこそ、より多角的な視野で考えることができるのだろう。

新プログラムの開発に向けて、インタビュー対象者の語りから改善点をまとめると、以下が挙げられる。

### ●プレゼンテーション、面接の受け方など実践的な授業

リカレントの授業は座学の授業が多いため、プレゼンテーションやグループワークをするといった機会が少ない。

### ●インターンシップ機会の提供

企業等とのインターンシップを提供することで、実際に働く現場を身近に感じる機会を得て、就業への意識が高まることが期待される。

### ●就職先の斡旋・提供

リカレント教育課程の知名度が上がることや、インターンシップを通した企業との接点を持つことで、求人も増えることが推定される。

また、リカレント教育課程への要望としては、大学ならではの良さを出すことや、マスコミへのアピールも求められている。新規プログラム開発を行うことで、マスコミへの宣伝に

繋がることも期待される。

上記をふまえて、新規のプログラム開発を行う。

以上





## 第5節

### 「セルフリーダーシップ・プログラム」実施報告書



## 1 セルフリーダーシップ・プログラム概要

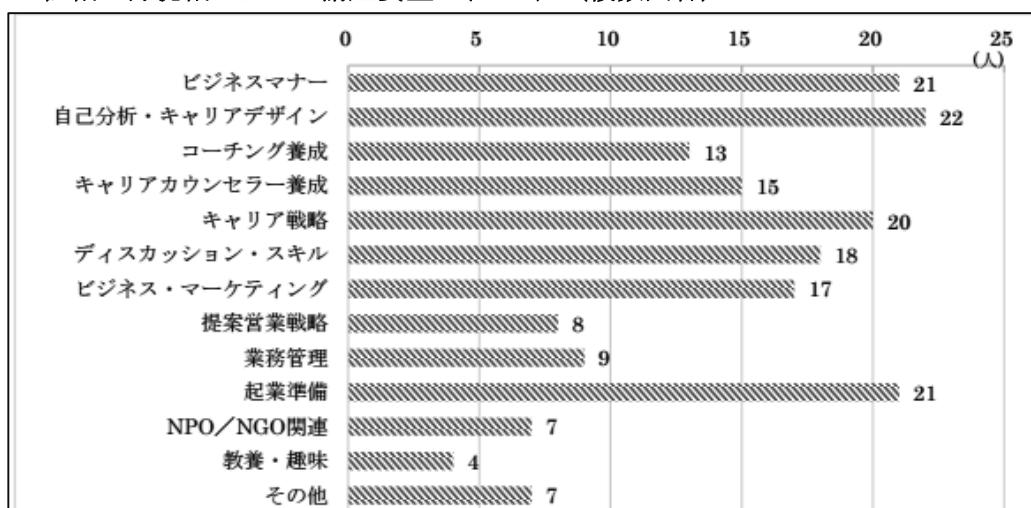
### (1) セルフリーダーシップ・プログラム実施の背景

日本女子大学現代女性キャリア研究所（以下、RIWAC）では、2011年から「女性のキャリア支援と大学の役割についての総合的研究」に取り組んでおり、その一環としてリカレント教育課程に在籍する学生のニーズに対応するための新しいプログラム「セルフリーダーシップ・プログラム」を2014年と2015年に実施した。このプログラムは、合同会社西友のご協力を得て、リカレント教育課程との連携により行ったものである。

「セルフリーダーシップ」とは、組織やチームなど、自分の外側に働きかけるために利用してきたリーダーシップを、自分自身を導くために使うことを意味する。プログラムの受講を通してより豊かな生き方をめざし、再出発をしてほしいという願いを込めて、この名称を付けています。

RIWACが第1回から第10回までのリカレント課程の修了生を対象に行った調査<sup>1</sup>で、転職・再就職のための講座要望を尋ねたところ、「自己分析・キャリアデザイン」「起業準備」「ビジネスマナー」「キャリア戦略」「ディスカッションスキル」「ビジネス・マーケティング」などを受講したいという意見が多く挙げられた。リカレント教育課程のプログラムが提供すべき支援として「現代社会に即した人材としてのスキル・知識を身に着けること」、が前掲の高頭論文で指摘されている。こうしたスキル・知識のうち、「自己分析・キャリアデザイン」「ビジネスマナー」「キャリア戦略」など、リカレント課程生が個人で学べる内容のものは、現在でもリカレント教育課程の通常のプログラムの中にも取り入れられている。しかし、「ディスカッションスキル」や、「ビジネス・マーケティング」などを学ぶ場は組み込まれていなかった。

転職・再就職のための講座要望 (n=70) (複数回答)



<sup>1</sup> 「女性のキャリア支援と大学の役割に関する調査」結果報告書 平成23年度～27年度文部科学省私立大学戦略的基盤形成支援事業 日本女子大学現代女性キャリア研究所（研究代表者 大沢真知子）平成25年9月

ディスカッションのスキルやマーケティングの考え方などは、再就職後にビジネスの現場に出たときに必要とされる場面が非常に多い。これだけでなく、チームメンバーの考え方をまとめるファシリテーションやプレゼンテーションなどを含めたいわゆる「ビジネススキル」を学ぶ機会を、セルフリーダーシップ・プログラムで提供したいと考えた。

また同調査（リカレント課程の修了生を対象に行った調査）の自由記述欄には、「実際にフルタイムで働いている人から、仕事やそれ以外のこととの時間管理をどのようにしているのか聞いてみたい」「働くことはそんなに甘くないという現実を理解した上で、就活に入れるような支援がほしい」といった記述が多くみられ、「働くこと」をリアルに感じ、再就職に向けて意識を変えていく機会が求められていることが明らかになった。

以上述べたような「ビジネススキルを学ぶ機会」「再就業に向けて意識を変える機会」を提供するためには、企業の協力を得て、実際にビジネスの現場で何が起こっているのかを見聞きし、そこから課題を発見し、課題を解決するために自分たちの考えをまとめるという体験が必要であると考えるに至った。そこで合同会社西友に協力を打診し、賛同を得た。

西友に協力を打診した理由は、第一に、親会社である米国的小売業ウォルマート・ストアーズ・インクの経営方針に沿って、ダイバーシティ(多様性)の拡充を進めており、その一環として女性の活躍推進に積極的に取り組んでいる企業であること、第二に、同社の従業員の70%は女性であり、専業主婦だった多くの女性もパートタイム、或いはパートタイムを経て正社員として活躍していることの2点である。

西友からの協力を得ることは、「ビジネススキルを学ぶ機会」「再就職に向けて意識を変える機会」の提供にとどまらず、プログラム参加者に女性の活躍を応援する、とりわけ主婦を積極的に採用し、その力を生かそうとする企業の取り組みを間近で感じ、現場で活躍する女性たちと交流する機会を通じ、参加者が再就業に向けて一歩を踏み出す力になるという大きな効果が期待できると考えた。

## （2）セルフリーダーシップ・プログラムの目的と基本的な考え方

本プログラムの目的は、第一に、マネジメントに対する提案を作成する一連の作業を通して、職場で働く感覚を取り戻してもらうこと、第二に、働く女性たちから仕事に対する想いや、仕事と家庭の両立についての話を聞くことで、再就職に対する具体的なイメージを得ること、第三に、討議や提案作成、プレゼンテーションなどのビジネススキルを学ぶことである。この目的を達成するために「参加型学習」という方法を採用了した。

参加型学習とは「学習者が受身的に学習するのではなく、学習者が相互に教えあい、討議し、共に調査を行うなど新しい知識の創出や問題解決、共感的理解を図ろうとするもの」であり、課題解決を指向し、知識の獲得よりも意識や行動様式の変革を迫る<sup>2</sup> ものである。

## （3）セルフリーダーシップ・プログラム実施概要

---

<sup>2</sup> 平成18年度「参加体験型学習に関する調査研究報告書」国立教育政策研究所社会教育実践研究センター、P11

参加者は、小売り・流通業界の置かれている経営環境や課題、そこで女性たちがどのように力を発揮しているのかについて、合同会社西友の現場見学および西友の経営幹部や働く女性たちの話から理解を深めた。これを踏まえ、自分が西友の社員であると想定し、解決すべき課題と解決のための提案を考えた。グループで提案内容をまとめ、西友の経営幹部が参加する報告会でプレゼンテーションを行った。



2 「セルフリーダーシップ・プログラム」 第1回目  
(2014年実施)



### (1) セルフリーダーシップ・プログラム実施内容（当日の様子）

- 参加者

2014年9月時点での日本女子大学リカレント教育課程在籍者 13名

- 実施日程と内容

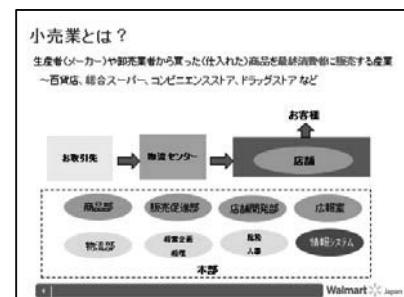
日付	内容
6/13(金)	事前講演会 於：日本女子大学（目白） 「女性と仕事」講師：平林浩美氏（合同会社西友 執行役員）
8/26(火)	事前説明会（見学時の注意事項など）
9/2(火)	プログラム第1日目 於：日本女子大学（目白） セルフリーダーシップ・プログラム オリエンテーション 講義（小売り・流通業界の経営環境、女性活躍推進の取り組み） 課題テーマの発表とグループ分け
9/3(水)	プログラム第2日目 於：西友 物流センター（埼玉県三郷市）、惣菜工場（埼玉県川越市）の見学
9/4(木)	プログラム第3日目 於：西友 店舗（練馬区光が丘）の見学
9/5(金)	プログラム第4日目 於：日本女子大学（目白） プレゼンテーション作成
9/8(月)	プログラム第5日目 於：日本女子大学（目白） プレゼンテーション準備
9/9(火)	プログラム第6日目 於：西友本社 経営陣の前でのプレゼンテーション

## 1) 事前講演会「女性と仕事」

6月13日（金）於：日本女子大学（目白） 講師：平林浩美氏（合同会社西友 執行役員）

講師である平林浩美氏のこれまでの仕事経験、仕事上における困難や、仕事と家庭との両立での悩みなどをどのように乗り越えてきたのか、またやりがい、家族や職場の支援など、ご自身の経験について具体的にお話しいただいた。また、女性の活躍推進のための西友の様々な取り組みについてもご説明いただいた。「私の経験とは全く違う業界の話でしたが、仕事をするということの根本は共通していて今、自分の置かれている状況を振り返りまたできること、方法があるかもしれないということに気づくことができ、個人的には非常に収穫のある講演会でした。」「育児がキャリアの一部になるとおっしゃっていた事に共感しました。男性にはない視点だと思います。」「実際に結婚、出産を経て働き続け管理職として第一線で働き続けている方の人なり考え方につれることができ、とても刺激になりました。」など、講演内容から刺激や勇気をもらえたといった感想が多く寄せられた。

当日は、セルフリーダーシップ・プログラム参加者の他、大学・大学院の学生など、約50名の参加を得た。



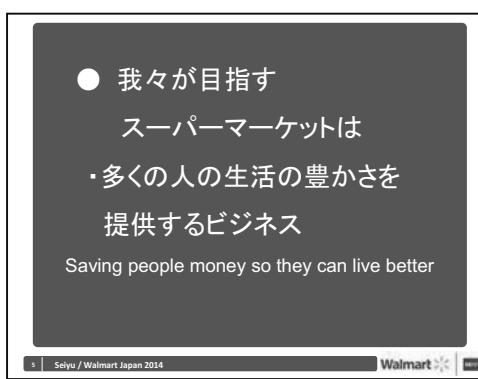
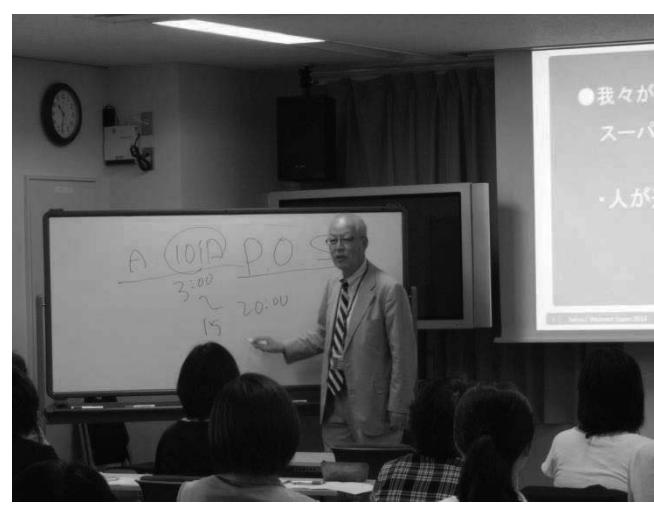
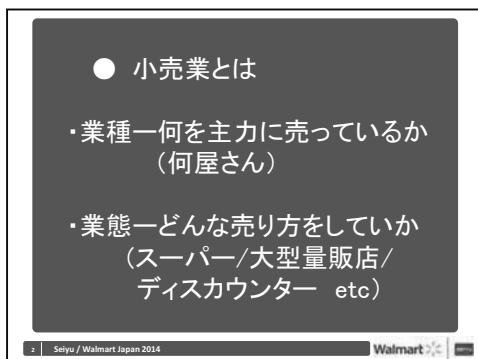
## 2) プログラム当日

1日目：9月2日（火） 於：日本女子大学（目白） オリエンテーション

初日は、本プログラムの趣旨、目的、講座全体の流れについての説明の後、小売り・流通業界の経営環境、西友の経営理念、課題や取り組み、女性活躍推進の動きなど、西友という企業を理解するための講義が行われた。その後、課題テーマの発表が行われた。課題テーマは、「より働きやすい職場にするために」「より安心・安全な職場環境にするために」「より安心・安全な商品を提供するために」より良い接客・サービス、売場づくりのために」の4つから各グループが選択した。これらは、参加者が主婦および消費者としての経験を活かせるなどを実感できるようなものとして設定した。

各グループとも選択した課題に対する提案の骨子について、西友のアドバイザーを交えて議論を行った。

- ・小売り・流通業界の経営環境や西友の経営理念についての講義



- ・女性活躍推進の取組みについての講義



- ・くじ引きによって4つのグループに分け、西友アドバイザーを交えてグループごとにプレゼンテーション内容の打合せを行った。



2日目：9月3日（水） 於：西友

- ・午前 物流センター（埼玉県三郷市）の見学
- ・午後 惣菜工場（埼玉県川越市）の見学

2日目の午前中は、埼玉県三郷市の物流センターを見学した。ここでは西友の最新の物流システムを見学し、商品を正確に店舗まで届けるためにどのような工夫がなされているかについて説明を受けた。また、物流センターのスタッフの方から、社員の一体感を高めるための工夫についてもお話を伺った。

午後は、埼玉県川越市の惣菜工場を見学した。参加者全員が工場用の服を着用し、工場に入る際にエアシャワーを浴びて埃を落としたり、互いの服をチェックしたりなど、衛生管理が徹底されていることを体験した。



3日目：9月4日（木） 於：西友

- ・午前 店舗（練馬区光が丘）の見学、現場で働く女性（店長、副店長）のお話
- ・午後 グループ別に提案内容の検討

3日目は練馬区光が丘の店舗を見学した。その後、女性店長や副店長から、これまでのキャリアの歩み、店舗運営で心がけていること、女性の活躍推進に関する店舗での取り組みなどについてお話をいただいた。また、女性店長を支える地区のスーパーバイザーの皆さん（男性）からも、人を育てる際に大切にしていること、女性店長たちが日々試行錯誤しながら良いお店を作るために努力していることをうかがった。

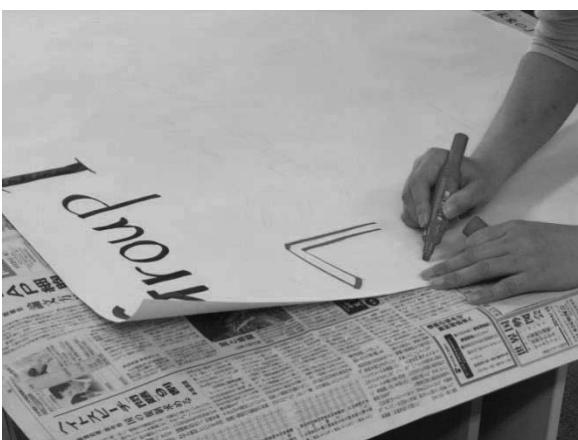


4日目：9月5日（金） 於：日本女子大学（目白）

提案準備（プレゼンテーション作成）

- ・午前 現場での体験、聞いた話についてグループで議論し、整理。提案内容を検討。西友のアドバイザーも議論に参加、質問や検討内容について助言。
- ・午後 必要に応じてグループごとに自主作業。

4日目は、日本女子大学に戻り、プレゼンテーションの作成を行った。現場で見聞きした内容にもとづいてグループで議論を行い、内容を検討した。西友のアドバイザーにも議論に参加してもらい、質問やプレゼンテーション内容に関するアドバイスをいただいた。作業時間は午前中の3時間を設定していたが、参加者は午後も自主的に残り、熱心に作業を行っていた。

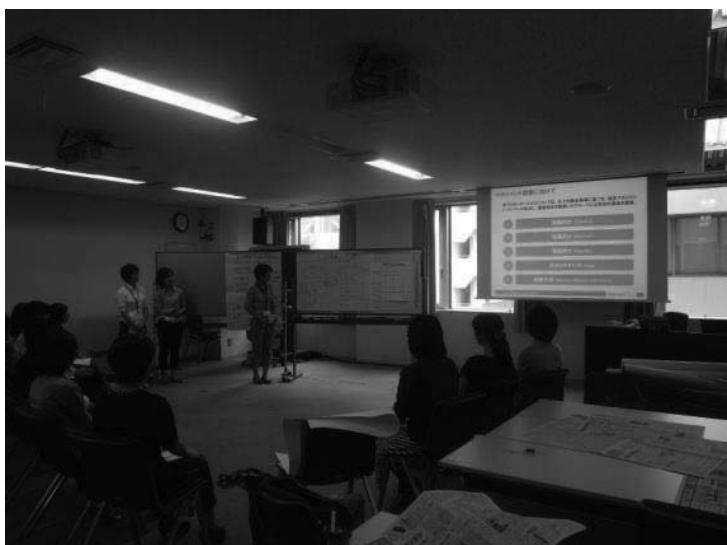


5日目：9月8日（月） 於：日本女子大学（目白）

提案準備（プレゼンテーション準備）

- ・午前 グループごとにプレゼンテーションのリハーサル、他グループのメンバーおよび現代女性キャリア研究所研究員、リカレント教育課程の教員、スタッフから発表内容や方法についてフィードバック
- ・午後 午前中のフィードバックに基づき、自主的にプレゼンテーション修正および練習

5日目は、プレゼンテーションのリハーサルを行った。グループごとのプレゼンテーションに対し、RIWACの研究員、リカレント教育課程の教員およびスタッフが発表内容や方法についてフィードバックを行った。また参加者間でも相互のフィードバックが行われた。



リカレント教育課程の担当教員から、プレゼンテーションの内容や発表方法についてアドバイスがなされた。



6日目：9月9日（火） 於：西友本社 プレゼンテーション

- ・午後 グループごとにプレゼンテーション、マネジメントチームからのフィードバック、優秀チームの発表および講評、表彰式と記念撮影

西友の経営チームが審査員として参加

6日目は、西友の経営幹部の前で、グループごとにプレゼンテーションを行った。プレゼンテーションの後には、提案内容を実際に現場で活かすことが出来るのかという観点から質疑応答が行われた。4グループのプレゼンテーションの後には、各グループに対する講評、優秀チームの発表、表彰式が行われた。



各グループによる工夫を凝らしたプレゼンテーション



西友 CEOとの懇親



参加者全員での記念撮影



## (2) 参加者へのインタビュー結果

### 1) セルフリーダーシップ・プログラムの参加動機

- もともと小売りで販売をしていたのですが、これまで販売の方面からしか業界を見ていなかつたので、もしかしたら新しい発見があるかなと思いました。あとは、なかなか経験できないことなので、時間も都合も合うならば行ってみようと思いました。
- 社会人になっても知らないことはたくさんあるので、知識を増やすというか、ためにならないことはないと思ったのもあります。それが自分の職業とか将来に結び付けば一番いいと思いました。
- 西友さんのいろいろな現場に行って見学をさせていただけるのがおもしろそうだというのがきっかけでした。実際にバリバリ働いていらっしゃる方の話を聞いて、現場をのぞいてみていろいろなお話を聞いてみたいなという、単純な興味だったのです。
- 実務経験から遠ざかっていて、肌で感じたいというのがありましたので、とてもいい機会だなと思いました。12年間もブランクのある私が、生の現場でトップマネジメントにプレゼンをするなど、最初はどのようにすればいいのか頭を抱えてしましましたが、自分に縛りをかけて、これは絶対にやらなければならないと心に決めました。
- 6月に講演会があって、私の中ではすごくいい流れがきていました。お話を聞いて素直に「働くってすごいな」「かっこいいな」と思いましたし、あのように現役でやっていらっしゃるトップマネジメントの方が話をしてくださって、自分の経験談や失敗したこととかいろいろなことも話してください、「こういうふうにみなさん働いているんだ」ということが身近にわかりました
- 今までプレゼンテーションをすることがなかったので、やり方を学びたいと思って応募してみました。
- せっかくリカレントにいるので、できることはいろいろやっておきたいということと、前の仕事が小売業でしたので、規模感の違う会社を見るができるというのも面白いなと思いました。確かそのときは、企画の仕事もあり得るなとうっすら考え始めていたころでしたので、そういう意味でも実際の会社を見てみるとか、チームで企画を考

えてプレゼンをするという課題もありましたよね。それもいい経験になるかなと思ったのです。

- 私は金融業界の勤務が長かったのですが、流通は女性が活躍できる業種というイメージがあり興味がありました。ですので今回はすごくいい機会でした。
- プログラム参加中、ビジネスとして、事業会社として西友を見ていました。私は機械メーカーに勤務していましたが、小売の世界にとても興味もありましたし、自分が普段行っているスーパーはどのような感じだろうという気持ちもありましたし、仕事現場の実感をつかみたいという人も多かったと思います。

## 2) 参加して感じたこと

### テーマ決定について

- テーマを見つけるまでが大変でした。見学して見つかるというものではなく、話をする中で見つかった感じでした。テーマが見つかっても、自分の経験の話は出来ても、それをプレゼンに持っていく切り口が見出せなかつたので、そういうのも難しかったです。
- 最初にテーマを決めるまでは、どうしようかと結構悩みました。何もない状態からまずテーマを見つけるというのが大変でした。
- 最終的なプレゼンでは自分で問題を見つけることが必要だったのですが、そういう視点って、勉強している時も一見持っているようなのですが、実は意外にずっと受身だったと思って。そういう視点を持つということが私には良かったと思いました。
- プrezentテーションで何を提案したいのか考るのが、結構大変だなと思いました。工場見学など、いろいろなイベントがありましたが、何も考えないで行ってはいけないということが、よくわかったです。自分で、ある程度、何らかの思いを持ちながら見学したほうがよかったです。

### プレゼンテーションについて

- 今までの仕事の中で、プレゼンをやったことがなかったので、方法も、どうやったら伝わるというのも分からなかったです。グループの中でもそういったことをやったことがあるという人がいなかつたので。
- 課題を指摘するのは簡単だけれども、では、どういう提案をすればというのが難しかったです。
- 企画を立ててプレゼンをしていくことの過程が面白かったです。アイデアを出して、それをまとめていくところです。
- プrezenみたいなことは、これから先いろいろな場面で出てくると感じました。そういう時に、自分が思うことを一方的に言うだけではダメだと分かりました。これは、これから絶対に意識していくと思います。
- プrezenなどは突然やってと言われてできることではないので、そういう意味での即戦力をつける授業があつてもいいかと思います。1年間あつたら、結構できるのではないかと思います。
- 実際に働いていらっしゃる方にアピールするには、もっと消費者目線の意見がいいということを西友の方が強くおっしゃっていました。確かに、偉そうなことを言っても皆さん知っているだろうなというのはあったので、本当にもう一消費者として疑問に思うことのほうがいいのではないかということに気づきました。
- 講評で指摘されたとおり、中身に関してはもう少し絞ったほうがよかつたと思います。賞を取った方のグループのプレゼンを聞いて、やはりいいプレゼンだと思いました。私たちのほうはもう少し練り込めればよかつたというのが反省材料で、はつきり指摘していただいたのがすごくよかったです。自分が何をしなければいけないか、自分に足りないものがわかりました。
- 授業とテスト結果だけでは表現できないことを、先生方と一緒にやらせていただいたことがすごく得難い機会でした。
- いざ自分でプレゼンテーションをやってみると、「素人だな」というふうには思いま

した。しゃべり方もそうですし、所作とかもなっていないところがあったのだろうなあという風に思います

- ほかのグループは、すごくたくさん提案していたのですごいなと。そういうのもまた新しい発見というか勉強になりました。
- 新しい視点を持っていかなければいけないというプレッシャーがありました。多分、の方たちは常にいろいろなプレゼンテーションを聞いて、がっちりと作ったパワポを見ている。でも、優勝したグループは、現場の衣装を着てプレゼンをしたのを見て、それで、あ、「これだよね」って、感じました。私がマネジメントメンバーで、いつもパワポを見ていたら、「またか」と思うのに、このようなプレゼンが出てきたら、「あっ」と驚くと思います。すごく、そういう視線の大事さみたいなものは思いました。

#### プレゼンテーションの講評について

- トップクラスの方たちでしたので、手厳しいことを言われるのかと思っていたのですが、評価してくれるコメントもたくさん頂けて、ありがとうございました。女性の取締役級の方たちや、第一線で走ってきた方たちから私たちはどう見えているのかしらという気持ちはあったのですが、対等に聞いてくださってコメントもいただきました。
- 私がいいなと思ったのは、役員の方にプレゼンができることと、役員の方と直接話せるということです。実はそれをすごく楽しみにしていたのです。大きな企業のトップの人たちと直接話をできることはなかなかないですし、面白いのではないでしょうか。
- 講評などは、それはもう優しくおっしゃってくださっているのだろうなとは思うのですが、やはりビジネス視点を実感しました。本当に暖かく講評していただきました。
- 面白かったことは、やはり、最後のプレゼンで賞をいただけた、一番にさせていただけたことです。

### 現場で働く人のお話について

- 光が丘で店長さんの赤裸々な話はぐっときました。これから働くのに勇気をもらえます。そのようにしてみんなやっているというのがわかってとてもよかったです。
- 女性の副店長のお話はとても良かったです。みんなで「たたき上げの人って違うよね」と言っていました。大卒の店長さんはホンワカしていましたし、その隣の高卒で店舗に入った方は言うことが深かったです。
- 「うわ」とかいう話も、ここまで話してくださるのかという話もありましたけれども、みなさんすごく一生懸命というのが伝わってきましたし、よかったです。
- やはり現場の、特に女性の方の話というのはとてもいいと思います、絶対にはずさんいでほしいと思います。全般的にみなさんの話、特に執行役員の方のお話が聞けてよかったです。店舗見学に行った時、店長さんたちの話の際に女性が何人も来てくださって、その方々の話もとても興味深く聞けました。みなさんはどのようにキャリアを積んで、店長・副店長まで登りつめたのかっていうのも、苦労も交えながら、わりと赤裸々に話してくださって、すごくよかったです。
- どの業界でも一緒なのかもしれないですが、本当にやる気のある方は一生懸命で、命をかけてではないですが、そのように取り組んでいらっしゃる方が上に行くのだなという思いは強くなりました。特に4人の女性の店長さんの経験がいろいろ違っていて、お話もおもしろかったです。がんばっていらっしゃるときの4人の関係というのが垣間見えるというか、いろいろなバックグラウンドの中でいろいろな働き方があるのだなと、自分はどれにあてはまるのか考えたときに、すごく努力しないと、と思いました。これから女性に、もし何か言えるのであれば、ずっと働いていたほうがいいよというのを本当に、言いたいなと思います。やはり離れてしまうと戻るのは大変ですよね。
- 同じレジ業務をやるにしても、嫌々やっている人と並ばせたいと思える人の差は何なのだろう、と思いました。仕事に対する向き合い方は、それぞれに違うのだとみんなで話してもいました。どうやって自分自身のモチベーションを上げて日々仕事をして

いくかということがとても気になりました。

### トップマネジメントのお話について

- 実際に西友という大きな会社で働いていらっしゃる、CEOとか、ああいう方たちのお話を聞き、大きい視点を持つのが大事なのだなと思いました。経営している方が、やはり、すごく広い視点で、こまこましていないというか、わりと寛大なのだということをすごく感じて。マネジメントする人って、こういう感じが重要なのかなと思いました。末端で仕事をしていると、本当にさもないことにいらいらしたりとか。そうなってしまうではないですか。視点が狭くなってしまって。でも、上にああいう方がいて、大きいことを言ってくれていたら、「この人のために働いたら、結果的に会社のためにになって、世の中のためになって、地球のためになっていって」と思えるのだと思いました。

### グループワークについて

- グループでの話し合いは、普段から、すごく仲良くさせていただいている方なのですけれども、一つの作業をするということがリカレントでは全然なかつたので、難しかったです。たった3人でも、やはり、いろいろと意見はあるし。そのアプローチはどうかな、と思ったりしても相手を立てなければいけないし。そういうのは難しいなと。自分はいいと思っても、ちょっとこの表現はどうなのみたいな。働いたときに多分、経験するであろうことを少し前倒して、シミュレーションしたという感じです。
- グループ皆で協力して意見を出し合い、いっぱい出た意見の中からまとめてピックアップして、1つのものをみんなで作り上げるということはあまりしたことありませんので、ああいう経験はよかったですと思います。そんなに意見が割れたとか、そういうことはないんですけども、1つのものにまとめるというのは、やはり気遣いながらも、みんなの意見をいちばんいいものにするというのは、なかなか難しいものといえますか、1人でやる仕事と違って、心強い面もあるけれども、難しさもありました。

- グループワークは、力加減や人との折衝の仕方が勉強になりますし、職場にいたときに溶け込みやすいと思います。熱心になるあまり和やかさが失われてしまいそうな場面もありましたが、雰囲気を盛り上げなきやという人もいましたし、そういう面では勉強になりました。同じように力で言いますと険悪になりますし、違う考え方もあることに気付いてほしいということを出すにはどうしたらいいのかな。ブランクが長いとそういうところも鈍くなっていると思います。
- グループでやったことが良かったです。やっぱりいろんな意見が出てきますし、アイデアを出し合っていくうちに、結構しっかりされている方なのだなとか、相手の違う面を発見できることもありました。
- やっていくうちにどんどん仲も深まって、お互い信頼できる仲間だなっていうふうに思い始めることができました。外からだと、優秀な方かぐらいは分かっても、実際にほんの力があるのかとか、その方の性格だとか持ち味とかもあんまり分からぬけれども、ああいうプロジェクトをやるとその辺がすごく良く見えて、しかもそれが相手を信頼できるきっかけになったっていうのがすごく良いですね。
- 本当にいいプログラムだったなと思うのが、グループ作業をするということでした。これは懐かしいなという感覚がありました。特に私の場合は1期前の方と一緒に、ほとんど初対面でした。そういう方と作業してひとつのプレゼンを作らなくてはいけないというのも、短期間ではありましたが、非常に濃く、大小苦労もしながらいい経験でした。今思えば本当によくやったなと思います。
- メンバーを見渡すと、みなさん個性がありまして、得意分野・苦手分野などがわかりました。実際の現場はこうだというのがわかりまして、得意なところは出してもらわないと、と思いまして、仕事というのは役割分担も自然かつ意図的にやっていかなくてはいけないというのを思い出しました。
- 自分の思ったとおりのストーリでいきたいという人と、それでは伝わらないし、絞ったほうがいいという意見の人や、片や真面目な感じでいこう、片やもうちょっとくだけたほうが伝わるよというふうに4人の中でも意見が違いましたが、それを折り合い

つけながらまとめていき、最後は電話で説得しながらやりました。本当にいい経験でした。

- チームメンバーそれぞれの主張がありました。でも実際の現場はもっとすごい世界だと思いますので、そういうのも経験できてよかったです。
- 3人でディスカッションして進めなければいけないところが結構大変でした。私たちは、たまたま年代も近い3人でしたが、やはり考え方が全然違いました。バックグラウンドも違うし、意見は出るのですが、一つの方向にまとめるのに結構時間がかかりました。最初はなかなか意見が出なかったので、特に大変でした。でも、「ここまで話をしたけど、それはこういうことが言いたくてこれを言ったのですか」とか、誘導するように聞いてみると、「AではなくBというほうを考えていた」という発言が出ることもあるって、少しずつ削りながらまとめていきました。最後は時間的なリミットがあるので、これでいいとしたのですが、本当に良かったのかという思いもありました。落としどころが、なかなか落ちないので、結局、時間で区切るしかありません。ただ、経験としてはすごく生きたと思います。その後、全然違う授業で、そういう場面があっても、自信を持って自分の意見を言えるようになりました。
- 私はあまりまとめ役をやるほうではなかったのです。仕事でやっているのでいいやと、見ているのが専門でした。でも、そういうのも関係なく、西友のときにやったことで、やりやすくなりました。
- まとめるといつても、どうすればいいのか分からぬという感じでした。でも、仕事ばかりでなく、普通の生活やプライベートでも、そういうことが意外と多いと思います。ですから、そういうこともできたほうがいいと思っていたときに、西友のお話があったので、いい練習になりました。

#### スケジュール・タイムマネジメントについて

- 学校に関しては、授業はありますけれども、自分のスケジュールでやるじゃないですか。与えられたものをやるというのがすごく久しぶりで、スケジュールも全部、決ま

っているので、久々に大変でした。

- 課題を仕上げるための時間がうまく取れませんでした。私たちは結構残って作業をやっていましたが、たまたま用事が無かったので、残れたということもあります。このプログラム以外の時間を最初は想定していなかったのです。時間そのものが欲しいと思いましたし、企画をして形にした経験もありませんし、どのくらいの時間配分で、どの辺りまで、どのようにできていればいいのか、その進捗の加減がつかめませんでした。
- 時間が足りなかつたです。資料を作る時間がほとんどなくて、急いでやってしまったので、今思うと自分たちがやったのはちょっと浅かったというか、こんなものでいいのだろうか、っていうところはありました。
- 6日間、ぶっ通しでというのが一つと、その後、私は学部の授業が1週間、毎日入っていたので、ちょっと時間的に大変かなというがありました。
- 土日が入ってプレゼンでしたので、そこがすごくよかったです。みんな頭をクールダウンさせながら、メールでやり取りをしてという時間が持てましたので。

### 小売業について

- すごくおもしろかったです。私は小売りにあまり興味がなかったので、本当に知らないことが多くて、すごくためになったと思っています。
- 大量に仕入れて、物流も自社で分けて、できるだけ安く抑え、マージンを減らしてというのは、小売りと言いつつ卸も殆どやっているわけですよね。そういう効率化を進めているのは、教科書とかでは分かりつつも、実際現場に行って、オートメーションを本当に人間がいらないぐらい機械で細かくやっているのを見ると、実感するというか、肌で感じるというか、さらに効率化を進めるにはどうしたらいいかというのを強く思うきっかけにはなりますかね。工場に行ったときに、スピードが速いと本当に思いました。オートリフトでしたか、あれもエーッと思いました。仕分けも昔のベルトコンベアののんびりしたのではなく、本当にシュッシュッシュ行く感じでした。昔はきっ

とおじいちゃんとか普通のバイトの人が分けていた仕事が機械で分けられて、人間がやることは本当にクリエイティブなことと管理することなんだと思いました。

- リカレントに来て、働くというのをちょっとキラキラしたものに書き換えていたような気もするのです。でもこのプログラムに参加して、現場のリアル感を思いだしました。「そうだよね、仕事って」という感じで、現実を突きつけられたという感じはあります。
- 小売業に対する理解がすごく深まりました。
- いったん離れようとしていた小売業の魅力を再発見したような気がします。時間帯についての心配は、やはり消えるわけではないのですが、お子さんもいらっしゃって、西友さんの中で続けて働いてきている女性の方もたくさんいらっしゃるということも、頭では分かってはいたのですが、実際にお会いして実感した部分がありました。

#### 西友の社風・カルチャーについて

- はじめは、ウォルマートに買われてしまっているから、買われてしまっているって、すごく失礼かもしれませんけど、やる気がないではないけど、所詮、買われたし的な雰囲気があるだろうと思っていて。でも、どうなのでしょう。イメージはそういう感じがあると思うのですが、外部が乗り込んできていく。でも、そのようなことはなくて、すごく前向きだったというのも、意外と言っては失礼ですけれども。
- 西友さんの方も懇切丁寧にいろいろ説明してくださり、私たちが、どうしたらいいかといろいろと案を出しているときも、手抜きをしないで、一緒に考えてくれて、答えてくれて、本当にありがとうございました。
- いろいろな働き方が見られました。店長さんもそうですし、バイトの方、あとは「こちらはパートの方です」と責任者を紹介されたときに、パートでも責任を与えられている方はいらっしゃるし、自分ががんばり次第では働く形態は違っても上に行くことは可能だということが分かりました。
- 自分が買い物をしている西友のイメージと、実際に働く方々とだいぶギャップがあり

ました。もはやウォルマートだと思いました。働いていらっしゃる方は、どういうふうに変化したのだろうという疑問が逆にわくぐらいウォルマートのエールはアメリカっぽいという印象で、会社の中での競争というのが激しくなったのかなと思いました。本社からの意向があつて、女性をもっと使いなさいという風土になっているという印象は受けました。古くからの西友ではないという印象を持ちました。店舗でも今は生鮮などで、満足がいかなければ返金しますと、なんかアメリカっぽいなと思いました。

- 本当にいろいろこういうのはどうだろう、こういうのはどうだろうという度に、若菜の方にいろいろ細かくアドバイスをいただきました。若菜の方が、多分、人事担当の方だったのです。当たり前なのかもしれません、いろいろなことを知っていらっしゃいました。
- 実際に西友のイメージはすごく良くなりました。
- 私はやるからには昇進もしたいですし、お給料も欲しいですし、ですので、女性に対してフェアな会社がいいのです。その点、西友さんに行ってみたら、ここはとてもいいなということが分かりました。本気だなと。いろいろな会社の現状を見ると、大体口先だけではないですか。「女性に働きやすく」というような、「福利厚生が充実していますよ」と言っても、それは多分頭数を集めたいだけですよね。実際にそういうところが多いと思います。
- 西友、ウォルマートの方々がすごく協力的に驚きました。最初は、本当に私たち、素人の学生の提案が会社にとって何の利益になるのかという程度に考えていたので、あれほどまでにいろいろ案内して下さって、最後にああいう時間を設けて下さったことに本当に驚きました。
- プレゼンテーションに参加してくださった西友さんの顔ぶれは、みんな各セクションの重鎮のような。皆さん忙しいと思うのに、ああいうふうに時間を割いてくださつて、すごいなと思いました。
- 励ましてもらったという感じが、ありがたかったです。働いていたときもそうでした

が、この年齢になると、年なのだから分かっていて当たり前となるので、だんだん教えてくれる人や、褒めてくれる人が居なくなります。でも今回のプログラムでは、私たちの世代を励まそうしてくれるエネルギーをとても感じ、それがありがたいと思いました。あのような機会は本当ないです。

- 応援してくださっているという気持ちをすごく受け取ったので、頑張ろう、その気持ちに応えようという闘志が湧きました。また、これは、私の個人的な理由ですが、私は大学が海外だったので、新卒で就職するときに、今、日本女子大の方がやっているような就職ガイダンスとかが全然ありませんでした。たった一人で就活して、面接の受け方もよく分からないまま、孤軍奮闘してやっていました。今回、私が応募したのも、1回、インターンシップのようなものを受けたかったということがあったのです。そこで経験が増えて、自信がつきました。

#### ビジネスの現場・外の社会に出てみることについて

- 普段は講義ですから、もちろん資格修得やスキルアップのための勉強ですけれども、そこまでのリアルな感覚はなかったです。やはりビジネスの現場に出ていくことがいかに重要かなと思いました。
- このような経験をしないと、そういう目で見られなかっただし、プレゼンというものがこのようなものだということ、12年前に人のプレゼンを聞いたり、自分が準備したりしていたのがよみがえり、とてもよい経験でした。
- いろいろなことに気付かされました。現場の空気感や、仕事をするということはどのようなことなのか等々に気付かされましたし、あとはトップマネジメントの方のお話を聞けたのもよかったです。企業というのはやはり利益を追求していくのですが、このようなポリシーを持っている、生産のポリシーというものが本当によくわかりました。会社はそうやって進んで行くのだなということをまた気付かされたという面ではいい経験だったと思います。
- 自分がその中に入った時に、ふるまいではないですが、どういうふうにやっていける

のかということをイメージしなくてはいけないということも考えられました。

- 今回、西友さんの物流の方とお話もしなくてはいけなかつたのですが、その時にどのような聞き方をするかとか、いくら私たちの担当の方でも、「やはりこのような聞き方は悪いよな」とか、でもギリギリのネガティブなことも聞かなくてはプレゼンできないので、どのような聞き方をしようかとか4人で話したり、「このような言葉遣いはだめだったよね」とかいう話し合いも4人でしたりしました。主婦感覚の中で、普通に話している言葉遣いでも、もう少し相手の立場というものを考えながら話さなくてはいけなかつたということを、この12年のうちに忘れていました。
- 普段の授業の中で、教えてくださる方とやり取りするだけでは足りないなと思います。セルフリーダーシップ・プログラムの参加経験がなければ、学生と変わらないです。この気付きは1年後に持ち越して、きちんと面談でアピールできるかどうかということにまで影響してくるのではないかとも思います。相手は働いているということを想定しながら自分も面接しなくてはいけないでしょうし、座学だけでやっていたのでは気付かなかつたと思います。
- 意識とか、まわりの情報の進歩というか、昔はのんびり働いていたのが、本当に今はキュッとしていました。特に西友さんだからかもしれないですが、とにかく効率を上げてみたいな感じで、働き方がどんどんキチキチになってきていると思いました。効率、効率と言ひながらも、最後は人間、人材だというのを、西友さん、ウォルマートは強くおっしゃっていましたし、これからはコミュニケーション能力が、ますます大事になるというのは本当に強く思いました。
- 普段は勉強がほとんどで、いい成績を取るのが目標なのか、と家族に言われたところでした。今回のプログラムは、仕事をする疑似体験みたいなものだったと思います。
- 西友さんの方がいろいろフィードバックしてくれるときに、働く側の視点を忘れ始めていると気づかされました。消費者側としての視点が多くなり始めている自分に気が付きました。以前、自分がフルタイムで働いているときは、何に関しても働く側の視点が多かつたのですが。

- 働く側の人たちの中だけでも、立場が違うと、利害関係も全然違うということを、感覚として忘れ始めました。
- いろいろな立場の人が意見をしてくれたので、感覚を取り戻すという意味では良かったです。取り戻すというか、忘れていたということを思い出しました。
- 前の仕事でも、勉強会の講師をするなど、発表する機会は割とあったのです。それでも離職期間は短いのですが、離れているとその感覚を忘れるものだなと思いました。

### 家族との関わりについて

- 私は長年専業主婦をやってきましたし、息子が一人いますけれども、西友さんの経験をさせていただく中で、働くということを念頭に置いて普段の生活をしてみると、今まで息子に、何かするとすぐ反射的に叱ったりしていたのが、「最終的にできるようになってもらわないと困るから、少し我慢してこういう言い方をしてみようかな」というふうにも思えて、意外とこういった考えもできるのかなというのが自分でも驚きました。こちらも忙しいですから、前みたいに叱るエネルギーもないわけです。でも最終目標は彼が早く起きて自分で身仕度をきちんと整えるとか、そういうことなので、一言だけ「何時までだよね」と言って、やってもらうみたいな、忍の字でもないですが、こちらが忙しいというか、こちらも働くということが頭に半分あるともうかまつていられないというのがありますので、そういうやり方で子どもにもやってもらうべきだなということも気付きました。
- 全く今までの自分と違うことをした方がいいのではないか、その方が、広がりがあるのではないかと思いました。例えば、西友さんとかもそうだと思うのですけれども、事務よりも、他の職種の方が何か先があるというか。自分が成長できるのはそういうところなのかと思うようになりました。
- 共通の話題ができました。娘とは、サプライチェーンがこうだったとか、あと主人も少し流通業みたいな感じですので。西友のプログラムも朝から晩まで行っていたので、頑張っている姿を見せたという点では家族にも影響はあったと思います。

### 3) プログラムに対する要望

#### 見学コースや内容について

- 2 店舗ぐらい見てもよかったですかなという気はします。
- 店舗の改善点について指摘をするのは難しいと思いました。例えば、西友ではないお店を、大きな競合他社という意味ではイオンとか、ダイエーとかをみると、同じレジに工夫の余地が必要となったときに、競合他社の視点を持ってきて、見られると、提案がしやすかったかもしれません。
- 3 日目に店舗だったので、結構、店舗組は時間がないというのが正直。そこまでは当然、かかわっていないとはいえないですけれども、実際に店舗を見ないと、プレゼンの指摘も見つけられないので、その 1 日のタイムラグがちょっときつかったかなというのはあったかもしれません。
- 若菜と物流の方は見ても、見なくてもいいぐらい。1 日あるから、その間にいろいろと考えたり、話したりはできるのだけれども、店舗はそれがなかった。
- 若菜を見てきましたので、食品中心がよかったです。西友さんが力を入れているのがまさに生鮮ですので、食品だけでもよかったですかもしれません。もう 1 店舗くらい見ることができてもよかったですかなと思います。
- 店舗を 1 階ずつ全部を見るのではなくて、商品まで絞り込んで、具体的にお話を聞いたほうがいいのかもしれません。商品によってターゲットも企画も全然、違うと思いますので、大まかすぎた気がします。あとは、アルバイトから入ってもどんどんグレードアップしていくシステムというのは分かったのですが、野心的にやっていければできるという、そのトレーニングの仕方も教えて、披露してくれたらためになりますよね。主婦という点でキッチン用品とか、あとは結構お子さんいる人が多いですので、子ども服売り場。あと家電製品とかは、ああいうところとビックカメラなどどう違うのかというのありますよね。あと一番興味があるのは食料品ですね。
- スケジューラーを、もうちょっとよく知りたかったです。今日○○さんは、ここで何

時から何時までを担当しますと書かれたものが、1人1人に配られるとおっしゃっていたのです。あれは、ちょっといいなと思いました。私もスーパーにいたのですが、私がいたところは結構ブラブラしている人もいたのです。本当にこの人は何をしているのかと思うような人もいたので、スケジューラーで管理されていて、今日の何時はどこで何をやるというのが決まっていたほうが、すごく効率も上がっていいなと思いました。すごくそれに興味があります。

- リカレントに来て初めて知ったような、記録情報とか内部監査などの科目が、実際の会社ではどのように生かされているのかが見られるといいかなと思いました。授業を受けていても、実務でどんなふうに生かせるのかというのが、ちょっと想像できないので。

#### もう少し時間に余裕が欲しい

- 時間が余りにも短すぎたなと思います。その中でやらなければならないプレッシャーはあってよかったです、もう1日半ぐらいは長くてもいいかなと思います。
- もう少し長くてもいいと思います。正味5日間ぐらいで、最後の日は発表だったのでも、もう少しじっくり見学できるとか、こちらから質問できたら良かったと思います。連れていっていただいたセクションに関しての質問は、毎回受けてくださっていましたが、まだ見ていない興味のある部分に関しても、突っ込んで質問できる時間があつたら良かったと思いました。私は、10日ぐらいが良かったです。
- もっと長くてもいいような気がしました。連続するのではなくても、もうちょっと長いスパンでやってもいいかなと思いました。
- 初日の物流から若菜、川越に移動しては、ハードだなーと思いました。非常にキツキツな感じで。若菜のときは、本当にすごく詰めこんでいる印象がありました。後、働いている方は結構やってらっしゃることなのでしょうが、個人的にランチミーティングだと、あまり話が入ってこなくて。
- 西友さんのお話も、各グループについてくださいり、いつも聞ける態勢ではあったので

ですが、それでもやはり足りなかつたなというのが。私たちは物流センターの担当でしたが、物流センターの方のお話も現地でもっと聞きたかったですし、女性の方がやつてくださるはずだった内容が割愛されたところがあったように思います。女性の方との交流会がなかつたのが残念でした。物流センターはもう少し時間があつたらよかったですなと思いました。

- 全体的に時間にもう少し余裕が欲しかったです。6日やるのでしたら、7日でもいいのかなという気がします。1日まとまって増えた場合、見学する意味でも、課題をまとめる意味でも、大分楽になる気がします。
- 若菜と物流の移動が大変だったというのはみんな言っていました。あの時間は質問コーナーになったではないですか。休みもなくという感じで。あの時間を使わなければいけないのは、当然だし、しょうがないですから、あまり文句は言えないんですけど。

#### **タイムマネジメントを指導してほしい**

- 3本くらいにテーマを絞っていただいて、それについて30分で決めましょうか、というように、その辺のリードをしていただけだと、そのあとのこともできたかなと思います。
- 模造紙と原稿を用意する時間も、模造紙のほうに一生懸命になってしまって、「これはどうやってしゃべろうか」という草案は直前に書いていました。その辺の進め方などを含めて自分たちで試行錯誤したのも良かったのですが、結構バタバタになってしまったのも事実なので。限られた時間ですので指示を頂けると良かったかもしれません。

#### **もっといろいろな立場の人からお話を聞きたい**

- 現場の男性の話も、どのようにみなさん、うまくやっているのか、あるいはいろいろな問題を抱えながらやっているのか、そういう話もあってもいいかもしれないです。どのようにみなさん男女でうまくやっているのか、特に女性の支店長を抱える中で、

男性の方、例えば副支店長はどのような形でやっているのかとか、そのような現場の話も聞きたかったです。

- 倉庫や店舗の見学に行っている間に、いろいろなところで働いている方たちのお話を伺う機会がありましたが、多分趣旨としては私たちの今後のキャリアの参考になる話を聞こうという感じだったのでないかなと思うのですが、みんなから出た質問が課題に集中してしまっていた気がして、それがもったいないなと思いました。ですから、集まったときに、いったん課題のことは置いておいてということがあつたら良かったかなと思います。
- 若い世代などですね。もう少し身近な立場の、まさに今お子さんが小さいというような状況の方などのお話を聞きたい。

#### アドバイザーの方との関わりが少し薄かった

- 今回は会社の方に何かアドバイスを求めてもいいとのことだったのですが、私たちのグループについては、ほぼお聞きすることなく、あんまり交流なく、行程が終了した気がします。もう一つのチームが、店舗の中のことをやっていたのに対して、私たちは就業規則や福利厚生など、全体的なことをやっていたので、やっぱり、ちょっとあんまりお話することもなく、終わってしまったなという感じがありました。

#### プレゼンテーションの練習について

- 他のチームについて色々と言うのはよくないと思うのですが、他の方の提案を見ていると、もうちょっとこう考えられたのではないかという提案がいくつもありました。あそこで提案してしまってはもったいない、もうちょっと先を突き詰められていれば、違う言い方があったのではないかとか、違う表現で違う方向からアプローチしたら、もっと企業に対して響く提案ができたのにとか、思いました。
- プrezentationの事前練習がやっぱりすごく良かったです。最初は全然準備も完了していなくて、まだ早いのではないかと思ったのですけれども、やっぱり、あそこ

で先生と皆さん前でプレゼンして、直していただいたのがすごく良かった。その練習の時に他のチームのプレゼンを聞いていて、もうちょっと突き詰められるのに、違う方向に行けるのに、惜しい、惜しいと思っていたのですが、先生もそこまでおっしゃらなかつたし、なんか同じ同級生の身で、あんまり「そこ、ちょっと違うのではないか」ということもあまり言えなかつたのです。結局、プレゼンもその後あまり改善されずに本番を迎えてらしたので、もったいないなと思いましたね。あそこで他のチームについても自分のチームについても、全体でもっとこういう方があるよっていうふうに話し合えたら、リカレント4チーム全部がもっとレベルアップして、よりクリティカルの高い提案ができたのではないかと思いました。

#### 大学での授業との連動について

- 西友のときも、もうちょっと経営のことや、何か勉強できたらいいなというふうに思ったのですけど、大学のプログラムで参加できるものと思ったのですが、単発で入れるものはなかなかなかつたような気がします。大学のプログラムの中で、専門的な経営のことを勉強できたらいいなと思いました。経営や、そこで働く人の気持ちや、モチベーション、リーダーシップのような、そういうものはないですよね。そういうのを学べたらいいなど、西友が終わったときに思いました。提案内容についても、経営の基本が分かっていたら、自分の中でもっといろいろなことがアイデアが生まれてきたかもしれません。
- 再就職にあたっては、もちろん資格も大事ですが、ビジネス系のベーシックな科目もあるといいと思います。

#### さらなる集客にむけて

- 今回のプログラムの受講を希望していた人は他にもいましたが、夏季集中講座を取つたので、それに加えてこっちまでというのは、少し大変だからあきらめたということらしいです。

- 新たに就職するときには事務しか考えていませんという人だと、このプログラムにはあまりひかれないのかなと思いました。事務とは、経理や総務や、そういういた関係ではないでしょうか。人事なども。リカレントの科目自体も全体的には事務系寄りのかなというふうに思います。事務以外をやるということは、とても大変なのではないかというように思いがちなのではないですか。例えば、マーケティングでなくても、営業の場合はノルマに追われて残業だらけで、ということや、それこそ企画などの場合でも、センスがないのに自分の意見を言うなんて、ということでしたり。私が思うのは、大変さということが、どの会社に行ってもある程度の想像ができるのが事務系なのではないかという気がします。

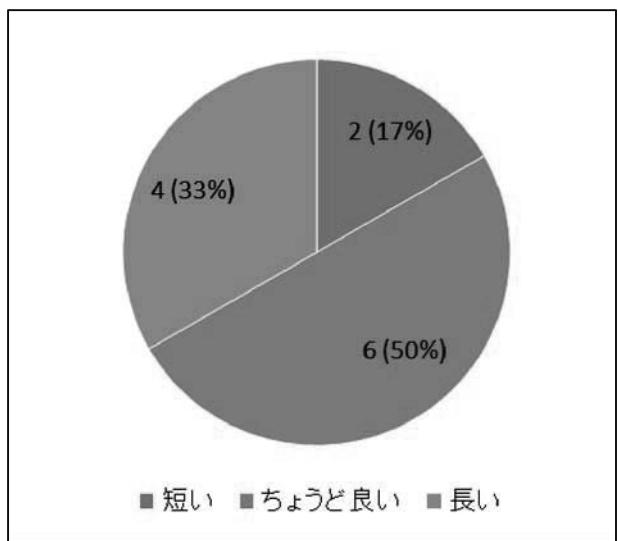
### その他

- 今回はどうちらかというと見学に近い感じがしたのですが、インターンのようなこともあれば、参加をしてみたいなと思います。
- 選択できる企業がほかの業種でもあればいいなと思いました。
- 例えばメーカーでしょうか。メーカーもつくっている部分と、それを支える部分があるので、ものづくりから事務部分まで見ることができたらおもしろいと思います。
- リカレントの人であれば、日用品みたいなものを作っているメーカーなどに、興味を持つかなというのありますね。

### (3) 参加者へのアンケート結果

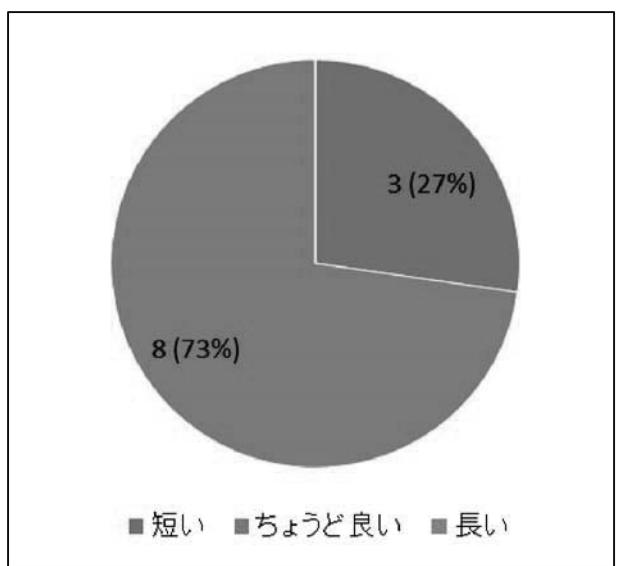
#### 1) セルフリーダーシップ・プログラムの長さ・時間配分について(事後アンケートより)

##### ①プログラム全体の長さ (n=12)



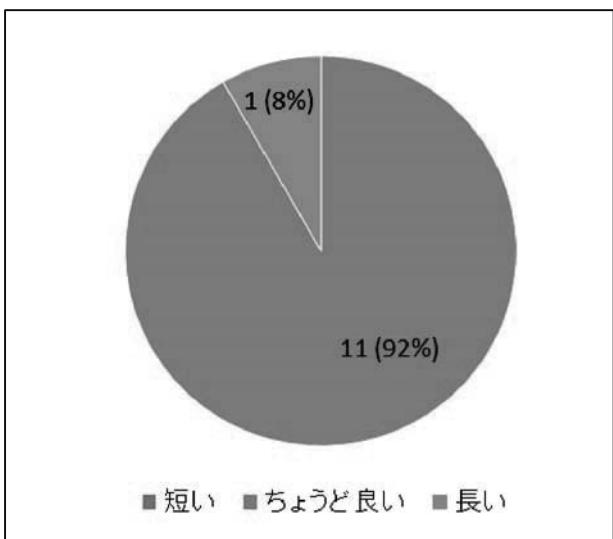
- 物流、惣菜、店舗と3つの題材で6日間はちょうど良かったと思います。日数は題材次第かと考えます。  
土日をはさんでいたので、ちょうど良かったです。
- 6日間は長かったです、プレゼンをするためには必要な日数でした。  
慌ただしくも感じたが、限られた期間だからこそその中で課題をクリアしなければならないシビアさがよいとも思ったので、全体的な期間としてはちょうど良いと思う。
- 期間としては、長い気もするが、実際プレゼンテーションの準備をする段階では「とても時間が足りない！」と感じたので。

##### ②各プログラム内容の長さ (n=12)



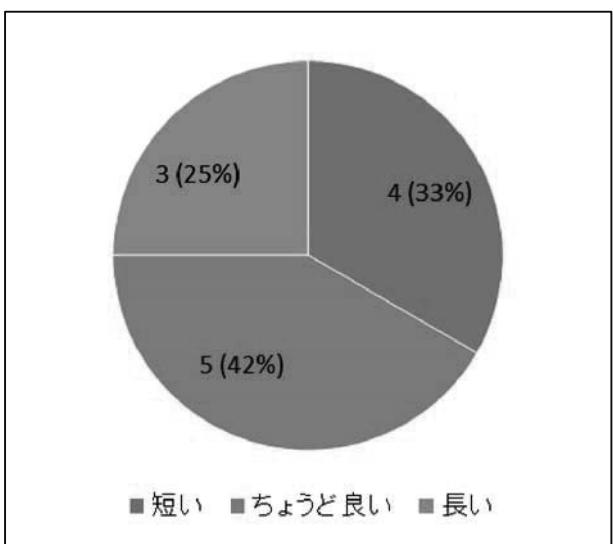
- 見学はもう少しじっくり見たかったようにも思いますが、かと言ってもっと時間があればさらなる発見があったかと言えば疑問があるので、少し足りないくらいで良いのかもしれない。
- それそれで「もう少し見たかった～」「もう少し議論したかった～」という思いが残った。ただ、これ以上長くなると、参加も難しい気がする。

### ③講義内容（9月2日）(n=12)



- 次に控える見学やプレゼンテーションに向けて、ヒントとなるようよくお考えだと感じました。
- 事前説明会と併せて（同日にし）、実際の見学や準備に時間を回しても良いのではないかと思う。

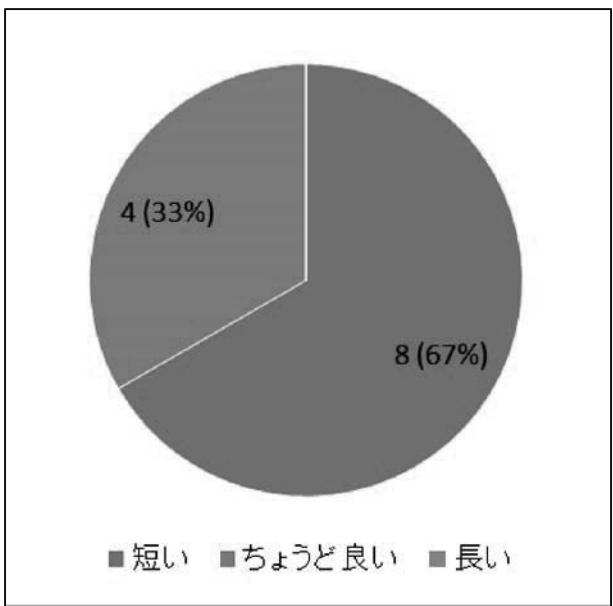
### ④現場見学（9月3日・4日）(n=12)



- プrezenを思えばちょうど良かった。ただ、物流でアソシエイツの方々が用意されたモノを見る時間はなかった（省略された）ので、その点は残念。
- 三郷センターの3階が見られなかつたのが残念でした。
- 物流センター、若菜とも、普通の見学コースより短縮されていたと思います。せめて、普通の時間での見学時間が欲しかったです。
- 業務の概要をざっと知るには、ちょうどよいと思う。

- 9月4日の見学は現地集合、解散、交通費支給でもよいのではないかと思いました。

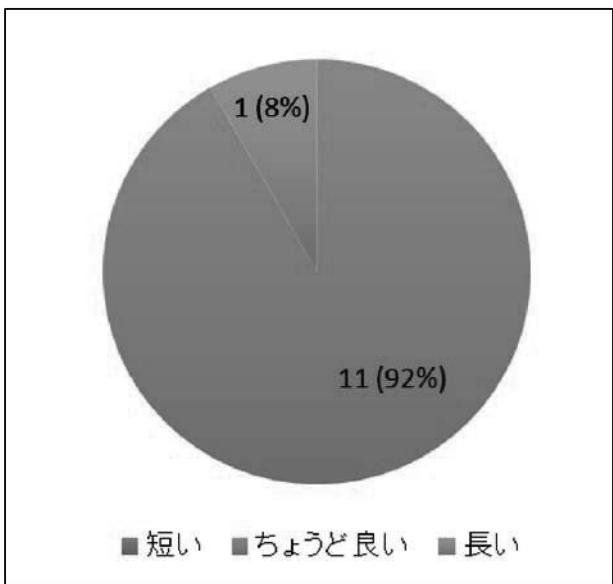
#### ⑤プレゼンテーション準備 (n=12)



- 少しバタバタだったが、長時間あれば OK というものではないので。ただ、自宅で作業された方もいたので、間に土日をはさむというのは良かったかもしれません。
- プrezen資料作りに、思ったより時間がかかりました。
- プrezenの準備期間が、あと一日程度あっても良かったと思います。
- もうすこし準備時間が欲しかったです。
- 午前中では決して終わらないので、事前にその旨（長引くかもしれない）を明記しておくほうがベターだと思いました。

- 考えを練る時間が少なく、とにかく間に合わせでプレゼンテーションを作ることが優先になり、もっと内容を濃くしたかったという心残りが残った。
- 9月5、8日とも夕方4時まで作業がかかりました。
- なるべく急いだつもりでも、用意されていた時間ではとても足りないと感じた。時間後に各自の予定を入れていたため残っての作業はできない人が出てしまい、情報の共有が難しくなったり負担の偏りができてしまった。

#### ⑥プレゼンテーション当日 (n=12)

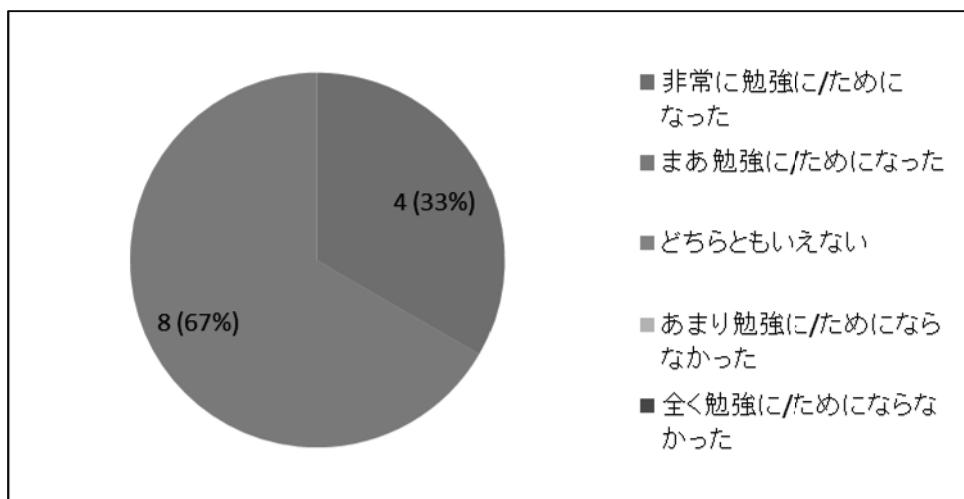


- 他のチームの内容も、それぞれ違っていて、面白かったと思います。

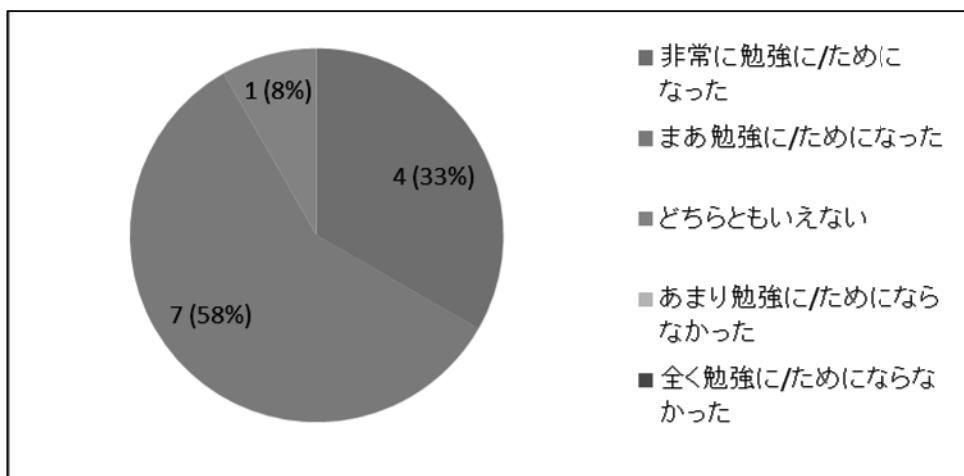
## 2) セルフリーダーシップ・プログラムの内容に対する満足感

### 第1日目

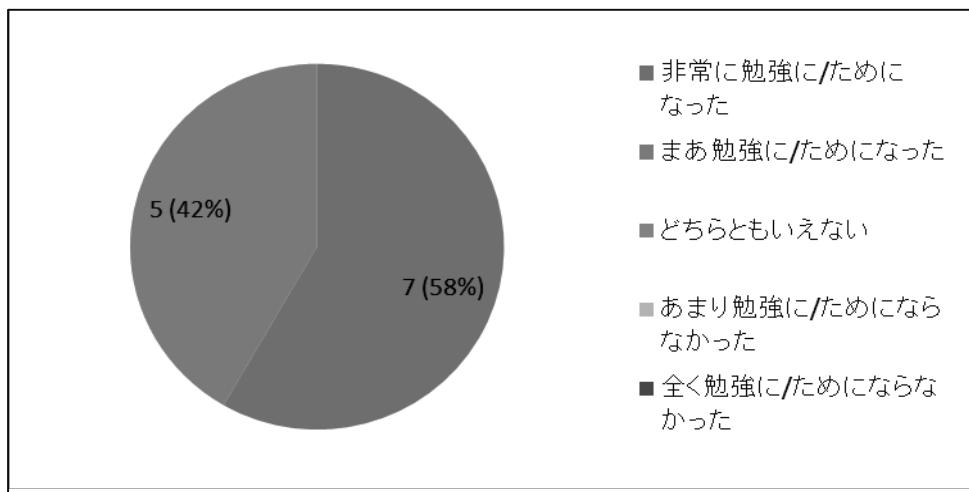
西友の概要、ダイバーシティ、女性活用の取り組みの紹介 (n=12)



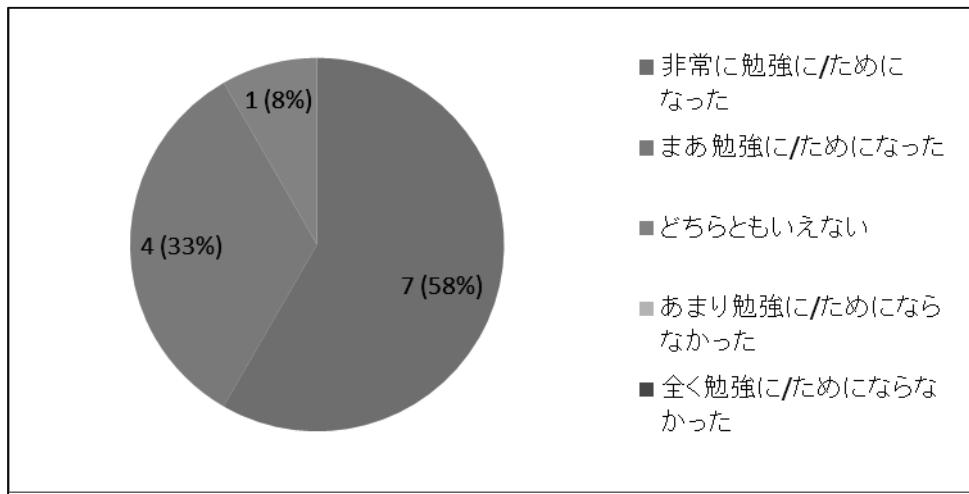
スーパー・マーケットビジネスの概要説明 (n=12)



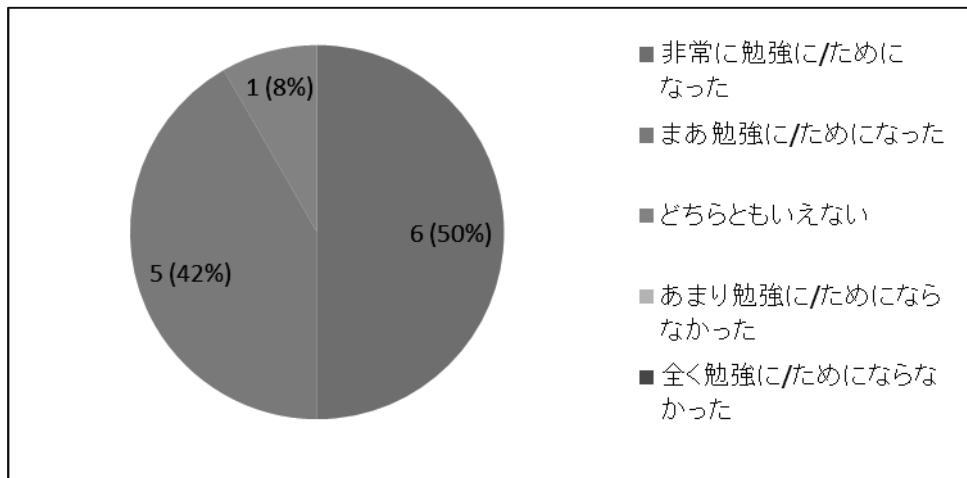
第2日目：三郷物流センター見学 (n=12)



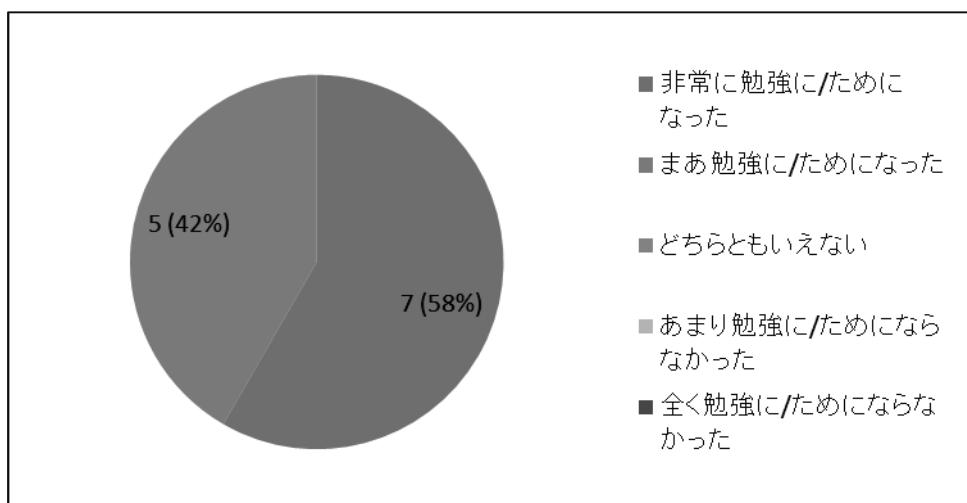
若菜工場見学 (n=12)



第3日目  
西友店舗見学 (n=12)

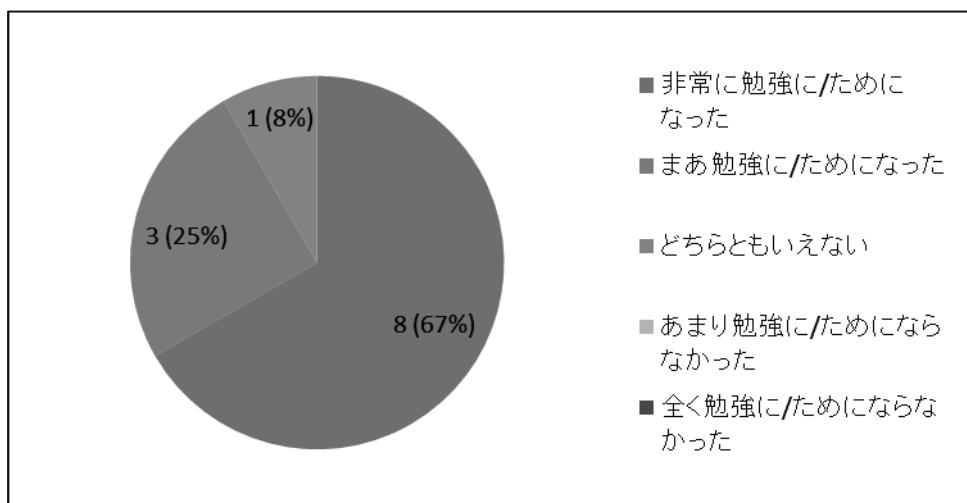


第4日目  
提案準備（プレゼンテーション作成）(n=12)



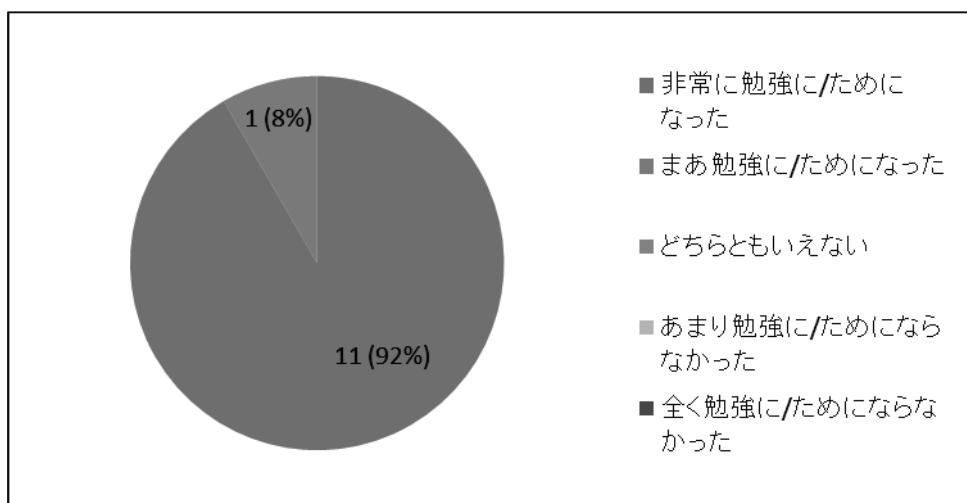
## 第5日目

提案準備（プレゼンテーション練習）（n=12）



## 第6日目

西友経営チームに対するプレゼンテーション（n=12）



### 3) プログラムの内容について～自由回答

- 1つのテーマをグループワークで追及することが、異なる考え方との共同作業を深くできて、充実感がありました。プレゼンテーションも、それぞれ視点が違い、ためになりました。西友の女性店長さん、社長さんたちは、たたき上げ、家庭の両立の難しさ等があっても、仕事が好きで、あるいは、上昇志向で頑張っているのが、伝わってきました。
- 今まで小売と言えば販売の部分を知っているぐらいでしたが、今回のプログラムに参加することで、個人では行くことのできないような物流センターや食品工場、お店の裏側を見聞きすることができ、大変貴重な経験ができました。スーパーとひと口に言っても様々な人が様々な仕事をすることで成り立っていることを実感しました。また、多くの方々の前でプレゼンテーションをするという初めての経験の中で、自分では気づかなかった様々な観点から講評を頂くことができ、自分を知る機会にもなったと思います。このプログラムが今後も継続され、また、1社の企業に限らず多くの協力があればより良いと思います。とても助けになるプログラムなので、来年も続けて下さい。好評を得ることは間違いないと思います。
- 内容が一つ一つ充実し、盛りだくさんすぎて、少し足かけぎみだったと思いました。プレゼン作成と練習の時間がもう少し欲しかったです。
- 貴重なプログラムを実施してくださり、ありがとうございました。工場や物流センターの見学を考えると6日間という日程は必要かと思いますが、もう少し短い日程であれば、もう少し多くの方が参加できたのではないかと思いました。西友の皆様が、皆、リカレント生を迎えて、多くのことをお話しして下さったことに感動しました。
- とても充実したプログラムに参加させて頂き、ありがとうございました。普段勉強しているリカレントの授業とかなりのギャップがありましたが、小売業全体への理解も深まり、また西友アソシエイトの方々の仕事への熱い思いに触れることができました。普段の何げない買い物が、幾多の過程と大勢の人たちの手によって支えられていることを深く実感しました。そして、どんな小さな仕事でも、穴を開けることはできないということ

とを、皮膚感覚で感じ取れたと思います。エグゼクティブの皆様の前でプレゼンテーションをしたことは、今後の宝物になると思います。

- 密度の濃い6日間でした。休めないというプレッシャーがありましたが、家庭での病人発生などのハプニングもなく無事すべてのプログラムに参加できてよかったです。
- 5日目のプレゼンテーションの練習の後の、他の方々からの意見の吸い上げにもっと時間をとれたら良いと思いました。また、直接だと言いにくいこともありますので、紙に書いて渡すという方法もあると思います。今回はその時間をあまりとれなかつたので、プレゼンの内容そのものにさらに検討の余地があるにもかかわらず、改善に至れなかつたグループもあったと思いました。実際、他の方からの指摘は全て、大変参考になるものでした。
- 質疑応答の祭などに発言に積極的な人と消極的な人に分かれてしまっていたので、消極的な人の本当は持っているはずの疑問や意見を吸い上げられるよう、その場での質疑応答以外に、あらかじめ西友側参加者への質問を募集しておく等あれば良かったかもしれません。
- アソシエイトの皆様との対話の機会が何度かありましたが、キャリアや仕事の経験談よりもプレゼンテーションに向けたシステム面の質問が多く、勿体ないと感じた。
- 西友の皆様、研究所、大学の先生方とも達成感を分かち合えたと思うので、終了後そのまま解散してしまうのは少し寂しく感じた。プログラムを完了して、あらためてリラックスした気持ちで交流できる打ち上げのような場があれば良かったと思う。
- これまで興味のなかった分野について勉強するチャンスを頂き、今後の職選びに対して違った角度から考える良い機会となりました。プレゼンというこれまでした事のない経験を通して、仕事の楽しさ厳しさを（少しですが）感じる事が出来、とても有意義な一週間でした。

#### 4) 小売業・スーパーマーケットビジネスに対する印象の変化

- 見学に行った際のバスの車内でいろいろおたずねして、小売業界は寡占の進んでいない分野とお聞きしました。確かに全国各地域に地元スーパーがありますが、そうは言つても大手スーパーで 50%程度は占めているのではないかと思っていたので、かなり意外でした。
- 参加前より在庫管理、商品発注、誤配について、難しいと思っていましたが、小売業の複雑なしくみが少しあわかった気がします。天候、交通事情、消費者の志向、たまたま近隣で行われるイベント等にも左右されることを考えると、日々の売り上げに振り回されそうになりますが、その積み重ねと計画性、異なるセクションとの連携が大切と思いました。
- 小売業は全く未経験の分野でしたので、日頃何げなく買い物をしているスーパーマーケットがいかにして運営されているのかを実際に見せて頂き、新しい気持ちで毎日スーパー通いしています。最初の執行役員の講演で、チェックカードさんとして働いているアソシエイトさんは実はすごいんだ、という話はインパクトがありました。また、物流センター若菜さん、店舗の方皆さんのが情熱をもって商品を店頭に送り出している事を知り、西友さんファンになりましたし、プログラムの最初の、小売はライフラインの一つであるというお話を納得できました。その重要さを実感しております。
- 小売業について多少の知識はあったものの、実際に製造から販売までの流れを目で見ることで、1つの商品に多くの人の手がかけられ、様々な思いが込められていることを実感しました。
- 参加後はとても身近に感じた。ダイナミックなビジネスだと思った。
- 同業他社で働いていましたので、よくわかっていることもありました。タスクの振り分け、スケジューラーの活用で無駄のない働き方を目指していらっしゃったことがとても印象に残りました。従業員のことを考えて下さる会社は、辞める人が少ないと思いました。
- スーパーマーケット業界はきっと大変だろうという、ぼんやりした印象は持っていました。

したが、現場を拝見することで、思っていた以上に大変だと思いました。しかし、日々、あたりまえのように店頭で手にしている品物が、多くの人々の手やアイディア、努力の結果、いつも店の陳列棚に並び、人々の暮らしを支えていることを知ることができました。また、女性が活躍できる場面が非常に大きい業界であると思いました。

- “品出し”が“レジ業務”と同じくらい大切とされていることを知りました。商品を欠品させてはならないという当たり前のことの守るため、あの大きな物流センターがあり、そこで働く人々がいるのだと気づかされました。小売業は、（中でもスーパーは）私にとってあまりに身近な存在、まるで家族のようなものだと思います。故にビジネスとして、企業として見たことがなかったのですが、今回のプログラム後は、企業としての努力や成長、という視点で捉えられるようになりました。
- 物流システムの機械化、一括管理による効率化によって低価格の商品の提供を可能にし、会社の競争力を高めていることが見学によってわかりました。小売りにとって物流が、いかに大事かをプログラム参加後、実感させられました。
- パートから正社員になることができる人事システムなど、努力次第でステップアップできるようになっていて、人材を育成しモチベーションを大切にしていることがわかりました。
- 何げなく毎日買っている1つ1つのものに多くの従業員の方々がかかわり、私たちの手元に届けられていることを実際見ることにより、小売業の世の中における重大な役割を感じました。
- 小売業、スーパーマーケットビジネスの基本は「人」であると実感しました。物流センター、お弁当広場、店舗で単純作業を黙々とこなす人たちに支えられているビジネスであり、そうした末端の従業員のモチベーションをいかに上げ、良い仕事をしてもらうためには、マネージメントを司る立場の人の意識の持ち様をよく考えることが重要と感じました。
- 前職は小売業でしたが、出産・育児を経て復帰した女性の先輩がほとんどおらず、将来的に自分が子供を持った場合に働き続けるのは難しいと思い、他業種への転職を目指

して退職しました。しかし、このプログラムに参加したことで、女性が働き続けキャリアを積むことを積極的に推進している企業があることが分かり、再び小売業を就職先に選ぶことも検討したいと思うようになりました。

- 「厳しい業界だな」という思いを強くした。効率化をすすめ、コスト削減をすすめていくのは、消費者にとって有益だが、ギチギチになりすぎても、消費者は離れていくような気がして、経営の難しさを感じた。

#### 5) セルフリーダーシップ・プログラムに参加した感想

- 大勢の人々の前で話をする、との体験自体、大人になってからは初めてでしたので良い経験になりました。また、西友の社員の皆さんにも、実にたくさんのことやさしく教えていただき、大変、感謝しております。
- 貴重な機会を与えていただき、どうも有難うございました。女性が7~8割を占める職場で、家庭との両立あるいは、仕事優先とさまざまな方がいらっしゃることが印象的でした。日本はまだ女性の管理職が少なくて、スティーブさんも恥ずかしいとおっしゃっていましたが、パートさんを含めた勉強会にて、自らをキャリアアップする努力を続けている等、それが実を結んでいってほしいと願っています。若菜の託児ルームは、工場だからできるとのことでしたが、同じ建物内に託児できるのは画期的ですし、他の企業でも実現したら、女性が働けるチャンスは広がると思います。
- このプログラムは私にとって非常に有益でした。ビジネスの最前線の場を見せていただき、ふれる事により全てが“気づき”の場でした。これまで、10年程のブランクのある私にとって、ビジネスのスピード感、仕事への思い入れ、空気感、知識など、自分には何が足りないのかを知る事ができましたし、今後仕事をする上でそれらを考えるとても良いきっかけになったと思っています。この機会を与えて下さった、榎原さんはじめ現代女性キャリア研究所の皆様、リカレント教育課程の皆様、西友の皆様全員に感謝いたします。
- 自信が生まれた。働く意欲が湧いた。

- プレゼンテーションの仕方は大変勉強になりました。相手に自分の意図を誤解なく伝えるのは大変難しいことだとわかりました。
- 当初は参加することをためらったのですが、思い切って参加してみて本当に良かったと考えています。何事も偏見を持たず、よい機会と考え、チャレンジする事の大切さを実感しました。プレゼンの準備をグループで行った事も、普段のリカレントの授業とは違い、他の方の意見や考えを尊重しつつも、自分の考えを納得してもらうにはどうしたらよいか、といった事を考えるよい機会でした。（普段の授業でもこのような授業があるとよいのではないかと思います。）自分にはまだまだそういった部分が大きく欠けていることを改めて認識しました。
- とてもボリュームのあるプログラムでしたので、参加するか否かで、まず迷いました。しかし、こわごわ参加してみると、次々に有意義な体験の連続でした。疲れはしました（すみません……）が、参加して本当に良かったです。グループメンバーの方々とも、普段はお友達としての会話しかしたことが無かったのに、プログラム中は“言葉が長い”“それはやめよう”等、厳しい意見を言い合ったり、お互いに切磋琢磨することが出来ました。座学と違い、実際に足を運び、体験し、自分の言葉で語る体験は、記憶の隅々まで印象に残り、今後も思い出していくことでしょう。この充実したプログラムを一から構築するのは、本当に大変だったと思います。ご尽力とご支援に感謝いたします。
- 実際の会社の現場を見学し、社員の方々から、いろいろお話を伺いできて、なかなかできない貴重な体験をさせていただいたことを、感謝致します。何人の役員、マネージャの方々のお話、物流センター、若菜、店舗各セクションの担当者のお話、大変勉強になりました。皆さん、バイタリティーにあふれ、親しみやすく西友の社風を感じることができました。班にわかつて行ったプレゼンテーション作りも、短期間での作成は大変でしたが楽しかったです。今後の就職活動に活かしていきたいと思います。
- 全くのボランティアにもかかわらず、熱心にご指導下さった西友の社員の方々にお礼を申し上げます。プレゼンテーションの場もあたたかい雰囲気で、講評も良かった点、改善すべき点をバランスよくご提示いただき、たいへん参考になりました。素人の考え方

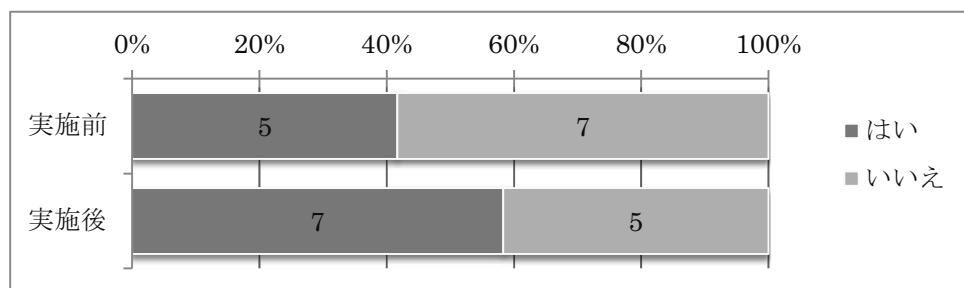
を会社のマネジメントの方々に提示するという貴重な体験ができ、セルフリーダーシップ・プログラムに参加し、自分自身に自信を持つことができました。

- 正直とてもハードでしたが、密度の濃い6日間でした。人生で初のプレゼンテーションをやりとげた事は自信につながり、経営陣の皆様やアソシエイトの皆様との交流は、将来を考える上で大変参考になりました。特に、プレゼンテーションの講評はじめ経営陣の皆様との対話はとてもエキサイティングで熱量のあるものでした。不慣れな私たちのためにやさしく講評下さったのかと思いますが、時々飛んでくる鋭い質問、厳しい指摘はビジネスや経営の視点を実感しました。このプログラムを通して、自分を含め、他の参加者の皆さんも大きく成長できたのではないかと思います。経験したこと、学んだことを忘れずに、今後の糧にしたいと思います。
- 日本で女性リーダーとして働くことの大変さ、厳しさの一端が垣間みえて、今後どのように働いていくのかを真剣に考える良い機会となつた。

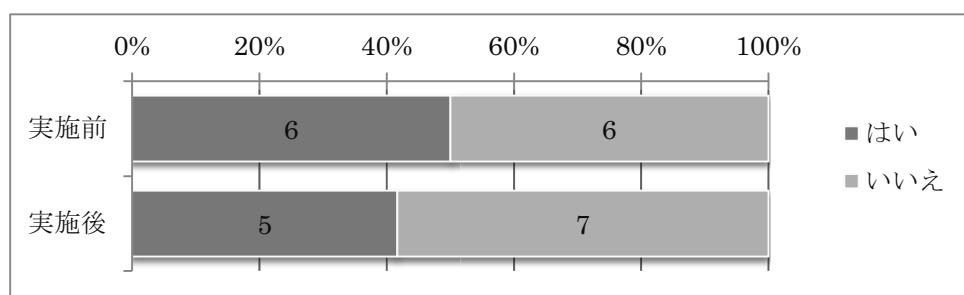
## 6) プログラム参加前後での心理的変化 (n=12)

### ①自己効力感

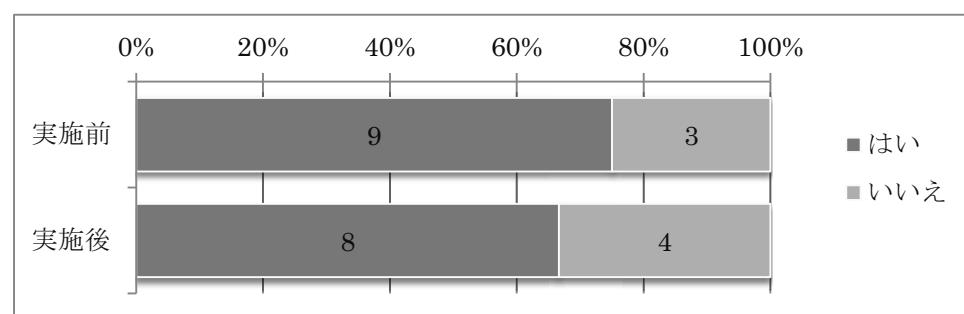
1.何か仕事をするときは、自信を持ってやるほうである



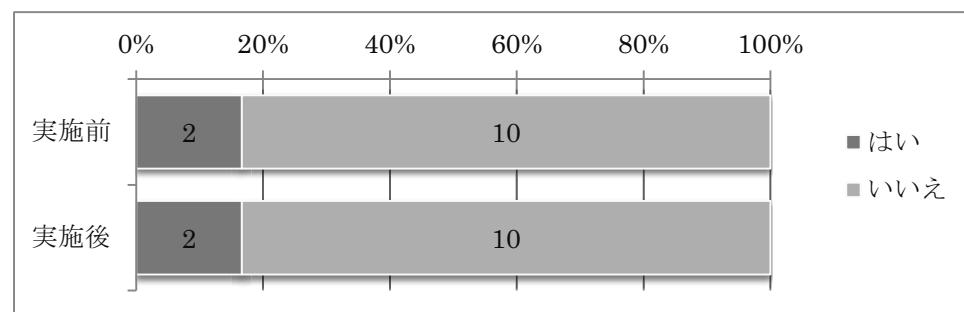
2.過去に犯した失敗や嫌な経験を思い出して、暗い気持ちになることがよくある



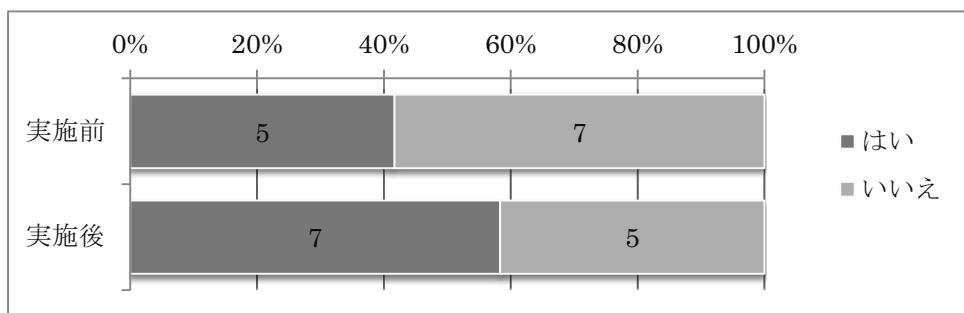
3.友人より優れた能力がある



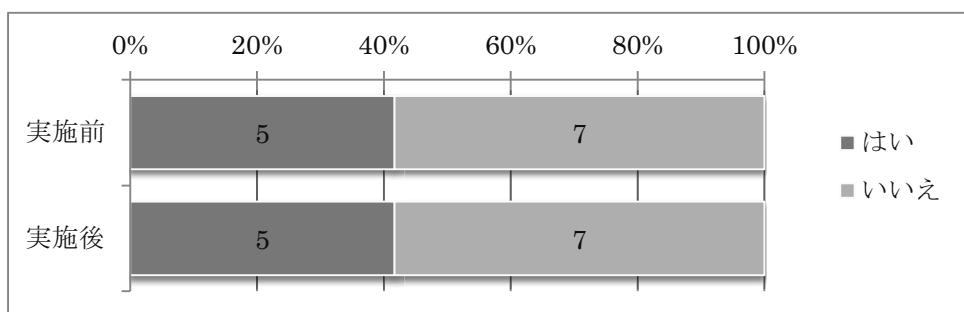
4.仕事を終えた後、失敗したと感じることのほうが多い



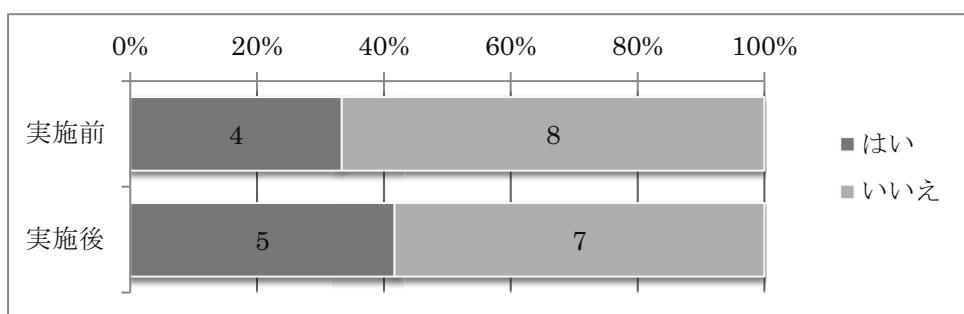
5.人と比べて心配性なほうである



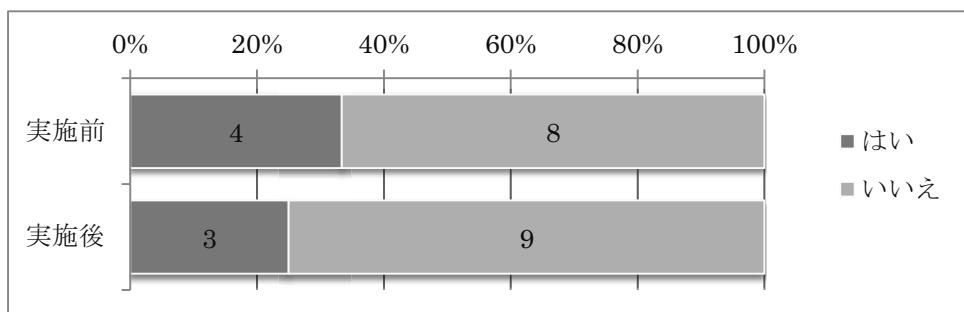
6.何かを決めるとき、迷わず决定するほうである



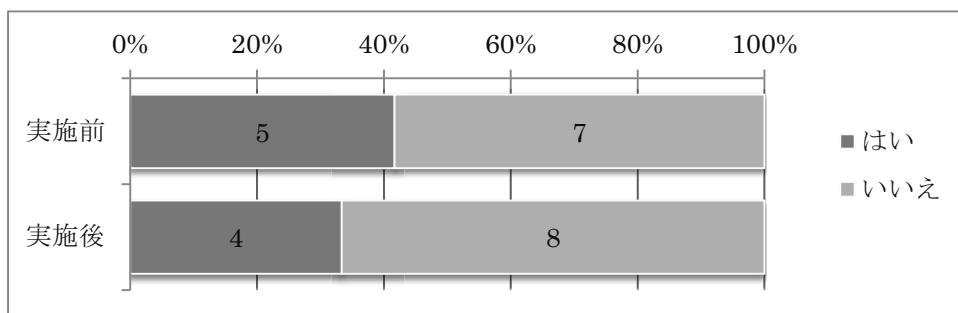
7.何かをするとき、うまくゆかないのではないかと不安になることが多い



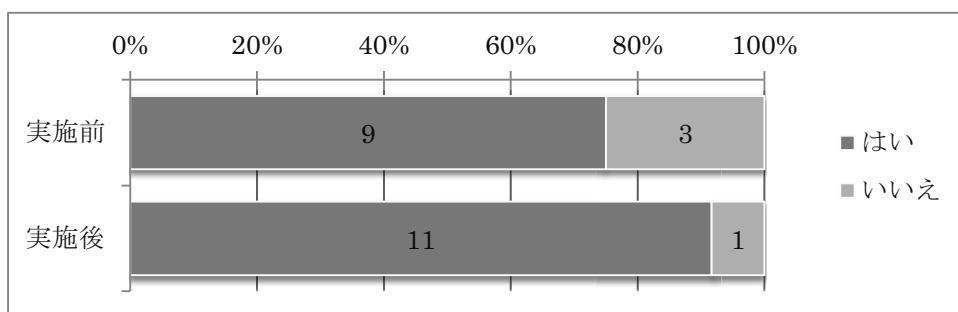
8.ひっこみじあんなほうだと思う



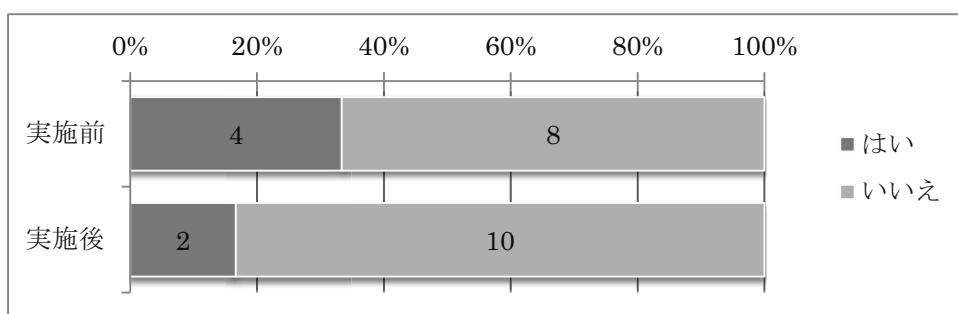
9.人より記憶力がよいほうである



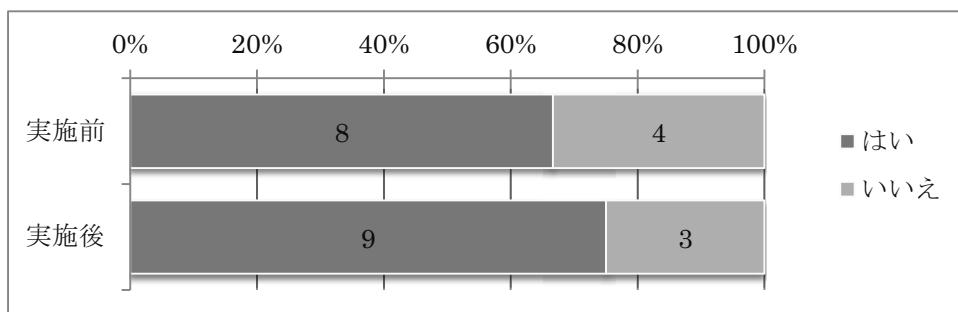
10.結果の見通しがつかない仕事でも、積極的に取り組んでゆくほうだと思う



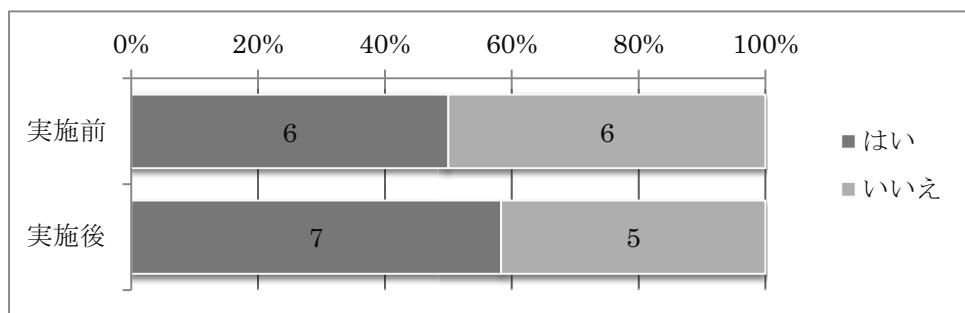
11.どうやつたらよいか決心がつかずに仕事にとりかかれないことがよくある



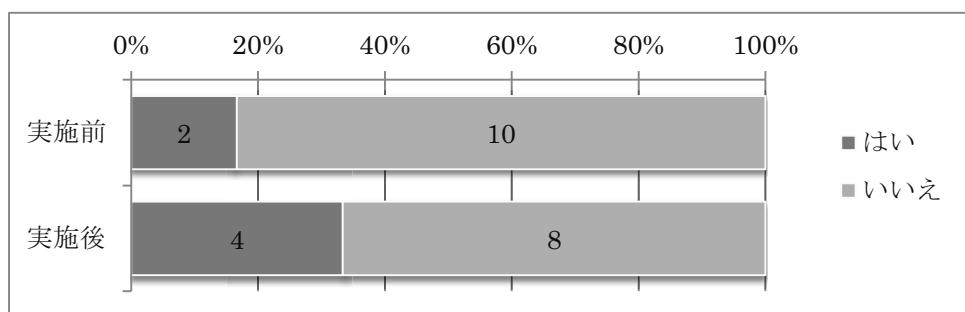
12.友人よりも特に優れた知識を持っている分野がある



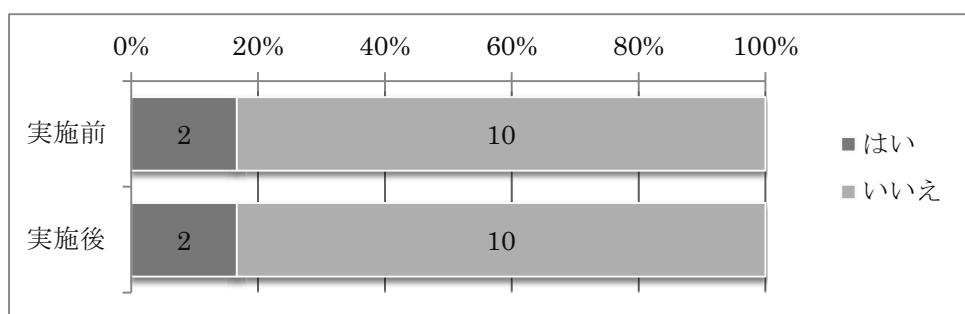
13. どんなことでも積極的にこなすほうである



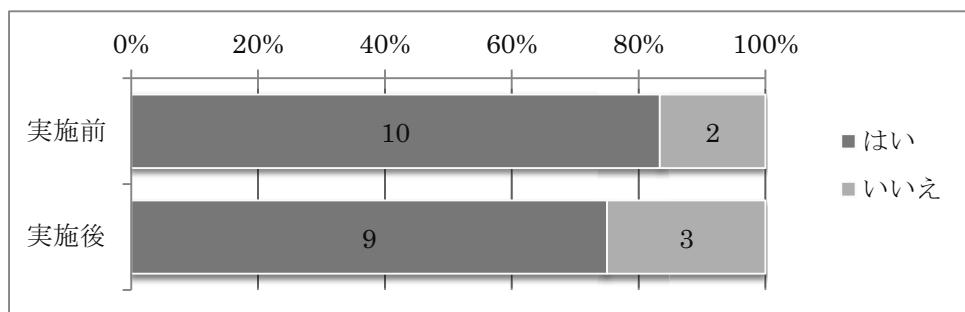
14. 小さな失敗でも人よりずっと気にするほうである



15. 積極的に活動するのは苦手なほうである



16. 世の中に貢献できる力があると思う



## ②心理的 Well-being (プログラム実施前後の平均値) (n=12)

プログラム参加の効果を確認するために、参加前後での自己効力感と心理的 well-being について尺度を用いて測定した。自己効力感とは、自分がある状況において必要な行動をうまく遂行できるかという可能性の認知を指す。心理的 well-being とは、人格的成長、自己受容、積極的な他者などからなる人生全般にわたるポジティブな心理的機能のことである。今回のプログラムで、他者と協働をしながら与えられた課題に対する提案を行う、といった作業を通して、出来るという感覚や成長を実感し、自己効力感や心理的 well-being が向上するのではないかと考えた。

		実施前		実施後	
		mean	± SD	mean	± SD
<b>人格的成長</b>					
1	これからも私はいろいろな面で成長し続けたいと思う	5.08	± 0.79	5.08	± 0.67
2	新しいことに挑戦して、新たな自分を発見するのは楽しい	5.08	± 0.67	5.00	± 0.74
3	私にはもう新しい経験や知識は必要ないと思う	5.67	± 0.65	5.17	± 1.11
4	これ以上自分自身を高めることはできないと思う	5.08	± 1.00	4.83	± 1.27
5	自分らしさや個性を伸ばすために、新たなことに挑戦することは重要だと思う	5.50	± 0.67	5.25	± 0.87
6	私は新しい経験を積み重ねるのが楽しみである	5.08	± 0.79	4.92	± 0.79
7	私の能力は、もう限界だと思う	4.50	± 1.17	3.67	± 1.30
8	私の人生は、学んだり、変化したり、成長したりする連続した過程である	4.67	± 0.98	4.58	± 0.90
<b>人生における目的</b>					
9	私は現在、目的なしにさまよっているような気がする	3.33	± 1.61	3.42	± 0.51
10	私の人生にはほとんど目的がなく、進むべき道を見いだせない	4.33	± 1.15	3.92	± 1.16
11	本当に自分のやりたいことが何なのか、見いだせない	3.75	± 0.97	3.58	± 1.00
12	自分がどんな人生を送りたいのか、はっきりしている	3.75	± 0.87	3.67	± 0.89
13	私はいつも生きる目標を持ち続けている	3.83	± 0.94	3.50	± 1.00
14	私は自分が生きていることの意味を見いだせない	4.50	± 0.67	4.82	± 0.72
15	私の人生は退屈で、興味がわからない	4.75	± 0.87	4.08	± 1.24
16	私は自分の将来に、夢を持っている	4.42	± 0.79	4.08	± 0.79

		実施前			実施後		
		mean	±	SD	mean	±	SD
<b>自律性</b>							
17	私は何かをきめるとき、世間からどう見られているかとても気になる	3.67	±	0.98	3.83	±	0.83
18	重要なことを決めるとき、他の人の判断に頼る	4.42	±	0.67	4.46	±	0.78
19	自分の生き方を考えるとき、人の意見に左右されやすい	4.17	±	0.58	3.92	±	0.90
20	自分の考え方は、その時の状況や他の人の意見によって左右されがちである	3.67	±	0.65	3.75	±	0.75
21	何かを判断するとき、社会的な評価よりも自分の価値観を優先する	4.00	±	0.60	4.17	±	0.58
22	私は、自分の行動は自分で決める	4.50	±	0.52	4.25	±	0.75
23	自分の行動を決定するとき、社会的に認められるかどうかをまず考える	3.58	±	1.16	3.67	±	0.65
24	習慣にとらわれず、自分自身の考えに基づいて行動している	3.67	±	0.49	4.08	±	0.29
<b>自己受容</b>							
25	私は自分の生き方や性格をそのまま受け入れることができる	3.83	±	0.72	3.83	±	0.58
26	私は自分自身が好きである	3.67	±	0.65	4.00	±	0.95
27	私は自分の性格についてよく悩むことがある	3.17	±	1.19	3.42	±	0.79
28	良い面も悪い面も含め自分自身のありのままの姿を受け入れることができる	3.92	±	0.79	3.83	±	0.58
29	私は今とは異なる自分になりたいとよく思う	3.00	±	0.85	3.25	±	0.75
30	私はこれまでの人生において成し遂げてきたことに、満足している	3.33	±	0.49	3.42	±	0.67
31	私は自分に対して肯定的である	3.75	±	0.87	3.75	±	0.62

		実施前		実施後	
		mean	± SD	mean	± SD
<b>環境制御力</b>					
32	私は、うまく周囲の環境に適応して、自分を生かすことができる	4.17	± 0.94	3.92	± 0.29
33	状況をよりよくするために、周りに柔軟に対応することができる	4.08	± 0.79	4.17	± 0.39
34	自分の身に降りかかってきた悪いことを、自分の力でうまく切り抜けることができる	3.83	± 0.58	3.67	± 0.49
35	自分の周りで起こった問題に、柔軟に対応することができる	3.83	± 0.39	4.00	± 0.00
36	私の今の立場は、様々な状況に折り合いを付けながら、自分で作り上げたものである	4.42	± 0.79	4.25	± 0.62
37	私は、周囲の状況にうまく折り合いをつけながら、自分らしく生きていると思う	3.67	± 0.78	4.00	± 0.74
<b>積極的な他者関係</b>					
38	私は、あたたかく信頼できる友人関係を築いている	4.08	± 0.90	4.42	± 0.79
39	他者との密接な関係を維持するのは、面倒くさいことだと思う	3.83	± 0.58	3.92	± 0.79
40	私はこれまでに、あまり信頼できる人間関係を築いてこなかった	4.08	± 1.16	4.17	± 0.94
41	私は他者といると、愛情や親密さを感じる	3.92	± 0.29	3.92	± 0.29
42	私は他者に強く共感できる	3.75	± 0.75	3.50	± 0.67
43	自分の時間を他者と共有するのはうれしいことだと思う	4.25	± 0.62	4.00	± 0.60

測定の結果については、第2回（2015年度実施）プロジェクトの結果と併せて示す。

#### (4) プログラムの評価・まとめ

##### 1) 本プログラムの3つの目的

① マネジメントに対する提案を作成する一連の作業を通し、職場で働く感覚を取り戻してもらう

② 働く女性たちから仕事に対する想いや、仕事と家庭の両立についての話を聞くことで、再就職に対する具体的なイメージを得る

③ 討議や提案作成、プレゼンテーションなどのビジネススキルを学ぶ

これらが達成されたのかを評価するために、プログラム参加者に対してインタビュー調査を行った。プログラムの参加者 13 名のうち、インタビューに同意した 12 人を対象に 2014 年 10 月～2015 年 2 月に実施した。

**目的 1 マネジメントに対する提案を作成する一連の作業を通し、職場で働く感覚を取り戻してもらう**

本プログラムに参加しビジネスの現場に出ることによって、働くことへのリアルな感覚と働く者の視点を取り戻すことの重要性に気付いたこと、これらは座学では得られないということ、また、再び働くことを強く意識することで、家族への接し方も変わったことなどが語られた。

“普段は講義ですから、もちろん資格修得やスキルアップのための勉強ですけれども、そこまでのリアルな感覚はなかったです。やはりビジネスの現場に出ていくことがいかに重要なと思いました。”

“普段は勉強がほとんどで、いい成績を取るのが目標なのか、と家族に言われたところでした。今回のプログラムは、仕事をする疑似体験みたいなものだったと思います。”

“普段の授業の中で先生とやり取りするだけでは足りないなと思います。セルフリーダーシップ・プログラムの参加経験がなければ、それに気づくことはできなかつたと思います。”

“いろいろなことに気付かされました。現場の空気感や、仕事をするということはどのようなことなのか等々に気付かされましたし、あとはトップマネジメントの方のお話を聞けたのもよかったです。企業というのはやはり利益を追求していくのですが、このようなポリシーを持っている、生産のポリシーというものが本当によくわかりました。会社はそうやって進んで行くのだなということをまた気付かされたという面ではいい経験だったと思います。”

“意識とか、まわりの情報の進歩というか、昔はのんびり働いていたのが、本当に今はキュッとしていました。特に西友さんだからかもしれないですけれど、とにかく効率を上げてみたいな感じで、働き方がどんどんキチキチになってきていると思いました。効率、効率と言いながらも、最後は人間、人材だというのを、西友さん、ウォルマートは強くおっしゃっていましたし、これからはコミュニケーション能力が、ますます大事になるというのは本当に強く思いました。”

“西友さんの方がいろいろフィードバックしてくれるときに、働く側の視点を忘れ始めていると気づかされました。消費者側としての視点が多くなり始めている自分に気が付きました。以前、自分がフルタイムで働いているときは、何に関しても働く側の視点が多かったです、その感覚を忘れ始めました。”

“私は長年専業主婦をやってきて、息子が一人いますけれども、西友さんの経験をさせていただく中で、働くということを念頭に置いて普段の生活をしてみると、今まで息子に、何かするとすぐ反射的に叱ったりしていたのが、「最終的にできるようになってしまわないと困るから、少し我慢してこういう言い方をしてみようかな」というふうにも思えて、意外とこういった考えもできるのかなというのが自分でも驚きました。こちらも忙しいですから、前みたいに叱るエネルギーもないわけです。でも最終目標は彼が早く起きて自分で身仕度をきちんと整えるとか、そういうことなので、一言だけ「何時までだよね」と言ってやってもらう。こちらも働くことが頭に半分あるともうかまっていられないというのがありますので、そういうやり方で子どもにもやってもらるべきだなということも気付きました。”

## 目的2 働く女性たちから仕事に対する想いや、仕事と家庭の両立についての話を聞くことで、再就職に対する具体的なイメージを得る

女性店長や女性社員からの話を通し、仕事に対するモチベーションをどのように維持するのか、困難な時にそれをどのように乗り越えるのかなど、様々なヒントを得たこと、再就職にあたり、様々な職種をより広く見てみようと意識が変化したことが語られた。

“現場の、特に女性の方の話はとてもよかったです。執行役員のお話が（初日に）聞けましたが、店長さんの皆さんのお話がとても興味深かったです。みなさんがどのようにキャリアを積んで、店長や副店長にまで上り詰めたのか、苦労話を交えながらも赤裸々に話してくださって、とてもよかったです。”

“同じレジ業務をやるにしても、いやいややっている人と、お客様を自分のレジに並ばせたいと思っている人の差はなんだろう、と思いました。仕事に対する向かい方はそれぞれに違うので、どうやって自分のモチベーションを上げて日々仕事をしていくのか、ということを考えさせられました。”

“どの業界でも一緒なのかもしれないですが、本当にやる気のある方は一生懸命で、命をかけてではないですが、そのように取り組んでいらっしゃる方が上に行くのだなという思いは強くなりました。特に4人の女性の店長さんの経歴がいろいろ違っていて、お話しもおもしろかったですし、いろいろなバックグラウンドの中でいろいろな働き方があるのだなと、自分はどれにあてはまるのか考えたときに、すごく努力しないと、と思いました。”

“大量に仕入れて、物流も自社で行い、できるだけコストを抑えるということはどの会社でもやっていることで、教科書的にわかっていても、実際現場に行って、オートメーションで人間がいるくらいの機会がほとんどの作業をやっているのを見ると、実感として理解できました。人間がやることは、(機械ではできないような)クリエイティブなことと管理することだと感じました。”

“今までの自分のキャリアとは、全く違うことをした方がいいのではないか、その方が、広がりがあるのではないかと思いました。例えば、西友さんとかもそうだと思うのですけれども、事務よりも、他の職種の方が何か先があるというか。自分が成長できるのはそういうところなのかと思うようになりました。”

### 目的3 討議や提案作成、プレゼンテーションなどのビジネススキルを学ぶ

ビジネススキルを学ぶことについては、議論を良い雰囲気で進めながら異なる意見を一つにまとめていくことの難しさ（「グループ討議」）、自分自身が問題意識を持つことの大切さ（「提案の作成」）、プレゼンテーションに対する他者からのフィードバックが非常に勉強になったこと（「プレゼンテーション」）、限られた時間の中で質の高い提案を行うことの難しさを実感したこと（「タイムマネジメント」）の大きく4点があげられた。

以下は、あげられた各点についての発言内容である。

**グループ討議について**：異なる意見をまとめて一つの提案を作ることのむずかしさ、意見をまとめる過程の中で、グループの雰囲気が悪くならないように言い方に配慮したこと、その経験が他の場面でも生かせていることが語られた。

“グループワークは、力加減や人との折衝の仕方が勉強になりますし、職場でも溶け込みやすくなると思います。熱心になるあまり和やかさが失われてしまいそうな場面もありましたが、雰囲気を盛り上げなきゃという人もいましたし、そういう面では勉強になりました。相手に対して同じような勢いで言いますと険悪になりますし、違う考え方もあることに気付いてほしいということを出すにはどうしたらいいのか、ブランクが長いとそういうところも鈍くなっていると思います。”

“3人でディスカッションして進めなければいけないところが結構大変でした。私たちはたまたま年代も近い3人でしたが、やはり考え方全然違いました。バックグラウンド

も違うし、意見は出るのですが、一つの方向にまとめるのに結構時間がかかりました。結論の落とし所がなかなか見えないので、結局時間で区切るしかありません。ただ、経験としてはすごく生きたと思います。その後、違う授業でそういう場面があつても、自信を持って自分の意見を言えるようになりました。”

“グループのメンバーを見渡すと、それぞれ得意分野、不得意分野があり、実際の職場もこういうものだと思いました。得意なところは出してもらえないといけないし、仕事というものは役割分担も自然かつ意図的にやっていかなくてはいけない、ということを思い出しました。“

**提案の作成について**：自分自身で問題意識を持たないと、提案の切り口を見つけることができないという気づきを得たことが語られた。

“何をプレゼンテーションしたらよいのか、テーマを見つけるのが大変でした。見学して見つかるというものではなく、話をする中で見つかった感じでした。テーマが見つかっても、自分の経験についての話はできても、それを提案に持っていく切り口が見いだせなかつたので、そういうのも難しかったです。”

“プレゼンテーションで何を提案したいのかを考えるのが、結構大変だなと思いました。工場見学など、いろいろなイベントがありましたが、何も考えないで行ってはいけないということが、よくわかりました。自分で、ある程度なんらかの思いを持ちながら見学したほうがよかったです。”

“プレゼンテーションの作成は、自分で問題を見つけなければなりません。そういう視点を持つことは、これまでの勉強の中でもやってきたように思っていましたが、実は意外にずっと受け身だったと感じました。そのような視点を持つことの大切さに気付くことが出来ました。”

**プレゼンテーションについて**：プレゼンテーションの練習で改善点を指摘されたことや、西友のマネジメントからのフィードバックが非常に勉強になったことが語られた。また、もっとお互いに改善点を指摘しあうことができたら、さらに良いプレゼンテーションになったのではないか、という反省も語られた。

“プレゼンテーションの事前練習がとても良かったです。最初は準備ができていなくて、まだ人前でプレゼンするのは早いのではないかと思ったのですが、あそこで先生と皆さんの前でプレゼンをして、直していただけたのはすごく良かった。その練習のときに他のチームのプレゼンを聞いていて、もうちょっと月つめられるのに、違う方向に行けるのに惜しい、と思うものもありました。他のチームについても、自分のチームについても、全体でもっとこういう方向がいいよ、と話し合えたら、もっと全体がレベルアップして、より質の高い提案ができたのではないかと思いました。”

“プレゼンテーションは、これから先いろいろな場面でやらなければならないでしょうが、そういうときに、自分が思うことを一方的に言うだけではダメだと分かりました。”

“いざ自分でプレゼンテーションをやってみると、話し方や所作もなっていないことが沢山あり、本当に素人だと思いました。”

“女性の取締役や、第一線で走ってきた人達から、私たちのプレゼンテーションはどのように見えているのか、とてもプレッシャーがありましたが、対等に聞いてくださいり、大変参考になるコメントをいただきました。”

タイムマネジメントについて：決められた時間の中で、何かを終わらせるという経験が久しぶりであり、タイムマネジメントが上手くできなかった、提案内容が浅くなってしまったということが語られた。限られた時間の中で質の高い提案を行うことの難しさを経験できたようである。

“学校に関しては、授業はありますけれども、自分のスケジュールでやるじゃないですか。このプログラムでは、スケジュールも全部、決まっているので、久々に大変でした。”

“課題を仕上げるための時間がうまく取れませんでした。企画をして形にした経験もありませんし、どのくらいの時間配分で、どの辺りまで、どのようにできていればいいのか、その進捗の加減がつかめませんでした。”

“時間が足りなかつたです。資料を作る時間がほとんどなくて、急いでやってしまったので、今思うと自分たちがやったのはちょっと浅かったというか、こんなものでいいのだろうか、っていうところはありました。”

以上の語りから、①マネジメントに対する提案を作成する一連の作業を通し、職場で働く感覚を取り戻してもらう、②働く女性たちから仕事に対する想いや、仕事と家庭の両立についての話を聞くことで、再就職に対する具体的なイメージを得る、③討議や提案作成、プレゼンテーションなどのビジネススキルを学ぶ、という本プログラムの3つの目的は概ね達成されたと評価できる。

## 2) まとめ

インタビューやアンケート調査から、以下の点が浮かび上がった。

- 多くの参加者から、現場感覚を取り戻す良い機会になったこと、離職期間が短い場合でもそうであることが指摘された。同時に、働く現実も突きつけられ、職場復帰するための覚悟のようなものを感じたようである。
- 現場で働く女性の話を聞くことによって、キャリアをどのように積んだらよいのか、どのような働き方があるのかなど、自分自身の参考になる話が聞けたことが語られた。
- グループでの議論では、お互いの意見の調整や、アドバイザーに対して失礼にならないように質問をするなど、実際の職場でも起こり得ることが体験できた、トップマネジメントに対するプレゼンテーションは緊張したが、非常に参考になるコメントを頂けたなど、困難を乗り越えながら、様々な糧を得ていた。
- 毎日一定の時間に集合して、夕方まで課題をこなすというスケジュールを経験することによって、職場に通うという疑似体験にもなったようである。
- 家族との関係にも変化が見られたという語りがあった。課題に取り組むことにより、家族との共通の話題が出来た、子どもの面倒を見る時間が少なくなった分、かえって子どもが自立的になったなど、ポジティブな効果が見られていた。

参加者のほとんどの人が、通常の講義形式の学びだけではなく、企業の現場に出ていくことが非常に大切であると実感したと語っていた。セルフリーダーシップ・プログラムの根本的な目的である「現場からの学び」がきわめて重要であることが確認できた。

## (5) 資 料





## 日本女子大学「現代女性キャリア研究所」「リカレント教育課程」・合同会社西友による、 女性の再就業のための体験型プログラムについて

日本女子大学 現代女性キャリア研究所とリカレント教育課程は、合同会社西友の協力を得て、女性の再就業のための体験型プログラム「セルフリーダーシップ・プログラム」を実施いたします。

本年9月からM字形カーブの解消を目指して「再就業を希望する女性たちがそれぞれの不安と向き合って、自分の課題を認識し、主体的に行動する力を習得する」ことを目的としたプログラムを行う予定です。

### 1. 概要

#### (1) プログラム内容

5日間のプログラムでは、企業の現場を見学し、現場の課題や取り組み、そこで働く女性たちの働き方やキャリアの現実を見聞きし、議論する機会を提供します。

最終日には、参加者全員が現場の課題を解決するための提案を行い、西友の経営幹部が採点評価を与えて「セルフリーダーシップ」に向けた具体的な助言をします。

#### (2) 目的

一連の作業を通じ「参加者が企業で働く現場感覚を取り戻し、再就業に向けて着実な一步を踏み出す」きっかけを作ります。

#### (3) 対象

本年度は本学「リカレント教育課程」(\*)受講生のみ。

次年度以降、プログラムの効果などを検証し、対象者の拡大を検討する予定。

\* 大学卒業後に就職しても、結婚・育児や進路変更などで離職した女性に1年間のキャリア教育を提供し、再就職を支援する本学のプログラム

#### (4) 協力元

本プログラムは、西友の協力を得て行います。同社は、米国ウォルマート・グループに属し、その経営方針にのっとって、女性の活躍推進に積極的に取り組んでいます。

### 2. 実施の背景

(1) 女性の活躍推進はわが国の重要課題の一つです。雇用労働者数の4割以上を女性が占めるようになり、働く女性は確実に増加していますが、いわゆる「M字形カーブ」はいまだに解消されていません。妊娠や出産を機に有業女性の約6割が無業に移行し、その多くが育児期を経て再就業を希望しているにもかかわらず、なかなか社会復帰に踏み切れずにいます。

(2) リカレント教育課程は、こうした女性を対象に、1年間(2学期)のキャリア教育を通して、高い技能・知識と働く自信・責任感を養い、再就業を支援しています。2007(平成19)年の発足以来、これまでに170人が課程を修了し、修了生の多くが社会で活躍しています。

(3) 本学「現代女性キャリア研究所」が行った調査において、女性たちが「自信のなさ」や「家庭と仕事の両立」など再就業に対するさまざまな不安を抱えていることが分かりました。こうしたことから、今回「セルフリーダーシップ・プログラム」を実施いたします。

お問い合わせ先：日本女子大学 現代女性キャリア研究所  
TEL : 03-5981-3380  
(月～金 10:00～16:00)  
\*本日(4月15日)は、18:00まで、ご対応可能です。

## 西友、日本女子大学と女性の再就業のための体験型プログラムで協働

2014.4.15 15:07

g+1 0

ツイート 0

おすすめ 0 チェック

～妊娠・出産を経て再就業を目指す女性のキャリア構築を支援します～

西友は、日本女子大学現代女性キャリア研究所(\*1)およびリカレント教育課程(\*2)が2014年9月に実施する女性の再就業のための体験型プログラム「セルフリーダーシップ・プログラム」を支援いたします。

現在、「女性の活躍推進」政策は、日本の成長戦略の柱の一つとして打ち出されており、企業における女性活用の取り組みは、更に活性化していくと思われます。西友ではこれまで、親会社であるウォルマート・ストアーズ・インクの方針に沿って、ダイバーシティ(多様性)の拡充施策の一環として女性の人財活用を推進してまいりました。全従業員のうち女性が約7割を占める西友では、店舗や物流センターの従業員を中心に「女性活性化プロジェクト」を実施。また、昨年より「女性が活躍する企業からの商品公募」キャンペーンを開始し、これまで、西友の社内を中心に実施していた女性活用の取り組みを、お取引先企業様まで拡大しました。

「セルフリーダーシップ・プログラム」は、これから再就業を目指す日本女子大学リカレント教育課程生を対象に、5日間のプログラムを通して、現場の課題や取り組みに関して議論する機会を提供するというものです。本プログラムでは、参加者にスーパーマーケットの売場や、その他施設を見学、また、そこで働く女性従業員たちの働き方やキャリアについて話を聞いていただき、小売業での女性のリーダーシップ機会について、理解を深めていただきます。最終日には参加者全員が現場の課題を解決するための提案を行い、西友の経営幹部がそれを評価します。こうした一連の作業を通して、参加者に企業で働く現場感覚を取り戻し、再就業に向けて具体的な一歩を踏み出すきっかけとしていただくことを目指します。

西友では、引き続き社内外において女性活用の取り組みを進め、女性がより活躍できる社会のために貢献して参ります。

\*1 日本女子大学現代女性キャリア研究所は、2008年の発足以来、現代の女性とキャリアを取り巻く諸問題を調査研究し、その成果を、本学の教育のみならず、広く社会へ発信して、女性がその持てる能力を全面的に発揮できる社会の実現に貢献することを目指しています。

\*2 日本女子大学リカレント教育課程は、大学卒業後に就職しても育児や進路変更などで離職した女性に1年間(2学期)のキャリア教育を通して、高い技能・知識と働く自信・責任感を養い、再就職を支援するものです。2007年の発足以来、これまで170人が課程を修了し、修了生の多くが社会で活躍しています。

《本件に関する一般の方からのお問い合わせ先》

西友フリーダイヤル 0120-360-373

関連リンク

西友

<http://www.seiyu.co.jp/>

## 西友、日本女子大学と女性の再就業のための体験型プログラムで協働

2014年4月15日

(Digital PR Platform) - ~妊娠・出産を経て再就業を目指す女性のキャリア構築を支援します~

西友は、日本女子大学現代女性キャリア研究所(\*1)およびリカレント教育課程(\*2)が2014年9月に実施する女性の再就業のための体験型プログラム「セルフリーダーシップ・プログラム」を支援いたします。

現在、「女性の活躍推進」政策は、日本の成長戦略の柱の一つとして打ち出されており、企業における女性活用の取り組みは、更に活性化していくと思われます。西友ではこれまで、親会社であるウォルマート・ストアーズ・インクの方針に沿って、ダイバーシティ(多様性)の拡充施策の一環として女性の人財活用を推進してまいりました。全従業員のうち女性が約7割を占める西友では、店舗や物流センターの従業員を中心に「女性活性化プロジェクト」を実施。また、昨年より「女性が活躍する企業からの商品公募」キャンペーンを開始し、これまで、西友の社内を中心に対応して女性活用の取り組みを、お取引先企業様まで拡大しました。

「セルフリーダーシップ・プログラム」は、これから再就業を目指す日本女子大学リカレント教育課程生を対象に、5日間のプログラムを通して、現場の課題や取り組みに関して議論する機会を提供するというものです。本プログラムでは、参加者にスーパーマーケットの売場や、その他施設を見学、また、そこで働く女性従業員たちの働き方やキャリアについて話を聞いていただき、小売業での女性のリーダーシップ機会について、理解を深めていただきます。最終日には参加者全員が現場の課題を解決するための提案を行い、西友の経営幹部がそれを評価します。こうした一連の作業を通して、参加者に企業で働く現場感覚を取り戻し、再就業に向けて具体的な一歩を踏み出すきっかけとしていただくことを目指します。

西友では、引き続き社内外において女性活用の取り組みを進め、女性がより活躍できる社会のために貢献して参ります。

\*1 日本女子大学現代女性キャリア研究所は、2008年の発足以来、現代の女性とキャリアを取り巻く諸問題を調査研究し、その成果を、本学の教育のみならず、広く社会へ発信して、女性がその持てる能力を全面的に発揮できる社会の実現に貢献することを目指しています。

\*2 日本女子大学リカレント教育課程は、大学卒業後に就職しても育児や進路変更などで離職した女性に1年間(2学期)のキャリア教育を通して、高い技能・知識と働く自信・責任感を養い、再就職を支援するものです。2007年の発足以来、これまで170人が課程を修了し、修了生の多くが社会で活躍しています。

«本件に関する一般の方からのお問い合わせ先»

西友フリーダイヤル 0120-360-373

関連リンク

西友

<http://www.seiyu.co.jp/>

### Photo Gallery



### What's New

- 武井咲と謹瓶が力人生でも名優だっ
- カメラやスキャナ大人もときめくバ
- 豊富なラインナッ
- 「夢」を感じられる

### PR 注目情報



ANA国際  
ビジネス  
旅をおトク

### Shopping

手のひらサイズの超広  
Wi-Fi対応で遠隔撮影

ウォーキング専用の脚

ニューストップ > キャリア > 会社

## 西友、日本女子大学と女性の再就業のための体験型プログラムで協働を実施

エボリ [2014/04/18]

西友はこのほど、日本女子大学現代女性キャリア研究所およびリカレント教育課程が2014年9月に実施する女性の再就業のための体験型プログラム「セルフリーダーシップ・プログラム」を支援する、と発表した。



春季特別講座の授業風景

### 妊娠・出産を経て再就業を目指す女性のキャリア構築を支援

同プログラムは、これから再就業を目指す日本女子大学リカレント教育課程生を対象に、5日間のプログラムを通して、現場の課題や取り組みに関して議論する機会を提供するというもの。

現在、「女性の活躍推進」政策は、日本の成長戦略の柱の1つとして打ち出されており、企業における女性活用の取り組みは、さらに活性化していくと思われる。同社ではこれまで、親会社であるウォルマート・ストアーズ・インクの方針に沿って、ダイバーシティ(多様性)の拡充施策の一環として女性の人財活用を推進してきたという。

同プログラムでは、参加者にスーパーマーケットの売場や、その他施設を見学、また、そこで働く女性従業員たちの働き方やキャリアについて話を聞いてもらい、小売業での女性のリーダーシップ機会について、理解を深めてもらう。

最終日には参加者全員が現場の課題を解決するための提案を行い、同社の経営幹部がそれを評価。こうした一連の作業を通して、参加者に企業で働く現場感覚を取り戻し、再就業に向けて具体的な一歩を踏み出すきっかけとしてもらうことを目指すという。

同社では、引き続き社内外において女性活用の取り組みを進め、女性がより活躍できる社会のために貢献していく、としている。

## 西友、日本女子大学と女性の再就業のための体験型プログラムで協働

2014年04月15日 14:30 発信地: 東京/日本 [写真]

[おすすめ 0](#) [ツイート 0](#) [g+1](#) [Social News](#)

～妊娠・出産を経て再就業を目指す女性のキャリア構築を支援します～

西友は、日本女子大学現代女性キャリア研究所(\*1)およびリカレント教育課程(\*2)が2014年9月に実施する女性の再就業のための体験型プログラム「セルフリーダーシップ・プログラム」を支援いたします。

現在、「女性の活躍推進」政策は、日本の成長戦略の柱の一つとして打ち出されており、企業における女性活用の取り組みは、更に活性化していくと思われます。西友ではこれまで、親会社であるウォルマート・ストアーズ・インクの方針に沿って、ダイバーシティ(多様性)の拡充施策の一環として女性の人財活用を推進してまいりました。全従業員のうち女性が約7割を占める西友では、店舗や物流センターの従業員を中心に「女性活性化プロジェクト」を実施。また、昨年より「女性が活躍する企業からの商品公募」キャンペーンを開始し、これまで、西友の社内を中心に実施していた女性活用の取り組みを、お取引先企業様まで拡大しました。

「セルフリーダーシップ・プログラム」は、これから再就業を目指す日本女子大学リカレント教育課程生を対象に、5日間のプログラムを通して、現場の課題や取り組みに関して議論する機会を提供するというものです。本プログラムでは、参加者にスーパーマーケットの売場や、その他施設を見学、また、そこで働く女性従業員たちの働き方やキャリアについて話を聞いていただき、小売業での女性のリーダーシップ機会について、理解を深めていただきます。最終日には参加者全員が現場の課題を解決するための提案を行い、西友の経営幹部がそれを評価します。こうした一連の作業を通して、参加者に企業で働く現場感覚を取り戻し、再就業に向けて具体的な一步を踏み出すきっかけとしていただくことを目指します。

西友では、引き続き社内外において女性活用の取り組みを進め、女性がより活躍できる社会のために貢献して参ります。

\*1 日本女子大学現代女性キャリア研究所は、2008年の発足以来、現代の女性とキャリアを取り巻く諸問題を調査研究し、その成果を、本学の教育のみならず、広く社会へ発信して、女性がその持てる能力を全面的に発揮できる社会の実現に貢献することを目指しています。

\*2 日本女子大学リカレント教育課程は、大学卒業後に就職しても育児や進路変更などで離職した女性に1年間（2学期）のキャリア教育を通して、高い技能・知識と働く自信・責任感を養い、再就職を支援するものです。2007年の発足以来、これまで170人が課程を修了し、修了生の多くが社会で活躍しています。

## 主婦、自信回復で再就職 企業が期待／国・大学も対策

2014/11/5付 | 日本経済新聞 夕刊

主婦の再就職を支援する動きが広がっている。女性活躍推進の風潮に人手不足も加わり、企業も主婦に熱い視線を向ける。ただ離職期間が長くなるほど「私に何ができるのか?」と不安は高まる。自信回復が主婦の再就職を成功に導くキーワードだ。

「目指すは28年ぶりの仕事復帰です」。東京都の主婦(52)は、はにかみながら話す。東京しごと財団(千代田区)が7月に開設した「女性しごと応援テラス」の再就職セミナーを10月に受講した。20代で退社し、ずっと専業主婦だ。大学生の娘が就職活動で奔走する姿を見ていて、生き生きと働いていたかつての記憶がよみがえった。「できるかどうか分からぬけど、もう一度働きたい」

### 8割以上が意欲的

公的な職業紹介はハローワークが一般的だが、同テラスは主婦方に特化する。主婦として培った能力のアピールの仕方や履歴書の書き方などを助言し、求人も独自に集めて仕事と家庭の両立に配慮する勤務先を紹介する。「再就職希望の主婦が昨年から増えている。9月末までに385人が登録し、46人が再就職した」(女性再就職支援担当)

専業主婦の就労意欲は意外と高い。リクルートジョブズ(東京・中央)の「主婦の就業に関する1万人調査」(2013年12月実施)によると、子どもを持つ20~40代既婚女性の59%は無業だ。だがこのうち86%が「今後仕事に就きたい」と答えた。

景気回復に伴う人手不足で企業も主婦に期待する。大田区産業振興協会(東京)が10月に主催した「ヤングジョブクリエイションおおた2014」。区内の中小企業と求職者を橋渡しするイベントに今年初めて「マザーズ専用相談コーナー」を設置した。「中小企業は特に人材採用が難しくなっている。子育て中の女性を敬遠する風潮がこれまであったが、もうそうも言ってられない」(同協会)

国も対策に乗り出した。スキルや知識の磨き直し研修と職業紹介をセットにしたキャリア・リターン応援制度を今年度から始めた。今後3年間で主婦ら1800人の再就職を支援する。

2人の子を持つ女性(37)は国の委託を受けたアデコで7月に制度を利用。翌月損害保険会社に採用された。長男(12)を出産してアパレルメーカーを辞めた。その後に産んだ次男も6歳になり、キャリアを積み直そうと本格的に再就職活動を今年3月始めた。



「女性しごと応援テラス」のセミナー。再就職希望者が面接対策に熱心に聞き入る(東京都千代田区)

だが壁は厚かった。20社以上に履歴書を送り、面接に呼ばれたのは2社。そこも不採用だった。自信を失いかけたところで同制度を知った。研修は丸2日。職務経歴書の書き方や面接対策、OA研修など多岐にわたった。「2日間で冷静に自己分析。自分の強みは表計算ソフトを使いこなせることだと気づいた」。強みを生かせる求人をアデコに紹介してもらい、まもなく内定を得た。

プランクがあっても潜在能力が高い主婦は少なくない。自信回復の“特効薬”は実践だ。

大卒女性の再就職支援に取り組む日本女子大学リカレント教育課程は9月に西友の協力を得て体験型プログラムを実施した。教室で専門知識を学ぶだけでは実戦感覚がよみがえらないと考えた。

プログラム受講者13人は5日間にわたり西友の店舗や物流拠点、総菜工場などを視察。最終日に業務改善策を西友の執行役員7人間に直接提案した。

まずは週3日から

荷分けの工夫や食の安全のPR法など、提案は西友にとっても予想以上の出来だった。一部は採用を検討中だという。同大学教授の高頭麻子さんは「再就職を目指す女性にとって、ビジネスの現場と自分の距離感を知る貴重な機会となった」と強調する。

リクルートジョブズの調査では、離職期間が長くなるほど「昨今の職場に適合できるか」「体力的に続けられるか」など再就職への不安が高まる傾向も見られた。同社ジョブズリサーチセンター長の宇佐川邦子さんは「あれこれ考えていては再就職はますます遠ざかる。週3日、短時間でもいいからまずはチャレンジ」と助言する。

(編集委員 石塚由紀夫)



**女性の再就職支援プログラム  
(セルフリーダーシップ・プログラム)  
参加者の皆様へのアンケート**

**日本女子大学現代女性キャリア研究所**

Q1 各項目を読んで、今のあなたに当てはまるかどうかを判断してください。そして右の選択肢の中から、当てはまる場合には「[はい]」あてはまらない場合には「[いいえ]」を○で囲んでください。「はい」「いいえ」どちらにも当てはまらないと思われる場合でも、より自分に近いと思う方に必ず○をつけてください。どちらが正しい答えということはありませんから、あまり深く考えずにありのままの姿を答えてください。

1. 何か仕事をするときは、自信を持つてやるほうである  
はい いいえ
2. 過去に犯した失敗や嫌な経験を思い出して、暗い気持ちになることがよくある  
はい いいえ
3. 友人より優れた能力がある  
はい いいえ
4. 仕事を終えた後、失敗したと感じることのほうが多い  
はい いいえ
5. 人と比べて心配性なほうである  
はい いいえ
6. 何かを決めるとき、迷わず決定するほうである  
はい いいえ
7. 何かをするとき、うまくいかないのではないかと不安になることが多い  
はい いいえ
8. ひとつみじんなんぽうだと思う  
はい いいえ
9. 人より記憶力がよいほうである  
はい いいえ
10. 結果の見通しがつかない仕事でも、積極的に取り組んでゆくほうだと思う  
はい いいえ
11. どうやつたらよいか決心がつかず仕事にとりかかれないとがある  
はい いいえ
12. 友人よりも特に優れた知識を持っている分野がある  
はい いいえ
13. どんなことでも積極的にこなすほうである  
はい いいえ
14. 小さな失敗でも人よりずっと気にしてしまうほうである  
はい いいえ
15. 積極的に活動するのは苦手なほうである  
はい いいえ
16. 世の中に貢献できる力があると思う  
はい いいえ

Q2 それぞれの文章を読んで、今のあなたに最も当たると思う選択肢に○をつけてください。

	非常によくあてはまる	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	ほとんどあてはまらない	全くあてはまらない
1. これからも私はいろいろな面で成長し続けたいと思う	6	5	4	3	2	1
2. 新しいことに挑戦して、新たな自分を発見するのは楽しい	6	5	4	3	2	1
3. 私にはもう新しい経験や知識は必要ないと思う	6	5	4	3	2	1
4. これ以上自分自身を高めることはできないと思う	6	5	4	3	2	1
5. 自分らしさや個性を伸ばすために、新たに挑戦することは重要だと思う	6	5	4	3	2	1
6. 私は新しい経験を積み重ねるのが楽しみである	6	5	4	3	2	1
7. 私の能力は、もう限界だと思う	6	5	4	3	2	1
8. 私の人生は、学んだり、変化したり、成長したりする連続した課程である	6	5	4	3	2	1
9. 私は現在、目的なしにさまよっているような気がする	6	5	4	3	2	1
10. 私の人生にはほとんど目的がなく、進むべき道を見いだせない	6	5	4	3	2	1
11. 本当に自分のやりたいことが何なのか、見いだせない	6	5	4	3	2	1
12. 自分がどんな人生を送りたいのか、はつきりしている	6	5	4	3	2	1
13. 私はいつも生きる目標を持ち続けている	6	5	4	3	2	1
14. 私は自分が生きていることの意味を見いだせない	6	5	4	3	2	1
15. 私の人生は退屈で、興味がわかない	6	5	4	3	2	1
16. 私は自分の将来に、夢を持つている	6	5	4	3	2	1
17. 私は何かをきめるとき、世間からどう見られているかとても気になる	6	5	4	3	2	1
18. 重要なことを決めるとき、他の人の判断に頼る	6	5	4	3	2	1
19. 自分の生き方を考えるとき、人の意見に左右されやすい	6	5	4	3	2	1
20. 自分の考え方には、その時の状況や他の人の意見によって左右されがちである	6	5	4	3	2	1
21. 何かを判断するとき、社会的な評価よりも自分の価値観を優先する	6	5	4	3	2	1
22. 私は、自分の行動は自分で決める	6	5	4	3	2	1

	非常によく あてはまる	よく あてはまる	あてはまる あてはまる	あまりあて はまらない	(ほとんどあて はまらない)	全くあて はまらない
23. 自分の行動を決定するとき、社会的に認められるかどうかをまず考える	6	5	4	3	2	1
24. 習慣にとらわれず、自分自身の考えに基づいて行動している	6	5	4	3	2	1
25. 私は自分の生き方や性格をそのまま受け入れることができる	6	5	4	3	2	1
26. 私は自分自身が好きである	6	5	4	3	2	1
27. 私は自分の性格についてよく悩むことがある	6	5	4	3	2	1
28. 良い面も悪い面も含め自分自身のままの姿を受け入れることができる	6	5	4	3	2	1
29. 私は今は異なる自分になりたいとよく思う	6	5	4	3	2	1
30. 私はこれまでの人生において成し遂げたことに、満足している	6	5	4	3	2	1
31. 私は自分に対して肯定的である	6	5	4	3	2	1
32. 私は、うまく周囲の環境に適応して、自分を生かすことができる	6	5	4	3	2	1
33. 状況をよりよくするために、周りに柔軟に対応することができる	6	5	4	3	2	1
34. 自分の身に降りかかってきた悪いことを、自分の力でうまく切り抜けることができる	6	5	4	3	2	1
35. 自分の周りで起こった問題に、柔軟に対応することができます	6	5	4	3	2	1
36. 私の今の立場は、様々な状況に折り合いを付けながら、自分で作り上げたものである	6	5	4	3	2	1
37. 私は、周囲の状況にうまく折り合いをつけながら、自分らしく生きていると思う	6	5	4	3	2	1
38. 私は、あたたかく信頼できる友人関係を築いている	6	5	4	3	2	1
39. 他人との密接な関係を維持するのは、面倒くさいことだと思う	6	5	4	3	2	1
40. 私はこれまでに、あまり信頼できる人間関係を築いてこなかった	6	5	4	3	2	1
41. 私は他者といふると、愛情や親密さを感じる	6	5	4	3	2	1
42. 私は他者に強く共感できる	6	5	4	3	2	1
43. 自分の時間を他者と共有するのはうれしいことだと思う	6	5	4	3	2	1

Q3 以下は、「セルフリーダーシップ・プログラム」の内容について伺うものです。選択肢のうち、最も当てはまるものに○を付けてください。

実施期間/時間について	長い	ちょうど良い	短い	何かコメントがあればお書きください
実施期間（全部で 6 日間）				
各プログラムの実施時間について				
講義（9月2日）				
現場見学（9月3日、4日）				
プレゼンテーション準備の時間（9月5日、8日）				
プレゼンテーション（9月9日）				

内容について	
第 1 日目	西友の概要やダイバーシティ・女性活用の取り組みの紹介 スーパーマーケット・ビジネスの概要説明
第 2 日目	三郷物流センター見学
第 3 日目	若菜工場見学 西友店舗（Livin 光が丘）見学 近隣競合店舗視察
第 4 日目	提案準備①（プレゼン作成）
第 5 日目	提案準備②（プレゼン練習）
第 6 日目	プレゼンテーション

セルフリーダーシップ・プログラムの内容に関するご意見を、自由にお書きください。

小売業・スーパー・マーケット・ビジネスに対する印象は、プログラム参加前後でどのように変化しましたか？

セルフリーダーシップに参加した感想を自由にお書きください。

最後に、あなたご自身についてお教えください。

<	>20代	<	>30代	<	>40代	<	>50代
<	>未婚	<	>既婚	<	>子ども有り	<	>子ども無し

アンケートへのご協力、有難うございました。



3 「セルフリーダーシップ・プログラム」 第2回目  
(2015年実施)



## (1) セルフリーダーシップ・プログラム実施内容（当日の様子）

### ・ 参加者

2015年9月2日時点での日本女子大学リカレント教育課程在籍者10名および9月期の入学者7名、合計17名

### ・ 実施日程と内容

日付	内容
7/3(金)	事前講演会 於：日本女子大学（目白） 「女性と仕事」講師：合同会社西友執行役員 平林浩美氏、大坪眞子氏、人財部採用担当マネージャー 内山明香氏
8/31(月)	事前説明会（見学時の注意事項など）
9/2(水)	プログラム第1日目 於：日本女子大学（目白） 午前：セルフリーダーシップ・プログラム オリエンテーション講義（小売り・流通業界の経営環境、店舗、物流センター、惣菜工場の役割と仕事内容）、課題テーマの発表とグループ分け 午後：店舗の女性リーダーによるお話（練馬産業プラザ） 店舗見学（西友光が丘店）
9/3(木)	プログラム第2日目 於：西友 物流センター（埼玉県三郷市）、惣菜工場（埼玉県川越市）の見学
9/4(金)	プログラム第3日目 於：日本女子大学（目白） プレゼンテーション作成
9/7(月)	プログラム第4日目 於：日本女子大学（目白） プレゼンテーション練習
9/8(火)	プログラム第5日目 於：西友本社（赤羽） 西友経営メンバーの前でのプレゼンテーション
9/18(金)	プログラム第6日目 於：日本女子大学（目白） 振り返りの会

## 1) 事前講演会「女性と仕事」

7月3日（金） 於：日本女子大学（目白）

講師：平林浩美氏、大坪眞子氏（合同会社西友執行役員）、  
内山明香氏（人事部採用担当マネージャー）

第1回プログラムの参加者から、西友で活躍する様々な女性のお話を聞きたい、という意見が多かったため、2015年度は3名の講師をお招きした。2014年度に引き続き講演をされた平林浩美氏からは、これまでの仕事経験、仕事上における困難や、仕事と家庭との両立での悩みなどをどのように乗り越えてきたのか、またやりがい、家族や職場の支援など、ご自身の経験についてお話し下さいました。大坪眞子氏からは、これまでのキャリアの歩み、転職して西友に入社した経緯、以前の職場と西友の企業風土の違いなどについてお話し下さいました。内山明香氏からは、新卒で西友に入社して以来のキャリアの歩み、店長としてのお店づくりの経験、女性の活躍推進のための西友の取り組みなどについてご説明下さいました。



## 2) プログラム当日

1日目：9月2日（水） 於：日本女子大学（目白）

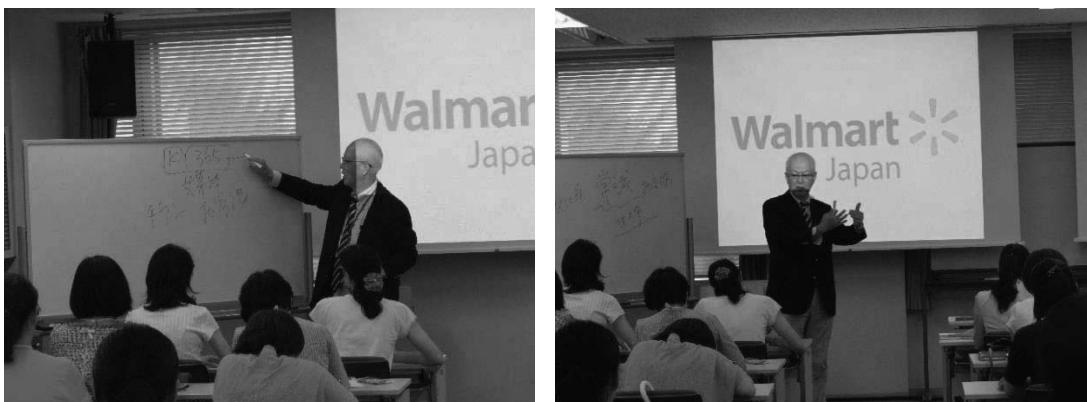
- ・午前 オリエンテーション、講義
- ・午後 練馬産業プラザ、店舗見学（西友光が丘店）

初日の午前中は、オリエンテーションで本プログラムの趣旨、目的、講座全体の流れについての説明の後、小売り・流通業界の経営環境、西友の経営理念、参加者が見学に行く、店舗、物流センター、惣菜工場の役割や仕事内容について各部門の担当者からお話を伺った。

その後、課題テーマの発表が行われた。課題テーマは2014年度と同様に、「より働きやすい職場にするために」「より安心・安全な職場環境にするために」「より安心・安全な商品を提供するために」より良い接客・サービス、売場づくりのために」の4つであり、担当グループを決定した。その後、各グループとも担当となった課題に対する提案の骨子について、西友のアドバイザーを交えて議論を行った。

午後は、練馬産業プラザに移動し、店舗でリーダーとして働く女性3人から、ご自身のこれまでのキャリア、今のお仕事内容、仕事での困難や解決方法、キャリアゴールなどについてお話しを伺った。また、女性店長2人からのビデオメッセージも視聴した。その後、光が丘の店舗を見学した。全フロアを見学しながら、現場で働く女性アソシエイトの方から、お仕事の具体的な内容についてご説明いただいた。

- ・小売り・流通業界の経営環境や西友の経営理念についての講義



・練馬産業プラザ（店舗の女性リーダーによるお話）



・女性活躍推進への取り組み



・ウォールマート・チア



・店舗見学（西友光が丘店）



・日用品売り場の見学



2日目：9月3日（木） 於：西友

物流センター（埼玉県三郷市）または、惣菜工場（埼玉県川越市）の見学

2日目は2つのグループに分かれて見学を行った。ひとつのグループは埼玉県三郷市の物流センターを、もうひとつのグループは、埼玉県川越市の惣菜工場を見学した。物流センターでは、西友の最新の物流システムを見学し、商品を正確に店舗まで届けるためにどのような工夫がなされているかについて説明を受けた。また、物流センターのスタッフの方から、社員の一体感を高めるための工夫についてもお話を伺った。惣菜工場では、参加者全員が工場用の服を着用し、工場に入る際にエアシャワーを浴びて埃を落としたり、互いの服をチェックしたりなど、衛生管理が徹底されていることを体験した。



3日目：9月4日（金） 於：日本女子大学（目白）

提案準備（プレゼンテーションの作成）

3日目は、日本女子大学に戻り、プレゼンテーションの作成を行った。現場で見聞きした内容にもとづいてグループで議論を行い、内容を検討した。西友のアドバイザーにも議論に参加してもらい、質問やプレゼンテーション内容に関するアドバイスをいただいた。作業時間は午前中の3時間を設定していたが、参加者は午後も自主的に残り、熱心に作業を行っていた。



4日目：9月7日（月） 於：日本女子大学（目白）

提案準備（プレゼンテーション準備）

4日目は、プレゼンテーションのリハーサルを行った。グループごとのプレゼンテーションに対し、RIWACの研究員、リカレント教育課程の教員およびスタッフが発表内容や方法についてフィードバックを行った。また、参加者間でも大変積極的な相互フィードバックが行われ、非常に有意義な場となった。



5日目：9月8日（火） 於：西友本社 プрезентーション

5日目は、西友の経営幹部の前で、グループごとにプレゼンテーションを行った。物流センターと惣菜工場について各1グループ、店舗については2グループからプレゼンテーションが行われた。プレゼンテーションの後には、提案内容を実際に現場で活かすことが出来るのかという観点から質疑応答が行われた。4グループのプレゼンテーションの後には、各グループに対する講評、優秀チームの発表、表彰式が行われた。

・各グループによる工夫を凝らしたプレゼンテーション



・西友の経営チームが審査員として参加



・西友 CEOとの懇親



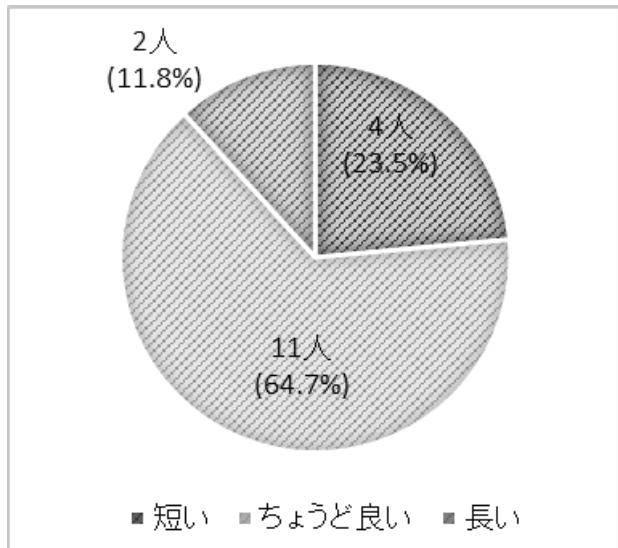
- ・参加者全員での記念撮影



## (2) 参加者へのアンケート結果

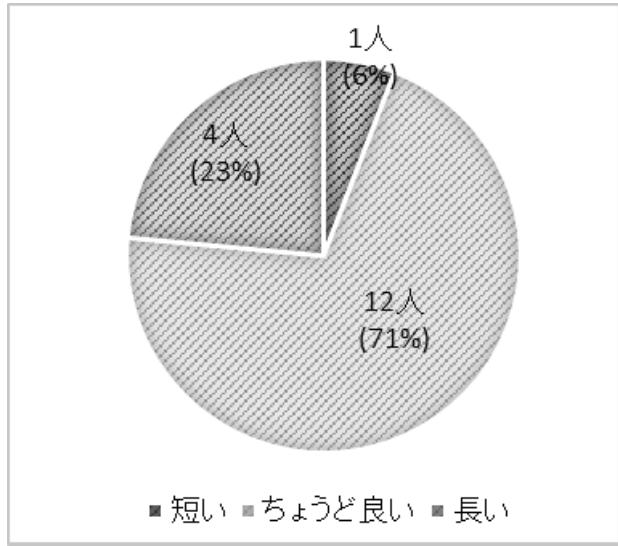
### 1) セルフリーダーシップ・プログラムの長さ・時間配分について (事後アンケートより)

#### ①プログラム実施期間の長さ (n=17)



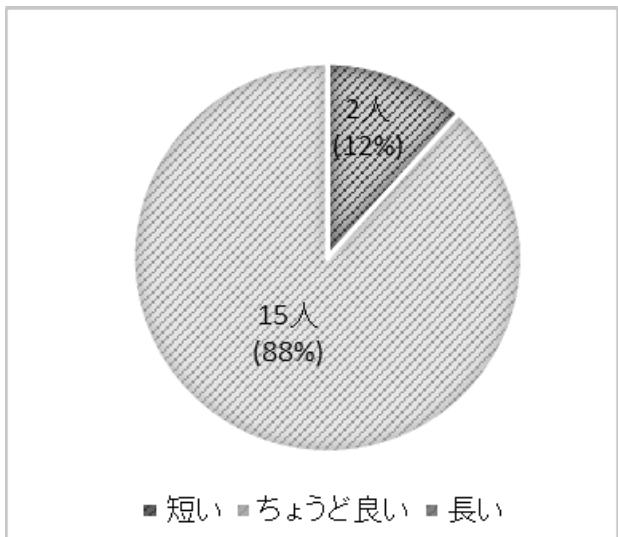
- 連続でない方がよかったです。
- 間に土日があって休めたのがよかったです。
- もう1日あれば、グループでのまとめの日のまとめがうまくいったと思う。

#### ②講義期間 (9月2日) (n=17)



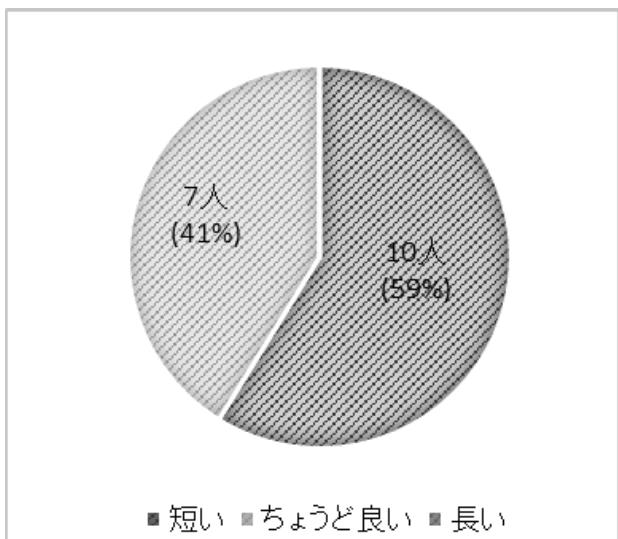
- 練馬への移動時間がもったいない。  
講義は大学か練馬か一つの場所でや  
って、即店舗見学がよかったです。

### ③現場見学期間（9月3日）(n=17)



- バス移動が無駄
- 西友の店舗についての説明をもう少ししてほしかった。
- 少し物足りないような、最後、急ぎ足になってしまったので・・・。

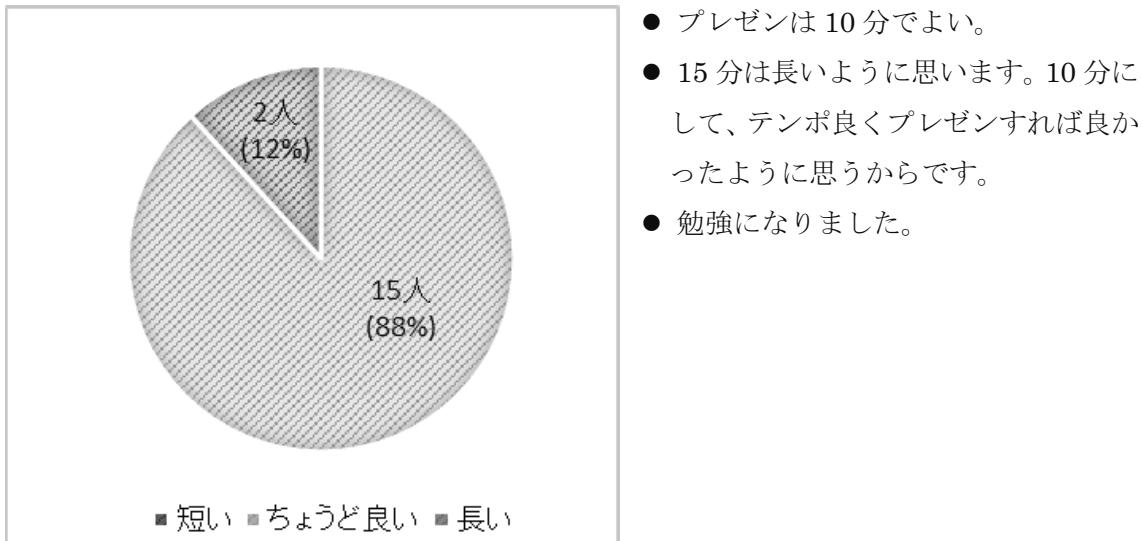
### ④プレゼンテーション準備時間 (n=17)



- 2日間でよいと思います。集中してできた。あきらめも肝心??
- 長くしてもそんなに完成度を高くするのは難しいので2日間でよいと思う。
- 準備時間が短く、ほとんどが自宅の作業となりました。最初の設定時間が早いため、「この時間で帰れる」と思っていた方には少々大変だったようです。結果全体で合わせる時間も短く、中途半端になりました。

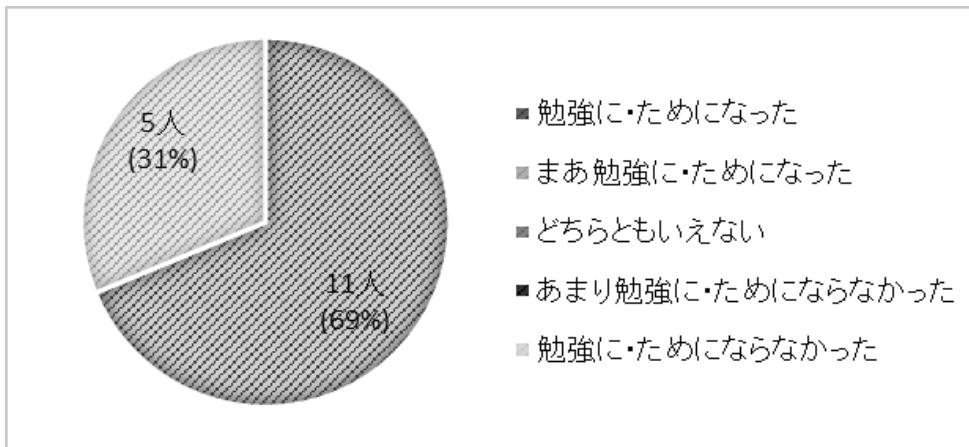
- あと1日あれば嬉しかった。
- 見学のあと、もう1日ほしいです。
- 午後残らずに形にするのはほぼ不可能だと思うので、初めから朝～夕方の日程で組んだ方がやりやすいと思いました。
- 見学してからすぐに作業にとりかからなくてはならず、1日ぐらいオフの日があればもう少しテーマ設定を考えたりできる気がします。

#### ⑤プレゼンテーションおよび Q &A 時間 (n=17)

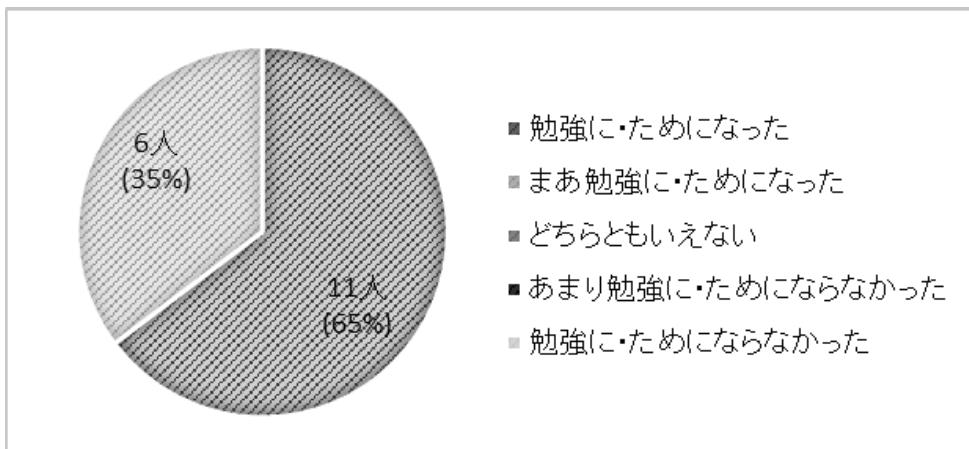


## 2) セルフリーダーシップ・プログラムの内容に対する満足度

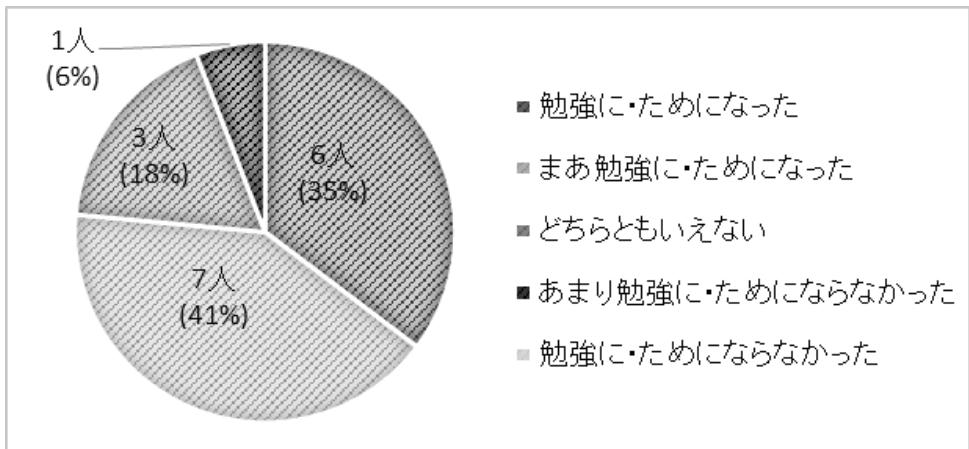
第1日目：午前 西友の概要やダイバーシティ・女性活用の取組みの紹介 (n=16)



スーパーマーケットビジネスの概要説明 (n=17)



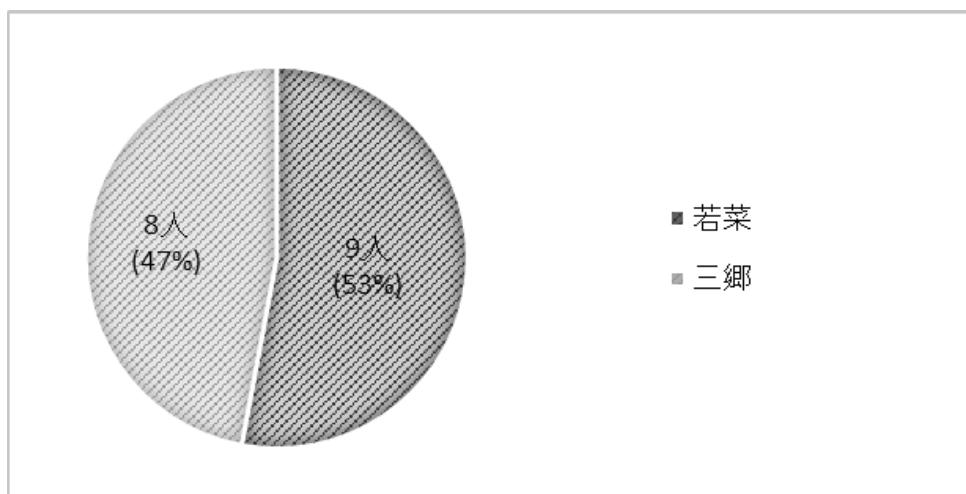
第1日目：午後 西友店舗見学 (n=17)



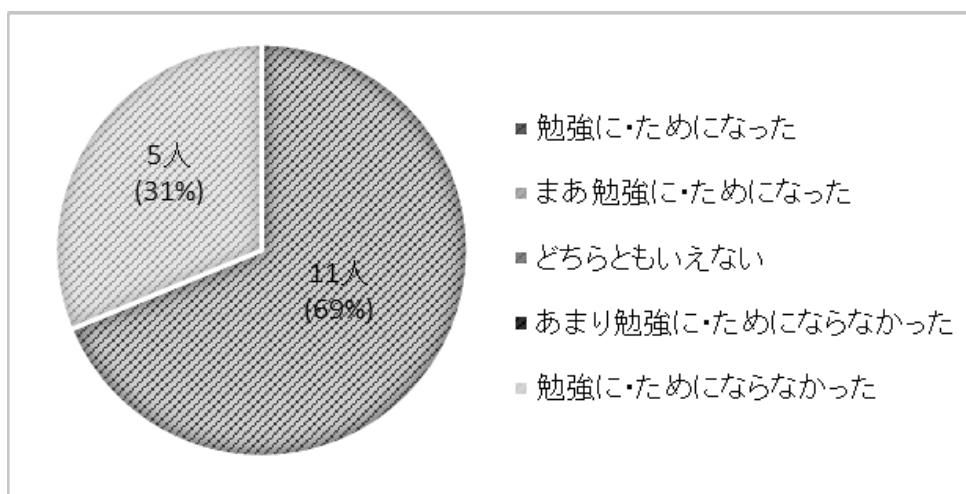
## 第2日目

本プログラムの見学先は、三郷物流センターと若菜工場の2か所であった。  
そこで、事前見学希望先をたずね、三郷物流センター8名と若菜工場9名となった。

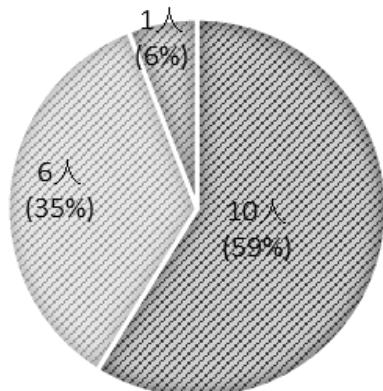
見学先 (n=17)



三郷物流センターまたは、若菜工場見学 (n=16、欠損値1名除く)

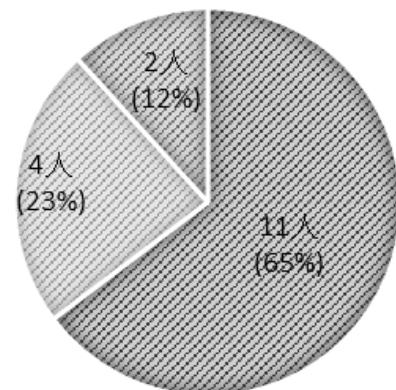


### 第3日目 提案準備①（プレゼンテーション作成）（n=17）



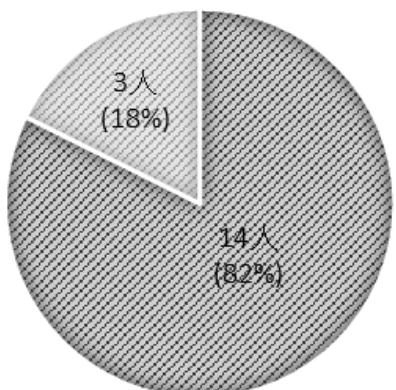
- 勉強に・ためになった
- まあ勉強に・ためになった
- どちらともいえない
- あまり勉強に・ためにならなかった
- 勉強に・ためにならなかった

### 第3～4日目 提案準備②（プレゼンテーション練習）（n=17）



- 勉強に・ためになった
- まあ勉強に・ためになった
- どちらともいえない
- あまり勉強に・ためにならなかった
- 勉強に・ためにならなかった

### 第5日目 西友経営チームに対するプレゼンテーション（n=17）

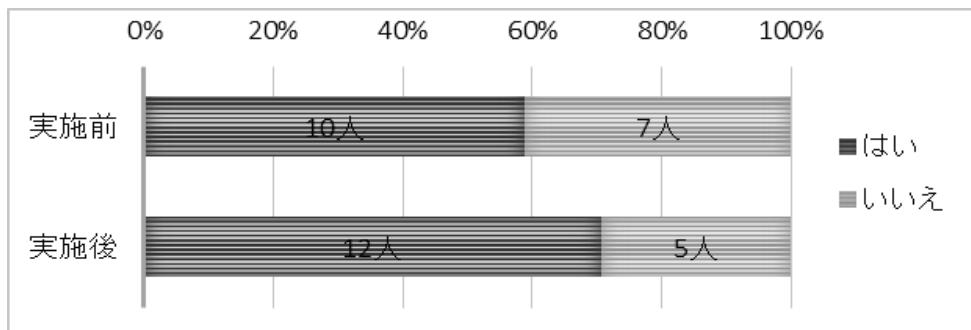


- 勉強に・ためになった
- まあ勉強に・ためになった
- どちらともいえない
- あまり勉強に・ためにならなかった
- 勉強に・ためにならなかった

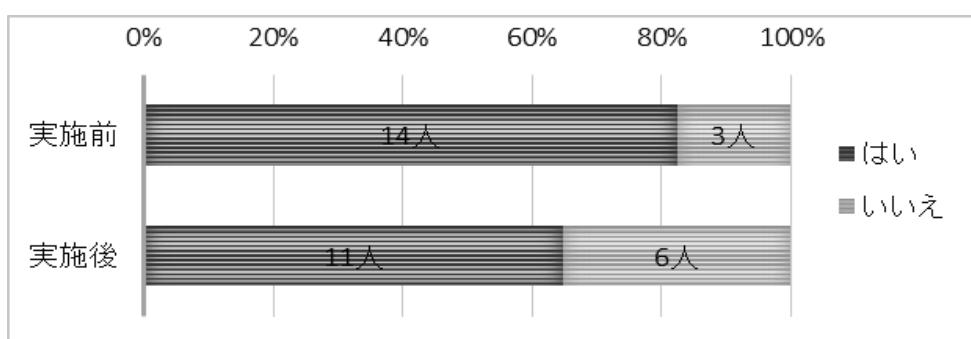
### 3) プログラム参加前後での心理的変化 (n=17)

#### ①自己効力感

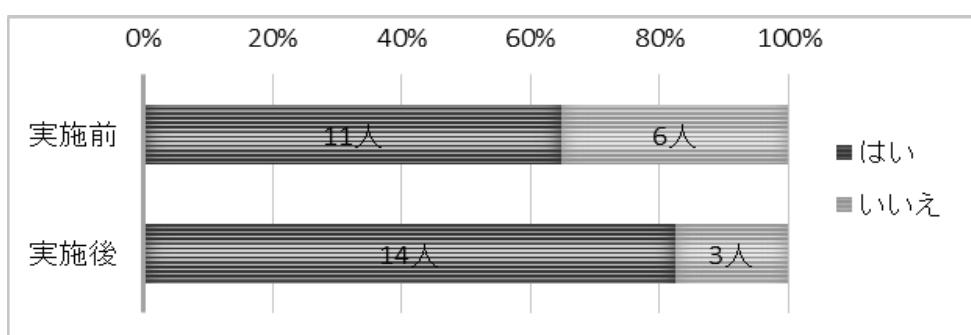
1.何か仕事をするときは、自信を持ってやるほうである



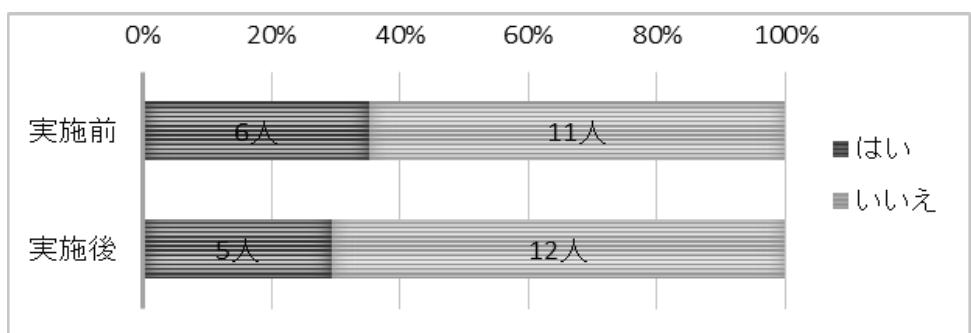
2.過去に犯した失敗や嫌な経験を思い出して、暗い気持ちになることがよくある



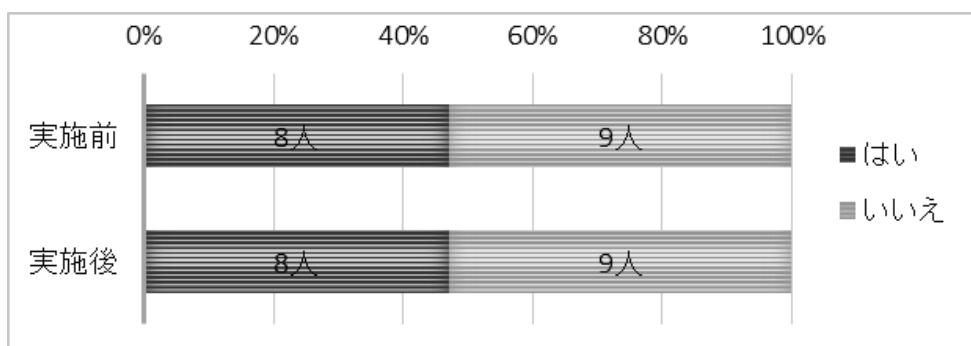
3.友人より優れた能力がある



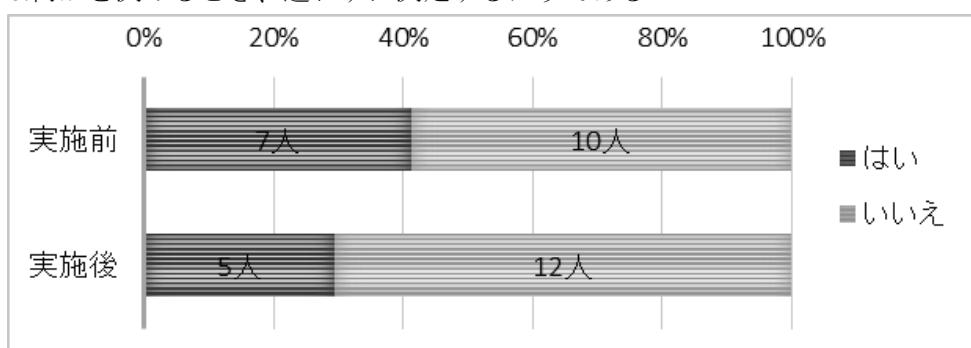
4.仕事を終えた後、失敗したと感じることのほうが多い



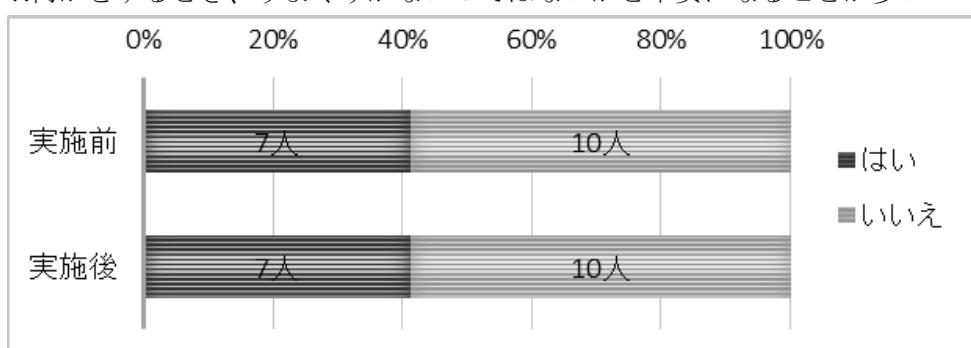
5.人と比べて心配性なほうである



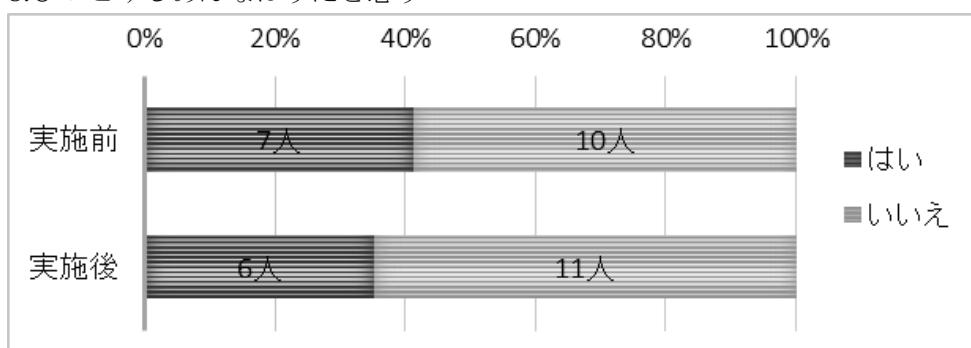
6.何かを決めるとき、迷わず决定するほうである



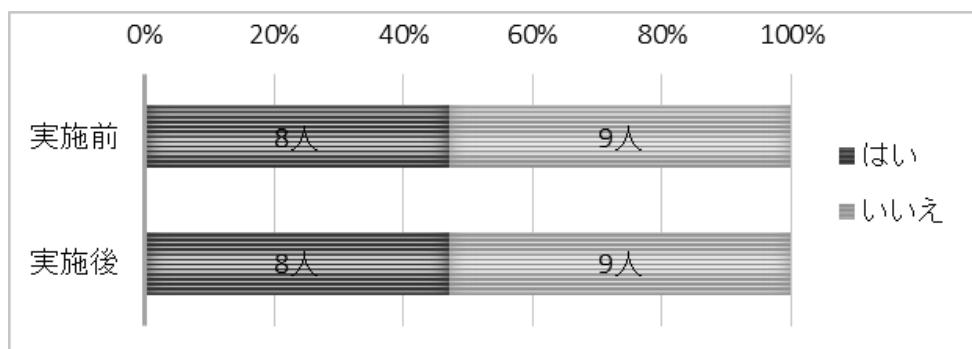
7.何かをするとき、うまくゆかないのではないかと不安になることが多い



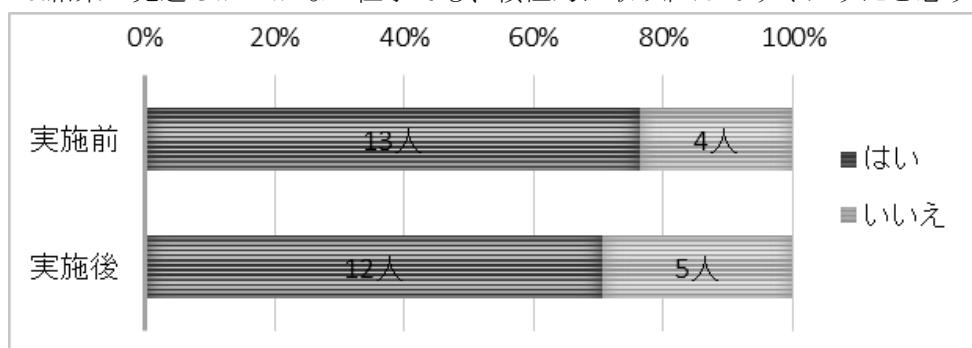
8.ひっこみじあんなほうだと思う



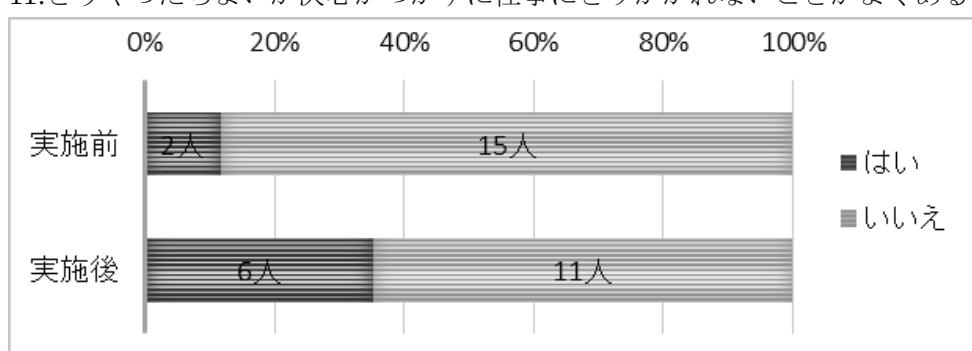
9.人より記憶力がよいほうである



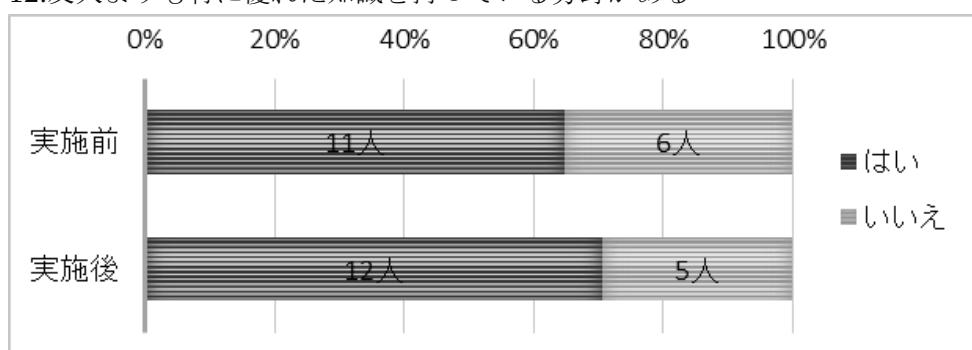
10.結果の見通しがつかない仕事でも、積極的に取り組んでゆくほうだと思う



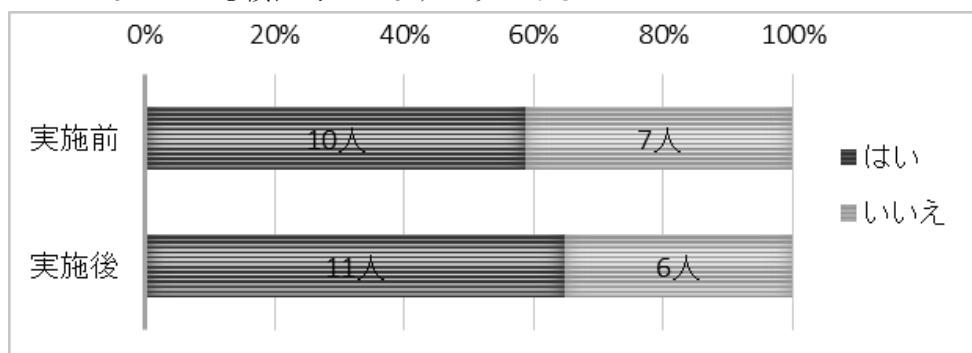
11.どうやつたらよいか決心がつかずに仕事にとりかかれないことがよくある



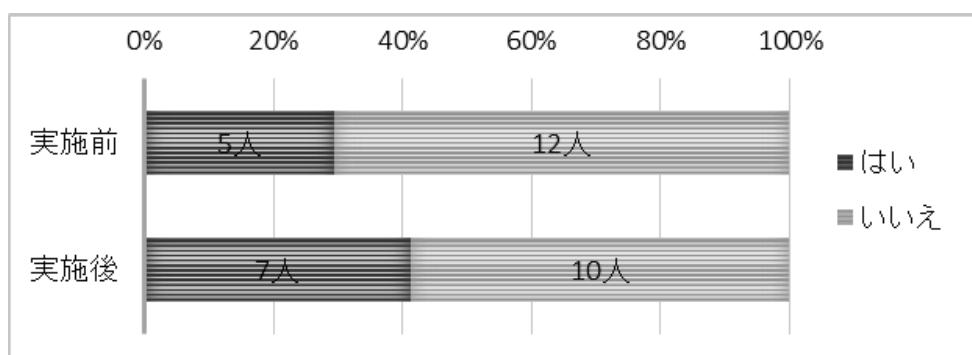
12.友人よりも特に優れた知識を持っている分野がある



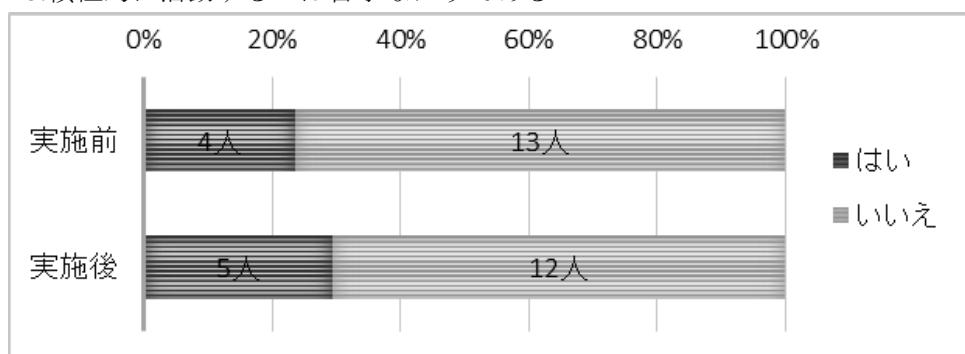
13. どんなことでも積極的にこなすほうである



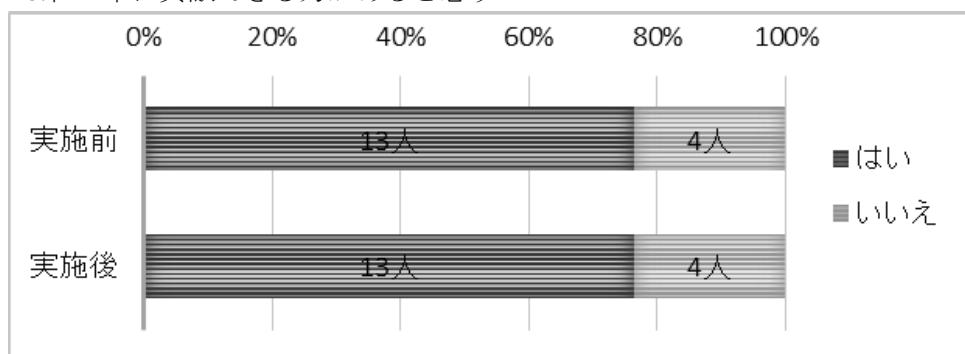
14. 小さな失敗でも人よりずっと気にするほうである



15. 積極的に活動するのは苦手なほうである



16. 世の中に貢献できる力があると思う



## ②心理的 Well-being (プログラム実施前後の平均値) (n=17)

プログラム参加の効果を確認するために、参加前後での自己効力感と心理的 well-being について尺度を用いて測定した。自己効力感とは、自分がある状況において必要な行動をうまく遂行できるかという可能性の認知を指す。心理的 well-being とは、人格的成長、自己受容、積極的な他者などからなる人生全般にわたるポジティブな心理的機能のことである。今回のプログラムで、他者と協働をしながら与えられた課題に対する提案を行う、といった作業を通して、出来るという感覚や成長を実感し、自己効力感や心理的 well-being が向上するのではないかと考えた。

		実施前 mean ± SD	実施後 mean ± SD
<b>人格的成長</b>			
1 これからも私はいろいろな面で成長し続けたいと思う		5.47 ± 0.72	5.47 ± 0.72
2 新しいことに挑戦して、新たな自分を発見するのは楽しい		5.18 ± 0.88	5.53 ± 0.72
3 私にはもう新しい経験や知識は必要ないと思う		1.24 ± 0.44	1.82 ± 0.81
4 これ以上自分自身を高めることはできないと思う		1.59 ± 0.71	2.00 ± 0.87
5 自分らしさや個性を伸ばすために、新たに挑戦することは重要だと思う		5.53 ± 0.62	5.41 ± 0.80
6 私は新しい経験を積み重ねるのが楽しみである		4.88 ± 0.99	5.29 ± 0.92
7 私の能力は、もう限界だと思う		1.82 ± 0.95	2.06 ± 1.03
8 私の人生は、学んだり、変化したり、成長したりする連続した課程である		4.94 ± 0.90	4.88 ± 1.05
<b>人生における目的</b>			
9 私は現在、目的なしにさまよっているような気がする		3.29 ± 1.16	3.65 ± 0.79
10 私の人生にはほとんど目的がなく、進むべき道を見いだせない		2.59 ± 1.28	3.06 ± 1.03
11 本当に自分のやりたいことが何なのか、見いだせない		3.76 ± 1.20	3.41 ± 1.00
12 自分がどんな人生を送りたいのか、はっきりしている		3.47 ± 0.87	3.53 ± 0.87
13 私はいつも生きる目標を持ち続けている		3.59 ± 1.00	3.53 ± 1.18
14 私は自分が生きていることの意味を見いだせない		2.41 ± 1.06	2.31 ± 1.01
15 私の人生は退屈で、興味がわからない		2.06 ± 0.97	2.76 ± 1.15
16 私は自分の将来に、夢を持っている		4.35 ± 0.93	4.12 ± 0.78

		実施前 mean ± SD	実施後 mean ± SD
<b>自律性</b>			
17 私は何かをきめるとき、世間からどう見られているかとても気になる		3.71 ± 0.77	3.82 ± 0.95
18 重要なことを決めるとき、他の人の判断に 頼る		3.06 ± 0.66	3.44 ± 1.15
19 自分の生き方を考えるとき、人の意見に 左右されやすい		3.12 ± 0.78	3.41 ± 1.00
20 自分の考え方は、その時の状況や他の人の意見によって左右されがちである		3.47 ± 0.94	3.35 ± 1.17
21 何かを判断するとき、社会的な評価よりも自分の価値観を優先する		3.88 ± 0.70	4.00 ± 0.79
22 私は、自分の行動は自分で決める		4.59 ± 0.94	4.47 ± 0.94
23 自分の行動を決定するとき、社会的に認められるかどうかをまず考える		3.76 ± 0.83	3.35 ± 1.22
24 習慣にとらわれず、自分自身の考えに基づいて行動している		4.18 ± 0.81	3.88 ± 0.70
<b>自己受容</b>			
25 私は自分の生き方や性格をそのまま受け入れることができる		3.76 ± 0.83	4.06 ± 1.03
26 私は自分自身が好きである		3.53 ± 0.80	4.06 ± 1.14
27 私は自分の性格についてよく悩むことがある		3.59 ± 1.33	3.53 ± 1.12
28 良い面も悪い面も含め自分自身のありのままの姿を受け入れることができる		3.76 ± 0.83	4.00 ± 1.06
29 私は今とは異なる自分になりたいとよく思う		4.18 ± 1.01	3.53 ± 1.23
30 私はこれまでの人生において成し遂げてきたことに、満足している		3.53 ± 0.62	3.71 ± 1.16
31 私は自分に対して肯定的である		3.88 ± 0.86	3.94 ± 1.09
<b>環境制御力</b>			
32 私は、うまく周囲の環境に適応して、自分を生かすことができる		3.88 ± 0.93	4.18 ± 1.07
33 状況をよりよくするために、周りに柔軟に対応することができる		4.35 ± 0.86	4.53 ± 0.94
34 自分の身に降りかかってきた悪いことを、自分の力でうまく切り抜けることができる		4.18 ± 0.73	4.29 ± 0.92
35 自分の周りで起きた問題に、柔軟に対応することができる		4.12 ± 0.93	4.53 ± 0.87
36 私の今の立場は、様々な状況に折り合いを付けながら、自分で作り上げたものである		4.41 ± 0.62	4.53 ± 0.94
37 私は、周囲の状況にうまく折り合いをつけながら、自分らしく生きていると思う		4.24 ± 0.90	4.41 ± 0.94
<b>積極的な他者関係</b>			
38 私は、あたたかく信頼できる友人関係を築いている		4.59 ± 1.28	4.71 ± 0.92
39 他者との密接な関係を維持するのは、面倒くさいことだと思う		3.12 ± 1.17	3.24 ± 1.09
40 私はこれまでに、あまり信頼できる人間関係を築いてこなかった		2.88 ± 1.54	2.88 ± 1.27
41 私は他者といふと、愛情や親密さを感じる		4.29 ± 0.92	4.53 ± 1.07
42 私は他者に強く共感できる		4.24 ± 0.75	4.41 ± 0.94
43 自分の時間を他者と共有するのはうれしいことだと思う		4.76 ± 1.03	4.65 ± 0.79

測定の結果、プログラム前後では若干の数値の変化は見られたものの、サンプル数がごく小さいこと（2014 年度は n=12、2015 年度は n=17）、各年度を比べたときに共通する傾向は見られなかった。インタビューの結果からは、本プログラム参加者が様々な気づきを得たことが示されたが、彼女らの心理的な指標に変化が見られるほどの効果は得るには至らなかったと考えられる。

#### 4) 自由回答

##### ①プログラムの良かったところ

- 現場で活躍する女性のみなさんの生の声が聴けたこと。特に苦労されたこと、それを乗り越えた過程について。
- 西友のトップの方々のお話を聞けたこと。お話が上手で余裕が感じられた。
- プレゼンの経験ができ、講評までもらえたこと
- 西友の現場にいろいろ見学に行かれたのは良かったです。
- プレゼンの場に様々な立場の方々が出席して下さっていて、一つ一つのコメントが大変勉強になりました。
- パート社員からマネージャー職まで努力して成られている方々のお話しさは、とても参考になり励されました。
- チームで作業し、プレゼンテーションをする過程はとても勉強になりました。
- 現場の社員さん達が気さくであったこと。
- 参加人数がちょうど4グループで活動しやすかったこと。
- キャリアアップした女性社員によるお話がためになりました。
- 西友アドバイザーの方からいただいた助言が、プレゼンテーション内容のヒントになりました。
- プrezentationリハーサルで他グループから受けた率直なアドバイスがとても役に立ちました。
- 実際に見に行け、現場の人がお話ししてくれる。
- 西友の方がみんなすてき。
- トップが本気でプレゼンを講評してくれる。
- 西友のマネージャー、アシスタントマネージャーなど、現場の方のお話しが聞けたこと。→働くことの厳しさと楽しさを再確認しました。
- 役員の方々の前での発表と講評を頂けたこと。→久しぶりに緊張しました。つたない発表にもかかわらず、講評して頂いたことに感謝です。

- 若菜の工場見学などふだん見られない所を見学できた。
- いろいろな人からお話を伺うことができた。
- 女性の店長さんや役員の方の活き活きと働いている様子が分かった。
- プレゼンの時、他のグループの発表を見たり、西友の方々からコメントをいただいたのが勉強になった。
- 細かくタイムスケジュールが決められていて、ほぼその通りに進んでいったので、安心して参加できた。
- プレゼン準備の西友の方、大学の方のサポートがきめ細かくてよかったです。
- プレゼンの講評、質疑応答の時間配分、内容がすごくよくてためになった。
- 架空の授業ではなく、実際の西友さんという企業の中で生の話が聞けたことはありがとうございました。
- 年齢も立場も違う人とグループになり話し合うことで、いろんな視点を学ぶことができた。主婦の目線は私にはないものなので、勉強になりました。
- 西友のマネジメントの方々の前でプレゼンテーションが出来たのは、とても緊張感があつたし、働くことの疑似体験になりました。また、フィードバックは自分達では気づかなかつた事を教えていただけて、とても勉強になりました。
- 現場の方の話をたくさん聞いて良かったです。
- 一般人が入ることのできない工場内等を見学させていただけたこと。
- グループに年次が違う方が混ざり、プログラム以外の話もたくさんできてよかったです！
- 入学前に、他のリカレント生と交流することができた。
- 西友幹部の方のハイレベルなお話を聞くことができた。（自分もそうなりたいと、目指すべき人物像が描けた。）
- 見学が終わった後の作業で西友側のスタッフの方が来て下さり、発表のためのテーマ決めなどに助言して下さり、グループ全体の方向が進むために助けてもらってよかったです。

- 現場を見られたところ。
- プレゼンテーションという貴重な経験ができたところ。

## ②プログラムの改善が必要なところ

- バスで送っていただき助かりましたが、正直、現地の最寄駅集合でもよかったです？人によっては時間のロスがかなりあったのではないかと思います。
- とても良いプログラムだと思いましたが、事前(申し込む前)にもっと良さが伝わるようになれば●●●15回生の参加が少ない●●●というようなことにはならないと思います。
- プレゼンの準備期間が半日（9／4）しかないのは足りないかなと思いました。終日にしておいていただければ、メンバーも予定を空けておけたと思います。また、PPTを作る班にとっては、プリント出力が必須ですので、出力環境を整えていただけると助かるかなと思います。
- 事前にHPでサーベイしましたが、もっと事前学習しておければ、問題定義など早くできるように思います。
- リカレントの必修に入ればいいと思います。
- チーム作業において役割分担があればもう少し効果的に取材が出来たかもしれません。（リーダー、サブリーダー、書記、記録、インタビュアー等）
- 現物取材の時に課題を抽出しやすいように簡単なツール（シート）があると取材ポイントが明確になるかもしれません。
- 3回生分冊が分かれていたので、自己紹介、お互い相手を知るのに時間がかかりました。西友に対する意識も共有するのに時間がかかりました。全てに時間をかけすぎると勉強にはなりますが、発表が浅くなります。
- グループ分けの際に、各メンバーの役割分担（会議の進行役／タイムキーパー、メール連絡係、書類管理係など）がなされていたら、プレゼンテーション作成がよりスムーズにできたのではないかと思います。

- バス移動のため大学集合。大学が不便なところなので。
- 西友のランチが食べたかった。(店舗の買い物時間がほしかった。)
- もう少し参加する人が多かったら、もっと別の意見が聞けて良かったと思います。→時間を機にする人が多かったので、たとえばですが、2日目→集合 9:00~、5日目→終了 16:00など、始まりは1限と同じ、終わりは4限と同じにすると、授業と変わらないので、参加しやすくなるかもしれません。
- 17回生の方が参加されたので、難しいかもしれません、授業でせっかく キャリアマネジメントを勉強したので、関連した内容でのプレゼンにできたら良かった。→方向性をもう少し絞る。例：ダイバーシティー、ジェンダー、管理職女性割合 30%などについて、本当にできるの？男性はどう思っているか？などを調べてみたかった。でも、難しすぎるかもしれませんね。
- 9月3日に大学に集合してバスに乗りましたが大学は駅から遠くて、ちょっと無駄になると思いました。解散した時と同様に、最寄駅集合でもよかったですかもしれません。
- 店舗見学の時間が短くて、売り場の説明はあまりありませんでした。自分の班が店舗についてプレゼンするということが分かってなくて、準備の時に、もう一つ見学した若菜の話しばかりしていました。
- 店舗チームだったが、店舗を見る時間が短すぎる。2日目物流センター、若菜では丸一日なのに、店はバックヤードを含めても1時間くらい。店舗チームは2日目も店舗を見た方がプレゼンがし易かった。
- 7月の講演のメンバーが大学を卒業して続けている方、ヘッドハンティングをされるくらいの方で、一度仕事を離れた方、パートから始められた方でなかったので、共感できるところが少なくがっかりした。練馬のセンターのコマネージャーのような方も7月に講演メンバーに入れてほしかった。
- 家庭がある方がほとんどなので難しいかもしれません、プレゼンテーションの準備日をもう1日増やしてほしいです。
- 集合時間が8時半はとてもはやいので、授業開始時間と合わせていただくなど、工夫

が欲しいと思った。（プログラム参加を募る際に予め過去の開始時間の目安を記していただけないと良い。）

- プレゼンに関して、基本的な知識の学習（しおりでも良い）が必要かと思った。
- あと、もう1日あとめの日があれば、余裕を持って参加できる気がします。
- プレゼンテーションの準備時間が短すぎた。
- 申込み前におおよそのタイムスケジュールを提示してほしかった。
- プレゼンテーションの精度、完成度をある程度提示してほしかった。（どこまで頑張ればいいのかが分からなかった。）→前年度のプレゼンを見せていただけると、分かりやすいかもしれないです。
- 発表の仕方がどんなものが求められているか、事前に知りたかった。ビジネスライクのものがよいのか、西友側にとっては非日常的なものの方がよいのか、分からなかつたので。
- 修了証はもらって嬉しいが、なくてもいいかも。その分の時間を会社側からのコメントとかいただける時間にあててほしい。

### ③セルフリーダーシップ・プログラムの参加動機はどのようなものでしたか。

- 普段見られない現場が見られること、普通は会えない第一線で働く人たち会えることを楽しみに申し込んだ。
- インターンシップそのものを体験したかった。
- 西友とウォルマート文化がどのようにになっているのか知りたいと思いました。
- 最新の物流システムを見てみたいと思っていました。
- どうして私は西友でお買い物をしないのか？をつきつめて考えていたら、参加してみたいと思うようになりました。
- 以前、小売業界で働いていたので、今的小売業界がどのように変化しているが知りたいと思ったため。
- CEOへプレゼンテーションをする機会はとても貴重なので、経験したかったため。

- グループ活動を通して自分の意見を伝えながら、1つの目標を達成する機会を活用するため。
- 自分のプレゼンテーション能力を再確認するため。
- 大学があえて準備されたプログラムであり、実際に企業で現在の社会を体験できるため。
- ここ10年近く仕事をしておらず、このプログラムに参加することによって、現場感覚を取り戻したいと思いました。
- 一般人にバックヤードを見せてくれる企業はあまりないと思う。
- トップの方々と会えるなんてチャンスはない。
- 勉強するより体験したいと思ったので。
- 日本女子大のリカレントプログラムの中でのメインプログラムになりそうだから。
- 私は現代女性キャリア研究所の“女性のセカンドチャンス経験事例”を読んだことがきっかけで、リカレント課程に入学しました。このプログラムが研究所の主催でしたので参加しました。

全て空欄→

- 工場や流通センターなどが見たかったから。
- リカレントの方と一緒にプレゼンを作りたかったから。
- 西友の女性の活躍できる現場に興味があったから。
- グループでプレゼンを作るんが楽しそうだったから。
- さらに大企業である西友の上層部の方にプレゼンをフィードバックしていただける機会は一生に一度くらいめったにないので。
- 経験のない業種の知識を得るために。
- 開講前の人間関係づくりになればと。
- 今まで同業種での勤務経験がほとんどであり（飲食業）、他の企業を見学させていただけるのは、めったにない機会だと思いました。その上、現場で働く方の声を直接聞くことができたり、マネジメントの方の前でプレゼンテーションを行えるという普通

の就職活動の中ではできない貴重な体験ができると思い参加しました。

- 自らが体験したことのない分野に触れることで新たな学びの機会を得たいと思ったため。
- 私の一番の生活の一部である「西友」さんから新しい発見をできることは、この上ない、自分にとって良い刺激になると思い参加しました。
- チームワーク力を鍛えるため： 離職して1年9ヶ月、子どももいないため、他者とコミュニケーションをとる機会が激減しました。今後、再就職する上で、チームワーク力は必須だと思い、より実践的なコミュニケーションがとれるプログラムに関心をもちました。
- 課題発見力と提案力を鍛えるため： 専業主婦になってからというもの、上記2つの能力に関してはなまってしまったと感じていたため、現役時代の感覚（限られた時間の中で、価値ある発見と提案をする必要性）を取り戻したいと考えました。
- 働くことへの明確なビジョンを持つため： ゴールイメージを、再就職から「働くこと」へシフトさせる必要があると考えました。
- 工場見学はもともと好きな方なので、数日にわたってじっくり見るいい機会だと思ったから。
- 17期生なのでリカレントの状況がどんな感じなのか、事前に分かる機会だと思った。
- プrezenteーションはしごとではやったことがなく、これもいい機会だと思った。
- 経験のない現場を見てみたいと思ったし、プレゼンテーションの経験がないので、どうすればよいか、体験してみたいと思った。

④プログラムに参加して、どのような気づきがありましたか。できるだけ具体的にお書きください。

- 女性店長の方と、三郷のアシスタントマネージャーの方が同じことをおっしゃっていたのがとても印象的だった。部下になった人たちに口もきいてもらえなかつたとき、「毎日必ず全員に自分から声をかけた」ということ、私も新しい職場で同僚に実践した

い

- チームでのプレゼン準備の課程で、自分ひとりでやったほうが早く思い通りのものができるという思いのなか、人に任せること、自分の意見をどこまで通すべきか、相手の意見への NG の出し方、などについて考えさせられた。結果的に他の人が出したアイデアが褒められ「多様な意見の大切さ」「それぞれのメンバーの良さを引き出す大切さ」に気づいた
- 一つの企業の中に実はとてもいろいろな働き方があることに気付きました。
- その職場の雰囲気が働く方々のスピーチによく表れていておもしろかったです。
- メンバーそれぞれのバックグラウンドはかなりばらばらでも、目標（ぶれぜん）を共有すると色々な相乗効果が表ってきて、最後のプレゼンの場で一人一人がとても活き活きと発言していることに驚きました。
- 参加メンバーの課題認識、プレゼンテーション力がとても高く驚きました。このような能力は仕事を通じて磨かれるものだと思っていましたが、潜在能力というのもとても大きいのだと思いました。
- パート社員から現物の責任者まで努力で成った方々のお話しさはとても共感しました。みなさんとても努力家で私も見習いたいと思いました。
- パワーポイントで書式をそろえることがビジネス常識であること。
- 仕事をしていた時にも、何かのプロジェクトに参加した経験はないので、今回のような「配属決定」→「グループワーク」→「プレゼンテーション」といった流れを経験するのは初めてで、新鮮でした。グループ内で作業する中で、メンバー同士の考え方やコミュニケーションの仕方の違いに気づきました。組織の中で働くということは、そういうふたつ違いを乗り越えて、共通の目的を達成していくことなのだと実感しました。
- やっぱりチームで働くのがいい。
- 思ったより時間的にがんばれる。（楽しければ）睡眠時間がすくなくても。
- トップは本気で見てくれているのが驚きました。（おまごとにつきあってくれている程度だと思っていた。）

- もっとプレゼン方法や業務内容を知りたいと思った。
- 参加しない人の話を聞くと、「自信がない、不安だ、時間が合わない、私には無理、すぐに就職しないから」などなど、いろいろな理由を挙げていました。私も不安な気持ちでした。批判・評価されることを避ける気持ちが自分にあったからかもしれません。
- 参加してみて、私は人前で話すのが苦手ですが、慣れれば、もう少し出きそうな気がしました。新しいことも、まずやってみようという気持ちが大事だと思いました。
- 反省です。(グループでプレゼン内容をまとめる難しさもありました。1人だと、なぜ?の繰り返しで思考を深めることもできますが、グループでは“ノリ”を優先にしてしまったので、もう少し、ディスカッションの進め方に工夫が必要だったと思いました。
- 西友で女性の方が活躍しているのを見てうれしくなりました。
- 他の班のプレゼンを見て、論理的な話の組み立てや発表の際の表現方法など参考になった。
- 9/2~9/4 の3日間で本当に疲れてしまい、体力のなさに気づいた。
- 私たちの班は初めから終わりまで和気あいあいと楽しく過ごせました。
- 4人で協力して、すんなり作業ができたので、案外、短期間でまとめられるということが分かりました。
- 他の班の発表のすごさに驚き、女性（現役でない）の潜在的能力を感じた。
- フィードバックをしていただいて、ビジネスでプレゼンをするのは、厳しい目があるので、大変なんだということを改めて感じた。
- 働くこと、働き続けることはやはり素晴らしいと再確認できた。
- 自分が思っている以上に女性の視点や力が現場では求められていることが分かりました。
- グループで意見を出し合ってプレゼンを作るというのは、人それぞれ良いと思うポイントが違ったり、どこかで折り合いをつけなくてはいけなかつたりと難しかったです。テーマに基づいて作っているつもりでも気がついたら逸れていたり・・・。ただ、こういうのが社会に出て仕事をすることなんだとも実感しました。

- 女性の社会進出が思うように進んでいないこと。
- 何気なく見ていたお店の方の 1 つ 1 つの行動に、いろいろな理由と意味があることが見にしみて分かり感じられました。1 つの商品に企業の多くの工程と人手が関わることが実感できました。そしてそこにかける人々の熱意を感じ、「自分の社会への復帰」の感覚を感じました。
- 家庭と仕事の両立は難しいということに、改めて気づきました。(時短テクニックや、週末に下準備をするなど、家事の工夫が必要)
- 主婦が働くということは、(独身で働いていた時以上に、) 時間の制約や優先順位との闘いなのだと感じました。
- バックグラウンドが全く異なる人達と、1 つのものを作り上げるのは、非常に難しかったです。(会社だと、ある程度の共通項や前提条件があったものです。)
- 時に課程を優先しなければならないというジレンマに、すごく抵抗を感じていることに気づきました。(まだ子供がいないため、そういう事態におちいったことがあります。)
- 「社会で活躍する=男性と対等に働く」という独身時代の発想をいまだにもついて、主婦として働くにはどうしていくかというところまで考えられていないことに気づきました。
- 女性が社会進出することが会社の発展に本当につながるのだろうかと疑問視していましたが、「多様性を活かせる集団が、高いパフォーマンスを發揮する」と伺い、すごく腑に落ちました。
- プレゼンテーションはもっと難しいものだと思っていた。しかし、問題点を(ビジネスレベルにするにはまだまだ課題はあるとはもちろん自覚しております) 見つけ、動機→調査→問題提起→解決への施策などのやり方は子供の自由研究と同じ。話し合いも PTA の集まりと一緒にで、限りある時間で何とか 1 つの方向にまとめるなど子育ての時期にやっていったことも役に立つのだなと思った。
- 論理的に考える大切さ。

⑤プログラムに参加して、ご自身の考え方や行動、家族との関係などに変化がありましたか。あればどのようなものですか。できるだけ具体的にお書きください。

- チームのメンバーから意見を否定され、気持ちがへこんだ。その後、一番身近な家族への話し方にも気を遣うようになった。頭から否定しないこと、まず認めるように話す。
- 実際に働いている方々の空気管に触れられ、働くことの楽しさや大変さを改めて考える機会となりました。スーパーに入るときに売場や働く人をより一層観察するようになりました。
- 基本的には変わりませんが、私が生き生きとしていることは家族みんなにとってもいい影響を与えると思います。また逆に、あまり忙しそうにしていたり疲れてイライラしていると家族もおかしくなってしまうので、無理はいけないなと思いました。
- 自分と同世代に近い人達が社会の中心となり仕事していることを改めて感じました。365日どこかで誰かが働いていることも毎日のあたりまえの生活を自己管理する上で励みになります。ありがとうございました。
- 考えや意見が他人と違っても、普通なことであり、違いは違いで尊重するべきなのだと思うようになりました。
- 長時間家を空けることによる夫の不信感（？）。子供が遅くまで預けられているのに納得がいかない様子でした。
- 仕事を早くしたくなった。
- 勉強したいことが分かつてきました。
- もっとこうすれば良かったというアイデアがどんどん出てくる。
- 現時点での具体的な変化は分かりません。ただ、良い機会を頂いたことに間違いありません。これからしたいこと→プレゼンの本をまず読みたいです。
- 子どもはちょっとさみしそうだった。
- 主人がQC大会でプレゼンのチームの長として部下を指導しているが、実際プレゼンを経験してみて主人を少し尊敬するようになった。

- プレゼンをするのに当日緊張すると思ったが、まったく緊張しなくて、自分自身に驚いた。人前で話すことに自分がついた。
- もっと色々な事に興味を持って、知っていかなければいけないと思いました。同じグループの主婦の人と話していても、子どもがいない立場の私には知らないことが多々ありました。関係ない事、必要ない事とは思わず、色々な情報に耳を傾けたいと思いました。
- 建設的な物事の考え方、伝え方を改めて考え直す機会になった。
- 家族（子供）は途中で私が忙しくなったことにやっと気づきました。
- 夫は、どのくらいこれから自分が手伝ったらいいのか、様子をみているようです。
- 女性の社会進出について懐疑的でしたが、ポジティブに捉えられるようになりました。
- キャリアプランが一つ明確になりました。マネジメントに携わりたいという思いが強まりました。
- 西友のスタッフの方（3人の方がパートから社員となって働いていらっしゃる方）のお話は、普通のお母さんだった方がステップアップして役職のある社員になれるという実例で、まだ私にもやれることがあるのかなと希望が持てた。
- プログラムに参加された他の方が優秀なので、少し自信喪失しました。しかし、だからこそ、反省点を生かしてがんばっていこうとも思いました。

### (3) 参加者へのグループインタビュー結果

- 実施日

2015年9月18日（金）14：40-16：10

- 於：日本女子大学（目白）リカレント教育課程マルチメディア室

1) 現場で働く人のお話を参考になった

働くことの素晴らしいを感じた

- 1日目の最初に行った光が丘店です。3人の方が出てきて、キャリアとかいろいろなお話をなさっていた時に、すごく皆さんが前向きで。私は今ちょっと仕事から離れて、こちらで勉強しているのですが、仕事に対する姿勢をもう1度、ああそうだったという気持ちにさせてもらえたというか。仕事をしている時は、皆が忙しいので気を使って仕事をまわしているところがあって、なかなか理想とかを人と話すことがなく、そういうことを確認する作業も忘れていました。時折そういう作業を業務に入れていくと、モチベーションを高められるなどか、私自身も振り返りの機会をいただけた。
- 西友さんでは、やっぱり前向きな女性というものをすごく感じました。姿勢と雰囲気と、あとグイグイと人を引き付ける、引っ張られるような感じ。あ、働くってそういうことだよねというふうに、昔の感覚を思い出しました。
- 西友に行っていた時は辞めてほんと数日しか経ってなかった時だったんですけど、でもやっぱり働いてかたの話を聞いて、ちょっとアンケートにも書いちやったんですけど、あ、やっぱり働いていたいな、働いてる人のところにいたいな、ということを強く感じました。
- 努力したことと結果はついてくるという。家庭でもそうなんでしょうけど、日々の繰り返しで気づかないことっていっぱいあるので、やっぱりお仕事で気づいてくっていうのも、やっぱりずっと経験していきたいなっていうのは、改めて実感しました。

2) パートからマネージャーに昇進できるシステムは、専業主婦になった人にとって魅力的だ

- サブマネージャーの女性たちが、やっぱりパートで入って、で何年か頑張ってちゃんと

正社員になって、さらに店長とかも目指して頑張ってらっしゃる姿が、素晴らしいなと思いました。ご本人達の資質も、もちろんあるんだと思いますけれども、会社側が、評価してあげたり、引っ張ってあげようとするそういう人材育成の仕組みがあるんだなっていうのが分かったので、ああ素晴らしいなと思いました。

- 最初の入り口は、皆、すごく出世したいとかって思っていたわけではなく、何となく時間が出来たからって働かれる方も多いと思うんですけど、その中で、自分の時間を大事にする方もいるし、そうじやなくて、こっちの仕事の世界で頑張りたいって思う人もいて、二つ道があるっていうのが良いと思いました。そう、なんか何となくした気持ちで入った人でも、こう、入ってから選べるっていうのが、良いなと思いました。
- 一回、家庭に入っちゃうと、なんかもう一戦外しちゃったような気が、皆、一瞬だと思います。で、やってみたら、案外、出来るじゃないと思う。思っても、パートはここまでですよっていうのがあると、つまんなくなっちゃうと思うんです。でも、見本みたいなモデルがいると、私もって思う人もいるだろうなっと思いますね。現場でほんとに働かれている、パートの方のご意見を、聞いてみたかったです。工場で働かれている方、ラインの、本当に第一線で働いている方。パートに近い人の声を聞けるのは魅力的だと思います。

### 3) ビジネススキル（プレゼンテーション、ディスカッション、論理の組み立て方を学んだ

- 昔、仕事で何かを説明するということはやっていましたが、こんな風に言うことがはつきり決まっていない、ぼやっとしたものはやったことがなくって。ましてや 15 分って結構、長いじゃないですか。だから 15 分も何かをやるというのは大丈夫かなと思ったのですが、ああ意外となんとかなるものだ、とすごく思いました。あとは、自分のプレゼンのあとに講評と、ほかの方々のプレゼンがすごく勉強になりました。
- 一人で作るよりグループで作るっていうのはものすごく難しいなって思いました。折り合いをつけるべき部分とかがかなあ。人それぞれ思うところはあるので折り合いをつける部分とか、あと時間ないなかでどれだけいいものを作っていくか。あとはやっぱ

り、最後の発表の緊張感は、ああいうことを今まで仕事でしたことがなかったんですね。

- 今まで自分がプレゼンしなきやならないってなった時に、ある程度の期間があって、じっくり作っていくっていう形だったんですけど、今回ほぼ実質 2 日もなかつた状態で、こういうところで作業するのは半日ずつとかが 2 日間あつただけで、あとはもう個人作業で作ったものだったんですけども、完璧じゃなかつたかもしだれけど、ですけれど、今まで私、あれだけ時間かかって作っていたものが、これだけみんなて集中してやると、あれだけの時間でもあれだけのものが作れるんだっていうのが、じゃ私って今までやっぱりさぼっていたんだってすごい、逆に思つてしまつて、何か恥ずかしいなっていう。なんか集中しているっていういな、仕事しているっていういなってすごく思いました。仕事でプレゼンをする機会があつたので、逆に、今まで私、仕事だらだらしてたんだな、って感じてしまつて反省しました。
- プrezentationについて、「ああ、良かったよお」と言われるより、厳しい言い方のほうが、本気で来ているなってことがすごく分かつた。そこで、「あ、向こう本気だ」って焦るみたいなところがありました。思つていた以上にほんとにビジネスとして扱ってくれたので、私たちのプレゼンを。それでしっかりといいところはいい、もっとこうした方が、いいところはこうした方がいいという評価をしてくれたので、すごくお勉強になりました。お金払つてもできない経験なので。いくらお金払つてもあんなトップの人たちとは、普通に就活していたんじや絶対経験できないようなことでした。
- 私は個人的には、パワーポイントを使わなかつたっていうので、今回は褒めていただいたけれど、やっぱり今どきはパワーポイントなんだなあって思いました。だからパソコンの能力、求められたように仕上げられるかしらっていう、自分の能力が大丈夫かどうか、感じました。
- プrezentのご講評の時、この班は理論の組み立てを褒めていただいたんですけど、私自身はそこには実はタッチしてなくつて。あの組み立ては、あのほんと他の方が、ああこうすると良いよねって言ってくださつたのを、ああそうだねって聞いて、うなづいてた方なので。だから、出来そうで出来ないところもいっぱいあるので、その辺を鍛えて

いかなきやつて思いました。いやそうか、ビジネスは理論の組み立てかあと思って。

#### 4) もっと自信を持っていいと感じた

- リカレントのみんなは、自分のことをできないと言っているけれど、そうではなく、素晴らしいものを持っているのに、それがうまく活かされていないだけなのだと、考え直しました。みんな主婦をやっていたというけど、みんなのことをもっと認めていかなければならぬと、実感しました。
- 最初はこのプログラムに出ること自体もすごく悩んでいたのですが、参加すればむしろ慣れて出来るようになるのではないかと考え、一つのきっかけにしたいと思って、参加しました。実際に参加してみたら、今みなさんも驚いてくださいましたので、できたのかなと言う風に思いました。あと、うちのグループは、4人だったのですが、みんな役割がうまく分担されていたというか。Hさんが寸劇のスクリプトを書いてくださったし、Bさんは字が上手で、それぞれの持ち味が出ていてすごく面白かったです。そういうふうに人の色々なところをみて、活かすということを模擬的にできたのも、よかったです。
- 変な自信ができたというか、あ、なんか、今すごい、その、西友に参加するというか、リカレントに来るのもそうですが、自分の価値をすごく低く見積もっていたというか、実際能力はないなっていう、すごく思っていたんですよ。時給にしたら千円もあればいい方かなと、東京で。でも、それを目指した時に、それで就職したところでいいものは出ないなと思って。目指すなら、どうせならプレゼンでこんな所に座って講評していたほうになりたいな、とは思いました。でもそれはめざせるか、行けるかどうかは置いておいて、目指すのは今からでもいけるんじゃないかな、っていうふうに思えたっていうのはありましたね。なので、今の勉強は大事だけど、もっと他にこの勉強時期を生かして、マーケティングだったりとか、もうちょっと考え方、ビジネスのスキルだとか、MBAとかなんか調べてみたりとか、そういうのもいつか目指せるじゃないかなと思うきっかけになったと思います。
- 全く知らない間柄で、短期間にこう作り上げていくっていうのは、ある意味、やっぱり

それ力ですよね。

- お子さんのいる方の強さみたいなのを、私はすごいひしひしと感じました。いやもう皆さん、なんかやっぱり本番に強い、なんか度胸があるって思いました。

#### 5) 働く感覚を味わった

- この5日間がけっこう忙しかったので、自分が思ったより体力がないな、疲れたなどいうのがあって。土日はすごくぐったりしていました
- 仕事をする人の論理とか考え方、仕事していない人とはちょっと違っているところがあるので、自分もそういうふうに頭の中をきちんと作っていく準備をしなければと思いました。西友のほかの店舗の方も、プレゼンの際にすごく論理的に話されていたので、私もそういうふうにしなければと思いました。
- 確か質問の時に、嫌いな社員とか苦手な社員がいたらどうするのかという質問が出て、それに対する答えだったと思いますが、嫌いな人には自分から近付けば近づくはずだとおっしゃっていて。あ、なんか、まさにそれと同じだなと思って。やっぱり何でも、なんとなくイメージで嫌だなと思って一線を引いてしまうと、何かを知るチャンスが損なわれるのだなと思いました。これはこれから社会に出るうえでも同じですね。今回のプログラムに対しても、最初は苦手だし興味もないからいいわと思うところもあったけれども、最後は来てみてよかったですなと思いました。
- 会社で仕事をするにしても、配属は上から言われるものだから、配属先で初めて会う人もたくさんいますよね。もちろん色々と考え方の違いもありますし。それでも共通の目的を掲げてやっていかなければならない。だから最初は手探り状態だけれども、お互いを尊重しながら、時間をかけてみんなで話し合っていく、そうすると最終的にはどうにかなるというか。ああ、これが仕事をするということだったなと、思いました。
- リカレントを1年間やってみて、どうしてもいい成績を取ることに一生懸命になってしまう人も結構いた様な気がしたのです。私自身も本来は就職したくてリカレントにきたはずなのに、単位を落とすのが格好悪いとか、いい点を取りたいから勉強を頑張るとか、そういうことに意識が行ってしまっていました。もちろんそれも大事なことだけ

ど、社会に一步出る勇気は、勉強ができることではないなと思って。今回、今働いてい  
る方と対等に話して、アドバイスをいただけたということが、すごく社会人らしいとい  
うか、今まで主婦語しか話してこなかつたような自分が、もしかしたら社会人になれる  
かもという感覚が生まれたことがすごく大きかったです。それは、大学の中ともまた違  
います。

- さっき主婦語という発言が出ましたけれど、本当に主婦としてぼやっとした世界に生  
きていた自分が、いきなり 5 日の間、がーっとした中に入れられて、本当にカナヅチで  
頭を叩かれたような衝撃がありました。
- 最後のプレゼンがあるっていうので、何か改善をするとか、そういう提案をしなければ  
ならないというのは念頭にあったので、そういう目で見られた。仕事っていうのは常に  
そういう目で見とかないとだめなので、こういうのが仕事だったなと確かに思った。ち  
ょっと緊張感みたいなものがあり、こんなだったなと思い出しました。最後のプレゼン  
の講評がもうまさに、ああ仕事だなっていうのを見せつけられたと感じた。
- 自分が思っている以上にいろんな場所で女性のかたの能力とか、そういう力は必要と  
されてるんだな、と感じました。物流センターに行ったからだと思うんですけど、ほん  
とにまるっきり男性イメージだったので、ああいう所でもやっぱり女性の気配りみた  
いなものが必要とされていると聞いて、いろんな所でやっぱ求められているのはある  
んだなあ、というのは分かりました。
- 仕事って評価は日々受けていると思うんですよ、でも、うちに、なんか家の中に入っ  
てしまうと評価ってゼロになってしまふんですよね。そうすると誰も何も言わない。お互  
い、今の時間が過ぎればいいと、まともなり主人なり、子どもなり、全員思っているな  
かで、ああ、評価受けるのが仕事だなって思った。ああ、これが仕事だなって思った。

#### 6) 家族との関わりについて考えた

- 家族のこともあります。うちの家族は私以外全員男なのですが、いざ私を抜かしてみた  
ら、うちの家族って家のこと何もできないの、みたいな。私が忙しくなって、家事が滞  
おる部分があったのですが、それもそのまま放っておくみたいな。皿を洗ってくれとま

では言わないけれども、もう少し何かあってもいいと思って。だから1年をかけて、家族の教育と、もう少し自分も手際よくできるようにと。

- 私ももう15年ほどずっと専業主婦をやっていますし、子どもが生まれる前からずっと主婦だったので、この西友の5日間だけでも、ママ今日もまた遅いの？みたいな。別にもう大きいので留守番とかは大丈夫なのですが、やはりいないことを何か寂しがっている様子もあって、直接は言わないけれども、若干不満があるのを薄々感じました。だからやはり、うちも就職するとしても、ある程度は早く帰って来られるような仕事の方がしばらくはいいのかな、と思いました。でも西友さんで、皆さんのがいきいきと働いていらっしゃるのを見て、何かしたいとも強く思っているので、今は限られた範囲で何かをやるのもやりがいというか、そう思えるようになりました。
- まだ子どもはいないんですけど。夫は、私がリカレントに行くことも、外で働くことも、大賛成なんんですけど。かといって彼が家事をするかどうかって言ったら、しないんですよ、絶対。もう今でいっぱいだからっていう感じで。私は逆転しても良いと思っているんです。私が外に出て、はい、主夫やってくださいって。二人だけなので。リカレント始まって、既にけっこう、ほったらかしになってるというか、今までのようには、あの、お世話できないよっていうのは言ってあります。
- 今度親が段々、歳を取ってきたりしているので、その、バリバリ働いちやつたら、親が困った時に(質問者:どうしよう?)どうしようかな、と思ったりもするので。もう子供は割と大きいので、あんまり心配はないんですけど、親だよなと。でもいつどうなるかななんて、誰にも解らないので、あんまり考えない方が良いのかなと思って。どうにかなるだろう思う気持ちの方が強いですね。
- リカレントに来て、私が勉強している姿を子どもたちも、学べと思ったんですけど、逆に、私の方が学んでいて。やっぱりやんなきやだめだよねって、お互いが。ほんとはお母さんが優等生的に、こんな風にやんなきやだめよって姿勢を見せようと思っていたけど、実際には、お母さん今やらないといけないから、ごめん、話しかけないで、といった感じです。リカレントに來てる段階で、親離れ子離れというかという感じになつ

てきました。ちょっと欲張って、トイプードル飼ったんですよ。娘が勉強するからって言うから。で、クリスマスプレゼントに買ったら、年明けに来て。その子が、お利口さんでお留守番してるんですよ。で、逆にそれだけ心配。娘は良いらしいんですね。ほとんど寝ているから、ほつといて大丈夫って言われて、安心してるんですけど。何かあつた時、地震あった時とか、誰かが助けにいかなきやいけないので。正直、心配です。

#### 7) 自分のキャリアを深く考える機会になった

- 私は、西友に参加する前後で変わったこともあります。リカレントにはもちろん、再就職を目指して入りました。子どもももう大きくなったり、仕事も好きだったので、そろそろ仕事をしようかと思って。でもやはり 10 年ほど仕事から離れていたので、どういう仕事を自分がやりたいのかよく分からず、それを探したいと思って、ここに入って、いろいろな教科を取りました。でも勉強も大変だし、仕事が好きだから就職は目指したけれども、自分が何をしたいのかは分からず。そうなると、これほど分からないのに就職する意味はあるのか、どうして分からないのに就職したいのか、とずっとモヤモヤとしていたのですね。でもプログラムに参加し、プレゼンを行った時に、自分のやりたいことに向かって頑張って仕事をしていらっしゃる素晴らしい方、キラキラした方々をたくさん見て、ああやっぱり、自分は仕事がしたいのだと思うようになりました。これがやりたいという具体的な目的は、まだなんとなく漠然としていますが、仕事は絶対にやりたいと思えるようになったので、何をしたいかはこれから決めていこうと思います。
- 休憩時間の時に、よく H さんと一緒に就職とかの話をしていて、すごく色々なことを聞くことが出来ました。例えば履歴書の写真とか、ハローワークの活用方法とか、色々と知らないことを教えていただいて。16 回生同士ではいろいろ話していましたが、15 回生の方とも話をすることができたのは、私にとって大きかったです。H さんも、もうその時には最終まで進まっていたので、そこまでどう動いていたのかなどを直接聞けたおかげで、就職活動がすごく身近なものに感じられるようになりました。
- 確かに成績も気にならないわけではないけれども、授業の話よりはもっと就職の話を

聞きたい。リカレント課程を受講しているとき、勉強ばかりになってしまふことが、本當にもったいないなと、すごく思っていました。時々勉強だけに意識を取られてしまう方がいらしたのですね。私自身も成績を気にしてしまったところがあるので、分からなくはないけれども、やはり成績云々よりは、就職について考える機会をもっと増やした方が絶対にいいと思います。

- 私はリカレントでやっていることよりも、この、この 5 日間のほうがすごく仕事をしたいなと思いました。なぜならと言いますとやっぱり、集中してものを作るっていうのは、思い出したというか、それが楽しいからどんな辛いことでもやってきたんだなっていうのを思い出したので、一人で勉強しているよりかは、チームで何かを作るっていう作業がしたい。つまりそれは、私は働くってことなんだなっていうのが見えてきたっていうのがあるので、よけい働く意欲が湧いたと思います。
- 今まで自分より年下の人とばっかり働いていたので、あの、結婚している人自体が少ない。私自体結婚していない。私以外の 3 人のかたは結婚されてて、子どももいて、主婦の目線をもっているかたと一緒にこうやって一つのものをつくるっていうのは、私にはない視点が、とかが分かつてすごく新鮮でした。ただ、そういう視線も別に結婚している・していないも関係なくて、そういうのは持ってたほうが、すごい、働いていく上では必要だなっていうふうに思って。知らないことがまだまだいっぱいあるなと思いました。
- なんかすごくまだ漠然としていて、とりあえず長く働くところに入りたいっていう思いは一番にあるので。ああいう西友さんみたいに、あのう女性を応援してるというか、支援しているような企業がもっと他にもあるんだったら、そういうところを調べてみたいなど考えるようになりました。
- パートさんから入った人でも、望んで上に上がるシステムがあるっていうのが、私が働いていた所では、そういう感じじゃなかつたのでずいぶん違うと思いました。なんか、まあ、時代なのか、業種なのか、あの、会社なのか、分かんないんですけど、すごいなと思って。入った時は、それ程、野心的な気持ちで入ってない感じの方でも、段々そう

いうふうな気持ちになつていかれるっていうのは、再就職とかした方にとってみたら、良い会社なんじやないかなって思いました。

- あの2年前に結婚して、でそれで家庭に入ったんですけど、で元々お料理も好きなので、まあうまくやれるだろうと軽く見込んでいたんですけど、実際、毎日、家事だけの生活をちょっともうやりがいを感じられなくて、なんかもう自分の人生じゃなくなってしまったような、なんかそういう感じで、鬱々としていたんですね。で、そういう時に、あの夫が、もう近所のスーパーとか、どこでも良いから、あの働いてみたら?って言ってきたんですけど、それもちょっとなんか違うなあって。どこでも良いからっていうのは違うなあと思って。で、リカレントに入ったんですね。で、それでもまだずーっと、これからどうしようかっていう部分を悩んでたんですけど、このプログラムに参加してからは、やっぱりフルタイムで、正社員で、で、マネジメントに携わりたいなって強く思うようになりました。やっぱりあの本社の幹部の方と触れて、こういう人達みたいになりたいって。

## 8) プログラムに対する要望

### ①もっと店舗見学の時間を取った方が良い

- (店舗見学は) 時間がなくなつてしまつて、ただスーと見るだけだったというか。例えば食品売り場もスーと通っただけでしたし、レジや商品の並べられ方とかもあまり詳細に見ることが出来なかつたのですね。だから店舗チームとしては、素晴らしいものを見せられたうえで、一体何をどうやって提案すればいいのかと、ちょっとなやみました。
- 店舗もレジも何も見ていないし。食品とかも自分がスーパーで買い物する時の方が、時間をかけているくらいで。実際に買い物かごを下げて、1時間くらいフリーで回ったほうが良いのではないか。
- せっかく店舗を見学するのなら、品物をどう入手して、どう並べて、売れ残ったものをどうするのかという話も、もうちょっと聞きたかった。
- 光が丘店が良い店舗だったっていうのは再三でしたが、その一番いい店舗を見せて

ただいたうえで、その店舗がどれくらい素晴らしいかという説明をいただき、さらに対照的な、例えば中堅の店舗でもよいのですが、そういうところを見学することができれば、より提案や考えが出しやすいという意味で良かったと思います。

- 練馬の会議室に行った時、練馬店がすぐそばにあったので、あそこも見学コースに入れ事が出来れば、良かったですよね。お弁当も、持ってきてくださいじゃなくて、西友で買えばよかったです
- 開講式は丸 1 日でなく午前中だけにしてしまって、翌日から店舗に行くのがいいかなと思いますね。もし皆さんで見に行くのならば、店舗で十分に時間を持って、バックヤードなんかも見たほうがいいと思います

#### ②目白集合でバス移動ではなく、現地集合で良い

- バスでの移動ではなく、現地集合・現地解散でいいと思います。

#### ③もう少しスケジュールに余裕がほしい

- それにしてもこの短期の 5 日とかじやちょっとやっぱり。延ばしてほしい。授業で半年かけてもいい。ちゃんと先生なり何なりがついてくれて、だったらすごく面白いと思います。先生はそのプレゼンとかの内容とか視点とか、そういうことをアプローチかけて、それをどう相手方に見せるかっていう説明、説明っていうかそれを誘導、誘導じゃないけどアドバイスくれるっていう人がいてくれると良いと思う。
- 見学してすぐ翌日からその作業に入んなきやいけなかつたので。あれで、もう 1 日、何にもない日があって、家の中でちょっと、考えられるような時間があれば、もうちょっとこう、気持ち的にもうちょっとうまく、あの時間配分とか、うまくいったのかなとか思って。
- なんか見学して、帰ってきて、お家でご飯とか作らせて、はい、次とかなると、考える余裕は、もうなくて。見学終わった時点で、土日だったら、なんか、良かったのかなってちょっとと思いました。
- もうアイディア出しの日に、形にまでしないといけなかつたので。やっぱりもう一呼吸置きたかったなっていうのは私も、同じですね。

#### **④事前説明会の開催日時に工夫をしてほしい**

- 8月31日に事前の説明会があったのですが、次の店舗の見学の日の時にも次の持ち物などをしっかりと教えていただいたので、31日に行く必要はあったのかな、時間がもつたいなかったのではないかと、少し思いました。店舗見学当日も、店の方や若菜の方が心配して色々と言って下さったので、それでももう十分だったかなーと。それだったら31日の分はなくしてしまって、その分空いた時間にプレゼンの練習とかを入れられたのではないかと思います。
- ちょうどあの時、子どもが夏休みだったので、31日もわざわざ子どもの預け先を探して参加したのですが、そのわりには何もなかった。4限とかの空いた時間に1時間くらいでやってくださった方がいい。

#### **⑤プレゼンテーションの練習は有意義だったが、プレゼンテーションについてもう少し勉強する時間があったほうがよい**

- あの事前のリハーサル時間があったから、実際のプレゼンの場になってもライバルという感じにはならなくて、互いに助言しあえたし、他のチームの発表も見守るようなあたたかい気持ちで聞けたと思います。
- プロがプロとしてちゃんと見てくれるところに行くっていうのであれば、もう少し事前の勉強っていうか、プレゼンテーションについて知る機会、何なら授業でそういうのがあってもいいなと思うし。ちょっと話し方とかの勉強もあってもいいなとすごく思いました。
- 何も教えてもらってないのに、ビジネス的に評価されても身につかないと思うんですよね。プレゼンの練習のタイミングをもう少し考えてほしいなっていうのが。時間がない中でやっていて、何となくやりました、で、中途半端なまま見せました、講評がありました、でなんか中途半端なままやっちゃって。そうではなくて、ある程度固まるところがもうちょっとほしいから、プレゼンの練習が夕方じゃなくって、お昼頃とか、午前中もうちょっと時間があった方が良い。講評される人たちも素人だしやっぱり、講評する人たちも。どういうのが流れかといったら、なんとなくこう寸劇して、とかそういう

のに陥ってしまいがちな講評であったとか、見せ合いつこによってそれが生まれてしまつたっていうのは、なんかすごくもったいなかつた。ビジネスはビジネスって初めから言ってほしかつたです。

- 私は評価とかは別にほんと、どっちでも、卒業したらどっちでもよくて、この経験ができるかどうかは全然違うと思うので、そこはほんと、もっとその辺を、来ている人たちに押していただきてもいいかなという気もしますね。

#### ⑥大学の授業と上手く連動させてほしい

- キャリアの授業とかうまく連携してくれればよいと思う。例えばこのプログラムに向けた授業を、キャリアの授業の後半でやるとか。他にもプレゼンのやり方とか、セルフ・リーダーシップとは何かという説明があつたりすればいいのかも。
- 必修にしてしまつて。出たその分で単位をくれますとかなつたら、絶対いい。そうでなければ、授業の選択カリキュラムの中の1つのコマに入っている、というだけでも全く違います。「女性とキャリア」の1コマとか。
- 本当は、初日の最初の講義を、キャリアマネジメントとかの授業にくつづけてしまえばいいのではないかとも思つていたのですよね。確かに、キャリアの授業の時に、今日は外部から講師が来る日です、という時間があつても、全く違和感はないですね。それでお話を聞いてみたら、ああじゃあ若菜に行ってみたいとか、絶対になると思うし。何か提案を、と言われても、ああ提案してみたいなどか、なると思います。
- 授業の中とかから上手くステップがあつて、繋がつているのが見えるといいのかなつて。17回生の方々は、15回生、16回生のことを、先輩ですとおっしゃつていたけど、授業でプレゼンもマーケティングも学んでいません。プレゼンとは何か、という土台がないと、しんどいと思います。知識も何もない状態で、はい作つて下さいと言われても。
- 西友に行くのであれば、例えば西友には物流部門がありますから、物流業界について1日研究する時間とかを、キャリアの授業の中とかで取つて下されば。そうやって何かをリンクさせていけば、また変わるかなと。多分、そこの会社さんにあまり興味がない人たちの中には、会社名を見ただけで来るのをやめてしまつたという人もいっぱいいた

と思うのですよね。私は小売りには行かない、とか決めちゃっていると、西友さんだったら私には関係ないみたいになってしまふというか。物流だったら興味ない、とか。でも実際は今回のプログラムは、全然そういうことは関係なかったから。なんかもったいなくって。本当にもったいないなと思います。

- この大学には経済学部や経営学部がないので、こういった授業はあまりない、と思っていたのですが、実は意外と家政の経済でこういう授業をやっていて。例えば経営学入門の授業とかも、結構しっかりしたカリキュラムと先生でした。実は今日も受けてきたところで、中小企業の話を聞いてきました。だから実は学部の授業もすごく勉強になるのですね。もリカレントに入ってきたばかりの人ってこういうことを知らないし、学部は履修の登録期間も短いから、ゆっくり考える暇もなく募集が終わってしまって。あとからこんな授業があった、私も取りたいと思っても、もう締め切ってしまっているから無理となっていました。
- 私は学部の授業を1個取ったのですが、その授業は毎回ディスカッションをして、プレゼンも毎回必ず各グループから1人ずつしていました。あれはすごく良かったです。だから学生はやっているのか、でもリカレントにはないです。

#### ⑦プログラムで取りあげる業種について

- スーパー就職するという予定はないんですけど、普段よく行く場所なので、割と提案は、出やすいのかなっていう感じで、逆に、参加しやすいと思いました。
- 主婦の視点が生かせるという意味では、生活者の視点を活かせるっていうのを売りにする意味では、女性をターゲットにしているメーカーなどがあるなと思います。

#### 9) さらに集客するためにはどのような点が改善できるか

##### ①プログラムに関する説明会を早めに実施し、内容を詳細に伝える

- プログラム用の説明会、こういうことりますよといった説明会があったほうがよい。入学説明会か何かの時に何か説明あったんですけど、けっこう漠然としてざっくりとして。大変好評が高いみたいな言い方で。まだちょっと調整中なんですけど、みたいな感じだったので。あまりよく分からなないと。不安だよね。去年行った人の意見がも

っとあつたらいいかもしない。

- もう少し時間が最初からわかっていて、それでもっと明確であればみんな調整できたと思うんですよ。何となく朝から夕方まで、って言われると、朝 9 時にここに来て帰り 5 時だったら、みんな、えっ大丈夫かなって感じになるけれども、この日はこれで、この日はこの時間で、これだけでいいですよって言われたら、みんな調整できるって思うんですよ。
- ちょっとアナウンスの時期が遅かったです。
- なんか 5 日間、拘束、っていうイメージしかなかったのが、ちょっともったいなかつたかなって。そこまでしなくちゃいけないのかな、行ったら怖そうだしみたいな、とか。一歩が出ない。
- プログラムの良さが事前にあまり伝わっていなかった。
- セルフ・リーダーシップという言葉の意味を事前に教えて下さっていたらよかったです。結構みなさんよく意味が分からぬまま、終えてしまったようなところがあると思う。

## ②事前講演会について

- 7 月 3 日の事前講演については、何も知らなくて。確かに開始時間も漠然としていて。何時に始まるのかも、何時に終わるのかもわからないのに参加して下さいって言われたので、最初はうーんと思いました。本当、実際、何も分からなかったですよ。
- 7 月 3 日の講演を聞いて、残念だったという人がいっぱいいました。3 日は執行役員とか、すごい方がお話をされたので、もう私とはレベルが違うみたいだ。あんな MBA とかを取った人のお話を今から聞いても、えーとという話だったので。ほかの 2 人の方も、「働きながら」というのは分かるのですが、学部を卒業した時に西友に入られた社員の方なので、再就職の話とか何もありませんでした。むこうとこちらが全く違うので、その時間がもったいなかつたです。だからもっと自分にとって身近な、例えば練馬の方々のお話とかならば、みんなもっと聞きたかったと思うのですが。だから 1 人でもそういう人がいればよかったです。

- 店舗でお聞きした話と、執行役員の方のお話があまりにも違いすぎて。だから、多分ちょっと聞きたい話と違っていたと思うのですよね。だからと言って、店舗で働きたいのかどうかとなると、またちょっと違うじゃないですか。だからいろいろな業種や部署の人が、あの場にいればよかったと思うのですが、それがいきなり本部の人が、しかも執行役員の方がバーンと来たので、あなたでは素晴らしいすぎて、うーんみたいな感じでした。
- トップの方たちが、講演会に来てくれて。あれはあれで、若干ちょっと違つてて。新卒の子が見れば面白かったと思うんですね。私たち側にすればプログラムのなかにあつた趣旨からいって、4時間から始まって社員になって、あのう、副店長やってますっていう人の話しのほうがやっぱりすごく興味が湧いたっていうか、それを先に聞いてれば、もう少しみんな来たかもしれないなって思いました。
- 再就職系とリンクしてないですよね。身近なロールモデルにはなりにくいでよね。

### ③その他

- もっとみんなに経験してもらって、むしろ目玉じゃないのかな、って思うんですよね、私的には、リカレントの中で。でも私たちより若い子が全然来てなかつたのがもったいないと思ったのがあるので、もっと募集の方法を考えたほうがいいのかなって。
- プログラムに参加しても就職には結びつかないだろうなっていうのは、みんな、もちろんあったと思うんですよ。働くためにこのプログラムに参加するっていうのはイコールになってないと思うんですよね、もちろん。だったら、西友にもしかしたら何人か行けるかもしれないよっていうプログラムなら、何人か、もうちょっと来たかもしれないっていう話ですか、それは。
- 個人単位で参加できるようなインターンシップがあると有り難いです。
- やっぱり最後の就職かもしれないっていう思いがあって、そうなるとやっぱりミスマッチが怖いんですよ。企業と自分との。あと、面接っていう短い時間の中で、自分の実力きちんとアピールできるかどうかも解らないので、だからインターンシップがあつて、一週間ぐらい、こう、見てもらう。お互い、見合うっていう期間があれば、ありが

たいです。

- OB 訪問じゃないんですけど、OG、なんかで、どんな感じですか聞けるようなチャンスがあると有り難い。求人表来ただけで、会社選べるんだろうかとかって。OGですか、ちよこっとお話できる機会があると。具体的に分かるし、不安はなくなりますよね。

#### (4) プログラムの評価・まとめ

プログラム修了後、参加者に対するアンケートと振り返りの会でのグループインタビューを行い、プログラムで得たこと、気づき、感想をたずねた。その内容について、本プログラムの3つの目的である①マネジメントに対する提案を作成する一連の作業を通し、職場で働く感覚を取り戻してもらう、②働く女性たちから仕事に対する想いや、仕事と家庭の両立についての話を聞くことで、再就職に対する具体的なイメージを得る、③討議や提案作成、プレゼンテーションなどのビジネススキルを学ぶ、という視点で分析し、これらが達成されたのかについて評価した。

##### 1) アンケート調査での記述

**目的1 マネジメントに対する提案を作成する一連の作業を通し、職場で働く感覚を取り戻してもらう。**

“実際に働いている方々の空気感に触れられ、働くことの楽しさや大変さを改めて考える機会となりました。スーパーに入るときに売場や働く人をより一層観察するようになりました。”

“自分と同世代に近い人達が社会の中心となり仕事していることを改めて感じました。365日どこかで誰かが働いていることも毎日のあたりまえの生活を自己管理する上で励みになります。”

“グループ内で作業する中で、メンバー同士の考え方やコミュニケーションの仕方の違いに気づきました。組織の中で働くということは、そういった違いを乗り越えて、共通の目的を達成していくことなのだと実感しました。”

“仕事を早くしたくなつた。勉強したいことが分かつてきつた。もっとこうすれば良かったというアイデアがどんどん出てくる。”

“参加しない人の話を聞くと、「自信がない、不安だ、時間が合わない、私には無理、すぐに就職しないから」などなど、いろいろな理由を挙げていました。私も不安な気持ちでした。批判・評価されることを避ける気持ちが自分にあったからかもしれません。参加してみて、私は人前で話すのが苦手ですが、慣れれば、もう少し出きそうな気がしました。新しいことも、まずやってみようという気持ちが大事だと思いました。”

“主人がQC大会でプレゼンのチームの長として部下を指導しているが、実際プレゼンを経験してみて主人を少し尊敬するようになった。”

“働くこと、働き続けることはやはり素晴らしいと再確認できた。”

“もっと色々な事に興味を持って、知つていかなければいけないと思いました。同じグループの主婦の人と話していても、子どもがいない立場の私には知らないことが多々ありました。関係ない事、必要ない事とは思はずに、色々な情報に耳を傾けたいと思いました。”

“何気なく見ていたお店の方の1つ1つの行動に、いろいろな理由と意味があることが見にしめて分かり感じられました。1つの商品に企業の多くの工程と人手が関わることが実感できました。そしてそこにかける人々の熱意を感じ、「自分の社会への復帰」の感覚を感じました。”

## 目的2 働く女性たちから仕事に対する想いや、仕事と家庭の両立についての話を聞くことと、再就職に対する具体的なイメージを得る。

“女性の社会進出について懐疑的でしたが、ポジティブに捉えられるようになりました。キャリアプランが一つ明確になりました。マネジメントに携わりたいという思いが強まりました。”

“女性が社会進出することが会社の発展に本当につながるのだろうかと疑問視していましたが、「多様性を活かせる集団が、高いパフォーマンスを發揮する」と伺い、すごく腑に落ちました。”

“西友のスタッフの方（3人の方がパートから社員となって働いていらっしゃる方）のお話は、普通のお母さんだった方がステップアップして役職のある社員になれるという実例で、まだ私にもやれることがあるのかなと希望が持てた。”

“一つの企業の中に実はとてもいろいろな働き方があることに気付きました。”

“私が生き生きとしていることは家族みんなにとってもいい影響を与えると思います。また逆にあまり忙しそうにしていたり、疲れてイライラしていたりすると家族もおかしくなってしまうので、無理はいけないなと思いました。”

“夫は子供が遅くまで預けられているのに納得がいかない様子だった。”

“家族（子供）は途中で私が忙しくなったことにやっと気づきました。夫は、どのくらいこれから自分が手伝ったらしいのか、様子をみているようです。”

“家庭と仕事の両立は難しいということに、改めて気づきました。（時短テクニックや、週末に下準備をするなど、家事の工夫が必要）主婦が働くということは、（独身で働いていた時以上に、）時間の制約や優先順位との闘いなのだと感じました。そして、時に家庭を優先しなければならないというジレンマに、すごく抵抗を感じていることに気づきました。”

“社会で活躍する＝男性と対等に働く、という独身時代の発想をいまだにもつていて、主婦として働くにはどうするかというところまで考えられていないことに気づきました。”

### 目的3 討議や提案作成、プレゼンテーションなどのビジネススキルを学ぶ

“チームでのプレゼン準備の過程で、自分ひとりでやったほうが早く思い通りのものがで  
きるという思いのなか、人に任せること、自分の意見をどこまで通すべきか、相手の意見  
へのNGの出し方、などについて考えさせられた。結果的に他の人が出したアイデアが褒  
められ「多様な意見の大切さ」「それぞれのメンバーの良さを引き出す大切さ」に気づい  
た。他の班のプレゼンを見て、論理的な話の組み立てや発表の際の表現方法など参考にな  
った。プレゼンテーションに対するフィードバックをいただいて、ビジネスでプレゼンを  
するのは、厳しい目があるので、大変なんだということを改めて感じた。“

“グループで意見を出し合ってプレゼンを作るというのは、人それぞれ良いと思うポイント  
が違ったり、どこかで折り合いをつけなくてはいけなかつたりと難しかったです。テー  
マに基づいて作っているつもりでも気がついたら逸れていったり・・・。ただ、こういうの  
が社会に出て仕事をすることなんだとも実感しました。”

“建設的な物事の考え方、伝え方を改めて考え直す機会になった。”

“プレゼンテーションはもっと難しいものだと思っていた。しかし、問題点を見つけ、動  
機→調査→問題提起→解決への施策などのやり方は子供の自由研究と同じ。話し合いもP  
TAの集まりと一緒にで、限りある時間で何とか1つの方向にまとめるなど子育ての時期に  
やっていたことも役に立つのだなと思った。”

以上に示した2年目の実施内容に対するアンケート結果から、①マネジメントに対する  
提案を作成する一連の作業を通じ、職場で働く感覚を取り戻してもらう、②働く女性たち  
から仕事に対する想いや、仕事と家庭の両立についての話を聞くことで、再就職に対する  
具体的なイメージを得る、③討議や提案作成、プレゼンテーションなどのビジネススキル  
を学ぶ、という3つの目的は、概ね達成されたものと評価できる。

## 2) まとめ

本セルフリーダーシップ・プログラムは、企業との協働によるこれまでになかった形の再就職支援プログラムであった。参加者は、普段の授業では経験することのできないビジネスの現場の実態、経営トップに対する提案に求められる視点、参加メンバーや企業の人と上手に協力し合うためのコミュニケーションの取り方など、様々な学びを得られたことが確認された。

再就職を目指す女性の多くが、自分の知識や技術に対する不安を感じており<sup>1</sup>、その向上を図るのがリカレント教育課程の通常のプログラムである。しかし、企業の現場で働くには、職場や組織の課題を理解し、それに対して自分は何をすべきか、自分の役割を認識し、周りの人と協力して成果を上げることが求められる。こうしたスキルは、自ら積極的に参加することによって学びとることが出来るものであり、セルフリーダーシップ・プログラムは、こうした機会を提供するものであった。

現場体験という点では、中小企業での主婦のインターンシップ事業「中小企業新戦力発掘プロジェクト（現在は終了）」や民間の就職支援会社による「研修・職業一体型再就職応援事業」などがあるが、グループでのディスカッションやプレゼンテーションといったビジネススキルを得るような経験は得られにくいことが推察される。この点において、本プログラムは主婦の再就職支援の新しい形態を提示するものである。今後、再就職を目指すより多くの女性のニーズに合った支援を提供するために、西友のみならず、他業種との協働によるプログラムの展開が期待される。

---

<sup>1</sup> これについては、榎原圭子「専業主婦の再就職」岩田正美・大沢真知子編著、日本女子大学現代女性キャリア研究所編「なぜ女性は仕事を辞めるのか 5155人の軌跡から読み解く」青弓社、2015年に詳しい。

## (5) 資 料



2015年6月X日

## 日本女子大学「現代女性キャリア研究所」「リカレント教育課程」・合同会社西友による 女性の再就業のための体験型プログラム 第2回「セルフリーダーシップ・プログラム」の実施について

日本女子大学現代女性キャリア研究所とリカレント教育課程は、合同会社西友とともに、女性の再就業のための体験型プログラム「セルフリーダーシップ・プログラム」を実施いたします。本プログラムは昨年に続き2回目の実施となります。

離職した多くの女性が再就業を希望していますが、仕事と家庭の両立や、知識やスキル不足などの不安から、実際の就業に踏み出せないケースが多く見られます。本プログラムは、そのような女性たちが自分の不安と向き合い、課題を発見し、主体的に行動する力を身につけることを目的としています。

### (1) 実施内容

- 開講記念講演会…「女性と仕事：西友／ウォルマートを事例として」  
7月3日(金) 15:00—17:00 於：日本女子大学  
西友で執行役員および管理職として活躍されている三名の女性を講師にお招きし、これまでのキャリアの軌跡、女性が生き活きと働くことのできる職場づくりの取り組みについて、具体的にお話しいただきます。なお、本講演会は、本学学部生・大学院生(全学年)も対象としています。
- プログラム…9月2日(水)、3日(木)、4日(金)、7日(月)、8日(火)の5日間を予定  
企業の現場を見学し、そこで働く女性たちによるキャリアや働き方についての話を聞き、参加者同士や西友の現場の方を交えての議論などを行います。最終日には、参加者全員が現場の課題を解決するための提案を行い、西友の経営幹部が講評し、再就業に向けての具体的な助言を行います。

### (2) 目的

再就職を希望しながら自信を持てない女性たちに、一連の作業を通して「企業で働く現場感覚を取り戻し、再就業に向けて確実な一歩を踏み出す」きっかけを作ることを目的とします。昨年の参加者からは「現場で働くという感覚がよみがえってきた」、「役員の前の前でのプレゼンテーションは緊張したが、温かいコメントに励まされた」、「グループで意見をまとめ上げる難しさを体験でき、非常に良い訓練になった」といった感想が寄せられました。

### (3) 対象

本学「リカレント教育課程」(\*)の受講生。

\*大学卒業後に就職し、結婚・育児や進路変更などで離職した女性に1年間のキャリア教育を提供し、再就職を支援する本学のプログラム。

2007年(平成19年)発足以来、これまでに208人が課程を修了し、修了生の多くが社会で活躍しています。

### (4) 協力企業

本プログラムは合同会社西友の協力を得て実施します。同社は米国ウォルマート・グループに属し、その経営方針にのっとて、女性の活躍推進に積極的に取り組んでいます。

以上

お問い合わせ先：日本女子大学 現代女性キャリア研究所  
TEL : 03-5981-3380  
月～金 10:00～16:00 (本日は18:00まで対応)

# News Release



合同会社 西友 企業コミュニケーション部 広報室  
〒115-0045 東京都北区赤羽二丁目1番1号

2015年6月11日

## 西友、昨年に続き日本女子大学と体験型プログラムで協働 ～再就業を目指す女性のキャリア構築支援～

合同会社西友は、日本女子大学現代女性キャリア研究所（\*1）および同大学リカレント教育課程（\*2）の女性の再就業のための体験型プログラム「セルフリーダーシップ・プログラム」（2015年9月実施予定）を昨年に引き続き今年も支援いたします。

昨年に続き2回目の開催となる「セルフリーダーシップ・プログラム」では、これから再就業を目指す日本女子大学「リカレント教育課程」の受講生を対象に、5日間のプログラムを通して、西友の店舗、物流センター、総菜工場などを訪れ、そこで働く女性従業員の働き方やキャリア、あるいは小売業での女性のリーダーシップの機会について理解を深める機会を提供します。さらに参加者は、従業員との議論などを通じて現場の課題を発見・分析し、最終日には全員がグループに分かれ、西友の役員に対して課題解決の提案のプレゼンテーションを行います。こうした一連の作業を通して、参加者が企業で働く現場感覚を取り戻し、再就業に向けて具体的な一歩を踏み出すきっかけを与えることを目指すものです。

昨年は13名が参加し、参加者からは「現場で働くという感覚がよみがえってきた」、「役員の前でのプレゼンテーションは緊張したが、温かいコメントに励まされた」、「グループで意見をまとめ上げる難しさを体験でき、非常に良い訓練になった」といった感想が寄せられました。昨年の好評価を踏まえ、今年は昨年の倍以上の約30名の参加者を受け入れる予定です。

西友では、社員およびお客様の約7割を女性が占めることから、社内外にわたり女性の活躍を多面的に支援することがビジネスを持続的に発展させる上で必要不可欠と考え、親会社であるウォルマート・ストアーズ・インクのグローバル方針に沿って、社内での女性の成長機会の拡大、女性の経済的自立支援に取組む団体への助成金の交付、関連プログラムへの支援などを積極的に進めています。詳しくは、<http://www.seiyu.co.jp/company/sustainability/> を参照ください。

\*1 日本女子大学現代女性キャリア研究所は、2008年の発足以来、現代の女性とキャリアを取り巻く諸問題を調査研究し、その成果を、本学の教育のみならず、広く社会へ発信して、女性がその持てる能力を全面的に発揮できる社会の実現に貢献することを目指しています。

\*2 日本女子大学リカレント教育課程は、大学卒業後に就職しても育児や進路変更などで離職した女性に1年間（2学期）のキャリア教育を通して、高い技能・知識と働く自信・責任感を養い、再就職を支援するものです。2007年の発足以来、これまで208人が課程を修了し、修了生の多くが社会で活躍しています。

この件に関するお問い合わせ：

合同会社西友 企業コミュニケーション部 広報室 03-3598-7760

イオンは、グループCEO直轄組織としてダイバーシティ推進室も設置し、グループの女性管理職比率を16年までに30%、20年には50%にするのを目指している。11日には、全00人の管理職が参加

## 小売各社

# ダイバーシティ積極化

## 支援体制を整備

小売各社は女性の活躍を推進するなどを柱とするダイバーシティ（多様性）経営を積極化する。イオンは11日にグループの約1000人の管理職が参加するダイバーシティ研修を実施したほか、イトーヨーカ堂は仕事と子育ての両立支援に力を入れる企業として厚生労働大臣が認める「プラチナくるみん」企業として環境整備に力を入れる。西友も女性の管理職比率を現状11%を20年までに30%に引き上げることを目指す。ダイバーシティ経営は社会的要請として取り組むだけでなく、小売各社にとって人手不足が進むなか、人材確保として急務の課題でもある。

(山本仁)

## 女性の再就業支援

西友と日本女子大

西友は、育児や進路変更などで離職した女性にキャリア教育を施す日本女子大学のリースプログラム「セルフリーダー

する女性の再就職を支援するため、同大学の一連の事業を実施したほか、表

西友は、育児や進路変更などで離職した女性にキャリア教育を施す日本女子大学のリースプログラム「セルフリーダー

総合学童保育教室の開校などに取り組んでいる。経済産業省が推進する「平成26年度ダイバーシティ経営企業10

0選」にも選ばれた。イトーヨーカ堂は、次世代育成支援対策推進法に基づき一定の基準を満たした企業が申請する「子育てサポート企業」として厚生労働大臣認定の「くるみマーク」を受けた。東京都初の認定企業とい

う。

同社は、育児支援の

人事制度、男性社員の

育児参加を促す育児休

暇制度・育児中の女

性社員の意見交換会

を開催する。

セミナーの開催、有給

休暇の取得推進に取り

組んでいるという。

西友もウォルマート

に対して小売業で働く女

性従業員の働き方やキ

ヤリア、女性のリーダ

ーシップについて理解

を深める機会などを提

供する。

セミナーの開催、有給

休暇の取得推進に取り

組んでいるという。

西友もウォルマート

に対して小売業で働く女

性従業員の働き方やキ

ヤリア、女性のリーダ

ーシップについて理解

を深める機会などを提

供する。

セミナーの開催、有給

休暇の取得推進に取り

組んでいるという。

西友もウォルマート

に対して小売業で働く女

性従業員の働き方やキ

ヤリア、女性のリーダ

ーシップについて理解

を深める機会などを提

供する。

セミナーの開催、有給

休暇の取得推進に取り

組んでいるという。

西友もウォルマート

に対して小売業で働く女

性従業員の働き方やキ

ヤリア、女性のリーダ

ーシップについて理解

を深める機会などを提

供する。

セミナーの開催、有給

休暇の取得推進に取り

組んでいるという。

西友もウォルマート

に対して小売業で働く女

性従業員の働き方やキ

ヤリア、女性のリーダ

ーシップについて理解

を深める機会などを提

供する。

セミナーの開催、有給

休暇の取得推進に取り

組んでいるという。

西友もウォルマート

に対して小売業で働く女

性従業員の働き方やキ

ヤリア、女性のリーダ

ーシップについて理解

を深める機会などを提

供する。

セミナーの開催、有給

休暇の取得推進に取り

組んでいるという。

西友もウォルマート

に対して小売業で働く女

性従業員の働き方やキ

ヤリア、女性のリーダ

ーシップについて理解

を深める機会などを提

供する。

セミナーの開催、有給

休暇の取得推進に取り

組んでいるという。

西友もウォルマート

に対して小売業で働く女

性従業員の働き方やキ

ヤリア、女性のリーダ

ーシップについて理解

を深める機会などを提

供する。

セミナーの開催、有給

休暇の取得推進に取り

組んでいるという。

西友もウォルマート

に対して小売業で働く女

性従業員の働き方やキ

ヤリア、女性のリーダ

ーシップについて理解

を深める機会などを提

供する。

セミナーの開催、有給

休暇の取得推進に取り

組んでいるという。

西友もウォルマート

に対して小売業で働く女

性従業員の働き方やキ

ヤリア、女性のリーダ

ーシップについて理解

を深める機会などを提

供する。

セミナーの開催、有給

休暇の取得推進に取り

組んでいるという。

西友もウォルマート

に対して小売業で働く女

性従業員の働き方やキ

ヤリア、女性のリーダ

ーシップについて理解

を深める機会などを提

供する。

セミナーの開催、有給

休暇の取得推進に取り

組んでいるという。

西友もウォルマート

に対して小売業で働く女

性従業員の働き方やキ

ヤリア、女性のリーダ

ーシップについて理解

を深める機会などを提

供する。

セミナーの開催、有給

休暇の取得推進に取り

組んでいるという。

西友もウォルマート

に対して小売業で働く女

性従業員の働き方やキ

ヤリア、女性のリーダ

ーシップについて理解

を深める機会などを提

供する。

セミナーの開催、有給

休暇の取得推進に取り

組んでいるという。

西友もウォルマート

に対して小売業で働く女

性従業員の働き方やキ

ヤリア、女性のリーダ

ーシップについて理解

を深める機会などを提

供する。

セミナーの開催、有給

休暇の取得推進に取り

組んでいるという。

西友もウォルマート

に対して小売業で働く女

性従業員の働き方やキ

ヤリア、女性のリーダ

ーシップについて理解

を深める機会などを提

供する。

セミナーの開催、有給

休暇の取得推進に取り

組んでいるという。

西友もウォルマート

に対して小売業で働く女

性従業員の働き方やキ

ヤリア、女性のリーダ

ーシップについて理解

を深める機会などを提

供する。

セミナーの開催、有給

休暇の取得推進に取り

組んでいるという。

西友もウォルマート

に対して小売業で働く女

性従業員の働き方やキ

ヤリア、女性のリーダ

ーシップについて理解

を深める機会などを提

供する。

セミナーの開催、有給

休暇の取得推進に取り

組んでいるという。

西友もウォルマート

に対して小売業で働く女

性従業員の働き方やキ

ヤリア、女性のリーダ

ーシップについて理解

を深める機会などを提

供する。

セミナーの開催、有給

休暇の取得推進に取り

組んでいるという。

西友もウォルマート

に対して小売業で働く女

性従業員の働き方やキ

ヤリア、女性のリーダ

ーシップについて理解

を深める機会などを提

供する。

セミナーの開催、有給

休暇の取得推進に取り

組んでいるという。

西友もウォルマート

に対して小売業で働く女

性従業員の働き方やキ

ヤリア、女性のリーダ

ーシップについて理解

を深める機会などを提

供する。

セミナーの開催、有給

休暇の取得推進に取り

組んでいるという。

西友もウォルマート

に対して小売業で働く女

性従業員の働き方やキ

ヤリア、女性のリーダ

ーシップについて理解

を深める機会などを提

供する。

セミナーの開催、有給

休暇の取得推進に取り

組んでいるという。

西友もウォルマート

に対して小売業で働く女

性従業員の働き方やキ

ヤリア、女性のリーダ

ーシップについて理解

を深める機会などを提

供する。

セミナーの開催、有給

休暇の取得推進に取り

組んでいるという。

西友もウォルマート

に対して小売業で働く女

性従業員の働き方やキ

ヤリア、女性のリーダ

ーシップについて理解

を深める機会などを提

供する。

セミナーの開催、有給</p



# **女性の再就職支援プログラムに関する調査について**

**日本女子大学現代女性キャリア研究所**

## アンケート調査へのご協力のお願い

日本女子大学現代女性キャリア研究所では、女性の再就職支援のあり方について調査・研究を行っております。いつたん仕事を離れた女性が再び働きたいと考えたとき、どのような支援やシステムがあれば、再就職を果たせるのか、そこで果たすべき大学の役割とは何か、幅広い視点からアプローチをしたいと考えています。

そこで、再就職支援プログラムの効果について皆様がどのようにお感じになられていらっしゃるのか、アンケートによる調査にご協力いただきたくお願ひいたします。

- アンケートは無記名の調査です。ご回答いただいた内容はすべて数量的・統計的に処理をし、ID 番号で管理しますので、個人が特定されることは決してありません。プライバシーに関する情報を厳守することをお約束します。
- アンケートにご回答いただいた情報の保護には十分に留意いたします。収集しました情報は調査・研究の目的のみに使用します。
- 調査へのご参加は自由意思によりますので、参加をお断わりになつてもなんら不利益が生じることはありません。また、回答中に何か不快を感じたり、調査の参加に不具合が生じた場合には、途中で回答を中止してくださっても問題はありません。
- 調査結果は、学会や雑誌などで発表を行う予定です。その際にも個人を特性する情報は一切公表いたしません。
- 本研究は、日本女子大学の研究倫理委員会の承認を受けて実施するものです。なお、この研究に関する費用は、平成 23 年度私立大学戦略的研究基盤形成支援事業プロジェクト番号 S1191007 から支出されています。

調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただけますよう、よろしくお願ひいたします。ご協力いただけます場合には、下記の同意書の該当欄に○をつけ、ご署名をお願いいたします。

日本女子大学現代女性キャリア研究所  
所長 大沢 真知子  
担当研究員 三具淳子  
 横原圭子  
 相田由佳  
 斎藤真由子  
 佐田富美子  
 枝川碧

## 同意書

女性の再就職支援プログラムの効果に関するアンケート調査への協力に

< > 同意します

< > 同意しません

年 月 日

ご署名（自筆）

## ～女性の再就職支援プログラムの効果に関するアンケート調査（事後調査）～

1. 以下の質問について、今のご自身に最もあてはまると思う番号に○をつけてください。（各項目につき○は1つ）

	非常に ある	まあ ある	あまり ない	全く ない
1. 人から言われるのではなく、やらないといけないを見つけて、自分から進んで取り組む力	1	2	3	4
2. 目標を達成するために周りの人に呼びかけて一緒に行動する力	1	2	3	4
3. 言われたことをやるだけでなく、自分で目標を設定して、粘り強く行動する力	1	2	3	4
4. 目標を達成するために解決すべき問題を見つける力	1	2	3	4
5. 目標を達成するための方法ややるべきことの順番を考えて準備する力	1	2	3	4
6. 解決すべき問題について、解決方法を工夫して考える力	1	2	3	4
7. 自分に必要な情報や資料をさがしたり、選び出したりする力	1	2	3	4
8. 人が話しやすい雰囲気をつくって、人の意見をきちんと理解して聞く力	1	2	3	4
9. 自分の考えだけにとらわれずに、自分とは違う考え方や立場も尊重して理解しようとする力	1	2	3	4
10. グループの中で自分がどんな役割をすればよいのかを理解する力	1	2	3	4
11. 集団や社会生活の規則やルールを守って適切に行動できる力	1	2	3	4
12. 学校で学んだことや体験したことを自分の生活や周りの人達の仕事と結びつけて考える力	1	2	3	4
13. 自分の考えをわかりやすく整理して、相手に理解してもらえるように伝える力	1	2	3	4
14. 自分の考えや意見を相手が納得するように伝える力	1	2	3	4
15. 伝えたい情報をわかりやすいように工夫して伝える力	1	2	3	4

2. 以下の質問を読み、右の選択肢のうち、より当てはまる方に○をつけてください。「はい」「いいえ」のどちらにも当てはまらないと思われる場合でも、より今のご自身に近いと思う方に必ず○をつけてください。どちらが正しい答えということはありませんから、あまり深く考えずにありのままの気持ちを答えてください。

- |  |    |     |
|--|----|-----|
| 1. 何か仕事をするときは、自信を持ってやるほうである            | はい | いいえ |
| 2. 過去に犯した失敗や嫌な経験を思い出して、暗い気持ちになることがよくある | はい | いいえ |
| 3. 友人より優れた能力がある                        | はい | いいえ |
| 4. 仕事を終えた後、失敗したと感じることのほうが多い            | はい | いいえ |
| 5. 人と比べて心配性なほうである                      | はい | いいえ |
| 6. 何かを決めるとき、迷わず決定するほうである               | はい | いいえ |
| 7. 何かをするとき、うまくゆかないのではないかと不安になることが多い    | はい | いいえ |
| 8. ひっこみじあんなほうだと思う                      | はい | いいえ |
| 9. 人より記憶力がよいほうである                      | はい | いいえ |
| 10. 結果の見通しがつかない仕事でも、積極的に取り組んでゆくほうだと思う  | はい | いいえ |
| 11. どうやつたらよいか決心がつかずに仕事にとりかかれないことがよくある  | はい | いいえ |
| 12. 友人よりも特に優れた知識を持っている分野がある            | はい | いいえ |
| 13. どんなことでも積極的にこなすほうである                | はい | いいえ |
| 14. 小さな失敗でも人よりずっと気にするほうである             | はい | いいえ |
| 15. 積極的に活動するのは苦手なほうである                 | はい | いいえ |
| 16. 世の中に貢献できる力があると思う                   | はい | いいえ |

3. 以下の質問を読み、今のご自身に最も当てはまると思う選択肢に○をつけてください。（各項目につき○は1つ）

	あてはまる 非常によく	よく あてはまる	あてはまる	あまり あてはまらない	ほとんど あてはまらない	全く あてはまらない
1. これからも私はいろいろな面で成長し続けたいと思う	6	5	4	3	2	1
2. 新しいことに挑戦して、新たな自分を発見するのは楽しい	6	5	4	3	2	1
3. 私にはもう新しい経験や知識は必要ないと思う	6	5	4	3	2	1
4. これ以上自分自身を高めることはできないと思う	6	5	4	3	2	1
5. 自分らしさや個性を伸ばすために、新たに挑戦することは重要だと思う	6	5	4	3	2	1
6. 私は新しい経験を積み重ねるのが楽しみである	6	5	4	3	2	1
7. 私の能力は、もう限界だと思う	6	5	4	3	2	1
8. 私の人生は、学んだり、変化したり、成長したりする連続した課程である	6	5	4	3	2	1
9. 私は現在、目的なしにさまよっているような気がする	6	5	4	3	2	1
10. 私の人生にはほとんど目的がなく、進むべき道を見いだせない	6	5	4	3	2	1
11. 本当に自分のやりたいことが何なのか、見いだせない	6	5	4	3	2	1
12. 自分がどんな人生を送りたいのか、はっきりしている	6	5	4	3	2	1
13. 私はいつも生きる目標を持ち続けている	6	5	4	3	2	1
14. 私は自分が生きていることの意味を見いだせない	6	5	4	3	2	1
15. 私の人生は退屈で、興味がわかない	6	5	4	3	2	1
16. 私は自分の将来に、夢を持っている	6	5	4	3	2	1

	非常によく あてはまる	よく あてはまる	あてはまる	あまり あてはまらない	ほとんど あてはまらない	全く あてはまらない
17. 私は何かをきめるとき、世間からどう見られているかとても気になる	6	5	4	3	2	1
18. 重要なことを決めるとき、他の人の判断に頼る	6	5	4	3	2	1
19. 自分の生き方を考えるとき、人の意見に左右されやすい	6	5	4	3	2	1
20. 自分の考え方は、その時の状況や他の人の意見によって左右されがちである	6	5	4	3	2	1
21. 何かを判断するとき、社会的な評価よりも自分の価値観を優先する	6	5	4	3	2	1
22. 私は、自分の行動は自分で決める	6	5	4	3	2	1
23. 自分の行動を決定するとき、社会的に認められるかどうかをまず考える	6	5	4	3	2	1
24. 習慣にとらわれず、自分自身の考えに基づいて行動している	6	5	4	3	2	1
25. 私は自分の生き方や性格をそのまま受け入れることができる	6	5	4	3	2	1
26. 私は自分自身が好きである	6	5	4	3	2	1
27. 私は自分の性格についてよく悩むことがある	6	5	4	3	2	1
28. 良い面も悪い面も含め自分自身のありのままの姿を受け入れができる	6	5	4	3	2	1
29. 私は今とは異なる自分になりたいとよく思う	6	5	4	3	2	1
30. 私はこれまでの人生において成し遂げてきたことに、満足している	6	5	4	3	2	1
31. 私は自分に対して肯定的である	6	5	4	3	2	1
32. 私は、うまく周囲の環境に適応して、自分を生かすことができる	6	5	4	3	2	1

	非常に あてはまる	よく あてはまる	あてはまる	あまり あてはまらない	ほとんじ あてはまらない	全く あてはまらない
33. 状況をよりよくするために、周りに柔軟に対応することができる	6	5	4	3	2	1
34. 自分の身に降りかかってきた悪いことを、自分の力でうまく切り抜けることができる	6	5	4	3	2	1
35. 自分の周りで起こった問題に、柔軟に対応することができる	6	5	4	3	2	1
36. 私の今の立場は、様々な状況に折り合いを付けながら、自分で作り上げたものである	6	5	4	3	2	1
37. 私は、周囲の状況にうまく折り合いをつけながら、自分らしく生きていると思う	6	5	4	3	2	1
38. 私は、あたたかく信頼できる友人関係を築いている	6	5	4	3	2	1
39. 他社との密接な関係を維持するのは、面倒くさいことだと思う	6	5	4	3	2	1
40. 私はこれまでに、あまり信頼できる人間関係を築いてこなかった	6	5	4	3	2	1
41. 私は他者といふと、愛情や親密さを感じる	6	5	4	3	2	1
42. 私は他者に強く共感できる	6	5	4	3	2	1
43. 自分の時間を他者と共有するのはうれしいことだと思う	6	5	4	3	2	1

4. 以下は、「セルフリーダーシップ・プログラム」の内容について伺うものです。選択肢のうち、最も当てはまるものに○を付けてください。

実施期間/時間について	長い	ちょうど良い	短い	何かコメントがあればお書きください
実施期間（全部で 5 日間）				
講義（1 日目）				
現場見学（1～2 日目）				
プレゼンテーション準備の時間 (4～5 日目)				
プレゼンテーションおよび Q&A の時間				

内容について	勉強に・ ためになった	まあ勉強に・ ためになった	どちらとも いえない	あまり勉強 に・ ために ならなかった	勉強に・ ために ならなかつた
1 日目	スーパー・マーケット・ビジネスの 概要説明				
	店舗、若菜、物流センターの業務の説明				
	女性店長やアシスタントマネジャーのお話				
	西友店舗 見学				
2 日目	三郷 / 若葉見学 (当てはまる方に○)				
	女性の活躍推進や働きやすい職場づくりのお話				
3 日目	提案準備①				
4 日目	提案準備②				
5 日目	プレゼンテーション				

5. 以下の内容について、自由に記述してください。

①セルフリーダーシップ・プログラムの参加動機はどのようなものでしたか？（できるだけ具体的にお書きください）

②プログラムに参加して、どのような気づきがありましたか？できるだけ具体的にお書きください。

③プログラムに参加して、ご自身の考え方や行動、家族との関係などに変化などに変化がありましたか。あればどのようなものですか。できるだけ具体的にお書きください。

④プログラムの内容について、良かったところ、改善が必要なところをお教えてください。

- 良かったところ

- 改善が必要なところ

6. 最後に、あなたご自身についてお教えてください。（今後のプログラム企画の参考にいたします）

①大学卒業後、お仕事をされていたのは合計で何年間ですか？\_\_\_\_\_年

(パート、アルバイト、業務委託なども含めます)

②お仕事を離れてから、何年くらいたちますか？\_\_\_\_\_年

(現在も何らかのお仕事に就いていらっしゃる場合は、0とご記入ください)

③セルフリーダーシップ・プログラム以外で、「こんな講義や研修がほしい」と思うものがあれば、お書きください。

質問は以上です。アンケートへのご協力、まことに有難うございました。



#### 4 プログラム実施にみる今後の検討課題

第1回目のインタビューおよび第2回目のアンケート調査で、プログラムを改善するために気付いた点を挙げてもらった。まず見学コースや内容に関して、店舗の課題を発見し、それに対する提案をするのが難しかったことが挙げられた。見学した西友光が丘店は、最新の設備を配し、よりよいお買い物の環境づくりのために、非常に力が入れられている店舗であるためであろう。これに対し、「競合他社を見ておけばもっと提案がしやすくなるのではないか」「店舗全体を見るのではなく、商品を絞り込んで、ターゲット顧客や工夫している点などについてもっと具体的にお話を聞いたらどうか。食料品は最も興味があるし、子どものいる人が多いので、子ども服売り場なども良いかもしない」などの意見が挙げられた。

工場および物流センター見学時の移動について、1回目、2回目とも、移動にはバスを使い、参加者全員が大学のキャンパス（文京区目白）に集合してから、バスで現地に向かった。これについて「現地の最寄駅集合でもよかったです？人によっては時間のロスがかなりあったのではないかと思います」という意見が複数の方から挙げられた。

女性の働きやすい環境を作るための、西友の人事制度についてのお話を聞いたが、働きやすい職場環境づくりについて詳しい話が聞きたかったという意見が挙げられた。例えば「アルバイトからはいってもどんどんグレードアップしていくシステムはわかったが、グレードアップさせるためのトレーニングについても教えてほしかった」「就業規則や福利厚生などのお話を聞けるとよかったです」などである。

もっと様々な立場の人からのお話を聞きたいという意見も挙げられた。「女性の支店長のもとで、男性の副支店長はどのような配慮をしながら仕事をしているのかといった話も聞きたかった」「もう少し身近な立場の若い世代、小さいお子さんを持ちながら働いている方のお話を聞きたい」などである。

スケジュールにもう少し余裕を持たせてほしい、という意見も挙げられた。「もう少しじっくり見学できるとか、こちらから質問できたら良かったと思います。私は、10日ぐらいが良かったです。」「もっと長くてもいいような気がしました。連続するのではなくても、もうちょっと長いスパンでやってもいいかなと思いました」「物流センターから川越の惣菜工場への移動はハードだと思いました。非常にキツキツな感じで。お昼ご飯を食べながらお話を聞きましたが、慣れていないのであまり話が入ってきませんでした」などである。

提案の準備についても、「プレゼンの準備期間が半日しかないのは足りないかなと思いました。終日にしておいていただければ、メンバーも予定を空けておけたと思います」「プレゼンテーションの準備日をもう1日増やしてほしいです」など、もっと準備時間を長く取ってほしかったという声も挙げられた。

**チーム作業の進め方**について、「役割分担していれば、もう少し効果的に取材が出来たかもしれません。(リーダー、サブリーダー、書記、記録、インタビュアー等)」また、「現地取材のポイントを明確にし、課題抽出がしやすくなるようなツール(シートなど)を用意しておくと良いかもしれません」などのアイデアも寄せられた。

この他、「再就職にあたり事務系を希望している人にとっては、このプログラムに参加するモチベーションがわきにくいので、経理、総務、人事などについての要素を入れてはどうか」「プログラムに申し込む前に、もっと良さが伝わるに広報すれば、より多くの参加が得られたのではないか」という意見もあった。

以上に挙げられた意見については、次年度以降のプログラム企画に出来るだけ反映させ、プログラムの質を高めていきたい。また、6日間の集中プログラムには、家庭の事情などで連続して参加できないため、参加を見送ったという人もいた。より多くのリカレント生に参加してもらうために、プログラムの一部をリカレントの通常プログラム開講時期に行うなど、スケジュールの検討が必要であろう。

この他、「セルフリーダーシップ・プログラムの受講後、大学のプログラムの中でも企業の経営に関するここと、例えばモチベーションやリーダーシップなどについて学べたら良いのではないか、と思いました」という意見もあった。セルフリーダーシップ・プログラムの効果をより高めるという点からも、今後、リカレントプログラムに取り入れられないかについても検討が求められる。

## おわりに

本セルフリーダーシップ・プログラムは、企業との協働によるこれまでになかった形の再就職支援プログラムであった。参加者は、普段の授業では経験することのできないビジネスの現場の実態、経営トップに対する提案に求められる視点、参加メンバーや企業の人と上手に協力し合うためのコミュニケーションの取り方など、様々な学びを得られたことが確認された。

再就職を目指す女性の多くが、自分の知識や技術に対する不安を感じており、その向上を図るのがリカレント教育課程の通常のプログラムである。しかし、企業の現場で働くには、職場や組織の課題を理解し、それに対して自分は何をすべきか、自分の役割を認識し、周りの人と協力して成果を上げることが求められる。こうしたスキルは、自ら積極的に参加することによって学びとることが出来るものであり、セルフリーダーシップ・プログラムは、こうした機会を提供するものであった。また本プログラムを通し、企業の現場で働く女性たちの話を聞く、プレゼンテーション作成の際、西友のアドバイザーから提案に求められる支援の助言を受ける、経営トップからプレゼンテーションの評価を受ける、などビジネスが展開されている実際の世界と触れ合うことで、「働く」ことを、現実感をもって感じ、「働く世界に戻りたい」「もっとやってみたい」と意欲を喚起されたという声が多く聞かれた。何よりも、専業主婦として過ごす中、自分がもう一度働くか自信がないと思っていた人たちが、本プログラムへの参加を通し、「自信をもってよいかもしれない」と感じるようになったことが最大の成果である。

現場体験という点では、中小企業での主婦のインターンシップ事業「中小企業新戦力発掘プロジェクト」(現在は終了) や、民間の就職支援会社による「研修・職業一体型再就職応援事業」などがある。しかし、これらのプログラムでは、グループでのディスカッションやプレゼンテーションといったビジネススキルを得るような経験は得られにくいことが推察される。この点において、本プログラムは主婦の再就職支援の新しい形態を提示するものである。参加者からの意見にもあったが、今後、再就職を目指すより多くの女性のニーズに合った支援を提供するために、多様な企業との協働によるプログラムの展開が期待される。

大学教育を受け、過去に就業経験を持ち、高い潜在能力がありながら再就職に一歩を踏み出せないでいる女性は少なくない。本セルフリーダーシップ・プログラムは、こうした女性たちの社会参加を後押しする、不可欠の、そして有効な方法であることが確認された。このようなプログラムを広く提供することが、大学に求められているのではないか。



**2011 年度～2015 年度  
文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業  
事業番号 S1191007**

**女性のキャリア支援と大学の役割についての総合的研究  
「新たな職業キャリア形成型」に関する研究報告書**

発行 2016 年 2 月  
編集 日本女子大学現代女性キャリア研究所  
住所 〒112-8681 東京都文京区目白台 2-8-1  
TEL 03-5981-3380  
FAX 03-5981-3381  
Email [riwac@fc.jwu.ac.jp](mailto:riwac@fc.jwu.ac.jp)

